

## 関東エリア

## 日光市多言語解説整備支援事業検討協議会

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
257	1.2	二荒山神社	拝殿・本殿
258	3	二荒山神社	大国殿
259	4	二荒山神社	日枝神社
260	5	二荒山神社	瀧尾神社
261	6	二荒山神社	本宮神社
262	7	二荒山神社	運試しの鳥居
263	8	二荒山神社	子種石
264	9	二荒山神社	朋友神社
265	10	二荒山神社	唐銅灯籠（化灯籠）
266	11	二荒山神社	神輿舎
267	12	二荒山神社	唐銅鳥居
268	13	二荒山神社	二荒霊泉
269	14	二荒山神社	神橋
270	15	日光山輪王寺	輪王寺案内看板〔表参道〕〔本堂下札所〕〔第二駐車場〕
271	16	日光山輪王寺	本堂（三仏堂）案内看板
272	17	日光山輪王寺	護摩堂案内看板
273	18	日光山輪王寺	護法天堂案内看板
274	19	日光山輪王寺	本堂（黒門）案内看板
275	20	日光山輪王寺	本堂（相輪櫓）案内看板
276	21	日光山輪王寺	逍遙園案内看板
277	22	日光山輪王寺	大猷院案内看板〔常行堂脇〕〔大猷院札所前〕
278	23	日光山輪王寺	仁王門案内看板〔大猷院内〕
279	24	日光山輪王寺	槇の木案内看板〔大猷院内〕
280	25	日光山輪王寺	御水舎案内看板〔大猷院内〕
281	26	日光山輪王寺	二天門案内看板〔大猷院内〕
282	27	日光山輪王寺	龍光院案内看板〔大猷院内〕
283	28	日光山輪王寺	盤案内看板〔大猷院内〕
284	29	日光山輪王寺	展望所案内看板
285	30	日光山輪王寺	鼓楼・鐘楼案内看板
286	31	日光山輪王寺	夜叉門案内看板〔大猷院内〕
287	32	日光山輪王寺	唐門案内看板〔大猷院内〕
288	33	日光山輪王寺	本殿、拝殿案内看板〔大猷院内〕
289	34	日光山輪王寺	皇嘉門案内看板〔大猷院内〕

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
290	35	日光山輪王寺	常行堂案内看板
291	36	日光山輪王寺	法華堂案内看板
292	37	日光山輪王寺	慈眼堂案内看板
293	38	日光山輪王寺	開山堂案内看板
294	39	日光山輪王寺	行者堂案内看板
295	40	日光山輪王寺	養源院跡案内看板
296	41	日光山輪王寺	教旻僧都墓案内看板
297	42	日光山輪王寺	児玉堂案内看板
298	43	日光山輪王寺	観音寺案内看板 [四本龍寺]
299	44	日光山輪王寺	三重塔案内看板 [四本龍寺]
300	45	日光山輪王寺	深沙王堂案内看板
301	46	日光山輪王寺	含満ヶ淵案内看板
302	47	日光山輪王寺	慈雲寺案内看板 [含満ヶ淵]
303	48	日光山輪王寺	並び地藏案内看板 [含満ヶ淵]
304	49	日光山輪王寺	霊庇閣案内看板 [憾満ヶ淵]
305	50	日光山輪王寺	釈迦堂案内看板
306	51	日光山輪王寺	延命地藏案内看板 [釈迦堂]
307	52	日光山輪王寺	中禅寺案内看板 [北側入口] [歌ヶ浜側]
308	1	JNTO 内ウェブサイト	JNTO 内ウェブサイト
309	2	ビジターセンター展示①	湿原の種類
310	3	ビジターセンター展示①	奥日光の湿原
311	4	ビジターセンター展示①	奥日光の気候と植生
312	5	ビジターセンター展示①	湿原の分布(戦場ヶ原)
313	6	ビジターセンター展示①	奥日光で繁殖する鳥
314	7	ビジターセンター展示①	奥日光の野鳥
315	8	ビジターセンター展示①	水辺の生き物のふしぎな卵
316	9	ビジターセンター展示①	奥日光の水の中の生きもの
317	10	ビジターセンター展示①	奥日光の環境保全
318	11	ビジターセンター展示①	奥日光でみられるけもの
319	12	ビジターセンター展示①	けものたちとの出会い
320	13	ビジターセンター展示①	奥日光と環境問題
321	14	ビジターセンター展示①	戦場ヶ原のシカ対策について
322	15	ビジターセンター展示①	けものたちの痕跡
323	16	ビジターセンター展示①	湿原と草原の動物
324	17	ビジターセンター展示①	奥日光でみられるけもの花

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
325	18	ビジターセンター展示①	奥日光の植物
326	19	ビジターセンター展示①	奥日光の四季 春～夏
327	20	ビジターセンター展示①	奥日光の四季 秋
328	21	ビジターセンター展示①	奥日光の四季 冬
329	22	ビジターセンター展示①	昆虫のふしぎな生態
330	23	ビジターセンター展示①	奥日光の昆虫
331	24	ビジターセンター展示②	ペレットストーブ
332	25	ビジターセンター展示②	奥日光の歴史
333	26	ビジターセンター展示②	奥日光の歴史と人々
334	27	ビジターセンター展示②	パークボランティア
335	28	ビジターセンター展示②	日光パークボランティアの活動
336	29	ビジターセンター展示②	①中禅寺湖
337	30	ビジターセンター展示②	②華厳滝
338	31	ビジターセンター展示②	③男体山
339	32	ビジターセンター展示②	④竜頭滝
340	33	ビジターセンター展示②	⑤千手ヶ浜
341	34	ビジターセンター展示②	⑥西ノ湖
342	35	ビジターセンター展示②	⑦戦場ヶ原
343	36	ビジターセンター展示②	⑧小田代原
344	37	ビジターセンター展示②	⑨湯滝
345	38	ビジターセンター展示②	⑩湯ノ湖
346	39	ビジターセンター展示②	⑪白根山
347	40	ビジターセンター展示②	⑫切込湖・刈込湖
348	41	日光湯元施設展示施設 HP	TOP ページ
349	42	日光湯元施設展示施設 HP	Visitor Center Guide
350	43	日光湯元施設展示施設 HP	Hiking courses
351	44	日光湯元施設展示施設 HP	Nature in Oku-Nikko
352	45	日光湯元施設展示施設 HP	Bear information
353	46	湯本集团施設地区（奥日光湯元温泉）	解説版

### Mt.6 多言語解説整備協議会（草津）

354	1	草津温泉スキー場	草津温泉スキー場(スキー場英語版パンフレット)
355	2	草津温泉スキー場	天狗山ゲレンデ
356	3	草津温泉スキー場	ファミリーゲレンデ
357	4	草津温泉スキー場	御成山ゲレンデ

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
358	5	草津温泉スキー場	青葉山第一ゲレンデ
359	6	草津温泉スキー場	青葉山第二ゲレンデ
360	7	草津温泉スキー場	草津温泉スキー場キッズパーク
361	8	草津温泉スキー場	氷谷コース（スノーシュー）
362	9	草津温泉スキー場	谷沢川コース（スノーシュー）
363	10	草津温泉スキー場	ゲレンデ情報：しゃくなげコース
364	11	草津温泉スキー場	ゲレンデ情報：かもしかコース
365	12	草津温泉スキー場	ゲレンデ情報：R292 コース
366	13	草津温泉スキー場	ゲレンデ情報：夏道コース
367	14	草津温泉スキー場	ゲレンデ情報：夏道チャレンジコース
368	15	草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）	天狗山プレイゾーン
369	16	草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）	天狗山展望リフト
370	17	草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）	氷谷ハイキングコース
371	18	御座之湯	大浴場
372	19	大滝乃湯	合わせ湯
373	20	西の河原露天風呂	露天風呂
374	21	「草津温泉」源泉掛け流し	大滝乃湯・御座之湯・西の河原露天風呂

## 上武絹の道事業企画会議

375	1	シルクが果たした役割と上武地域	パンフレット：はじめに 前文	
376	2	養蚕と製糸	パンフレット：養蚕について	
377	3	養蚕と製糸	パンフレット：製糸について	
378	4	シルクロードを伝って各地で花開いた絹文化	パンフレット：01 前文	
379	5	19世紀、欧州の絹産業の絶体絶命の危機を救った日本 本のシルク	パンフレット：02 前文	
380	6		パンフレット：02 田島弥平	
381	7		パンフレット：02 田島弥平旧宅	
382	8		パンフレット：02 田島弥平旧宅案内所	
383	9		パンフレット：02 境島村養蚕農家群と蚕種製造	
384	10		パンフレット：02 島村勸業会社	
385	11		パンフレット：03 前文	
386	12		パンフレット：03 富岡製糸場（繰糸所）	
387	13		富岡製糸場「開国」とともに始まった日本の蚕糸業近代化のシンボル	パンフレット：03 富岡製糸場（首長館）ポールブリュナ
388	14		パンフレット：03 渋沢栄一	
389	15	パンフレット：03 渋沢栄一記念館		
390	16	パンフレット：03 尾高惇忠		

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
391	17	富岡製糸場-「開国」とともに始まった日本の蚕糸業近代化のシンボル	パンフレット：03 尾高勇
392	18	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 前文
393	19	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 高山社跡
394	20	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 高山社情報館
395	21	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 競進社模範蚕室
396	22	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 荒船風穴蚕種保存
397	23	横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった	パンフレット：04 下仁田町歴史館
398	24	現在も「上武絹の道」エリアは日本の工業の最前線	パンフレット：05 前文
399	25	現在も「上武絹の道」エリアは日本の工業の最前線	パンフレット：05 片倉シルク記念館
400	26	現在も「上武絹の道」エリアは日本の工業の最前線	パンフレット：05 碓氷製糸（株）概要
401	27	現在も「上武絹の道」エリアは日本の工業の最前線	パンフレット：05 碓氷製糸(株) 製糸工程について
402	28	シルクが果たした役割と上武地域	パンフレット：あとがき

### 成田観光仕事人会議

403	1	成田山新勝寺	成田山新勝寺（全体）
404	2	成田山新勝寺	大本堂
405	3	成田山新勝寺	平和の大塔
406	4	成田山新勝寺	総門
407	5	成田山新勝寺	三重塔
408	6	成田山新勝寺	三重塔
409	7	成田山新勝寺	光明堂
410	8	成田山新勝寺	光明堂
411	9	成田山新勝寺	釈迦堂
412	10	成田山新勝寺	釈迦堂
413	11	成田山新勝寺	仁王門
414	12	成田山新勝寺	仁王門
415	13	成田山新勝寺	額堂
416	14	成田山新勝寺	額堂
417	15	成田山新勝寺	醫王殿
418	16	成田山新勝寺（成田山表参道）	薬師堂
419	17	成田山新勝寺（成田山表参道）	薬師堂
420	18	成田山公園	成田山公園（全体）
421	19	宗吾霊堂	宗吾霊堂
422	20	成田山表参道	成田山表参道（全体）

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
423	21	成田山表参道	三橋薬局
424	22	成田山表参道	大野屋旅館
425	23	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田市ってこんなところ
426	24	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺
427	25	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→パワースポットで運氣アップを祈願
428	26	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→写経体験
429	27	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→御護摩祈禱参詣
430	28	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→お手綱参拝
431	29	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→御朱印めぐり
432	30	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→御宝前結婚式
433	31	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→歌舞伎・市川宗家と成田山の絆
434	32	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→成田山開山の祖
435	33	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺→「成田山のお不動さま」とは
436	34	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山新勝寺 御護摩祈禱
437	35	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田市×歌舞伎
438	36	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田市×歌舞伎→團十郎と成田屋
439	37	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田市×歌舞伎→團十郎と成田詣
440	38	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山公園
441	39	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山公園→成田山公園（ルート記事）
442	40	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田山表参道
443	41	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田国際空港
444	42	Feel 成田→成田早わかり	成田を楽しむ→成田の食

## 東京アート&ライブシティ構想実行委員会

445	1	観世能楽堂	総合的な解説文
446	2	観世能楽堂	観れるものについての解説（能、観世流、歴史）
447	3	歌舞伎座	総合的な解説文
448	4	歌舞伎座	歴史的背景（歌舞伎、その殿堂である歌舞伎座、名前の由来など）
449	5	歌舞伎座	建物について（歴史、隈研吾 etc...）
450	6	歌舞伎座	観れるものについての解説（演目、手軽に見れるもの etc..）
451	7	東京宝塚劇場	総合的な解説文
452	8	東京宝塚劇場	創設の背景（宝塚とはも含める）
453	9	東京宝塚劇場	接收時代の歴史（アーニー・パイル劇場として）
454	10	帝国劇場	総合的な解説文
455	11	帝国劇場	歴史的背景について

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
456	12	銀座ギャラリーズ	解説文
457	13	日生劇場	解説文
458	14	王子ホール	解説文
459	15	浜離宮朝日ホール	総合的な解説文
460	16	浜離宮朝日ホール	音響について
461	17	銀座 博品館劇場	解説文
462	18	新橋演舞場	解説文
463	19	シアター・クリエ	解説文
464	21	東京ミッドタウン日比谷	歴史的背景について
465	23	東京アート&ライブシティ	解説文
466	24	国立映画アーカイブ	解説文

### 公益財団法人 菊葉文化協会

467	1	桃華楽堂（とうかがくどう）	「桃華楽堂（とうかがくどう）」解説板
468	2	天守台（てんしゅだい）	「天守台（てんしゅだい）」解説板
469	3	石室（いしむろ）	「石室（いしむろ）」解説板
470	4	富士見多聞（ふじみたまん）	「富士見多聞（ふじみたまん）」解説板
471	5	大番所（おおばんしょ）	「大番所（おおばんしょ）」解説板
472	6	松の大廊下跡（まつのおおろうかあと）	「松の大廊下跡（まつのおおろうかあと）」解説板
473	7	富士見櫓（ふじみやぐら）	「富士見櫓（ふじみやぐら）」解説板
474	8	平川門（ひらかわもん）	「平川門（ひらかわもん）」解説板
475	9	梅林坂（ばいりんざか）	「梅林坂（ばいりんざか）」解説板
476	10	二の丸雑木林（にのまるぞうきばやし）	「二の丸雑木林（にのまるぞうきばやし）」解説板 その1
477	11	二の丸雑木林（にのまるぞうきばやし）	「二の丸雑木林（にのまるぞうきばやし）」解説板 その2
478	12	汐見坂（しおみざか）	「汐見坂（しおみざか）」解説板
479	13	二の丸庭園（にのまるていえん）	「二の丸庭園（にのまるていえん）」解説板
480	14	諏訪の茶屋（すわのちやや）	「諏訪の茶屋（すわのちやや）」解説板
481	15	同心番所（どうしんばんしょ）	「同心番所（どうしんばんしょ）」解説板
482	16	百人番所（ひやくにんばんしょ）	「百人番所（ひやくにんばんしょ）」解説板
483	17	大手門（おおてもん）	「大手門（おおてもん）」解説板

### 環境省新宿御苑管理事務所

484	1	新宿御苑旧御涼亭	新宿御苑旧御涼亭
485	2	大木戸休憩所	大名庭園と玉藻池
486	3	御苑全体	新宿御苑のルーツ



管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
487	4	御苑全体	新宿御苑案内図
488	5	御苑全体	ピスタライン（見通し線）
489	6	御苑全体	新宿御苑の桜
490	7	御苑全体	花ごよみ
491	8	御休所	旧洋館 御休所
492	9	御涼亭	建物の見どころ紹介
493	10	御涼亭	保存改修工事について
494	11	大温室	大温室のご利用案内
495	12	大温室	沖縄コーナー 大陸に由来する植物
496	13	大温室	小笠原コーナー 絶海の島で進化した植物
497	14	大温室	日本の島々に自生している亜熱帯植物について
498	15	大温室	新宿御苑とラン
499	16	大温室	生息域外保全の取り組みについて
500	17	大温室	日本の植生
501	18	大温室	新宿御苑における取り組み
502	19	大温室	絶滅危惧種のラン
503	20	大温室	福羽逸人 -新宿御苑の礎をつくった人物-
504	21	大温室	新宿御苑の温室のはじまり -明治前期～中期-
505	22	大温室	皇室の温室としての発展と戦火 -明治中期～昭和前期-
506	23	大温室	国民の大室温へ -戦後の温室-
507	24	母と子の森	新宿御苑 母と子の森 案内図
508	25	庭園	フランス式整形庭園、イギリス式風景式庭園
509	26	庭園	日本庭園

### 宗教法人 明治神宮（多言語解説協議会）

510	1	明治神宮の杜	解説文（歴史、人工の杜、ランドスケープデザイン、植物・動物相）
511	2	南参道入口	解説文（開閉時間、日の出日の入が基準）
512	3	第一鳥居	解説文
513	4	明治神宮ミュージアム	解説文（目的、建築家）
514	5	葡萄酒樽	解説文
515	6	清酒菰樽	解説文
516	7	大鳥居（第二鳥居）	解説文
517	8	明治神宮御苑	解説文
518	9	隔雲亭	解説文
519	10	南池と御釣台	解説文

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
520	11	菖蒲田	解説文
521	12	清正井	解説文
522	13	榊形（右折れの88度角）	解説文
523	14	手水舎（てみずしゃ）	解説文（目的）
524	15	手水舎（てみずしゃ）	解説文（手水の作法）
525	16	古神符納礼所	解説文
526	17	南神門	解説文
527	18	夫婦楠	解説文
528	19	本殿	解説文（概要、建物）
529	20	本殿	解説文（御賽銭箱）
530	21	本殿	解説文（参拝作法）
531	22	車のお祓い	解説文
532	23	授与所	解説文（代表的なお守りなどのおわけされているものについて）
533	24	授与所	解説文（おみくじ／大御心）
534	25	絵馬奉納所 / 記入所	解説文（目的、絵馬の書き方）
535	26	神楽殿	解説文
536	27	北池と芝生	解説文
537	28	至誠館	解説文
538	29	フォレストテラス /	
539	30	元の宝物殿（クローズしてる）	
540	31	神前結婚式	
541	32	御日供祭	

## 都留市農泊推進協議会

542	1	ミュージアム都留	歴史・文化
543	2	大名行列	行祭事・イベント・歴史・文化
544	3	早馬町屋台（八朔屋台）	行祭事・イベント・歴史・文化
545	4	下町屋台（八朔屋台）	行祭事・イベント・歴史・文化
546	5	新町屋台（八朔屋台）	行祭事・イベント・歴史・文化
547	6	仲町屋台（八朔屋台）	行祭事・イベント・歴史・文化
548	7	尾県郷土資料館	歴史・文化
549	8	駒橋発電所落合水路橋	産業遺産
550	9	家中川水力発電	SDGs、Eco
551	10	十日市場・夏狩湧水群	自然・気候
552	11	茶壺道中	行祭事・イベント・歴史・文化

管理番号	原稿 No.	施設名	施設内スポット名
553	12	商家資料館（旧仁科家住宅）	歴史・文化
554	13	太郎次郎滝	自然・気候・歴史・文化
555	14	松尾芭蕉（田原の滝公園）	歴史・文化
556	15	おなん淵	自然・気候・歴史・文化
557	16	鹿留溪谷	自然・気候
558	17	蒼竜峡	自然・気候
559	18	勝山城跡	自然・気候・歴史・文化
560	19	御正体山	自然・気候・歴史・文化
561	20	大宰府天神社	歴史・文化
562	21	神楽	行祭事・イベント・歴史・文化
563	22	谷村町駅舎	産業遺産
564	23	桃林軒	歴史・文化
565	24	牛石遺跡と土偶	歴史・文化
566	25	田原の滝	自然・気候
567	26	富士みちの遺産	歴史・文化
568	27	生出神社	歴史・文化
569	28	宝鏡寺	歴史・文化
570	29	桂林寺	歴史・文化
571	30	石船神社	歴史・文化
572	31	高尾神社	歴史・文化
573	32	長安寺	歴史・文化
574	33	円通院	歴史・文化

# 日光市多言語解説整備支援事業検討協議会

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Nikko Futarasan Shrine

Main Shrine

Nikko Futarasan Shrine is one of the oldest shrines in Japan, dating back to the eighth century. The shrine consists of three sites, the Honsha main shrine, the Chugushi middle shrine, and the Okunomiya inner shrine.

Mt. Nantai and the surrounding mountains of Nikko were regarded as sacred in the Shinto religion from ancient times. A small shrine was built on the peak of Mt. Nantai in the late eighth century by the holy ascetic Shodo Shonin (735–817). This is now the Okunomiya. Later, the Chugushi was built at the foot of Mt. Nantai, and the Honsha was established closer to where the people lived.

The Shrine is the highest-ranking shrine in Tochigi Prefecture, and over its long history not only local people but also samurai and the powerful have come to worship here.

The main hall enshrines three Shinto kami deities: Onamuchi no Mikoto, Tagorihime no Mikoto, and Ajsukitakahikone no Mikoto. These deities are incarnations of the three mountains of Nikko: Mt. Nantai, Mt. Nyoho, and Mt. Taro.

Haiden, Worship Hall

The haiden worship hall is where prayers to the kami deities are offered. It is also used for festivals. The architecture is simple but powerful, and the decoration in red and black is understated. The samurai statue protects the enshrined deities and the painting is of a sacred deer, which is the messenger of the kami. This building was donated in 1619 by the second Tokugawa shogun, Hidetada (1579–1632).

Honden, Main Shrine

The main shrine building, the honden, is connected to the haiden by a corridor. The main shrine is where the three deities of Nikko Futarasan are enshrined: Onamuchi no Mikoto, Tagorihime no Mikoto, and Ajsukitakahikone no Mikoto. The main shrine was donated by Tokugawa Hidetada, the second shogun of the Tokugawa shogunate which ruled Japan from 1603 to 1867.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## 日光二荒山神社

二荒山神社は日本でもっとも古い神社のひとつで、その歴史は 8 世紀にまでさかのぼります。本社、中宮祠、奥宮の三社から構成されています。

男体山および日光の周りの山々は、その昔より神道の聖地として知られていました。8 世紀の終わり頃、男体山の山頂に、勝道上人(735 年-817 年)によって祠が建てられました。これが現在の奥宮です。その後、中宮祠が男体山の麓に、二荒山神社の本社が人々の多く暮らす地域に建ちました。

この神社は長きにわたり、下野の国（栃木県）で最も格式の高い神社として、地域の人々や侍、権力者たちの信仰を集めてきました。

本殿には大己貴命、田心姫命、味耜高彥根命といった三柱の神々が祀られており、それぞれが日光の三山（男体山、女峰山、太郎山）の化身と考えられています。

## 拝殿

拝殿は神々への祈りが捧げられる場所であり、また祭り事にも使用されます。赤と黒の控えめな装飾が特徴的で、簡素ながら力強い建築。ここにある武士像は祀られている神々を保護し、絵には神の使者である鹿が描かれています。この建物は 1619 年に第 2 徳川将軍・秀忠（1579 年-1632 年）によって寄進されました。

## 本殿

本殿は、拝殿と廊下で一続きとなっています。ここには大己貴命、田心姫命、味耜高彥根命といった三柱の神々が祀られています。本殿は 1603 年から 1867 年まで日本を治めた徳川幕府の第二代将軍・秀忠によって寄進されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Daikokuden Hall

Constructed in 1745, this hall enshrines Daikoku, the popular deity of good fortune. Nikko Futarasan Shrine is famous for its Lucky Daikoku. Daikokuten is one of the seven lucky gods, and originally a Buddhist god, equated with the Shinto kami Onamuchi no Mikoto. Onamuchi no Mikoto is the kami of farming, business, and medicine, and appears in the *Kojiki*, the earliest record of ancient Japanese history, which was first published in 712. Until the Meiji period (1868–1912) Buddhism and Shinto in Japan were fused, and Nikko Futarasan Shrine enshrines both Onamuchi no Mikoto and Daikoku.

The Daikoku Hall contains an area for offering prayers and displays a variety of pictures of Daikoku.

A statue of Tajimamori stands just to the right of the entrance. He was a legendary figure from the Yamato Period (250–719), who was ordered to bring back a magical fruit to Japan. The branch the statue holds in its right hand is from the *tachibana* tree, a type of citrus fruit. He is worshipped as the guardian deity of confectioners.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

大国殿

1745年創建。日本では幸福を呼ぶ神として、広く信仰されている「大黒」が祀られています。日光二荒山神社では、「招き大国（Lucky Daikoku）」として有名です。

もともとは仏教の神であり七福神として知られる大黒天と、農業・商業・医療の神である大己貴命が同一のものでされています。大己貴命は、日本最古の歴史書『古事記』にも登場する神です。明治時代（1868年-1912年）まで、日本では仏教と神道が融合しており、日光二荒山神社でも大己貴命と大黒天の両方が祀られているのです。

建物内には参拝所のほか、大黒天の様々な図像が安置されています。

入り口の右側に立つ石像は、田道間守です。田道間守は大和時代（250年-719年）の伝説の存在であり、「魔法の果物」を日本に持ち帰るよう命じられたとされています。この像が右手に持つ橘の木は柑橘系の果物。彼は菓子の神としても信仰されています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hie Shrine

It is said that the first Hie Shrine here was built in 848. The current shrine building dates from 1644 and enshrines the Shinto deity Oyamakui no Mikoto, the kami of mountains and good health. The first shrine here was built by Ennin (ca. 794–864), the third abbot of the Japanese Tendai sect of Buddhism, which was introduced to Japan from China in the ninth century. Rinnoji Temple at Nikko is a Tendai Buddhist temple. The kami Oyamakui no Mikoto enshrined here was brought from the Hie Shrine at Hieizan Enryakuji, near Kyoto, the head temple of Japanese Tendai Buddhism. This shrine is a reminder of the fusion of Buddhism and Shinto that existed before the Meiji period (1868–1912). This fusion was pioneered by Tendai Buddhism.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日枝神社

もとは848年に創建された神社であるとされています。現在の建物は1644年頃に建てられたもので、祭神は、山の神また健康の神とされる大山咋命（おおやまくいのみこと）。

最初のもは、9世紀に中国から伝わったとされる日本天台宗の第3代座主・円仁（794年-864年）によって建てられました。

日光の輪王寺も天台仏教のお寺です。（日枝神社に祀られている）大山咋命の御霊は、京都の近くにある日本天台宗の総本山・比叡山延暦寺から分けられたものです。

この神社は神仏習合（神社と寺院を混淆して信仰する考え方）時代の面影を残す施設であると言えます。この神仏習合は天台宗がその草分けとなりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Takinoo Shrine

It is believed that Takinoo Shrine was built in 820 by Kukai (774–835), also known as Kobo Daishi, the Buddhist monk who founded the famous monastery on Koyasan in Wakayama Prefecture. The current structure was rebuilt in 1645.

Tagorihime no Mikoto, one of the three principal deities of Nikko Futarasan Shrine, is enshrined here. In the rear of the shrine is an area said to be where the goddess descended to earth. There are three large, sacred Japanese cedars growing there now.

The grounds of Takinoo Shrine contain a luck-testing gate (Undameshi no Torii) and a planter with bamboo leaves said to grant a good match in marriage (Enmusubi no Sasa). There is a spring whose waters are used to produce delicious sake (Sake no Izumi), and a sacred rock that answers prayers for children and a safe birth (Kodaneishi).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

滝尾神社

高野山(和歌山県)を開き、弘法大師としても知られる僧侶・空海(774-835)が、820年に創建したと伝わる。現在の建物は1645年に改築したものです。

ここに祀られているのは、二荒山神社本社の祭神の1柱である田心姫命です。境内奥には田心姫命が降臨したと伝説の残る場所があり、そこには3本の聖なる大杉が植えられています。

境内には、自分の運気を確かめる「運試しの鳥居」、良縁をもたらす「縁結びの笹」、おいしい日本酒の原料となる「酒の泉」、子宝・安産にご利益のある「子種石」などの見どころがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hongu Shrine

Among the oldest sacred structures in Nikko, it is believed that Hongu Shrine was constructed during the Nara period (710–794). The deity Ajisukitakahikone no Mikoto, the son of Onamuchi no Mikoto, is enshrined here.

In 766, Shodo Shonin (735–817), the holy ascetic who established Nikko Futarasan Shrine and Rinnoji Temple, crossed the Daiya River into Nikko, and built a small shrine. The Hongu Shrine is thus considered the birthplace of the Nikko Futarasan Shrine.

The building to the front is the prayer hall, while the rear building is the main hall where Ajisukitakahikone no Mikoto is enshrined. There is a door at the back of the shrine from which Mt. Nantai was worshipped. One of the ancient beliefs in Shinto is that the mountains are sacred spaces where divinities and ancestral spirits dwell.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本宮神社

奈良時代（710年～794年）に創建と伝わる、日光で最も古い社寺の1つ。祭神は味耜高彥根命、二荒山神社の主祭神である大己貴命の御子神です。

二荒山神社や輪王寺の開祖・勝道上人（735年-817年）は、766年にまず大谷川を渡り日光へ入り、小さな祠を建てました。そのため、本宮神社は二荒山神社発祥の地であるとも考えられます。

手前には参拝者が祈りを捧げる拝殿が、その奥には味耜高彥根命が祀られる本殿が置かれています。本殿の背面には扉が設けられて、かつてはここから男体山を拝んでいました。これがすなわち神と先祖の御霊の在わす聖なる場所として山を拝む、山岳信仰です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Undameshi no Torii, Luck-Testing Gate

Shrine gates, called *torii*, mark the entrance to a sacred space. For this reason, *torii* often stand at the entrance to shrines and other holy places. Unusually, this *torii* has a circular opening at the top. It is said that your wish will be granted if one or more of the three stones that visitors throw at the opening pass through the hole.

This gate was donated to the shrine in 1689 by Kaji Sadayoshi (1612–1698), a samurai retainer of the third Tokugawa shogun, Iemitsu. Tokugawa Iemitsu (1604–1651) had a strong connection with Nikko. He ordered the reconstruction of Nikko Toshogu and is enshrined in the Taiyuin at Rinnoji Temple. After the death of Iemitsu, Kaji Sadayoshi protected the Shogun's grave at the Taiyuin until his own death. He is buried at Nikko.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

運試しの鳥居

鳥居とは、聖域への入り口として設けられる神社の門です。そのため、鳥居は神社やそのほか聖なる場所の入り口に建てられます。この鳥居は一般的な鳥居とは違い、上部中央に丸い穴が設けられている点の特徴。この穴に小石を3つ投げ入れ、1つでも入ると願いが叶うと言われています。

この鳥居は、徳川幕府 3 代将軍・徳川家光(1604 年-1651 年)の家臣、梶定良（1612 年-1698 年）が 1689 年に奉納したもの。家光は、日光東照宮の再建立を命じ、輪王寺大猷院に祀られた人物として知られ、日光とは深い縁を持つ人物です。

梶定良は家光の死後、大猷院内で家光廟堂を守った忠臣であり、日光に墓所が存在しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Kodaneishi, Fertility Stone

For centuries, people have believed that this stone can aid fertility and in childbirth, ensuring a safe and healthy delivery. People continue to visit the stone for this purpose to this day.

Visitors customarily offer prayers while standing in front of the stone and then circle the stone in a clockwise direction. Many visitors also leave small stones as a form of offering or in thanks for granted prayers. These stones form the mound of smaller rocks located near the Fertility Stone.

The stone is known also as Kodane Gongen. *Gongen* means the appearance of a Buddha in the form of a Shinto deity and is a reminder of the fusion of Buddhism and Shinto before the Meiji period (1868–1912).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

子種石(こだねいし)

古くから、この石を参拝すると子宝に恵まれ、また安産にもご利益があると言われていています。そのため、現在でも多くの参拝者がここを訪れます。

参拝時には、石の前で祈りを捧げた後、石の周りを時計回りに回ります。参拝者の多くは、出産の無事を願って、またはその願いが聞き入れられたことへの感謝を込めて、小さな石を残して行きます。これは、小石の山として子種石の周りを見ることができます。

この石は（日本語で）子種石、あるいは子種権現と呼ばれています。権現とは仏が神道の神として現れることを指し、明治時代（1868年-1912年）まであった神仏習合の名残とも言えます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Mitomo Shrine

The Shinto deity Sukunabiko no Mikoto, the god of medicine and knowledge, is worshipped at the Mitomo Shrine. In the *Kojiki*, the oldest written record of ancient Japanese history published in 712, Sukunabiko no Mikoto helped Onamuchi no Mikoto, one of the principal deities worshipped at Nikko Futarasan Shrine, to rule Japan.

Although the shrine's exact age remains unknown, the stone water basin used for ritual purification is engraved with the Chinese characters for 1753. From this, it is thought that the Mitomo Shrine has stood here for at least 250 years. Visitors customarily wash their hands at the stone water basin in front of the shrine before offering a prayer. This practice is believed to purify the worshipper, and also shows respect to the Shinto deities.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

朋友神社（みともじんじゃ）

智慧と医薬の神・少彦名命を祀る神社。712年に書かれた日本最古の歴史書『古事記』において、少彦名命は二荒山神社の主祭神・大己貴命の日本統治を助けた神であると記述されています。

社の正確な創建時期は不明ですが、手水鉢石に「西暦 1753 年」と漢字が刻まれており、少なくとも 250 年程度の歴史を持つ建築であると考えられています。

参拝者は社の手前に置かれている手水鉢石に置いて、参拝前に手を洗うのが習わしです。これは参拝者を清めるとともに、神道の神々への尊敬の念を表すために行われます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Bakedoro, Ghost Lantern

This bronze lantern was donated to Nikko Futarasan Shrine in 1292 by Kanuma Katsutsuna, a prominent local samurai. A flame was lit in the upper box of the lantern to illuminate the shrine grounds after dark. It is said that the flames inside the lantern looked just like a ghost at night, resulting in its interesting name.

Until the end of the Edo period (1603–1867), samurai guarded the grounds of Nikko Futarasan Shrine through the night. Mistaking the flame for an apparition, the samurai attacked the lantern with their *katana* swords, and there are approximately seventy small cuts on the lantern.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

化け灯籠

1292年、この地域の有力者であった侍・鹿沼勝綱が寄進した、青銅製の灯籠です。暗くなると上部の箱の中に火が灯され、境内を照らしました。夜には、その灯籠の明かりがあたかも化物のように見えたことが、この特徴的な名前の由来となっています。

江戸時代（1603年-1867年）の終わりまで、二荒山神社の境内では夜間警護の侍が見回りを行っていました。その際、侍は灯籠の明かりを亡霊の炎と見誤り、たびたび灯籠を日本刀で切りつけたといいます。灯籠の各所に刻み込まれた70数箇所の小さな刀傷はそのときのものです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Shinyosha, Portable Shrine Building

This building was built as a temporary prayer hall at the Nikko Toshogu in 1617. Unlike the gorgeously decorated buildings of Nikko, the plain wood of this building is a reminder of the original Nikko Toshogu, pre-dating the rebuilding of the Nikko Toshogu in the 1630s. Three portable shrines, or *mikoshi*, are housed inside the building.

The *mikoshi* are used at Nikko Futarasan Shrine during the annual Yayoi Festival to welcome the start of spring, which takes place between April 13 and April 17 every year. The deities normally enshrined in the main shrine are transferred to these *mikoshi* and borne out of the building in procession.

From left to right the *mikoshi* temporarily enshrine the deities Ajsukitakahikone no Mikoto, Onamuchi no Mikoto, and Tagorihime no Mikoto.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神輿舎（しんよしゃ）

1617年に日光東照宮の仮の拝殿（一時的な参拝所）として建築された建物。日光にある、その他の色合い鮮やかな建物とは異なり、素木でできた本建築は創建当時の東照宮を偲ばせます。すなわち、東照宮は1630年代に建て替えが行われましたが、この拝殿はそれよりも前のものとされます。

現在、ここには三基の神輿が安置されています。二荒山神社では、毎年4月13日～17日の期間、春の訪れを祝う弥生祭で神輿を利用。普段は本殿にある神の御霊が、祭礼時には神輿に移され神社の外へ渡御されます。

向かって左から、味耜高彥根命、大己貴命、田心姫命の乗る神輿です。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Karakane Torii, Chinese Bronze Gate

This *torii* gate was made of bronze in 1799. In Shinto belief and architecture, *torii* gates mark the boundary between worldly and sacred spaces, acting as a gateway to the sacred realm of deities. The center-upper frame of the *torii* reads “Nikko Futarasan,” and the circular-shaped engravings display the shrine’s crest.

There are lotus flower patterns on the lower sections of the pillars. The Buddhist deity Kannon, the goddess of mercy, is often portrayed riding on a lotus. The lotus motif is rarely seen at Shinto shrines. Its presence here is a reminder of the historical fusion of Buddhism with Japan’s indigenous Shinto faith which lasted until the Meiji period (1868–1912).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

唐銅鳥居

1799年に創建された銅製の鳥居。神道信仰において、鳥居とは神社の霊域と外の世界を区切る境界を示す門とされます。鳥居上部の中央には「二荒山神社」の額が、その周りには二荒山神社の社紋である三つ巴紋が配置されています。

鳥居の両柱の下部には蓮の文様が施されています。蓮は仏教において観音菩薩の乗る花と考えられているものです。蓮の文様を神社で見かけることは稀です。ここでの蓮の文様は、明治時代(1868-1912)まで、神道と仏教が融合して信仰されていた事実を物語っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社  
 【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Futara Reisen, Futara Sacred Spring

This spring draws water from two different sacred sources at Nikko Futarasan Shrine. The first, called “Yakushi no reisui,” or healing sacred water, wells up from the mountain behind the main hall. This water is believed to improve eye conditions. The second source originates alongside Takinoo Shrine, approximately 1 km west. Known as “Sake no izumi,” sake produced using this water is particularly delicious. Every spring and autumn, sake brewers come from across Japan to take back some of the water to use in their sake making. The barrels of sake near the entrance of the main shrine are donated by these brewers.

The Futara Sacred Spring is a Fountain of Youth, and visitors come here to drink its waters in the hope of good health and rejuvenation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二荒霊泉

この泉には、二荒山神社周辺で湧出する、二つの聖なる泉の水が引き込まれています。

1 つは本殿の背後にある恒霊山(こうれいさん)から湧き出る「薬師の霊水」で、眼疾に効果があると言われています。

もう 1 つは「酒の泉」です。当地の西約 1km の場所にたつ滝尾神社のほとりから湧き出ています。

「酒の泉」の水で造った日本酒は非常に味がよくなると言われ、毎年春と秋になると、全国の酒造業者がここに来て水を少しだけ汲み、仕込みの種水として利用します。本社の入り口付近に設置された酒樽は、そういった酒造業者が奉納したものなのです。

また、二荒霊泉の水は“若返りの泉”とも知られており、健康や若返りを願う参拝者がここで水を汲み飲んでいきます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】二荒山神社

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Shinkyō, Sacred Bridge

This vermilion, arc-shaped bridge marks the entrance to the sacred precincts of Nikko. According to legend, Shodo Shonin (735–817), the holy ascetic was unable to cross to the sacred mountains because of the raging waters of the Daiya River. Upon offering a prayer, a deity calling himself Jinjao appeared and constructed a bridge, allowing Shodo Shonin to cross. Thus, the bridge itself is considered to be sacred. The current bridge was reconstructed in 1904. The bridge is particularly beautiful in the autumn contrasted against the colorful leaves of the trees on the banks of the river.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神橋

朱色の弧を描くこの橋は、この場所が日光の霊域への入り口であることを示しています。伝説によると、勝道上人（735年-817年）は日光へ到達する直前、大谷川の激流を前に立ち往生を余儀なくされたといわれます。そこで上人が祈ると、どこからか深沙大王を名乗る守護神が現れ、橋を作って上人を向こう岸へと渡らせました。そのような逸話から、神橋は聖地として尊ばれています。現在の橋は1904年に再建されたものです。秋には川沿いの紅葉が色づき、神橋との見事なコントラストを見せてくれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

##### Rinnoji Temple

Rinnoji Temple was founded in 766 CE by the Buddhist monk and saint Shodo (735–817). He had resolved to found a religious center at Nikko, and after studying Nara Buddhism, he endured great hardship before finally reaching Nikko. Over the centuries, the temple developed from its modest origins as a simple thatched-roof hut to a huge complex of beautiful halls and shrines. The temple received the patronage of the Tokugawa shogunate, which ruled Japan from 1603 to 1867. Today, the temple is one of the largest and most important religious institutions in the country. It includes the Taiyuin Mausoleum, a national treasure, as well as thirty-eight other Important Cultural Properties.

##### From Simple Hut to Magnificent Halls

Though the first building that Shodo and his followers built in 766 CE was hardly more than a simple thatched-roof hut, the community fervently worked to develop this secluded area into a prosperous temple complex. Within a century after its founding, Rinnoji had already grown to such an extent that even the most powerful holy men in Kyoto, then the cultural and political capital of Japan, began visiting the temple, contributing further to its development. Thanks to the devotion of these early believers, the temple quickly established itself as one of the greatest religious institutions in the country and continues to develop to this day.

##### Two Shrines and One Temple

Today Nikko is home to the Buddhist Rinnoji Temple and two Shinto shrines, the Nikko Futarasan Shrine and Nikko Toshogu. In the not-so-distant past all three were united under a single leadership structure, known collectively as Nikkosan. Nikkosan combined Buddhism and Shinto, a uniquely Japanese fusion of the two traditions called *shinbutsu shugo*. After the end of samurai government in 1867, the new government decided in 1871 to create a clear distinction between the two religions. It issued the Shinto and Buddhism Separation Order, which required all religious institutions in the country to affiliate with either Shintoism or Buddhism. Nikkosan, with its history of more than a millennium of fusion between the two belief systems, could not so easily choose one or the other, so instead, it was separated into three parts, creating the present system of Two Shrines and One Temple.

##### Where Mountains Are Buddhas

The centuries of syncretism between Shintoism and Buddhism at Nikko created a special set of beliefs. As Shintoism

is a religion based on the veneration of natural spirits manifested physically in the environment, the three great mountains in the area—Mt. Nantai, Mt. Nyoho, and Mt. Taro—are themselves considered deities. Rinnoji Temple's three principal Buddhist deities—Senju Kannon, Amida Nyorai, and Bato Kannon—are also considered to be incarnations of these mountains and vice versa.

#### Political Patronage

In the early seventeenth century, the Nikkosan temple complex came under the patronage of the ruling Tokugawa shogunate, during which period the temple's most iconic structures were built. In 1613, Tokugawa Ieyasu (1543–1616), the first Tokugawa shogun, installed his trusted religious adviser, the high priest Tenkai (1536–1643), as head priest of Nikkosan and ordered him to restore the temple. Most notably, Tenkai oversaw the construction of Toshogu Shrine and the enshrinement of Ieyasu's spirit there as the guardian deity for eastern Japan. Later, Ieyasu's grandson Iemitsu (1604–1651) continued Tokugawa support of Nikkosan, working to make the temple one of the most magnificent in the country. His impressive mausoleum, the Taiyuin, was built at Nikko in accordance with his will. Thanks to the efforts of these three leaders—Ieyasu, Tenkai, and Iemitsu—Nikkosan became the splendid complex that we see today.

#### Imperial Leadership

In the early days of Tokugawa rule, Ieyasu worked to develop a close relationship with the imperial family in order to secure the legitimacy of his rule over the country. By the mid-seventeenth century, this resulted in Nikkosan being designated as a *monzeki jin*, a temple headed by a prince of the imperial family who has taken Buddhist vows. The prince heading the temple was called “Prince Rinnoji” and was also the head of the Kan'eiji Temple in Tokyo and the Enryakuji Temple near Kyoto, both very important temples of the Tendai sect of Buddhism. During the Tokugawa shogunate, members of the imperial family enjoyed considerable political and religious discretion, and a strong relationship formed between the Tokugawa shogunate and the imperial family which lasted for over two centuries.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 輪王寺

輪王寺は、766年に仏教僧・勝道上人(735-817)によって建立されました。勝道上人は、日光山に寺社を建立するという強い思いを持ち、当時の日本の首都・奈良の仏教を学び、苦難の末に日光山を門創しました。何世紀もの時代を経て、輪王寺は、簡素なわらぶき屋根の小屋から、最も壮大で美しい堂や社からなる巨大な寺院群へと変貌を遂げます。(その間には、)日本を支配した一族「徳川家」の庇護を受けています(1603年～1863年)。今日輪王寺は、日本で最も巨大で最も重要な宗教建築群の一つとなっており、輪王寺には38の他の重要な文化財とともに、国宝の大猷院霊廟も建立されています。

##### 簡素な小屋から壮大な堂へ

勝道上人と彼の弟子たちが766年に建立した最初の建物は、単なる簡素なわらぶき屋根の小屋でしかありませんでした。しかし勝道上人と彼の弟子は、この寂しげな地域を栄えある宗教建築群にしようと懸命な努力をします。開山からまだ一世紀も経たないうちに、輪王寺は、その頃日本の文化的・政治的首都であった京都の聖人でさえ注目す

るような寺院)になったのです。彼らは日光を訪れ(日光の発展に)寄与しました。この初期信者の篤い信仰により、輪王寺は瞬く間に、日本で最も偉大な宗教建築群の1つとして発展。その発展は今日まで続いています。

## 二社一寺

現在、日光には、輪王寺院群と神道の二社、二荒山神社と東照宮があります。しかし近世以前、これらの三寺社は日光山と称され、一つの信仰体系として構成されていた。日光山では、仏教と神道が混淆し、二つの伝統の融和がはかられ、それは日本独自のもので「神仏習合」と呼ばれました。1867年の幕府滅亡後、新政府は、この二つに宗教をはっきりと区別することを決めます。1871年、国の全ての宗教建築が、神道か仏教か1つの宗派だけに帰属することを義務付けた「神仏分離令」が発布されたのです。日光山において、一千年以上に及ぶ神仏習合の習慣の歴史は、どちらかを捨てることは容易なことではなく、その代わりに三つに分かれ、現在の二社一寺の形をとることとなりました。

## 山こそが仏である

日光における何世紀にもわたる神道と仏教の習合は、独自の信仰を作り出しました。神道は自然(霊)崇拜を基盤とする宗教であり、(周囲の)環境に存在する具体的な自然物を信仰してきました。そのような背景もあり、この地域の偉大な3つの山、すなわち男体山、女峰山、太郎山自体はそれぞれが神であると考えられています。千手観音、阿彌陀如来と馬頭観音という輪王寺に安置されている仏教の三仏も、この山々の化身と考えられており、またその逆も言えるのです。

## 政治的庇護

17世紀に入ってから、日光山は当時の権力者である徳川家の庇護を受け始めます。この時代に、輪王寺の代表的な建物が建てられました。1613年、徳川家の初代将軍・徳川家康は、高僧・天海を自分の宗教上の助言者に登用。天海に対し、日光山貫主として寺院の修復をするよう命じました。もっとも注目すべきなのは、彼が東照宮を創建し、東日本の守護神として家康の霊を祀ったことです。後年、家康の孫・家光(1604-1651)は日光山を支援し続け、日光山を日本で最も壮大な寺院の1つにするよう努めました。日光の中にある大猷院という家光の壮大な霊廟は、遺言により創建されたもの。家康、天海と家光というこれらの人物の努力により、日光山は今日私達が見るような、華麗な寺院群となったのです。

## 皇室の主導

徳川支配の初期に、家康は国の支配者として自分の正当性をゆるぎないものとするため、皇室と親密な関係を持つよう努めました。これにより、17世紀の中頃には、仏教への誓いを立てた皇室の皇子が、寺の住職に任命される“門跡寺”として、日光山は指定されるようになりました。日光山の皇子は、「輪王寺宮」と呼ばれ、東京の寛永寺と京都近くの延暦寺の住持も兼任することとなります。(この2寺は)ともに天台宗のとても重要な寺です。徳川家の時代、皇族は政治的・宗教的に大きな裁量を任せられました。その後何世紀にもわたる徳川家と皇室の深い関係はこの頃に築かれたのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Hondo, Main Hall

The magnificent main building of Rinnoji Temple is also known as the Hall of Three Buddhas. The three Buddhas are Amida Nyorai, Senju Kannon, and Bato Kannon.

The statue to the right is Senju Kannon, the goddess of mercy, in each of whose one thousand hands is held a tool representing her many abilities to help humankind to reach enlightenment. In the middle is Amida Nyorai, the Buddha of infinite light and life. On the left is Bato Kannon, the horse-headed Buddha. The horse represents power and, despite his angry expression, Bato Kannon is considered a kind Buddha. At Rinnoji these three Buddhas are enshrined as one group, with each different Buddha a different manifestation of one common meaning. The three Buddhas are identified with the three mountains of Nikko: Senju Kannon is Mt. Nantai, Amida Nyorai Mt. Nyoho, and Bato Kannon represents Mt. Taro.

The hall was first constructed in 848 CE by the monk Ennin (ca. 794–864), a high priest of the Tendai sect of Buddhism, which was introduced to Japan from China in 806. Tendai Buddhism is one of the most influential as well as comprehensive and diversified schools of Japanese Buddhism. Tendai Buddhism incorporates the teachings of other schools of Buddhism and also reconciled Buddhist teachings with Shinto. The main hall was first located where the Toshogu Shrine stands today and has been moved and reconstructed several times. The current structure dates from 1645.

When Edo (Tokyo) became the center of Japanese politics under the Tokugawa shogunate in 1603, the ruling Tokugawa family sought to build a new capital to rival the grandeur of Kyoto, which had been the seat of Japanese politics and culture for nearly a millennium. To this end, the third Tokugawa shogun, Iemitsu, ordered the construction of the largest, most magnificent main hall in the country at Rinnoji. A lack of resources meant that the main hall did not realize this goal, although the building is the largest east of Kyoto.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本堂（三仏堂）

この荘厳な建物は輪王寺の本堂で、輪王寺の「阿弥陀如来」「千手観音」「馬頭観音」の主な三仏が祀られています。



す。その三仏とは、本堂内の中心に置かれた三体の大きな金色の仏像のことです。

本堂の右には、慈悲の仏である「千手観音」が鎮座しています。千手観音のそれぞれの手が握る道具は数多の能力を表し、人類が悟りに到達できるよう手助けを行うものです。また、本堂の中央には、無限の光明と人生の仏である「阿弥陀如来」が控えています。そして、左に位置する激怒した表情の仏は、馬頭仏すなわち「馬頭観音」です。

輪王寺の境内には、この三仏が一つのグループとして祀られています。それぞれが異なる名前を持ち、総じて象徴する意味（※訳注 上述の「慈悲」や「力」など）を持つとされています。なお、日光山の3つの山々についても同様で、すなわち「男体山」は「千手観音」、「女峰山」は「阿弥陀如来」、「太郎山」は「馬頭観音」に対応した意味を担うとされています。

この本堂は、848年、天台宗の高僧である慈覚大師・円仁（794-864）によって創建されました。天台宗は、806年中国より日本に伝えられました。天台宗は、日本仏教において巨大で多様な宗派というだけでなくもっとも影響を与えた仏教です。天台宗は、他の宗派の教えを取り入れ、また神道と共に仏教の教えを説いてきました。本堂は、当初は現在東照宮のある場所に置かれました。しかし、その後、長い歴史の中で何度も移転と再建を繰り返すことに。現存している建物は1645年に建てられたものです。

1603年、徳川時代に日本の政治の中枢が江戸（東京）に移された時、権力を握った徳川家は、この新しい首都を、千年の都であり文化の中心地であった京都のレベルにまで引き上げようと考えました。それを象徴するのが、三代将軍・徳川家光が目指した本堂の再建です。彼は「この国で最も大きく、最も壮大な建造物を」と命じましたが、資金不足により、その目的には達することなく終わりました。それでも、この堂は当時東日本一の高さを誇り、今なお京都以東で最も高い木造建築として知られています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Gomado, Hall for the Goma Fire Ritual

This hall was built for the performance of the Goma fire ritual. In this esoteric Buddhist rite, prayers written on paper or small tablets of wood are transmitted to the Buddhist deities by being burnt in a sacred fire. Given the risk posed by carrying out such a ritual in any of the important historical wooden structures at the Rinnoji, it was decided to construct this new special-purpose hall.

Although built in a traditional architectural style, the structure is made from modern steel-reinforced concrete. Aside from providing protection in the event of an earthquake, these inflammable materials also serve to prevent fires from spreading to nearby cultural properties should there be an accident during the ritual. Built in 1998, it is the newest structure at the Rinnoji Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

護摩堂

護摩堂は護摩の儀式を行うために建立されました。護摩供修法とは、紙や小さな木片に書かれたメッセージを火に灯して神々に伝達する祈祷の形態です。護摩供修法を行うことで、輪王寺の重要な歴史的木造建造物が(火災に襲われる)危険があるため、護摩堂は建立されることが決定されました。

護摩堂の外観は伝統的様式を保っているが、最新の鋼鉄で補強されたコンクリートで作られています。地震に備えて安全に作られている他、護摩の最中、なんらかの事故が起きた場合でも、近くの文化的財産に火が燃え移ることを防ぐことができます。護摩堂は1998年に建立された、輪王寺で最も新しい建造物です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Gohotendo, Hall of the Guardians of the Buddhist Law

Constructed in the early seventeenth century, this hall was originally part of the private quarters of the abbot of Rinnoji, the *monzeki*. Since the *monzeki* was a member of the imperial family and also head of the Kan'eiji Temple in Tokyo and the Enryakuji Temple near Kyoto, he required a separate private place of worship, which purpose this hall served. In 1871, a fire broke out in the private quarters of the *monzeki*, which destroyed all of the buildings except for this hall and the Kuromon Gate.

Gohotendo originally enshrined the deities Bishamonten, Daikokuten, and Benzaiten, who are considered more approachable than the three principal deities of Rinnoji Temple—Senju Kannon, Amida Nyorai, and Bato Kannon respectively. These deities are members of a group of divinities known as the Gohoten, guardians who are said to protect Buddha's law and disciples, hence the name of the hall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

護法天堂案内看板

護法天堂が建立されたのは十七世紀初頭のこと。この場所は、もともと輪王寺門跡の私有地の一部分でありました。門跡は皇族の(中から)任命される、非常に高位の僧侶です。輪王寺門跡は輪王寺だけでなく、東京の寛永寺、京都近くの延暦寺における権限も与えられました。そう行った重要な役割を果たすため、門跡には個人的な祈りの空間が必要でした。それがこの護法天堂なのです。1871年にこの場所を火災が襲い、護法天堂と黒門を除く建物が全焼しています。

護法天堂は、もともと「毘沙門天」、「大黒天」と「弁財天」の三天を祀っていました。この三天は、それぞれ「千手観音」、「阿弥陀如来」と「馬頭観音」という輪王寺の三仏をより親しみやすくしたものと考えられています。この三天は、仏陀の法と原理を守護する護法天という神々のグループの一員でした。護法天堂は、これにちなんで名前がつけられました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Kuromon, Black Gate

Built in the early seventeenth century, the Kuromon was originally the main gate of the private quarters of Rinnoji Temple's *monzeki*, who was a member of the imperial family, with authority over the highly important Kan'eiji Temple in Tokyo and Enryakuji Temple near Kyoto. His being resident in Nikko is testament to the historical and religious significance of Rinnoji Temple. The carvings of chrysanthemums on the gate are the imperial chrysanthemum crest reserved for use by the imperial family.

The Kuromon has served as the main gate to Rinnoji Temple since 1877, when the Hall of the Three Buddhas was relocated here. The Hall previously stood near Nikko Futarasan Shrine and was moved here after the 1871 fire in which the *monzeki's* private quarters burnt down. The Kuromon and the nearby Gohotendo Hall are all that remain of the *monzeki's* estate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本堂（黒門）

黒門が建立されたのは十七世紀初期です。黒門はもともと輪王寺門跡の私有地へと至る玄関口でした。（輪王寺）門跡は、皇族の一員で、輪王寺の最高位の人物の一人であり、輪王寺だけでなく、東京の寛永寺、京都近くにあった延暦寺における権限も認められていました。日光に住む門跡の存在は、輪王寺の歴史的宗教的意義を示しています。門跡は皇室から任命されたので、黒門には皇室の菊の装飾が施されています。

1871年に門跡の私有地で火災が発生。建物が全焼した結果、残されたのは黒門と近くの護法天堂だけでした。1877年に日光二荒山神社の近くにあった三仏堂がこの地域に移転され、それ以来、黒門は輪王寺の主な玄関として機能を果たしています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Sorinto, Buddhist stupa

This tower is in the form of the finial typically found on the roof of a pagoda. It was constructed by the monk Tenkai (1536–1643), the chief priest of the Nikkōsan temple complex in the early 1600's when the Toshogu Shrine was built. The Sorinto houses a collection of Buddhist sutras and has great religious significance. The nine rings represent the five Wisdom Nyorai Buddhas and the four Bodhisattvas.

The design for this monument was inspired by Saicho (767–822), the founder of the Japanese Tendai sect of Buddhism. He had six such finials built across the country to provide Japan with the divine protection of the Buddhist Law. Tenkai built this finial to protect eastern Japan, to ward off evil spirits, and to maintain peace within the realm.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本堂（相輪櫓）

相輪櫓は、仏塔の屋根についている細長い装飾に似せて作られています。（輪王寺の）相輪櫓を建立したのは、天海大僧正（西暦 1536-1643）であり、彼は東照宮が創建された 1600 年初期における日光山の住職です。（相輪櫓には）経典一式が納められており、宗教的にも重要なものと言えます。九つの輪が五大如来と四大菩薩を表しています。

そのデザインは、かつて最澄が手がけた相輪櫓にインスピレーションを受けています。最澄（西暦 767-822）は、仏教の一派である日本の天台宗の開祖であり、彼は日本全国を仏陀の守護で覆うため、6 つの相輪櫓を設置しました。一方で天海は、（輪王寺の）相輪櫓で東日本を守護し、悪霊を退散させること、そして領土内の平和を維持することを意図していたと考えられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Shoyoen Garden

This garden dates to the mid-seventeenth century and was the private garden of the imperial prince Shucho (1634–1680) when he was the highest-ranking monk and head of Rinnoji Temple. The garden is designed to resemble the shores of Lake Biwa near Kyoto, where the prince had spent much of his childhood. The garden has been renowned for its beauty since it was built, and many famous people have visited it. Ulysses S. Grant, eighteenth president of the United States, visited in 1871. The garden is particularly beautiful when the maple leaves turn color in autumn.

The Shoyoen Garden is designed so that the visitor can enjoy all of Nikko's natural beauty in one place. The garden's design incorporates the natural beauty of Mt. Nantai in the distance, and the stones that are used throughout the garden were collected from the mountains and rivers of Nikko.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

逍遥園

逍遥園の起源は十七世紀中頃にまでさかのぼります。当時の輪王寺の最高位の僧侶であった輪王寺の官守澄法親王（西暦 1634-1680）の個人的な庭として造園されたのが、この逍遥園です。皇子が幼少期の大半を過ごした京都に近い琵琶湖畔の環境をイメージし、逍遥園は設計されました。逍遥園は造営以来、その美しさから、何世紀もの間にわたり多くの評判を得、多くの著名人がここを訪れました。（例えば）1817 年には米国 18 代大統領のユリシーズ・シンプトン・グラントも逍遥園を訪れています。今日逍遥園は、秋にもみじが色づくころ、特に美しくなります。

逍遥園は、日光の自然環境を用いて設計されています。（遠くに見える）男体山の景色が、庭内の整った風景に溶け込み、その上、庭じゅうに置かれた石は全部日光の山と川から集められたもの。逍遥園は、“日光の自然を一度に経験できる庭”と言われています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

##### Taiyuin Mausoleum

The Taiyuin is the final resting place of Iemitsu (1604–1651), the third Tokugawa shogun. Iemitsu became shogun in 1623, although his father, the second shogun Hidetada, continued to rule as the retired shogun until his death in 1632. This pattern followed that established by the first shogun Ieyasu, who became shogun in 1603 but retired in 1605, ruling as retired shogun until 1616. After Iemitsu assumed real power in 1633, he consolidated the power base of the shogunate, implementing a political structure that would remain in force until the end of the shogunate in 1867.

Iemitsu's greatest achievement was the implementation of policies to reign in the power of the feudal lords. Prior to the reunification of Japan by Ieyasu following the Battle of Sekigahara in 1600, the great military houses had considerable political autonomy. The strongest feudal lords were unaccustomed to submission. In one famous episode, Iemitsu summoned these powerful men, many of whom were much older than him, and declared: "I am the Shogun by birth. Henceforth, I shall treat you as my vassals. If you object, go back to your lands and prepare for war."

Early in his regime, Iemitsu instituted the *sankin kotai* or alternative attendance system, in which the regional lords were required to move their household to Edo (Tokyo) for one year, returning home for the following year. When a lord remained in his own territory, his wife and heir stayed in Edo as hostages. As well as forcing the lords to spend large amounts of money that might otherwise have been used to raise armies, this system also allowed the shogunate to monitor the feudal lords more closely. Iemitsu implemented the isolationist *sakoku* policy in 1635, which severely restricted entrance to Japan by foreigners, as well as preventing common Japanese people from leaving the country. After the suppression of the Shimabara Rebellion (1637–1638), there was peace in Japan for more than 200 years.

The Taiyuin is not only important as the mausoleum of the third shogun. The buildings, ornamentation, and other elements of the Taiyuin were also designed to express the power and authority of the Tokugawa shogunate. For example, there are three gates on the approach to the mausoleum each with two or more celestial warriors that ward off evil. Typically, shrines and temples are protected by a single gate flanked by two guardians. Additionally, the approach is lined with lanterns of stone or bronze. They were donated by the most powerful feudal lords, as expressions of their subservience to the shogun. There are also lanterns donated by the imperial family. Their presence is a physical expression of the close ties between the imperial court and the shogunate as well as the legitimacy of the rule of the

Tokugawa.

The mausoleum is beautiful, but its design also expresses the great respect that the third shogun had for his grandfather. The shogun selected a site close to the grave of the first Tokugawa shogun but was careful that his mausoleum never rivaled the magnificence of the Toshogu. For example, the gold-and-black color scheme of the Taiyūin is more understated than the gold-and-white of the Toshogu. The beautiful decorations are also comparatively subdued.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大猷院

大猷院には、徳川三代将軍・家光（西暦 1604-1651）の終の場所(廟)が置かれています。家光は 1623 年に将軍となりましたが、彼の父である二代将軍秀忠は 1632 年に彼が亡くなるまで権力を握っていました。このように父親が将軍を引退したあとも権力を握り続けることは、初代将軍家康と二代将軍秀忠の時にもあり、家康の場合は、1603 年に将軍となり 1605 年に将軍の座を秀忠に譲っていますが、1616 年まで権力を握り続けていました。1633 年に家光が権力を掌握した後、幕府は権力基盤を固め、1867 年に幕府がなくなるまでこの政治体制を維持しました。

家光は強力な武家(の力を)抑える政策を実行し、その功績は、何世紀にもわたって日本社会に影響を与えました。1600 年の関が原の戦いの後、それらの武家は、祖父・家康の偉業(=日本統一)前から政治的自立を果たしており、(徳川家に)従属的でありつづけることに決して甘んじることがありませんでした。(彼が発言したとされる)有名なエピソードがあります。家光は、あるとき自分よりはるかに年上の臣下を招集し、こう言ったのです。“我は生まれながらの将軍である。よってこれからは、そちらを家来として扱う。不服の者は国に帰り戦の準備をせよ”と。

(その出来事のあと)彼はその治世の初期に、“参勤交代”を制定します。

“参勤交代”とは、大名が江戸（東京）と自分たちの故郷の領地の間を毎年行ったり来たりして生活拠点を移動することを義務づけたものです。(この制度によって、)大名たちは、本来であれば軍事力の強化に使うはずであった大量のお金を消費せざるを得なくなります。さらに“参勤交代”によって家光は大名をより緊密に監視することができるようになりました。その他、彼は、外国人が日本に入国し、日本人が出国するのを禁じた鎖国制度”の制定と、島原の乱（1637-1638）の鎮圧を行い、その後日本に二百年以上にわたる平和をもたらします。

大猷院は三代将軍家光の霊廟としての重要性だけでなく、徳川政権の力と権力を意味する建築物、装飾品と文化的財産が、敷地を満たしています。例えば、大猷院の参道には 3 つの門が連なっており、それぞれ悪を追い払う二体以上の天の戦士(守護神)が守護しています。普通の神社とお寺では、二体の守護神の安置された門が、ひとつあるだけです。さらに、石か銅でできた数多くの灯籠が一行に大猷院への道に並んでいることもポイント。灯籠は各国の最も強い家(大名)から寄進されたものであり、どの灯籠も徳川家への従属を意味しています。中には皇室による寄進物もあります。これは徳川家と皇室の親密な関係の意味し、また徳川の支配の正当性をも象徴しています。大猷院はその歴史的な重要性から、決して見逃してはならない霊廟だと言えます。



大猷院外観は非常に美しいですが、同時に(この外観で)家光は祖父への敬意も表現しています。彼は東照宮の家康の墓所の近くの場所を選び、彼自身の霊廟の壮大さが祖父を超えないよう注意を払いました。例えば、大猷院の色の組み合わせは、東照宮の金色と白とは対照的に、より控えめな金と黒です。装飾品は美しくはありつつも、比較的落ち着いたものになっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Niomon, Gate of the Virtuous Kings

This is the first gate guarding the approach to Iemitsu's mausoleum. These two fierce warriors can be found protecting the entrances to temples across Japan. The fierce expressions and muscular bodies of the statues are suitably fierce for the guardians of a shogun's grave.

The figure on the right is Mishaku and is depicted with mouth agape, as if pronouncing "A," the first character of the Japanese alphabet. The figure on the left, Naraen, has his mouth closed tightly as though pronouncing "N," the last letter of the alphabet. The two syllables combined together form *ann*, a sacred sound in Buddhism which means oneness.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁王門

仁王門は家光の霊廟の参道を守護している最初の門です。この 2 体の戦士は、日本中の寺や神社で、その入り口を守護しています。この猛々しい表情とがっしりとした肉体は、将軍の墓所の守護神にふさわしい、堂々とした容貌だと言えます。

右側の彫像は「密迹」として知られています。まるで日本語のアルファベットの最初の文字である“A”を発音するかのよう、口を開けています。「那羅延」として知られている左側の彫像は日本語のアルファベットの最後の文字である“N”を発音するかのよう、口をきつく閉じています。この二つの音節を一緒に組み合わせると、一体を意味する仏教の“阿吽”という神聖な音になります。

#### 本事業以前の英語解説文

Nio-mon

Two guardian deities are enshrined. Misshaku-Kongo on the right represents the beginning and the Naraen-Kongo the end.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Maki no Ki, Japanese Umbrella Pines

These evergreens were planted by Iemitsu's son, Ietsuna (1641–1680). This evergreen has been considered a sacred tree since ancient times. A symbol of longevity, it serves here to protect the Taiyuin.

The Japanese umbrella pine is native to Japan and can be found in the wild in most of the country.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

榎の木

家光の息子・家綱（西暦 1641-1680）が植樹したのが、常緑樹であるこの榎の木です。古来より榎の木は聖なる木と考えられており、大猷院を守護してきました。

榎の木は日本原産の種であり、日本のほとんど（の地域で）で自生しているのが見受けられます。

本事業以前の英語解説文

Makino-ki (Japanese Umbrella Pine)

The tree was planted by the 4<sup>th</sup> Shogun Ietsuna and is estimated to be about 400 years old.

【施設名】 日光山輪王寺  
 【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Omizuya, Purification Fountain

The water here is provided to allow people to purify themselves before entering the sacred precincts. Water for purification is found at the entrance to shrines and temples across Japan. This fountain was donated by Lord Nabeshima Katsushige (1580–1657) of Kyushu in the mid-1600's. The ceiling of the building above the fountain has an exquisite painting of a dragon by Kano Yasunobu (1614–1685), renowned master painter of the Kano School of Japanese painting. The picture of the dragon has deteriorated because of time and humidity but retains much of its original beauty. The reflection of this image on the water below is known as Mizukagami no Ryu, or the “Dragon Reflected in the Water-Mirror.”

At the fountain, fill the ladle with water, and use it to rinse first the left hand followed by the right, then rinse your mouth by pouring some of the water into your cupped hand. Any water remaining in the ladle should be discarded in the trough beneath the basin. The order of purification at a temple is different from that at shrines.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

御水舎

御水舎には、聖なる場所に入る前の、お祓いの儀式のための水が用意されています。御水舎に類似した設備は、日本中の神社と寺の入り口で見受けられます。1600年代中頃、九州の大名・鍋島勝茂（西暦1580-1657）がこの特別な泉を寄進したとされています。御水舎の屋根には、日本画の狩野派の巨匠・狩野安信（西暦1614-1685）作の龍の見事な絵画が施してあります。時間と湿度で(龍の姿は)損ねられてしまいましたが、その絵画にはまだ本来の美しさが残っています。下の水に映る(龍の)姿は、“水鏡の龍(水鏡に反射した龍)”として知られています。

お祓いをするには、備えつけの柄杓を使ってまず左手を洗った後に、右手を洗う。その後口を注ぐ。使わなかった水は下の溝に捨てることになっています。このお祓いの順序は、寺は神社とは異なります。

#### 本事業以前の英語解説文

Omizu-ya

This was donated by a daimyo (local feudal lord) in Kyushu.

The ceiling is decorated with a picture of a dragon. The visitors purify themselves by rinsing their mouths and hands.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Nitenmon, Gate of the Heavenly Kings

This second gate protecting the approach to Iemitsu's tomb is the largest at the Nikkōsan temple complex. The gate houses two of the Four Heavenly Kings, each of which guards one of the four cardinal directions. The green-skinned Jikokuten on the left is the guardian of the East and protector of the realm. On the right is the red-skinned Komokuten, guardian of the West whose wide vision sees through all evil. To the rear of the gate are statues of Raijin and Fujin, the deities of thunder and wind. These were originally located elsewhere but were moved here in the late nineteenth century. The inscription above the gate reads "Taiyūin." It was written personally by the 108th emperor of Japan, Gōmizunoo (1596–1680).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二天門

二天門は、家光の墓所へと至る参道を守護する二番目の門であり、日光山内最大の門です。守護しているのは、(東西南北の)四方を守る四天王のうちの二王です。左側にいる緑の肌の像は、東方の守護神であり、国土の守護神でもある持国天。右側の赤い肌の像は、広い視野が全ての悪を見抜く西方の守護神・広目天です。門の反対側に安置されているのは、雷と風を司るとされる雷神と風神の像。これら(風神雷神像)はそもそも別の場所に安置されていたのですが、十九世紀後半にここに移されました"大猷院"という文字が門の上の扁額に書かれており、これは百八代天皇の後水尾天皇(1596-1680)によって書かれたものです。

本事業以前の英語解説文

Niten-mon

This gate is the biggest of all the gates in Nikkō World Heritage Site.

The figure on the left is Jikokuten and on the right is Komokuten, both are Buddhist guardian gods.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Ryukoin Temple

The Ryukoin Temple stands behind this fence. It was the residence of Iemitsu's personal servant Kaji Sadayoshi. In Iemitsu's time, it was customary for a lord's servants to follow him to the grave, committing a form of ritual suicide known as *junshi*. Kaji, however, was not permitted to do so and instead was made protector of Iemitsu's grave. Thereafter, he resided in this building and until the day he himself died he continued to prepare Iemitsu's meals daily as though the shogun were still alive. Today the hall houses a statue of Shakyamuni Buddha and serves as a place of prayer. It is maintained by people connected with the temple, and visitors are not permitted.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

龍光院 [大猷院内]

この垣根の向こうに龍光院があります。ここでは、家光の忠臣・梶定良がかつて暮らしていました。家光が死去した際には、当時の習慣としては、主君の後を追いつ腹をすること＝殉死が普通でした。しかしながら梶定良は切腹をすることを許されなかったため、その代わりに、墓所の守護人として任命されたのです。その後梶定良はこの堂に居住して、まるで家光がまだ生きているかのように来る日も家光の食事を準備し続けました。この慣行は彼自身の死まで止むことがなく続けられたといえます。今日では龍光院には釈迦牟尼仏の像が安置されて、祈りの空間として使われています。また龍光院は、参拝客が容易に近づくことが許されず、寺院に縁のある方々が守っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Ban no Soseki, Flag Base Stones

These small, dome-shaped stone caps can be found all along the procession to Iemitsu's mausoleum. They cover holes for flagpoles cut into the base stones. Flags are used to decorate the walkways around the mausoleum during funerals and festivals. The stones date back to the rule of Iemitsu's son Ietsuna (shogun 1651–1680) and are still used today. The stones are carved like turtle shells, and often visitors to the mausoleum will place small stones around the base to form the legs of the turtle. Similar base stones can be found at various places around Rinnoji Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

盤の礎石・亀の形の石

家光の霊廟への参道沿いにあるのが、この小さなドーム型の石の蓋です。これは、礎石に彫られた、旗ざお設置用の「穴」を隠すための蓋です。旗竿は、葬式や祭りなどの特別な機会に、通路を飾るために利用されます。(盤の穴の)起源は、家光の息子・家綱（在位 1651-1680）の統治時代にまでさかのぼり、今日まで使用されているのです。形が亀の殻に類似していることから、亀の足を真似て、土台の周りに小さな石が置かれている様子が、時おり見受けられます。これは大猷院への参拝客が(小石を)運んできたもの。輪王寺の周りの様々な場所で、このような石を見つけることができます。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Scenic Spot

The large number of stone lanterns below were donated by *daimyo* feudal lords to display their loyalty to the Tokugawa shogunate. These lanterns, and others like them that can be found all around the Taiyuin, are positioned according to the status and wealth of the person who donated them. The closer to the mausoleum, the larger and more magnificent the lanterns become. At the highest levels are metalwork lanterns, which were donations from the most powerful and wealthy men in the country. The lanterns located directly below this viewing platform were given by the lowest-ranking *daimyo*, who were not permitted to this higher spot because of their low rank. The view from here is compared to looking down from the heavens onto the human world below.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

展望所

この景観の良いスポットからは、石灯籠の一群を見下ろすことができます。これらは徳川家への忠誠を示す、大名寄進の石灯籠です。大猷院中にはこれに類似した灯籠が見受けられ、寄進する人の地位や富に従って配列されています。霊廟の方に向かって高く進めば進むほど、灯籠はより大きくより壮大になります。最も霊廟に近い場所では、金属細工の灯籠も見受けられます。これは(当時の日本)国で最も強く最も裕福な臣下からの寄進です。ちょうどこの展望所の下に設置されている灯籠は、低位の大名からの寄進物で、それゆえ展望所があるこの地点まで進むことが許されませんでした。展望所があるこの場所から下への眺めは、天上から人間社会を見下ろすことに例えられています。

本事業以前の英語解説文

Tenbo-jo (Scenic Overlook)

The view reminds one of looking down this world from celestial world.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Koro, Drum Tower, and Shoro, Bell Tower

The two towers on either side of the path are the Drum Tower to the left and the Bell Tower to the right. Similar towers can be found outside temples all across Asia and were traditionally used to signal the time of day. At Taiyuin, the bell is rung for important memorial services. The large hanging bell and taiko drum in the towers were made in 1653. The two towers are beautifully decorated, but in a more reserved style than were the towers outside Ieyasu's mausoleum at the Toshogu, to show Iemitsu's deference to his grandfather.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

鐘楼・鼓楼

通路の両サイドにあるのが、大猷院の鼓楼（左部分）と鐘楼（右部分）です。このような楼は、アジアの寺院でよく見られ、敷地の外にあることが多いです。また昔から、このような鼓楼と鐘楼は一日の時刻を知らせるのに使われました。ここでは重要な法要の間、楼の鐘が鳴ります。この鼓楼と鐘楼内には、大きな掛け鐘と大きな太鼓があり、これらは 1653 年に制作されたものです。鼓楼と鐘楼は両方とも美しい装飾が施されていますが、東照宮の家康の霊廟の外で見受けられる楼と比較するとどちらかというと控えめなスタイルを特徴としています。これは家光が祖父・家康を慮ったためです。

本事業以前の英語解説文

Sho-ro and Ko-ro (Belfry and Drum Tower)

A belfry stands on the right on the left stands a drum tower.

These were used in major Buddhist memorial services.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Yashamon Gate

This is the final gate that defends the approach to Iemitsu's mausoleum. It takes its name from the four *yasha* spirits that guard the way. *Yasha* are supernatural beings, Hindu in origin, who are followers of the deity Bishamonten. These four, in particular, vowed to protect the teachings of the Buddha, and each guards one of the cardinal directions. A series of dragons and lions carved on the exterior also protects the mausoleum. On the transom, wainscoting, and walls appear many carvings of peonies, which is why the gate is sometimes called the "Peony Gate." The peony is considered the king of flowers and is a symbol of wealth and rank. This flower frequently appears as a motif on kimono even today. The prominent cusped gable over the entranceway is a Japanese interpretation of a Chinese style.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

夜叉門

夜叉門は、家光の霊廟へと続く道を守護する、最後の門です。そして(夜叉門という名前は)ここを守る4体の"夜叉"に由来します。夜叉は超自然的存在の神であり、ヒンズー教の神が起源であると考えられ、毘沙門天に従う存在としても知られています。特にこの4体の夜叉は仏法の守護を担っており、どれも東方、南方、西方、北方のそれぞれ一方をも守護しているのです。外観に彫られた一連の龍と獅子も、大猷院の守護神です。かもしの上には羽目板があり、壁にはたくさんの牡丹の彫刻が施されています。これは、夜叉門が"牡丹門"と呼ばれる由縁です。牡丹は縁起の良い"王の花"として知られ、富と階級を象徴しています。そして牡丹は、今日でさえ着物に施されたモチーフとしてしばしば登場します。参道にまで及ぶ特徴的な破風は独特の日本化した中国様式で作られています。

本事業以前の英語解説文

Yasha-mon

Four Buddhist guardian deities – Yasha (in Indian mythology) – are placed to protect the mausoleum. Since all the carvings of the gate consist of botan (peonies), it is also known as Botan-mon (peony gate).

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Karamon Chinese Gate

In contrast to the three previous gates, the Karamon is smaller in scale, and its carvings are very different from the fierce guardians displayed on the other gates. Above the entryway are a pair of dragons and a pair of cranes. Iemitsu was born in the year of the dragon, and the cranes symbolize long life. One hundred pigeons are carved along the wainscoting of the gate. The pigeon is associated with the god of warriors, Hachiman, and is symbolic of the Tokugawa house's martial roots. These features combined together indicate that the visitor has passed from the dangers of the world below into the world above.

Chinese gates are defined by the *karabafu* Chinese gable over the entranceway, which has a rounded shape rather like the form of a recurve bow. The *karabafu* indicates high rank and was reserved for gates used by people of high rank, hence its utilization at the entrance to the main hall of Iemitsu's mausoleum. The gate is called the Chinese Gate because it is based on Chinese architectural styles. However, as in the case of the Gate of the Yasha, this is actually a Japanese interpretation of a Chinese style.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

唐門

唐門はここまで登場した3つの門と比べると、最も小さく、彫刻も他の門に施された守護神とは大きな違いがあります。通路の上には、一对の龍と一組の鶴の彫刻が施されています。この龍は家光の干支と同じもので、また鶴は長寿を意味するのです。さらに羽目版に沿って施された彫刻は、百羽の鳩です。鳩は武運の神である「八幡」と深いかわりがあり、徳川家の軍事力をも象徴しています。ここを通るといことは、下界の危険な世界を通り抜け、天上世界へと近づきつつあることを表現しています。

唐門の名前の由来は、門に施された巨大な唐破風の切妻です。唐破風はリカーブボウにも似た、反り返ったアーチを特徴としています。この様式は高く評価され、高い階級を示すようになっていたため、家光の霊廟へと至る入り口にも使用されています。唐門のデザインは中国風建築様式の一つであることから、“中国の門”とも呼ばれました。しかしこの形も夜叉門と同様に日本化した中国様式です。

本事業以前の英語解説文

Kara-mon

Kara means Chinese and the gate is gilded with pure gold.

Underneath the gable are a pair of cranes and a white dragon. Many pigeons are carved on the decorative fence.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Honden, Main Hall, and Haiden, Prayer Hall

The Main Hall of the Taiyuin Mausoleum is an ornate structure covered in intricate carvings, designs, and so much gold leaf that it is also known as “The Golden Pavilion,” or Kinkakuden. It is here that the spirit of Iemitsu is enshrined. The building is constructed in three distinct sections: the outer Prayer Hall, the inner Main Hall, and the passageway connecting the two. This is a style of architecture known as *gongen zukuri*. Typically shrines and temples face towards the auspicious southern direction, but this building faces northeast towards Toshogu to honor Iemitsu’s grandfather, who is buried there. The statue of the Buddhist deity venerated in the Main Hall nevertheless faces south.

Directly in front of the Main Hall is a collection of bronze lanterns donated by the most powerful feudal lords in the country with the exception of one pair, which is a gift from the king of Korea. The six lanterns located closest to the hall were donated by the three cadet branches of the Tokugawa house. Each family donated a pair of lanterns.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

本殿および拝殿

大猷院の本殿は、細やかな彫刻と意匠で覆われ、華麗な装飾が施されています。金箔が大量に使われているため、「金閣殿」とも呼ばれます。家光の霊が祀られているのが、この本殿。この建物は、外部にある拝殿、奥にある本殿、これら拝殿と本殿を繋ぐ通路の三つで構成されています。こうした様式は、「権現造り」と呼ばれるものです。神社や寺は、縁起が良いとされる南に向かって建立されるのが一般的ですが、この大猷院・本殿は北を向いています。家光が祖父・家康への敬意を示すため、家康の遺骨が埋められた東照宮の方角に向けて建立したのです。一方で、大猷院・本殿内に祀られてある本尊は南向きに安置されています。

大猷院・本殿の前には、（日本国内で）力を持った地方大名から寄進された銅製の灯籠が多数安置されています。ただしその内の一対は、当時の韓国の王から贈られた灯籠です。大猷院・本殿に最も近い場所には、一対ずつ徳川御三家によって寄進された、計六基の灯籠が安置されています。

#### 本事業以前の英語解説文

Haiden ・ Honden (Hall of Worship ・ Inner Shrine)

This is the main structure of Taiyu-in and designated as National Treasure.

This is where prayers to Iemitsu are given. This is a typical Gongen Zukuri is the name of a complex structure in which the Haiden and Honden are interconnected under the same roof in the shape of an H.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Kokamon Gate

Iemitsu's mausoleum, in which his physical remains are interred, lies beyond this gate. The name Kokamon was conferred on this gate by the emperor and is also the name of one of the twelve gates of the Imperial Palace in Kyoto. This honor is an indication of the close ties between the Imperial House and the Tokugawa shogunate. The gate is constructed in the *ryugu*, or Dragon Shrine style. Thus, it is also known as the Ryugumon, or Gate of the Dragon Shrine. The ryugu style draws its inspiration from the architecture of China's Ming Dynasty (1368–1644) and was thus considered exotic by Japanese people of the time. This style is believed to have been chosen because Iemitsu was born in the year of the dragon. A *tennyo*, heavenly female spirit similar to an angel, which is painted on the ceiling of the gate, indicates that the visitor is entering sacred ground. Although the Taiyuin is generally understated when compared with the Toshogu, the Kokamon Gate is one of the most distinctive of all the gates of the Nikkosan complex.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

皇嘉門

この門の後方に家光の霊廟があり、その遺骨が埋葬されています。皇嘉門という名称は天皇自らが授けたもので、京都御所の十二対の門の一つと同じ呼び名です。これについては、徳川家と皇室の親密な関係を表していると言えます。皇嘉門は「龍宮様式」で建立されています。そのため、この門は「龍宮門」とも呼ばれます。龍宮様式は、中国の明王朝（1368年-1644年）の建築に影響されたもので、当時の日本人にとっては異国の雰囲気を感じるものでした。家光が辰（干支で龍の意味）の年に誕生したことから、この龍宮様式が採用されたと推察されます。アーチ状の天井の上には天女（天使に類似した女性の霊的存在）が描かれており、大猷院の参拝客に神聖なる空間に入ること告げます。東照宮に対して控えめとされる大猷院境内にあって、日光山に数ある門の中でも極めて特徴的な意匠となっています。

本事業以前の英語解説文

Koka-mon

Beyond this gate is the shrine of Tokugawa Iemitsu, the 3<sup>rd</sup> shogun of Tokugawa Shogunate. The design is influenced by Chinese Ming Dynasty architecture called Ryugu Zukuri.



【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Jogyodo, Hall of Ascetic Practice

A hall for the practice of walking meditation has existed here since 848 CE, when the original hall was built by the monk Ennin (ca. 794–864). The *Jogyo Zanmai*, from which the hall derives its name, was practiced here. In this very intense ascetic practice, monks walk around the Buddhas placed in the middle of the hall for ninety days without rest while continuously chanting the *Nenbutsu* prayer. According to tradition, the Amida Buddha would appear before a monk who successfully completed this meditation. The current building dates from the Edo period (1603–1867).

The central object of worship here is a crowned Amida Nyorai accompanied by four bodhisattvas. This is the only example in Japan of this unusual depiction of the Amida Buddha. Typically, Amida Buddha is seated atop a lotus flower, but in this depiction Amida and the four bodhisattvas sit astride peacocks. As the peacock eats worms and insects, it is considered to be a symbol of purity. It symbolically eats the worms of the heart—doubt, fear, laziness, and the like—and thus keeps one's spirit pure. This statue of the Amida Buddha wears a crown. Buddhas wear nothing on their heads to indicate their attainment of enlightenment. Bodhisattvas, the rank below enlightened Buddhas, wear crowns, to indicate both their exalted status and their proximity to human existence. Amida's crown harks back to ancient mandalas that predate the development of this differentiation.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

常行堂

848年に円仁（西暦794-864）が歩行瞑想の修行の道場として、常行堂を建立しました。このお堂の名前の由来である常行三昧がここでは行われています。この修行においては、修行者は御堂の中央にある仏像の周りを90日間、休むことなく、念仏を唱えながら歩きます。伝統によると、この修行を無事に成し遂げれば、阿弥陀如来が僧侶の前に現れると言うのです。現在の建物ができたのは江戸時代（西暦1603~1867）のことです。

四体の菩薩に伴われた王冠を被った阿弥陀如来が、常行堂の本尊です。この阿弥陀如来の安置のされ方はあまり一般的ではなく、日本ではここだけ。通常阿弥陀如来は蓮子の花に鎮座した形で現れます。しかしこの常行堂では、阿弥陀と四体の菩薩が孔雀に両足をまたがり座っています。孔雀は毛虫と昆虫を食べるので、孔雀は清潔の象徴とされている。孔雀は心の害虫である“疑い” “恐れ” “怠慢”などを食べることから、人間の心を清浄に保つとされている。

るのです。この阿弥陀は、王冠を被っています。通常、仏陀は悟りへの到達を意味するために、頭には何も乗っていません。その一方で、悟りを開いた仏陀より低い階級である菩薩が王冠を被っているのは、菩薩が高貴な地位だけでなく、人間の存在にも近いことも意味しています。阿弥陀の王冠は、前述のような考えが発達する前の時代に立ち返った、古代の曼荼羅をイメージしています。

#### 本事業以前の英語解説文

“Jogyo-do” was built by Ennin (Jikaku Daishi) in 848. In olden days the building was used for religious training by Buddhist monks but at present is used as a place to offer prayers to ancestors.

The principal image of this hall is “Amida Nyorai”- an important cultural property - made in the 12<sup>th</sup> century. The statue is unusual in that Buddha wears a crown and is riding a peacock. This is the only one of its kind seen in Japan.

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Hokkedo, Hall of the Lotus Sutra

This hall, like the Jogyodo, was constructed for the practice of meditation. Jogyodo is the larger of the two because it was made for walking meditation, which required sufficient room to walk around the hall's main object of worship. In contrast, the Hokkedo is built smaller because it was made for sitting meditation, which requires much less space. Monks would stay inside the hall for ninety days and sit in meditation. The two halls are constructed in contrasting styles: the Jogyodo has Japanese-style square windows, whereas the Hokkedo is built in a "Chinese style" with garlic clove-shaped windows. This pairing of walking meditation and sitting meditation halls made respectively in Japanese and Chinese styles is rare. The Ninaido Hall at the Enryakuji Temple near Kyoto is another example.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

法華堂

常行堂同様、法華堂も瞑想のための道場です。歩行瞑想には、お堂の中心の仏像の周りを歩くための十分な空間が必要とされます。常行堂は歩行瞑想のために設けられ、より大きく作られています。それとは対比的に、法華堂は体を動かさずに瞑想を行う座禅の道場であり、必要とされる空間がさほど広くなく、比較的小さく建立されています。

僧侶たちは、一度も法華堂の外には出ず、九十日間連続して法華堂の中で瞑想を行ったようです。常行堂も法華堂も、それぞれ対照的な様式で建立されています。常行堂は四角の窓を特徴とする和様で作られているのに対し、法華堂は二重の形をした窓を特徴とする唐様で建立されています。それぞれ和様と唐様で作られた歩行瞑想と座禅の堂の組み合わせは、大変稀です。他に、京都近くの延暦寺のにない堂は、この常行堂と法華堂と形式的に同一です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Jigendo Temple

The Jigendo is the final resting place of Tenkai (approx. 1536–1643), the fifty-third abbot of the Rinnoji, who is famous for revitalizing the temple in the early seventeenth century. He was responsible for the construction of many of the buildings in Nikkosan.

Over his long career, Tenkai became a very high-ranking monk and built a close relationship with Tokugawa Ieyasu (1543–1616), the powerful general who unified Japan in 1603. Ieyasu placed Tenkai in charge of Nikko in 1613 and ordered him to prepare for Ieyasu's internment there. Tenkai himself personally chose Ieyasu's posthumous name, Tosho Daigongen, and constructed the Toshogu Shrine to house Ieyasu's physical remains. Upon his own death at the venerable age of 108, Tenkai was renamed Jigen, hence the name of this hall. The emperor conferred upon him the title of *daisbi*, which is reserved for only the greatest of holy men. Only five Tendai sect figures have received this title.

At the end of this path is the prayer hall where visitors can offer prayers to Tenkai. Along the path are a series of small buildings that store the sutras and important documents that he collected during his lifetime. Tenkai's grave is behind the prayer hall and is accessible by climbing up the stairs and walking along the corridor next to the hall. The magnificent grave is in the form of a five-layered stupa, each of whose layers represents one of the fundamental elements in esoteric Buddhism. In order from bottom to top, these are earth, water, fire, wind, and air.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

慈眼堂

慈眼堂は、十七世紀初頭にこの輪王寺を復興させたことで有名な、輪王寺第五十三世貫主・天海大僧正（西暦1536-1643 ごろ）の終の場所です。日光山内の施設の多くは、彼の功績だとされています。

その長いキャリアを経て、天海は僧侶の高位に登りつめ、1603 年に日本を統一する徳川家康（1543～1616）とも親密な関係を結ぶようになります。1613 年に家康は天海を日光の責任者に任じ、そこに彼（家康）の終の住処を準備するよう命じました。天海はまた、家康の戒名である“東照大権現”という名を選んだ人物でもあり、東照宮を創建して家康の遺体を安置したのです。天海が 108 歳という高齢で死去すると、彼には“慈眼”の諡が与えられることと

なります。これが慈眼堂の名前の由来です。聖人の中でも特に偉大なものだけに与えられる称号“大師”を、時の天皇は天海に授けました。日本の全歴史の中で、この称号が天皇から授けられたのは天台宗の中では五人だけである。

この小道の終わりには拝殿があり、参拝客は天海に祈りを捧げることができます。小道のそばに並ぶ小さな建物には、彼が生涯収集した経典と重要な資料が保管されています。天海の墓所は拝殿の後ろにあります。階段を上がり、拝殿の隣の通路に沿って歩くと、五輪の塔を見つけられるでしょう。(5つの層は)どの層も密教の根本的な要素を意味しています。下から上の順番でそれぞれ、“地”、“水”、“火”、“風”、“空”という意味です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Kaizando, Founder's Hall

This hall enshrines Shodo Shonin, an ascetic Buddhist monk, who founded the Nikkosan (present day Rinnoji Temple). After being initiated in Nara Buddhism, Shodo Shonin traveled to Nikko together with ten disciples to establish a temple. After founding Nikkosan, Shodo passed away at the venerable age of 83 and was cremated and originally buried in the upper reaches of this valley.

Around the time of the consecration of the Toshogu in 1617, this hall was constructed and Shodo Shonin's remains were moved to their current location behind this building. The grave is marked by a five-layered stupa, a tower of five stones carved in varying shapes. Although built in the seventeenth century, the hall is built in the style of the oldest buildings at the Rinnoji that date back to Shodo's time. In addition to Shodo, the building enshrines ten of his disciples and the bodhisattva Jizo. Each year, the founder of the temple is remembered during a memorial ceremony held here on April 1st. On July 13th a service is held for the Bon Festival, which venerates the spirits of deceased ancestors.

The tall cliff located behind this hall is known as Hotoke Iwa, or Buddha Rock, and was so named because part of the surface was believed to resemble the face of the Buddha. Due to a rockfall long ago, the image was destroyed and now only the name remains. There are a number of damaged stone statues at the foot of the cliff. One theory is that they may have fallen here from the Toshogu, which is located at the top of the cliff.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 開山堂

このお堂は日光山（現・輪王寺）の開祖で修行僧であった勝道上人をまつています。上人は奈良の仏教を学んだ後、日光山に寺院を建立するため、10人の弟子とともに日光を訪れました。日光山を開山した後、勝道上人は八十三歳という高齢で遷化し、この谷の上部で荼毘に付され埋葬されたといひます。

1617年に行われた東照宮建立のうちに、この開山堂は建立され、彼の遺骨が開山堂の後ろに（ある廟所に）移されました。廟所の特徴は、様々な形の五つの石で作られた、五重の仏塔です。

17 世紀に作られたものですが、勝道上人が生きた時代の様式をイメージして作られており、輪王寺でも最古の建物様式だと言えるでしょう。勝道上人に加えて、開山堂には彼の弟子の内の十人の弟子、そして地蔵菩薩を祀っています。毎年、輪王寺の開山に感謝するために、(新暦の)四月一日にここ日光で追悼の法事が催されています。七月十三日には、この世を去った先祖の霊を供養する盆祭りのための儀式も開かれています。

この堂の後ろに位置する高い崖は“仏岩”として知られています。岩盤表面の一部分が仏陀の顔に似ているとされ、このような名前がつけられました。しかしながら随分前にその岩は崖から落下しており、現在ではそのイメージは無くなり、名前だけが残っています。崖の下にはいくつもの壊れた石像が見受けられます。東照宮の内部の聖域が崖の上にあることから、そこから剥がれ落ちたのではないかという説が残っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Gyojado, Hall of the Ascetic

This hall enshrines En no Gyoja, or En the Ascetic, the seventh-century mystic who founded *Shugendo*, a form of ascetic mountain worship whose adherents believe that they can attain supernatural powers by engaging in ascetic practices in the mountains. This religion was once popular at Nikko, and adherents would traditionally begin their pilgrimages into the mountains at this spot, hence the location of this hall here.

It is believed that the original Gyojado was one of the first buildings to be built at Nikko, given the roots of Nikko as a place for mountain ascetic practice. The present building dates back to 1990 and enshrines a statue of En no Gyoja shown with several demons below him. The statue dates to the Kamakura period (1185–1333). According to legend, En no Gyoja used magic powers to subdue these creatures and make them his servants.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

行者堂

このお堂には“役行者”が祀られています。“役行者”とは七世紀の呪術者で、修験道と呼ばれる山岳宗教の創始者として知られている存在。修験道においては、山岳で修行に従事すれば、超自然的な力が備わると信じられています。かつて日光では、修験道が盛んに行われており、その信奉者がこの場所から山へ巡礼の旅に出ていたのです。このため、行者堂はこの位置に建立されました。

山岳信仰の場所としての日光の起源を考えると、行者堂は日光山でも最古の建造物の一つと考えられます。現在の祠は 1990 年に改築されたもの。現在そこには何体かの鬼神に伴なわれた“役行者”の像が祀られています。この像は鎌倉時代（西暦 1185-1333）にさかのぼるといいます。伝説によると、“役行者”は魔術を使ってそのような生き物を従え、自分の使用人としても使ったそうです。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Site of Yogen'in Temple

A small temple known as the Yogen'in once stood here. It was constructed to commemorate Lord Ieyasu's concubine Orokunokata (1597–1625). A beautiful and very accomplished woman, she attracted the attention of Ieyasu while she was still in her teens. Deeply in love, Ieyasu took her with him wherever he went, even on military campaigns. Their relationship was short-lived, however, as Ieyasu, fifty-five years her senior, passed away just a few years later. After that she became a nun and took the name Yogen'in. Since she was still young and beautiful, she soon remarried. Yet this relationship too was short-lived, as she died suddenly shortly after Ieyasu's enshrinement at the Toshogu.

The famous *haikai* poet Matsuo Basho (1644–1694) once stayed here while awaiting permission to visit Ieyasu's shrine. He composed the following poem:

How precious they are  
These green leaves, these young leaves in  
The light of the sun

The phrase "light of the sun" refers to Nikko, which literally means "sunlight." It has also been suggested that "green leaves" is a reference to the Tokugawa family whose crest consists of three green hollyhock leaves.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

養源院跡

養源院として知られる小さな堂がかつてこの場所に立っていました。養源院は、家康公の側室・お六の方（西暦1597-1625）の死を追悼するために建立された寺院です。美しいだけでなくあらゆる才能を持っていた彼女は、十代にもかかわらず家康の気持ちを惹きつけました。家康は彼女を深く愛していたので、軍事行動などどこに行くのにも彼女を同伴させます。しかしながら彼らの関係は短命でした。五十五歳も彼女より年上の家康は(結婚後)わずか数年で死去してしまったのです。その後彼女は尼になって養源院と名乗りますが、まだ若く美しかったため再婚の機会を得ます。しかしこの関係も短命でした。家康が東照宮に祀られた後すぐに彼女は死去してしまいます。

有名な俳人・松尾芭蕉（西暦 1644-1694）は、家康の神社（＝東照宮）へ参拝する許可が下りるのを待つ間、ここ養源院に滞在したと記録が残っています。当時彼は次のような俳句を詠みました。

あらたふと青葉若葉の日の光

（ああ尊いことよ この日光山の霊域の青葉若葉に降り注ぐ

明るく輝く日の光は）

“日の光”の語句は日光を意味しています。日光の名前は文字通り、“太陽の光”です。徳川家の家紋は三枚の緑色の葵の葉なので、“青葉”は徳川家を意味し、徳川家を褒め称える意図があることも指摘されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Grave of Kyobin Sozu

This is the final resting place of Kyobin, the leading disciple of Rinnoji's founder, the monk Shodo (735–817). Kyobin accompanied Shodo to Nikko and endured great privations. He assumed leadership upon his master's death in 817. He developed the *daisendo* walking meditation, which was practiced in Nikko for over a thousand years. Practitioners would walk a circuit of the holy places and shrines of Nikko one thousand times without speaking a word.

During the construction of the Toshogu Shrine, workers were ordered to move this grave. However, whenever they tried to move the grave, mysterious accidents occurred, some causing injuries, and so it was decided to leave the grave undisturbed.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

教旻僧都墓

輪王寺の開祖である僧侶・勝道上人（735–817）の主な弟子である教旻僧都の終の場所がここです。教旻僧都は勝道上人に随行してこの地域(日光)を訪れ、厳しい窮乏生活に耐えることとなりました。817年に師匠である上人が死去すると、彼が指導者の地位を継ぎます。なお、教旻は「大千度行法」という歩行瞑想を発達させたことでも知られています。この地域では千年以上にわたって行われてきた修行です。修行者は日光の聖なる場所や神社の周りを千回にわたって円を描きながら無言歩行するのです。

東照宮を創建するにあたり、作業員たちはこの墓所を移転させるよう命じられました。しかし彼らがこれを実行しようとするたびに必ず奇妙な事故が絶えず起こり、怪我人が出るということが起こります。そのため、この墓所は結局のところ元にあった場所のまま、残されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Kodamado, Hall of the Small Pearl

This temple enshrines a sacred jewel that is believed to be a manifestation of the Kokuzo, one of the greatest of the bodhisattvas whose wisdom is as boundless as the universe. The hall was originally built in 820 CE by the monk Kukai, the founder of Shingon Buddhism. According to legend, Kukai meditated for seventeen days without rest at a pond not far from here. On the final day, two pearls, one large and one small, miraculously rose from the lake. The larger of the two he took to be a manifestation of the bodhisattva Myoken, god of the North Star, and enshrined it at Chuzenji Temple. The smaller of the two he enshrined here, hence the name Hall of the Small Pearl.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

児玉堂

このお堂には、虚空蔵菩薩の化身とされる宝珠が祀られています。虚空蔵菩薩は、宇宙と同じくらい無限に広い知恵を持つ、菩薩の中でも最高のうちの一体です。西暦 820 年、真言宗の開祖である空海が、この児玉堂を建立しました。伝説によると、空海はある日、児玉堂からほど近い小さな池に行き、十七日の間一日も休むことなく瞑想したそうです。瞑想の最後の日に、大きな白玉と小さな白玉が、湖から現れるという不思議なことが起きます。空海は、その二つの白玉のうち大きな宝珠を、北極星の神である妙見菩薩の化身であると考え、中禅寺に祀りました。そしてここに小さな白玉を祀ったのである。これが“The Hall of the Small Pearl”という名前の由来です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Kannondo Hall

The Shihonryuji Temple comprises the Kannondo hall and the three-story pagoda. The temple is one of the oldest sacred sites in Nikko. According to legend, Shodo Shonin (735–817), the founder of Rinnoji Temple, was praying near here when he saw a great purple cloud rising over Mt. Nantai. Taking this as a message from the gods, he built a simple thatched roof hut and named it Shiunryuji, or Temple of the Rising Purple Cloud. Later it was renamed Shihonryuji, or Temple of the Four Dragons, which sounds very similar. The stone in front of the pagoda is the one on which Shodo sat when he saw the cloud. Close by there is also a stone statue of the deity Fudo Myoo and a stone fire ritual altar, both of which date to Shodo's time.

The original Kannondo was built in 807 CE to enshrine a thousand-armed Senju Kannon. Senju Kannon is one of the three principal deities of the Rinnoji. Mt. Nantai is considered to be a physical manifestation of the Senju Kannon. This is one of the few buildings in Nikko that are built of plain undecorated wood.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 観音堂

観音堂とその隣にある三階建ての仏塔により、四本龍寺は構成されています。四本龍寺は、日光でも最古の聖地の一つ。伝説によると、輪王寺の開祖・勝道上人（西暦735-817）が、この地で祈禱をしていた時に、男体山から大きな紫色の雲が立ち昇るのを見たといいます。勝道上人はこの雲を神のお告げと考えて、簡素なわらぶき屋根の小屋でできた寺を建立。勝道上人はこの寺を紫雲立寺と名付けました。後に紫雲立寺は、現在の四本龍寺と改名されます。四本龍寺はもともとの寺・紫雲立寺と似た発音です。勝道上人が雲を見た時に座っていた石は現在、隣にある仏塔の前に置かれています。不動明王の石像と石製の火の護摩壇も近くに設置されています。この石像も護摩壇も、勝道上人の時代に安置されたものです。

807年にこの観音堂は建立されました。観音堂には千手観音像が祀られています。千手観音は輪王寺に安置されている三仏のうちの一つの仏で、男体山に化身したと考えられています。この観音堂は、日光にある建物の中でも、素木で建立されている数少ない建物のひとつです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Three-Storied Pagoda of Shihonryuji Temple

This pagoda was originally constructed in 1241 in the area where the Toshogu now stands, and moved here later. The original pagoda was lost in a fire in 1684, and this building dates from 1685. It houses three wooden statues, one of Shakyamuni, the historical Buddha, accompanied by two bodhisattvas, which form a Shaka triad.

The twelve animals of the Chinese zodiac are carved into the main support column of the first floor of this pagoda. Each of these animals is associated with a different time of day and a different compass direction. The animals are placed at two-hour intervals on a clock, or 30-degree intervals for a compass. The horse is placed at the south, the rooster west, the rat north, and rabbit at the east, which correspond to 12 pm, 6 pm, 12 am, and 6 am respectively.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

三重塔 [四本龍寺]

三重塔が建立されたのは、1241年、現在東照宮が創建されたころです。しかし後になって、この場所に移転されました。1684年に、火事で三重塔は全焼。現在ある建物は1865年に再建されたもので、三重塔には3体の仏像、いわゆる木製の釈迦三尊像(2体の菩薩に伴われた釈迦如来の像)が安置されています。

中国の“干支”で知られる12匹の動物の彫刻が、この三重塔の初層の支持梁に施されています。どの動物も、1日のそれぞれ異なる時間、異なる方位に関係しています。12匹の動物は、時計にでいう二時間間隔で、方位磁針でいう三十度間隔で配置されています。東西南北は、馬（南）、ニワトリ（西）、ネズミ（北）とウサギ（東）で表されており、それぞれ午後十二時、午後六時、午前十二時と午前六時を意味しているのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Jinjaodo Hall

This hall was originally constructed by Rinnoji Temple's founder, Shodo Shonin (735–817), in gratitude to the protective spirit that helped him cross the Daiya River. According to legend, Shodo and his followers could not cross the dangerous rapids to reach Nikkosan, so they began to pray fervently, whereupon a fierce-looking figure appeared dressed in red and white with a skull around its neck. "I am the great Jinjao. I helped Xuanzang in times of trouble when he was transmitting the word of the Buddha from India." With that, he hung a giant red and a giant blue snake across the river forming a bridge, allowing Shodo and his company to cross. The Xuanzang, whom Jinjao referenced, was a seventh-century Chinese monk who, like Shodo, made a long journey in the service of the Buddha. The bridge was rebuilt in 1978.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

深沙王堂

深沙王堂は、輪王寺の開祖・勝道上人（735-817）によって建立されました。目的は、勝道上人の大谷川渡河を助けた守護神に対し、感謝の意を伝えるためです。伝説によると、勝道上人と彼の弟子は当初、大谷川の危険な急流を渡ることができませんでした。そこで彼らは大谷川を渡ることを(仏へ)祈願することに。すると、首の周りに鬪髻を巻きつけ赤と白の衣をまとった人物が、彼らの目の前に現れます。猛々しい顔つきで、彼は言いました。「われこそは深沙王大将である。玄奘三蔵がインドから仏陀の言葉を伝えた際、困難な事態に陥った玄奘三蔵を救ったことがある」と。すると深沙王は大谷川に二匹の巨大な赤と青のへびを吊るし、橋のようにして、勝道上人の一行が大谷川を渡ることができるようにしたといいます。深沙王が口にした玄奘三蔵は、七世紀の中国の僧侶で、勝道上人と同様に、玄奘三蔵は仏陀に仕えて長い旅路に出たました。現在の構造物は 1978 年に建立されたものです。

本事業以前の英語解説文

なし



# 301

No. 46 Kanman Gorge, Rinnoji Temple

<日光山輪王寺、栃木県>

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Kanman Gorge

This scenic gorge starts from the Kegon Falls high in the mountains above. It was formed by a lava flow from Mt. Nantai long ago. Many people visiting this spot have reported having dreams of the deity Fudo Myoo, the greatest of the five wisdom kings of Buddhism. Fudo Myoo protects ascetics by cutting away worldly desires with his flaming sword. It is said that the sound of the water against the rocks is similar to voices chanting the mantra of Fudo Myoo.

The gorge was developed by the seventeenth-century monk Kokai, who was a disciple of Tenkai, the monk who was in charge of the construction of the Toshogu Shrine. The name of the gorge is the last phrase of the mantra associated with Fudo Myoo, *kanman*. The gorge was very popular in the seventeenth century. The famous *haiku* poet Matsuo Basho visited here in 1689.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

憾漫ヶ淵

この風光明媚な渓谷は、すぐ上の華嚴の滝に源を発しており、男体山から流れ出た古い溶岩流でできています。昔からこの場所を訪れた多くの人々が、ここで不動明王の夢を見たといいます。不動明王とは、仏教の the five wisdom kings (= 5 大明王) のなかでも中心となる明王です。火炎の刀で世俗的な欲望を切り取り、修行僧を守護する存在。この岩にこだまする水の音は、不動明王の真言を唱える声に似ているとされてきました。

この渓谷は東照宮の創建に携わった高僧・天海の 17 世紀の高弟・晃海大僧正が設計しました。この渓谷の名は不動明王の真言の最後の言葉である“カンマン”から取られたものです。17 世紀、この憾漫ヶ淵は人々で賑わう聖なる場所でした。1689 年には、有名な俳人・松尾芭蕉も憾漫ヶ淵を訪れています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Jiunji Temple

This temple was established in 1654 by the high priest Kokai, who assumed leadership of Rinnoji Temple in the mid-seventeenth century. Statues of Amida Nyorai, the Buddha of infinite light and life, and of Kokai's master Tenkai (1536–1643) are enshrined inside. The original hall was swept away in a flood in 1902 and rebuilt in 1973. Every year on July 14th the monks of Rinnoji gather here to hold services for the Bon Festival, which honors the spirits of the ancestors.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

慈雲寺

慈雲寺は十七世紀中頃、輪王寺の貫主(住職)になった高僧・晃海が、1654年に建立しました。慈雲寺の中には、“無限の光”“無限の寿命”を持つ仏「阿弥陀如来」と、晃海の師匠・天海大僧正（西暦 1536-1643）の仏像が祀られています。1902年の大洪水で当時の慈雲寺は丸ごと押し流されてしまい、1973年に再建されました。毎年7月14日には、輪王寺の僧侶が慈雲寺に集まり、先祖の霊を供養する行事・“盆まつり”の法要を行っています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Jizo Statues

These statues are all of the bodhisatva Jizo, the guardian deity of children and one of the most popular Buddhist deities in Japan. Jizo statues can be found throughout Japan, most often along roadsides, or in graveyards. Statues of Jizo may be identified by the red cape that they wear. It is said that each of the hundred disciples of Tenkai (1536–1643) donated one of the Jizo statues. The statues are a prayer for the peaceful repose of the souls of the dead and for their achievement of enlightenment.

In 1902 a great flood swept through Kanman Gorge, washing away the Jiunji Temple and severely damaging most of the statues. Ever since that time, visitors have noticed that their number seems to change when they try to count them. For this reason, they are sometimes called *bakejizo*, or phantom Jizos.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

並び地蔵

日本で最も有名な仏（像）の1つで、子供の守護神である地蔵が並んでいます。地蔵像は浴道、墓所など、日本のどこにも見受けられることができ、肩の周りに赤いマントを身につけていることから、簡単に見分けることができるでしょう。天海大僧正（西暦 1536-1643）の百人の弟子の一人一人が、この一列に並んだ百体の地蔵を寄進したと言われていま。亡くなったすべての霊に平穏が訪れるよう、また亡くなった人々が無事に悟りに達することができるよう、祈りを捧げるために造立されたのです。

1902年、大洪水が感漫ヶ淵を襲い、慈雲寺を押し流してしまいました。そのため、この列にあったほとんどの像が破壊された。それ以来、訪問者がここの地蔵の数を数えるたびに、地蔵の数が違うようになったといいます。このことから、この地蔵は“化け地蔵”、もしくは“phantom Jizos”と呼ばれるようになりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Reihikaku Pavilion

This small pavilion shelters a stone altar that was once used to perform the Goma fire ritual. In the ritual, a fire would be kindled in the small depression in the altar, and pieces of paper or wood on which are written prayers would be burned, thereby delivering the prayers to Fudo Myoo. In 1654, monk Kokai stayed here to pray for peace within the realm. In 1902 a great flood destroyed the original pavilion as well as a two-meter tall statue of Fudo Myoo located on the far shore. The pavilion was rebuilt in 1971.

Across the river from the pavilion the Sanskrit characters for *kanman* (corresponding to the last word of Fudo Myoo's mantra) are chiseled into a large concave area of the rock. The characters were carved by a monk who was a contemporary of Kokai.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

霊庇閣 [憾満ヶ淵]

この小さな祠には、護摩行（不動明王に祈願を行う儀式）のための、護摩壇が格納されています。儀式の間は表面の小さな窪に火を灯し、そこに願いことが書かれた紙や護摩木を焚き上げて、願い事を不動明王に送り届けます。1654年、晃海大僧正は霊庇閣に籠り国土の平和を祈願したとされています。1902年には、大洪水が発生。対岸の高さ二メートルにわたる不動明王像と共に、もともとあった閣は破壊されてしまいました。現在の閣は1971年に再建されたものです。

霊庇閣の川を挟んだ対岸にある石には、大きく窪んだ部分に“憾満”（不動明王の真言の最後の言葉）という梵字があり、これは晃海大僧正と同時代の僧侶が刻んだものです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Shakado Hall and the Junshi Graves

This hall enshrines a seated Shaka triad—a statue of the historical Buddha accompanied by two bodhisattvas. It is not known when this building was constructed, but it was moved to this location in 1640. The hall was used for meditation.

Two rows of large stone monuments stand to the left of the temple. They are the graves of twenty-four of the chief vassals of the Tokugawa family from the early period of the Tokugawa Shogunate (1603–1867). The first five from the left in the front row are particularly noteworthy. They committed ritual suicide when their feudal lord, Iemitsu, the third Tokugawa shogun, died, in order to follow him into the next world, which is known as *junshi* in Japanese. Thus, these five graves are known as the Junshi Graves. This form of suicide was later forbidden by the Tokugawa shogunate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釈迦堂及び殉死墓

釈迦堂には、釈迦三尊像と、釈迦の像に 2 体の菩薩像が伴った仏像が祀られています。この建物がいつ建立されたのかは不明ですが、1640 年にこの場所に移されたとされています。そのころの釈迦堂は、瞑想修行を行うために使われていました。

巨大な二列の石塔は釈迦堂の左方にあります。徳川幕府（1603-1868）初期の主な臣下のうち、二十四人の墓所として建てられました。とりわけ、正面列の左側から最初の五人はよく知られています。主君である三代徳川将軍・家光が死去すると、この五人は主君の後を追って切腹したのです。このことから、この五基の墓所は“殉死墓”として知られています。のち、殉死は徳川幕府により禁止されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Monument to Enmei Jizo, Rinnoji Temple

This large rock dedicated to the deity Enmei Jizo is believed to have been carved by the founder of Rinnoji Temple, Shodo Shonin (735–817). It was originally located on the shores of Yunoko Lake deep in the mountains. It is also known as the Dog-Pulling Jizo.

According to legend, Itabashi Shogen, a Muromachi period (1336-1573) feudal lord, went out hunting near the lake and mocked the Jizo when he passed by, tying his hunting dog to it and casting them into the lake. At first, the dog pulled the rock towards the center of the lake, but then the rock began to pull the dog back towards the shore. Suddenly a terrible thunderstorm broke out, and the dog was killed.

Shogen and his retainer fell to the ground, blood spilling from their mouths. A monk came running and knelt in prayer to the Jizo, and the two were saved. They became fervent believers in the Jizo, and the monument came to be called the Dog-Pulling Jizo.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

延命地蔵

延命地蔵尊を祀るこのお堂は、輪王寺開祖・勝道上人（西暦 735-817）によって建立されました。もともとは山深い場所の湯ノ湖畔にあり、「犬引き地蔵（Dog-pulling Jizo）」としても知られています。

伝説によると、板橋将監という室町時代の領主が湯ノ湖の近くに狩猟に出かけた際、ちょうど通りかかり、地蔵をからかったといいます。板橋将監は自分の犬を地蔵に結び、地蔵と犬を湯ノ湖に投げこみました。最初犬は、湯ノ湖の中心に向けて地蔵を引っ張りましたが、そのあとで今度は、地蔵が犬を湖畔の方に引っ張って戻してしまいます。するとたちまち、激しい雷雨が発生し、犬が死んでしまったというのです。

板橋将監とその臣下は直ちに地面に体を伏せた。口からは血がただれ落ちたといいます。すると一人の僧侶が走ってきて、地蔵の前で膝をついて祈祷をしました。そうすると板橋将監とその臣下の命は助かり、今度は地蔵を熱心に敬うようになりました。それ以来、この地蔵は「犬牽き地蔵」としても知られるようになったといいます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日光山輪王寺

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

##### Chuzenji Temple

This temple is one of the oldest in Nikko and was first constructed in 784 CE by the holy ascetic Shodo (735–817). Originally a place for ascetic practice, this affiliate temple of Rinnoji Temple is best known today for the Tachiki Kannon, a six-meter tall wooden statue of Senju Kannon, the thousand-handed bodhisattva of mercy, which is enshrined here. Carved by Shodo himself more than twelve hundred years ago, it is the oldest surviving statue at Nikko and is designated as an Important Cultural Property.

When Chuzenji Temple was originally constructed, it was located at the base of Mt. Nantai where Nikko Futarasan Chugushi Shrine now stands. The temple served as the starting point for pilgrimages to the top of Mt. Nantai. However, in the Meiji period (1868–1912), a great landslide swept down the mountain and carried the temple and the Tachiki Kannon into the lake. Miraculously, the ancient statue survived the disaster, rising to the surface and was washed up on the shore a few hundred meters away. The temple was rebuilt at this location which was believed to have been chosen by the Kannon.

##### Niomon Gate

The main approach to the Chuzenji is protected by a large red gate called the Niomon Gate, after the two statues of crimson Nio guardian deities it houses. Their fierce expressions and muscular bodies ward off evil spirits. Similar gates can be found at temples and some shrines all across Japan.

##### Hashiri Daikokutendo Hall

The Hall of the Running Daikokuten, or Hashiri Daikokutendo, is at the far end of the main approach to the Kannon Hall. It is named after the spirit that helped Shodo reach the summit of Mt. Nantai. According to legend, Shodo tried and failed twice to reach the summit. Before his third attempt, as he prayed fervently on the shores of Lake Chuzenji, suddenly the deity Daikokuten appeared running across the water's surface. With the help of the deity, Shodo succeeded in reaching the summit, which is why the Hashiri Daikokuten was enshrined here.

##### Hondo Main Hall

The Main Hall, or Hondo, enshrines the Tachiki Kannon. Shodo is said to have carved this massive statue after seeing



a golden figure of Kannon above the lake. Inspired, he carved the statue in one piece from the living trunk of a massive katsura tree, which is why the statue is called Tachiki, or “standing tree.” This Kannon has eleven faces and a thousand arms. The Eleven-Faced Thousand-Handed Kannon presents a different face depending on the type of supplication made, while the thousand arms represent the many different abilities which the goddess possesses to help humanity.

#### Godaido Hall

Located on the hillside above the Main Hall, this building enshrines statues of the five wisdom kings, the deities who guard the teachings of Buddhism. The central figure is Fudo Myoo, who protects ascetics by cutting away worldly desires with his sword; the other four defend the four cardinal directions. The ceiling of the hall is decorated with a magnificent dragon by the famous artist Katayama Nanpu (1887–1980), who also restored the dragon painted on the ceiling of the Yakushido Hall at the Toshogu Shrine. The Godaido Hall has a spectacular view over Chuzenji Lake and the surrounding mountains.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 中禅寺

中禅寺は日光でも最古のお寺の一つで、勝道上人が784年に建立した寺です。修行用の道場として創建された輪王寺の支院である中禅寺は、今日では本尊として祀られ、いわゆる「立木観音」でよく知られています。立木観音は高さ6メートルの木像で、千の手を持つ慈悲の菩薩・千手観音を(形にしたもの)。勝道上人が1200年以上前に彫ったとされる立木観音は、日光に現存する最古の仏像です。これは重要文化財に指定されています。

中禅寺は、創建された当時、現在の二荒山神社中宮祠のある男体山登拝口にあり、男体山巡礼の起点としての役割を果たしていたといえます。しかしながら明治時代（西暦1868-1912）に、大山津波(土砂崩れ)が男体山で発生。立木観音を安置する中禅寺は、中禅寺湖にまで流されてしまったのです。奇跡的に、歴史ある立木観音はこの災害から逃れました。中禅寺湖の水面に浮かびあがると、そこから何百メートルも離れた湖畔に漂着。「立木観音がこの場所を選んだ」と当時考えられたので、流された現在の場所に中禅寺は再建されたといえます。

##### 仁王門

中禅寺までの参道は、“仁王門”と呼ばれる巨大な赤色の門に守護されています。深紅に染まる2体の守護神・仁王が中に鎮座しているため、こう名づけられました。その猛々しい顔つきと強い肉体が、悪霊の侵入を断念させると言われています。これと同様の門は、日本中の寺と神社で見受けられます。

##### 走り大黒天堂

“走り大黒天堂”は、中禅寺観音堂への参道の突き当たりにあります。これは、勝道上人が男体山の山頂に登ることを助けた霊にちなんで名づけられました。伝説によると、勝道上人は当初2回、男体山の登頂に失敗したと言われています。3回目の登頂の前に、勝道上人は中禅寺湖の岸で信念深く祈祷を行いました。すると、勝道上人の前に仏

教の神「大黒天」が現れ、湖水の上を走って来るではありませんか。その後勝道上人は、この大黒天の助けて登頂を果たすことができました。そのためこの“走り大黒天堂”には、大黒天が祀られています。

#### 本堂

本堂は立木観音を安置する場所です。勝道上人は、中禅寺湖の上に金色の観音の姿を目撃した後、この巨大な仏像を彫ったとされています。観音を見た勝道上人は直感を得て、巨大な桂の木を見つけて、生きた木をそのまま一体の観音像に彫り上げました。このためこの仏像は、“立木(standing tree)”と呼ばれています。十一面千手観音の複数の顔は、捧げられる祈祷の種類によって異なる顔を向けることを、千本の手は、人類を救済するために様々な能力を持っていることを表現しています。

#### 五大堂

五大堂は本堂の上にある丘の中腹に建立されました。五大堂には、仏教の教えを守護する5体の智の仏が祀られています。本尊は、刀で世俗的な欲望を切り落とし、修行僧を守護する不動明王です。その他の4体はそれぞれ、4方向の1つずつを守護しています。五大堂の天井には著名な画家・堅山南風作の壮大な龍の絵画が施されています。堅山南風は東照宮薬師堂に描かれた龍を修復した人物としても知られています。五大堂は、中禅寺湖と周囲の山の華麗な眺めを堪能できることでも著名です。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】日光国立公園

【整備対象媒体】JNTO Global web site

できあがった英語解説文

### **Nikko National Park**

#### **Immerse Yourself in Spiritual Traditions, History, and the Great Outdoors**

Nikko National Park, designated in 1934, is one of the oldest national parks in Japan. Spanning three prefectures, the large park is just two hours from Tokyo. In addition to its convenient location, Nikko features diverse landscapes, many uniquely Japanese with volcanoes, plateaus, lakes, and onsen (natural hot springs).

In addition to its rich natural environment, Nikko National Park has great historical, cultural, and spiritual significance. The park is the site of UNESCO World Heritage–designated buildings in the grounds of Toshogu Shrine, Rinnoji Temple, and Futarasan Shrine. The area is also known for its close ties to the Japanese imperial family and foreign diplomats. Visiting Nikko is an opportunity to encounter a rich history and experience a pristine environment that has been deeply respected and honored for centuries in Japan.

#### **Impressive Nature and History in Oku-Nikko**

Beyond Nikko's historic shrines and temples is Oku-Nikko, a region filled with natural wonders. Ancient volcanic activity associated with Mt. Nantai has contributed to the formation of the Oku-Nikko landscape, including picturesque Lake Chuzenji and the Senjogahara Wetland, known for their excellent bird watching, diverse range of plants, and magnificent waterfalls. Venturing into Oku-Nikko is a great opportunity to enjoy this awe-inspiring natural scenery. Mt. Nantai and the surrounding areas have long been considered sacred. These beliefs, associated with Shinto, and centered on respect for the mountains, are known as *Sangaku Shinko*.

During the Meiji period (1868–1912), Oku-Nikko captured the imagination of foreign residents in Japan and visiting diplomats. Oku-Nikko became known for its cool summer climate and gorgeous landscapes. This led to the construction of a number of foreign embassy villas. Guests can learn about this thriving international community by visiting the former Italian and British embassy villas. Gazing out the windows of these lovingly preserved villas, visitors can begin to appreciate the serene landscape around Lake Chuzenji's shores. The views drew the attention of many visitors, including the British diplomat Ernest Satow. Oku-Nikko offers opportunities to enjoy a range of activities, including sightseeing, water sports, and hiking on trails suited to visitors of all fitness levels. The wider range of environments here also supports unique wildlife, including the Japanese serow (*Capricornis crispus*), variously described

as a large chamois or goat-antelope, and the fascinating Japanese macaque monkey.

### **Peaceful Walks in Nasu and Shiobara**

Similar to Oku-Nikko, this region was originally formed by volcanic activity, but unlike Oku-Nikko's dramatic landscapes, peaceful plateaus and valleys can be found here.

Nasu and Shiobara are topographically distinct, the former known for its scenic mountains and plateaus, and the latter for its valleys. Both boast truly beautiful flora, including varieties of azaleas, lilies, and other wildflowers in the spring and summer. Autumn brings bright crimson and golden foliage, giving way to pure powder snow in the winter.

Mt. Chausu, the main peak in the Nasu mountain range, is an active volcano. A ropeway ride, followed by a hike, gives visitors stunning views of the lush valleys and plateaus below.

Nasu was one of the favorite destinations of Emperor Showa (1901–1989), who came here to escape the oppressive summer heat of Tokyo. The region continues to be a favorite destination of the Japanese imperial family. Indeed, the Nasu Heisei no mori Forest was incorporated into the national park in 2011 at the suggestion of the emperor during the current Heisei period (1989–present). There is an arbor preserved in the forest here, once used by the Japanese imperial family, which is open to visitors. The Nasu Heisei no mori Forest Field Center offers educational programs on the history and nature of the forest and arranges guided tours through the lush, pristine woods.

Much of the land in Nasu is dedicated to farming, notably the cultivation of delicious vegetables and dairy production. This is the largest high-quality dairy production region on the main island of Japan. Visitors here can enjoy a glass of rich, refreshing milk, the providence of nature in Nasu. This, and all the other experiences, are a joy for all the senses.

A trip to the Shiobara region is not complete without a walk along the Hoki River ravine in Shiobara Onsen especially in autumn, when a curtain of crimson and gold drapes the landscape, astonishing all who visit. This landscape also fired the imaginations of some of Japan's literary legends, including famous novelist Natsume Soseki (1867–1916), author of *Kokoro* and *I Am a Cat*, who stayed at the local hot springs in the company of other notable Japanese writers. Visitors today can follow in their footsteps, drawing inspiration from the hot springs district and its beautiful natural setting.

The natural hot springs, or onsen area of Itamuro and the Happogahara Plateau, renowned for its vivid azaleas, is also in the Nasu and Shiobara region. Because the area is so big, visitors are encouraged to spend a few days so they can fully explore this natural paradise.

### **Nature and the Soothing Hot Spring Onsen of Kinugawa**

The Kinugawa region is surrounded by mountains, including the majestic Mt. Nyoho and Mt. Kinunuma. Over time, the Kinugawa River, Yunishigawa River, and other rivers running through the area have created dramatic ravines. Visitors can enjoy exhilarating boat rides down these rivers as they pass through the ravines with their impressive, rugged cliffs.

Nestled in the mountains around Kinugawa are onsen including Kinugawa Onsen, Yunishigawa Onsen, Kawamata Onsen, and Kawaji Onsen. This hot spring area is rich in traditional legends, folklore, and age-old customs and culture, just waiting to be discovered.

The large Heike Taisai festival in June each year, in particular, draws many visitors with colorful events including samurai parades, and drum, *bina* (Japanese lute) and other performances. The festival is held in honor of the powerful Taira Clan that ruled Japan during the late Heian period (794-1185). Other seasonal events include the Kamakura Festival (featuring Japanese igloos and mini-igloos) in winter, one of the many other ways to enjoy this fascinating area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## 日光国立公園

### 豊かな自然、聖地の伝統と歴史を感じよう

日光国立公園は、1934年に指定された、日本で最初の国立公園の一つです。3つの県(Prefecture)にまたがる広大な公園で、東京都心から片道二時間の便利な立地にも関わらず、火山や高原、湖や温泉など、日本ならではの多様な自然を一度に味わうことができます。

豊かな自然に加えて、日光国立公園は歴史的、文化的、宗教的にも重要な意味を持ちます。域内には世界遺産にも認定されている東照宮や輪王寺、二荒山神社といった由緒ある寺社があり、皇室や外国大使たちとの深い繋がりで知られています。日光を訪れば、日本の豊かな歴史に直にふれられるだけでなく、長きに渡り崇拝されて、守られてきた自然を感じることができるでしょう。

### 奥日光 自然と歴史の物語

歴史的社寺の奥には奥日光という壮大なスケールの自然が広がっています。古代の男体山の火山活動を通して、中禅寺湖や戦場ヶ原湿原などの自然が形作られ、(いまでは)バードウォッチングや多様な植物、見事な滝の数々で知られています。ここでは貴重かつ、畏怖に値する景色に触れることができるでしょう。男体山やその周辺地域は、宗教的崇拝を受けてきた歴史を持ち、神道に関連する、山々に対する信仰を示す「山岳信仰」の聖地と考えられ守られてきました。

明治時代(1868-1912)には、(その残された)奥日光とその自然は海外から来た外交官や日本在住の外国人を魅了しました。この地域は涼しい夏の気候と美しい景観で知られるようになります。その結果、中禅寺湖畔には外国人大使館別荘が建ち並びました。今日でも旅行者は旧イタリア大使館別荘と旧イギリス大使館別荘を訪れ、当時の活発な国際コミュニティについて学ぶことができます。

当時の面影をそのまま残した別荘の窓からは、中禅寺湖畔の美しい景色を、眺められます。その景観は、イギリス人外交官「アーネスト・サトウ」を始めとする、多くの人々の心を惹きつけてきました。奥日光は、観光やウォータースポーツ、旅行者レベルに合わせて行える登山まで、充実したアクティビティが楽しめます。また、バラエティ豊かな自然環境が、大型のシャモアまたはヤギのような「ニホンカモシカ」、「日本ザル」など、日本ならではの野生動物を育んでいます。

### **那須・塩原 心落ち着く散歩道**

那須・塩原地域も、日光と同様に火山活動によって生まれた地域ですが、力強く心揺さぶる日光の自然とは違って変わって、高原・渓谷といった、のどかで心を洗うような清冽な自然が出迎えてくれます。

地形的には、那須はその眺めの良い山々や高原で、一方の塩原はその渓谷で知られています。どちらのエリアも真に美しい自然を誇り、春と夏にはツツジやユリや様々な野花が、秋には鮮やかな紅と黄金の紅葉が、冬にはパウダースノーが見られます。

茶臼岳是那須連山の主峰であり、活火山です。ロープウェイに乗り山を登ると、麓に緑豊かな渓谷や高地の素晴らしい景色が望めます。

また、那須は昭和天皇(1901-1989)が東京の夏の暑さを避けるため訪れた、お気に入りの避暑地でもありました。今でも皇室と関わり深く、平成(1989-)の天皇でいらっしゃる明仁天皇(1989-2019 今上天皇陛下)のご提案により、2011年には国立公園内に「那須平成の森」が開園されました。森の中には皇室の方々が休んだというあずま屋があり、旅行者も見学することができます。那須平成の森フィールドセンターでは歴史や森の自然や教育プログラムを提供し、緑豊かな手付かずの森でガイドツアーが行われます。

加えて、那須の土地は農地開拓が行われ、結果として美味しい野菜の栽培や酪農も行われています。実際この地域は、本州で最も酪農が盛んで、高品質な乳製品が生産する地域です。旅行者は那須の大自然の中で、新鮮で濃厚な味のミルクを楽しむことができます。このような経験が、(訪れる人の)五感を楽しませてくれることでしょう。

塩原地域を訪れたら、塩原温泉でぜひ箒川渓谷を散策してみてください。とくに紅葉の季節は渓谷の川沿いで紅葉が赤いカーテンのように色づき、色彩の波が押し寄せます。塩原の自然は日本の文豪たちの創作心も刺激してきました。特に『こころ』や『我輩は猫である』で有名な小説家、夏目漱石(1867-1916)が、他の著名な作家を連れてこの地の温泉宿に逗留したことはよく知られています。今日でもこの地を訪れる人は、彼らの足跡を辿り、自然に囲まれた温泉街で想像力を刺激する経験ができます。

「那須・塩原地域」は、板室の温泉地、鮮やかなツツジで知られる八方ヶ原高原なども含んでいます。広大であるため、この地域を訪れすべての自然体験を行おうとするのであれば、数日間の滞在をオススメします。

### **鬼怒川地域 自然と癒やしの温泉**

鬼怒川地域は、四方を女峰山、鬼怒沼山などの壮大な山々に囲まれた地域で、そういった山地を鬼怒川、湯西川などの川が侵食することで見事な溪谷を形作っています。浸食ではぐまれた力強い岩肌に囲まれながらのライン下りは、あなたをスリリングな気持ちにさせるでしょう。

鬼怒川地域の山間には鬼怒川温泉、湯西川温泉、川俣温泉、川治温泉といった温泉地が点在しています。このような温泉地では古い伝説が残り、それにまつわる文化も旅行者を楽しませてくれることでしょう。

特に6月の「平家大祭」はおすすめです。これは、平安時代(794年-1185年)の後期に日本で勢力を誇った、「平家一門」にまつわる大きなお祭りで、侍衣装の人々による行列や、太鼓、琵琶(日本のリュート)、その他の演舞が行われます。その他、冬季の「かまくら祭り」も、この地域でまた異なった楽しみとなっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Wetland Types

Wetlands, defined by the Ramsar Convention as including “a wide variety of inland habitats such as marshes, peatlands, floodplains, rivers, and lakes,” are just one of the characteristic ecosystems in Oku-Nikko.

These ecosystems can be sub-divided into three categories based on plant growth and water level. This region has several wetlands which are vital in supporting over 100 types of hygrophytes (plants adapted to high-moisture environments) and animals, and for providing a staging point for migratory birds which arrive in summer and winter. Nikko’s Senjogahara Wetland consists of mostly transitional mire, with peat moss (*Sphagnum*), sedge (*Carex*) varieties, and the perennial herb Himeshirone (*Lycopus maackianus*). In contrast, the Odashirogahara Wetland has a markedly dry, grassland-like appearance and the flora are thus very different from Senjogahara. The crimson Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*) and red, tufted perennial grass Ezonukabo (*Agrostis scabra Willd.*) create a colorful mosaic pattern in the fall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿原の種類

ラムサール条約では、湿原(Wetland)は「湿地、泥炭地、氾濫原、川、湖といった多様な内陸部の(動植物)生息地である」と定義されています。そんな「湿原」は、奥日光の特徴的な生態系のうちの1つです。

これら(の湿原の)生態系は、植物の成長具合や水位によって3つに分類することができます。

この(奥日光)地域には、100種類以上の湿性植物(高湿度に適応した植物)や、動物にとっての大切な生息地である湿地があるととも、夏や冬には渡り鳥たちの一時的なすみかともなっています。

日光の戦場ヶ原は、その多くは、ミズゴケ、スゲ類、ヒメシロネなどが多く見られる中間湿原となっています。これに対し、小田代原は、(戦場ヶ原と比べても)明らかに乾燥した草原のような見目をしています。その植生は戦場ヶ原とは大きく異なり、秋に美しいモザイク模様を作り出す深紅のホザキシモツケと、赤いエゾヌカボがよく知られています。



## 本事業以前の英語解説文

### Wetland Types

Senjogahara Wetland for the most part falls into the category of a transitional mire.

Wetlands are grassy plains in a humid environment where withered plants fail to fully decompose and form peat deposits. They contain various plants and mosses such as Peat Moss (*Sphagnum*) and Sedges (*Carex*), and are divided into three categories depending on the type of plants that grow in the wetland and the height of the water level.

Common Reed (*Phragmites australis*)

Sedges (*Carex*)

Watasuge (*Eriophorum vaginatum*)

Peat Moss (*Sphagnum*)

Peat deposits

Fen

Transitional mire

Bog

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Oku-Nikko Wetlands

The Senjogahara and Odashirogahara wetlands, Lake Yunoko, and the Yugawa River, provide habitats for a wide variety of plant species, as well as aquatic and migratory birds. These areas are registered on the Ramsar List of Wetlands of International Importance. The best way to appreciate and experience this pristine natural environment firsthand is through bird-watching, hiking, or on guided tours. There are wooden walkways across the Senjogahara and Odashirogahara wetlands which provide access deep into Oku-Nikko.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の湿地

戦場ヶ原、小田代原の湿地帯、湯ノ湖、湯川は、数多くの植物、水鳥、そして渡り鳥の生息地となっています。(そのことから、)国際的に重要な湿地に関する条約「ラムサール条約」の湿地リストにも登録されています。(奥日光の)手付かずの自然を鑑賞し体験する最良の方法は、バードウォッチングやハイキング、ガイド付きの自然ツアーに参加することです。

戦場ヶ原と小田代原の木道を渡れば、奥日光をもっと深く知ることができるでしょう。

本事業以前の英語解説文

Oku-Nikko Wetlands

Lake Yunoko, Yugawa River, the Senjogahara Wetland, and Odashirogahara Wetland are registered as Oku-Nikko-shitsugen on the Ramsar List of Wetlands of International Importance.

The Ramsar Convention is an international treaty for the sustainable utilization of wetlands that are considered of international importance as a habitat for water birds. The Oku-Nikko-shitsugen have been designated a Special Protection Zone and Special Zone under the Natural Parks Act and are carefully protected accordingly. Wooden paths have been established at Senjogahara Wetland and Odashirogahara Wetland, allowing visitors to enjoy the natural environment.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Plant Diversity Created by Rising Altitude

One of the key features of Oku-Nikko is the diversity of flora resulting from the altitude of the area spanning 1,200 to 2,500 meters. For every 100 m increase in elevation, the temperature drops around 0.6°C, and the flora changes with elevation. The lower reaches of the mountains are dominated by Japanese oaks (*Quercus crispula* Blume), Northern Japanese hemlock are found (*Tsuga diversifolia*) in the higher sub-alpine zones, and Lingonberry (*Vaccinium vitis-idaea*) in the highest alpine zones. Oku-Nikko is thus a highly complex environment since the mountains are combined with wetlands, with their many moisture-loving plants.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

標高の変化が作る、植物の多様性

奥日光の特徴のひとつが、1,200m～2,500m にまで及ぶエリア内の標高に起因する植生の多様性です。

標高が 100m 高くなるにつれ約 0.6 度気温が下がり、高度によって植生が変化します。山地帯のミズナラ、より高い位置にある亜高山帯のコメツガ、もっとも標高の高い高山帯のコケモモなどが生育しています。奥日光ではこのように、好湿植物の生きる湿地と、山々などが混在した環境が存在するのです。

本事業以前の英語解説文

Oku-Nikko's Climate and Vegetation

Due to its high elevation, Oku-Nikko is subject to sharp climatic changes. The area is covered with forests comprising a wide array of trees and plants, and thus exhibits a diverse natural environment.

Oku-Nikko is located 1,200 m above sea level, and its average temperature is therefore roughly 7°C lower than in Utsunomiya. During the winter period, it is not uncommon for temperatures to drop to -10°C. The type of vegetation changes relative to the area's elevation and can be divided into mountain zones (e.g., Japanese Oak (*Quercus crispula* Blume), Japanese Elm (*Ulmus davidiana* var. *japonica*)), subalpine zones (e.g., Northern Japanese Hemlock [*Tsuga diversifolia*], Veitch's Fir (*Abies veitchii*)) and alpine zones (e.g., Lingonberry (*Vaccinium vitis-idaea*), Japanese Alpine Cherry (*Prunus nipponica*)).

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Change in the Senjogahara Wetland

The Senjogahara wetland is composed of many different types of wetland, including fens, transitional mire, and bogs. These wetland environments also change over time. For example, sediment carried by streams particularly following heavy rain is causing an increase in dry land in parts of Senjogahara. Japanese crabapple trees (*Malus sieboldii*) and other plants which are typically seen in low-moisture soils are able to grow and spread, causing a change in the landscape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦場ヶ原の変化

戦場ヶ原は、低層湿原、中間湿原、高層湿原などの異なる種類の湿地が存在します。ただ、湿原とその環境は時間とともに変化します。例えば、戦場ヶ原の一部では大雨時に川から土砂が運ばれ、堆積し、乾燥した土地が増えています。乾燥した土壌に育つズミなどの植物が広がり、景観の変化が起きています。

本事業以前の英語解説文

Wetland distributions (Senjogahara Wetland)

In recent years, the Senjogahara Wetland has seen an increase in dry areas. This is exemplified by the occurrence of *Sorbaria grandiflora* shrubs and the Japanese Crabapple trees that typically grow in arid regions.

Fen

Transitional mire

Bog

*Sorbaria grandiflora* (*Spiraea salicifolia*) clusters

Japanese Crabapple (*Malus toringo*)

Nature Trail

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Birds that Breed in Oku-Nikko

Mallard (*Anas platyrhynchos*)

Observable year round

Mallards migrate to Japan in the winter and leave in the spring, although some birds do remain behind. The mallards and their ducklings can be seen in the Yugawa River, along the wooden walkway at the Senjogahara Wetland, and at the Izumiyado Pond, and are very popular with birdwatchers, photographers, and travelers. In the winter, mallards are frequently observed at the Yunodaira Marsh, as well as at the northeastern part of Lake Yunoko where natural hot springs prevent the water from freezing over.

Summer migratory birds

A songbird chorus

The bird-watching at Oku-Nikko is excellent because so many birds migrate to Japan during the summer to breed. Highlights include the common stonechat (*Saxicola torquatus*) and the long-billed Latham's snipe (*Gallinago hardwickii*) in the wetlands, and the brightly-colored red-flanked bluetail (*Tarsiger cyanurus*) in the forests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光で繁殖する鳥

マガモ

一年中観察できる

マガモは冬に日本へ訪れ、春には去っていきますが、去らずに残るものもいます。これらのマガモとそのひなは、戦場ヶ原の小道沿いを流れる湯川や、泉門池などで見られ、バードウォッチャーや写真家、旅行者などの人気を集めています。マガモたちは、湯ノ平湿原や、冬には天然温泉が湧き凍結しない湯ノ湖の北東部でもよく見られます。

夏の渡り鳥

さえずりのコーラス

夏は、多くの鳥が繁殖のため日本にやってくることから、奥日光でのバードウォッチングはとても素晴らしいものとなります。湿地にいるビタキやオオジシギ、森の中にある色鮮やかなルリビタキなどはそのハイライトだと言えるでしょう。

#### 本事業以前の英語解説文

Birds that Breed in Oku-Niko

Mallard (wild duck)

Can be observed throughout the year

Although this is a winter bird that travels to the continent in the spring, some birds stay behind and breed in Oku-Nikko. They can be spotted swimming around with their ducklings.

Migratory birds that travel to Japan in summer

Chorus of twittering

A large number of birds migrate to Japan to breed during the summer. Some examples include the African Stone chat and Latham's Snipe, which can be found in marsh lands, and the Red-flanked Bluetail, the Japanese Robin and the Narcissus Flycatcher, which inhabit the forests.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Birdwatching in Nikko

The combination of lakes, rivers, grasslands, wetlands, and forests, and the impact of altitude means that within the confines of Oku-Nikko there is a very wide variety of birdlife to be seen. Research has shown that around 70% of the wild birds in Tochigi Prefecture are to be found in Nikko and Oku-Nikko. There are ducks and other aquatic birds in the lake habitats, Latham's snipes (*Gallinago hardwickii*) which make their home in the wetlands, and brown dippers (*Cinclus pallasii*) which can be spotted around the mountain streams. Woodpeckers and owls are common in the forests.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日光のバードウォッチング

奥日光は、湖や川、草原や湿地、森が組み合わさった土地です。またその標高の影響もあり、(奥日光の)中では多種多様な鳥を観察することができます。ある調査によると、奥日光を含む日光地域では栃木県内で見られる野鳥の約7割を観察できることがわかっています。(例えば)湖に生息するカモなどの水鳥、湿地に住むオオジシギ、溪流にみられるカワガラスなどがそうです。また森の中では、キツツキの仲間やフクロウなども一般的です。

本事業以前の英語解説文

Wild Birds of Oku-Nikko

A wide range of wild bird species can be found in Oku-Nikko, each living in different environments (broadleaf and needleleaf forests, wetlands, mountain streams, and small and large lakes, etc.).

Lakes are populated with water birds such as ducks, forests with Piciformes and owls, and mountain streams with Eurasian Wrens and Gray Wagtails. Each bird thus selects a habitat that fits its living needs. Among summer birds, Red-Flanked Bluetails inhabit subalpine needleleaf forests, while Latham's Snipes can be found in wetlands. Among winter birds, various duck species such as Eurasian Wigeons and Tufted Ducks migrate to lakes. The Willow Tit and other tit species can be observed throughout the year.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Searching for Unique Amphibian Eggs

Japanese common toad (*Bufo japonicus formosus*)

Strings of eggs

The huge numbers of common toads congregating in ponds in April is known as *gama gassen* in Japanese. *Gama* means toad, and *gassen* competition. During this annual event, one that signifies the transition from winter to spring, male toads fiercely compete to mate with female toads. The female toads produce gelatinous strings containing several thousand eggs.

Japanese black salamander (*Hynobius nigrescens*)

Egg sacs submerged in water

The eggs of the Japanese black salamanders are attached to twigs under water. The semi-transparent, white egg sacs have a distinct oval shape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

両生類のユニークな卵を探して

アズマヒキガエル

ひも状の卵

4月頃、ヒキガエルが池に大集合する様子は、日本語でカエルを意味する「ガマ」と競争を意味する「合戦」を合わせて、ガマ合戦と呼ばれています。この一年に一度の出来事は、冬から春への移り変わりを告げるものとなっており、オスのカエルが繁殖相手のメスをめぐって他のカエルと激しく戦います。繁殖をするため、メスは、数千個の卵が入ったひも状のゼリーを産みます。

クロサンショウウオ

水の中の卵の袋



クロサンショウウオは、水の中に沈んだ小枝に卵を産みます。半透明で白い卵は楕円形をしています。

#### 本事業以前の英語解説文

Peculiar Eggs of Water Creatures

Japanese common toad

Eggs with lots of strings

The phenomenon in which large numbers of common frogs congregate in and around ponds in early spring is called Gama Gassen. The gelatinous strings contain several thousand eggs.

Japanese black salamander

Egg sacs submerged in water

The Japanese black salamander spawns eggs in group while making use of tree twigs that are submerged in water. The sacs containing the eggs are semi-transparent and are shaped like the fruit of the Chocolate Vine (*Akebia quinata*) shrub.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Introduction of Fish to Oku-Nikko

There were no fish upstream of the Kegon waterfall, since the falls are too high for fish to scale, and releasing fish was once banned because Lake Chuzenji was considered sacred. However, in 1873 the first fish species (Iwana char) was released into the lake. Later, trout were introduced and farmed and trout is now a local delicacy. Trout were also released into the Yugawa River, which flows into Lake Chuzenji, and the river offers excellent fly fishing.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光への魚の渡来(導入)

魚が遡上するには高すぎるため、かつて華厳の滝の上流には魚がいませんでした。また、中禅寺湖の神性さから、放流が禁止されていたことも理由です。しかし 1873 年、最初にイワナが放流されると、その後鱒などの魚が導入され、養殖が行われるようになります。今や鱒料理は地域の特産品です。中禅寺湖上流の湯川にも鱒は放流され、優れたフライフィッシング(の機会)を提供しています。

#### 本事業以前の英語解説文

Creatures that Live in the Waters of Oku-Nikko

Oku-Nikko is home to a diverse range of water environments, and therefore provides a habitat for fish, amphibians, aquatic insects, and the like. All fish were released into the waters from the Meiji Period onward.

The wetlands, lakes, rivers, and swamps are inhabited by amphibians, aquatic insects and other species that thrive in high elevations.

Prior to the Edo Period, there were no fish in Oku-Nikko because fish cannot migrate upstream past the Kegon Falls and because the release of fish into the waters was prohibited due to Oku-Nikko's status as a sacred ground. The first fish (Iwana charr species) were introduced in Lake Chuzenji in 1873, and other species (including trout) were released into the waters thereafter.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Changing Nature of Oku-Nikko

Environmental change is affecting Oku-Nikko. The extinction of the Japanese wolf (*Canis lupus bodophylax*), and less snow each winter, has allowed the Japanese deer population to increase. The larger population of deer feeding on plants and tree bark disrupts the natural balance of the environment. Another issue is the spread of invasive plant species, such as the cutleaf coneflower (*Rudbeckia laciniata*), which was introduced into the area by humans.

Please help us to conserve the precious and unique habitats here and ensure Oku-Nikko will be enjoyed for generations to come. Please do not feed wildlife, leave behind any garbage, or take any plants or animals from the park. In this way, travelers can help to conserve.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の自然の変化

環境の変化が、奥日光に影響を及ぼしています。ニホンオオカミの絶滅や積雪の減少はニホンジカの増加につながっています。彼らは植物や樹皮を食べるため、その増加により自然環境のバランスを崩してしまうのです。もう 1 つの問題は、オオハンゴンソウのような、人間の手によって入ってきた外来種の繁殖です。それらの種は、在来種に悪影響を及ぼしています。

(奥日光の)貴重で独特な自然を守り、何世代にもわたって楽しめる場所として保護し続けるため、(皆さんには)ご協力をお願いしております。野生動物にエサをあげたり、ゴミを置きっぱなしにしたり、動植物を公園から持ち去ることはやめてください。そうすることが、旅行者(の皆さん)による、(環境の)保護への協力となります。

本事業以前の英語解説文

Oku-Nikko and Environmental Preservation

Any natural environment is sustained by a delicate balance of the organisms that inhabit it.

In recent years, the deer population has increased, and the resulting feeding damage has become a problem. Likely causes behind the surge in the deer population are the extinction of the Japanese wolf and a decrease in snow accumulation. The local vegetation has also been affected by the propagation of alien plant species such as the North

American Golden glow (*Rudbeckia laciniata*) that was brought into the area.

To preserve the valuable natural environment for future generations, the relationship between human beings and nature needs to be carefully scrutinized.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Wild Animals Found in Oku-Nikko I

There are about 30 different species of mammal which inhabit Oku-Nikko, including two unique species nationally recognized for their biological importance, the Japanese serow (*Capricornis crispus*) and the Japanese dormouse (*Glirulus japonicus*). Other mammals which make their home here include the shika deer, also known as the Japanese deer (*Cervus nippon*), the Asian black bear (*Ursus thibetanus*), Japanese macaque monkey (*Macaca fuscata*), and the Japanese red fox (*Vulpes vulpes japonica*). Learning about the habits of these species greatly increases the chances of spotting their tracks, and of sighting one.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光で見られる野生動物①

奥日光には約 30 種類の哺乳類があり、その中には生物学的重要性を全国的に認められているニホンカモシカ、ヤマネの 2 種も含まれています。

その他、この(奥日光という)場所に生息する哺乳類としては、ニホンジカやツキノワグマ、ニホンザルやホンドキツネなどがあげられます。彼らの習性について学べば、彼らの痕跡や直接観察する機会を増やすことができるでしょう。

#### 本事業以前の英語解説文

Wild Animals Found in Oku-Nikko

Oku-Nikko is a habitat for many mammals including the Japanese serow (a Special Natural Monument), the Japanese dormouse (a Natural Monument), the Japanese deer, the Asian black bear, the Japanese macaque monkey, the Japanese red fox, and many others.

Mammals Found in Oku-Nikko

Insectivora

soricidae (Shinto Shrew, Japanese Water Shrew, etc.)

Talpidae (Lesser Japanese Mole, True's Shrew-mole, Japanese Shrew-mole)

## Chiroptera

Vespertilionidae (Japanese Large-footed Bat, Long-eared Bat, etc.)

Rhinolophidae (Little Japanese Horseshoe Bat)

## Primates

Cercopithecidae (Japanese Macaque Monkey)

## Carnivora

Canidae (Raccoon Dog, Japanese Red Fox)

Ursidae (Asian Black Bear)

Mustelidae (Ermine, Japanese Marten, Eurasian Badger)

## Artiodactyla

Cervidae (Japanese Deer)

Bovidae (Japanese Serow)

Suidae (Boar)

## Rodentia

Sciuridae (Japanese Squire, Japanese Giant Flying Squirrel, Japanese Dwarf Flying Squirrel)

Muridae (Smith's Red-backed Vole, Anderson's Red-backed Vole)

(Japanese Grass Vole, Small Japanese Field Mouse, Large Japanese Field Mouse)

Gliridae (Japanese Dormouse)

## Lagomorpha

Leporidae (Japanese Hare)

Total: 7 orders, 15 families, 34 species

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Wild Animals Found in Oku-Nikko II

There is a greater chance of seeing certain wild mammals in Oku-Nikko, notably deer and monkeys, as their populations continue to grow. Japanese badgers (*Meles anakuma*), martens (*Martes melampus*), and raccoon dogs (*Nyctereutes procyonoides*) can also be observed beside roads and wooden walkways in the park. Visitors are requested not to disturb the wildlife and not to feed the animals.

【Captions】

Deer

Monkey searching for food

Japanese badger on a wooden walkway

Japanese marten running on a hot water conduit

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光でみられる野生動物②

奥日光では、特定の野生哺乳類、特に鹿や猿などの個体数が増えている種、を見る機会があります。

他にも、アナグマやテン、タヌキなどが公園内の道路や木道で目撃されています。旅行者は野生動物の邪魔をせず、エサなどを与えないようにしてください。

【キャプション(写真の下につける説明用テキスト)】

鹿

食べ物を探す猿

木の小道にいる穴熊

湯のダクトを走るテン

本事業以前の英語解説文

Wild Animals Found in Oku-Nikko

Deer looking over here

Monkey in search of food

Japanese badger that appeared on a wooden path

Japanese marten running on top of a hot-water conduit

While it is generally difficult to come across wild mammals, the populations of deer and monkeys have increased as a result of various factors, and both can often be observed in Oku-Nikko. Other mammals such as foxes, raccoon dogs, Japanese badgers, and Japanese martens can also be seen occasionally.



【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Overpopulation and Environmental Issues

Damage from Deer Feeding on Vegetation

Problems Caused by Overpopulation of Deer

The large resident deer population damages plants and tree bark. This, in turn, is altering the natural landscape of Oku-Nikko. The park is implementing countermeasures to conserve the environment, including fences to keep out the deer.

Problems with Invasive Species

Invasion of Non-native Plant Species

Humans have introduced non-native plants to Oku-Nikko, which have thrived, damaging native plant species. Volunteers remove these alien species in order to help restore the natural environment.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

個体数の増加と環境問題

鹿による食害

鹿の頭数が増えすぎたことによって問題が発生しています。

(奥日光に)生息するたくさんの鹿が植物や木の樹皮を食べ傷つけています。その結果、奥日光の景色が変化しているのです。国立公園では対策として、鹿を防ぐための防止柵などを設置し、環境保全に努めています。

外来種による問題

外来植物の侵入

人間たちが奥日光に外来種を持ち込んだことで、それらの種が繁栄、在来植物に被害を与えています。(現在、)ボランティアの方々が、本来の自然環境を取り戻すため、外来植物を取り除く活動をしています。

## 本事業以前の英語解説文

### Oku-Nikko and Environmental Problems

Feeding damage from deer

Deer population is growing

Feeding damage from deer causes a decline in plant population and the withering of trees that have had their bark eaten. For this reason, various protection measures have been deployed including feeding damage prevention fences.

Problems with alien species

Plants that were introduced from other areas

The number of human-introduced plants has risen, leading to a reduction in endemic plant species. For this reason, plant removal initiatives are conducted.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

##### Deer Countermeasures in the Senjogahara Wetland

In the Senjogahara Wetland, fences keeping deer out are used to protect wetland plants against damage from deer, and generally to conserve the natural environment. The deer population in Oku-Nikko has grown considerably since the 1980s. This has had a serious impact on the flora, with more and more deer feeding on plants. In 2001, the Ministry of the Environment installed these fences in order to help preserve the delicate balance that has sustained vegetation and the forests in and around the wetlands. The fences allow species other than deer to pass freely, while at the same time not affecting the integrity of the natural wetland landscape.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 戦場ヶ原における鹿対策

戦場ヶ原では、防止柵を使って、鹿害から湿原の植物を守り、自然環境の保全を行う取り組みがなされています。1980年代から奥日光の鹿の生息数は増え続け、鹿が植物を食べすぎてしまうことによる害が出てしまっています。環境省は2001年、湿原やその周辺の植生と、森林を支えてきた繊細なバランスを保つため、これらのフェンスを設置しました。このフェンスは、鹿以外の生物は自由に出入りできるよう設計されており、同時に湿地の風景に影響が無いように配慮されています。

#### 本事業以前の英語解説文

##### Deer Measures at Senjogahara Wetland

Fences have been installed to protect the wetland vegetation from deer feeding damage.

The deer population in Oku-Nikko has grown since 1980, prompting concerns about feeding damage to wetland vegetation. For this reason, the Ministry of the Environment set up Senjogahara Wetland deer intrusion prevention fences in 2001 with the aim of integrally preserving the vegetation of the wetland and surrounding forests.

These fences allow animals other than deer to cross, and were constructed in such as way as to not obstruct the scenery of the wetland.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Searching for Wild Animal Tracks

Even if you are not fortunate enough to spot a wild animal, there is a lot of evidence of the presence of animals to be found in Oku-Nikko; tracks, droppings, and food leftovers are the usual signs. Japanese deer tracks, for example, are frequently found around Lake Yunoko, and animal tracks and monkey droppings can be seen from the wooden walkways near the hot spring sources of Oku-Nikko Yumoto Onsen.

Rabbit

Japanese deer (*Cervus nippon*)

Japanese marten (*Martes melampus*)

Japanese squirrel (*Sciurus lis*)

Asian black bear (*Ursus thibetanus*)

Deer droppings

Bear nests (left by foraging bears)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

野生動物の痕跡を探して

(奥日光で)野生動物を見つけることは難しくても、足跡、ふん、食べ残しなど、彼らの存在を示す痕跡なら、(それよりも)たくさん見つけられます。例えばニホンジカの痕跡は湯ノ湖あたりでよく見られ、動物の足跡や猿のふんも奥日光湯元の源泉近くの木道でよく見られます。

ノウサギ

ニホンジカ

テン

ニホンリス

ツキノワグマ

シカのフン

熊棚(熊の食事の跡)

本事業以前の英語解説文

Wild Animal Tracks

Even though you may not see them, you can detect the presence of various animals by looking for signs of animal activity including tracks, droppings and food leftovers.

Look for signs that signal animal presence!

Rabbit Japanese marten Japanese squirrel Japanese deer

Deer droppings Bear nests (after feeding) Asian black bear (Circles of 20cm inside figure)

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Wetland and Grassland Flora

The Senjogahara Wetland and the Odashirogahara Wetland provide habitat for over 100 species of wetland and grassland plants, including a number of rare species.

Senjogahara Wetland is home to Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*), a type of spiraea prized for its beautiful flowers in the summer. On Honshu, the main island of Japan, it is only found in Oku-Nikko and on Kirigamine in Nagano Prefecture. Hare's-tail cottongrass (*Eriophorum vaginatum*) proliferates in the Senjogahara Wetland in June, while the Odashirogahara Wetland has many colorful plants such as the Japanese thistle (*Cirsium japonicum*), and Ibukitorano (*Bistorta officinalis* (Delarbre) subsp. *japonica*) which exhibits white blooms in July. Oku-Nikko offers a rare opportunity to see grassland and wetland plants within the same park.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湿原と草原の植物

戦場ヶ原と小田代原は、希少な種を含む 100 種類以上の湿原植物と、草原植物の生育地となっています。戦場ヶ原はホザキシモツケでよく知られています。ホザキシモツケはシモツケ属の植物で、夏に花を咲かせ、本州では奥日光と、長野県の霧ヶ峰だけにしか自生しません。戦場ヶ原では 6 月、湿地に生えるワタスゲの群落が見られ、小田代原は、ノアザミや 7 月に白い花を咲かせるイブキトラノオなど色とりどりの草原植物が生育しています。

奥日光では、同じ公園の中で湿地と草原の両方の景観を楽しむ、貴重な機会を得られるでしょう。

本事業以前の英語解説文

Plants of Wetlands and Grasslands

Senjogahara Wetland and Odashirogahara Wetland are home to over 100 species of wetland and grassland plants, including rare species.

*Sorbaria grandiflora* (*Spiraea salicifolia*), which produces one of the representative summer flowers of the Senjogahara Wetland, is a rare plant that within Honshu is only found natively in large numbers in Oku-Nikko and on Kirigamine

(Nagano Prefecture). The Odashirogahara Wetland is home to large numbers of Japanese thistle (*Cirsium japonicum*), and in July visitors can see bands of red flowers alongside Nohanashobu (*Iris ensata*). Many other wetland and grassland plants are also found including the Watasuge (*Eriophorum vaginatum*) and Great Burnet (*Sanguisorba officinalis*).

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Oku-Nikko Flower Calendar

Oku-Nikko is renowned for its rare plant and flower species, which are best enjoyed from early spring through fall. Flowering Japanese crabapple (*Malus sieboldii*) and Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*), in particular, are not often seen in other areas of Japan. Another flowering shrub commonly associated with Oku-Nikko is the Azuma shakunage (*Rhododendron degronianum*), which blooms from early spring to early summer. Visitors can enjoy the many varieties of beautiful flowers on wetland walks.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の花ごよみ

奥日光は、珍しい植物や花の種類で有名であり、早春から秋にかけて鑑賞のベストシーズンを迎えます。特に、ズミの花やホザキシモツケは日本のほかの地域ではあまり見られません。花を咲かせる奥日光のもうひとつの植物といえば、早春から初夏にかけて花を咲かせるアズマシャクナゲが挙げられます。(奥日光を)訪れる人々は、これらの多様で美しい花を、湿原を歩きながら楽しむことができます。

#### 本事業以前の英語解説文

Flowers Found in Oku-Nikko

Plants in the wetlands bloom in succession, with azalea species such as the Akayashio (*Rhododendron pentaphyllum* var. *nikoense*) and Azumashakunage (*Rhododendron degronianum*) blooming between spring and early summer, and *Sorbaria grandiflora* (*Spiraea salicifolia*) and Watasuge (*Eriophorum vaginatum*) from the start through the end of the summer.



【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Nikko - The Birthplace of Botanical Study in Japan

Prior to the Meiji period (1868–1912), Oku-Nikko was famous in Japan for the collection of medicinal herbs. When modern botanical studies began in the Meiji period, botanists both Japanese and from overseas, including the botanist Takeda Hisayoshi (1883–1972), son of British diplomat Ernest Satow (1843–1929), came to Nikko to research and to collect plants. Many new species were discovered in Nikko, including the Nikko azami (*Cirsium tanakae* subsp. *nikkoense*), Nantai shida (*Dryopteris maximowiczii*), and Shirane aoi (*Glaucidium palmatum* Siebold & Zucc.). This provenance is reflected in the names of many plants which are prefixed by Nikko, and in the scientific names which include the suffix “-nikoensis.” This research continues to this day.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日光 - 日本における植物学の生まれた場所

日光は明治以前から薬草の採取地として有名でした。明治時代（1868–1912）になって近代植物学が誕生すると英外交官アーネスト・サトウ（1843–1929）の息子で植物学者の武田久吉(1883–1972)など、多くの国内外の学者が日光で植物を採取、研究を行いました。(その結果、)ニッコウアザミや、ナンタイシダ、シラネアオイなどの種が日光で発見されます。このような経緯から、和名に地名（ニッコウ）を取り入れた植物や、学名に日光（nikoensis）の名を含めた植物などが生まれています。このような研究は今日も続いています。

本事業以前の英語解説文

Plants in Oku-Nikko

Japan's botany started with research of Nikko's natural environment.

Because Oku-Nikko features a diverse range of plants, it became a research ground for botanists in the Meiji Period, and many plant names have been derived from local place names including Nikko azami (*Cirsium tanakae* subsp. *nikkoense*), Nantai-shida (*Dryopteris maximowiczii*) and Shirane-aoi (*Glaucidium palmatum* Siebold et Zucc.).

Nikko is also famous for its many flowers, and when the Akayashio heralds the spring in May, Oku Nikko becomes filled with colorful flowers such as the Japanese Crabapple ((*Malus toringo*), *Sorbaria grandiflora* (*Spiraea salicifolia*) and Japanese thistle (*Cirsium japonicum*)

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Seasons of Oku-Nikko: Spring and Summer

Snow thawing in Oku-Nikko in April heralds the beginning of spring, when the air is filled with the song of migratory birds and the croaking of frogs. At the beginning of May, the Oku-Nikko landscape is transformed by the delicate, red-hued blooms of Akayashio (*Rhododendron pentaphyllum* var. *nikoense*). Late May is azalea season, while flowers in the wetlands bloom between June and August. The spring and summer are ideal times to enjoy viewing the lovely flora on a hike or strolling.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の四季－春と夏

4月の奥日光の雪解けは、初春の訪れの合図であり、渡り鳥とカエルの鳴き声が響き渡ります。5月の初めには、奥日光は繊細な赤く色づいたアカヤシオによってさらに変貌を遂げます。5月下旬はツツジの季節で、6月から8月の間は湿原の花が咲きます。春と夏は、可憐な花々を、ハイキングや散策などで眺めるのに最適な季節です。

本事業以前の英語解説文

Four Seasons of Oku-Nikko: Spring-Summer

When the snow melts in April, the chirping of migratory summer birds combines with the croaking of frogs. The emergence of Akayashio (*Rhododendron pentaphyllum* var. *nikoense*) in early May signals the arrival of spring. When the cries of the Japanese spring Cicada are heard in late May, various azalea species start blooming, and between June and August, the wetlands are covered in large numbers of flowers.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Seasons of Oku-Nikko: Autumn

Starting in late September, the grasses in the Odashirogahara Wetlands and surrounding areas become a mosaic of red and orange. This signifies the beginning of fall in Oku-Nikko. In October, azalea leaves deepen to a crimson hue and the foliage of Japanese oaks (*Quercus crispula Blume*) turns bright yellow. Each year, many people come to the many lakes and waterfalls of Oku-Nikko to see the glowing autumn colors. Ryuzu no Taki and Yudaki Falls are particularly popular spots. The multicolored foliage here contrasts brilliantly with the majestic waterfalls.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の四季 - 秋

9月下旬ごろから、小田代原とその周辺の草木は、赤やオレンジのモザイク模様に変貌を遂げます。これは、奥日光に秋の訪れを告げます。10月には、ツツジの葉が深く赤く色づき、ミズナラの葉は鮮やかな黄色に変わります。奥日光の湖や滝には毎年、輝く秋の色を見にたくさんの人がやってきます。竜頭ノ滝と湯滝は、色とりどりの葉と素晴らしい滝とのコントラストが見られ、特に人気があります。

本事業以前の英語解説文

Four Seasons of Oku-Nikko:Autumn

From late September, the wetlands turn into autumnal colors, signaling the arrival of the autumn leaves season. In October, the azalea plants and maple trees turn red, the Mizunara (*Quercus crispula Blume*) and Japanese larch (*Larix kaempferi*) trees turn yellow, and their changing colors highlight the scenery comprised of lakes, falls, and wetlands.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

The Seasons of Oku-Nikko: Winter

Snow in Oku-Nikko starts falling in November. In December, Lake Yunoko and the Ryuzu no Taki Falls partially freeze over. On particularly chilly days, snow blankets all of Oku-Nikko, and hard rime (ice crystals) covers the landscape, creating a stunning winter scene. During this season, some of the smaller cascades of the Kegon no Taki Falls freeze as well.

Visitors can enjoy winter sports and other activities, including skiing, cross-country skiing, and snowshoe trekking. Winter poses more safety risks compared with the other seasons, and it is recommended that travelers explore with a guide at this time of year. In addition to outdoor activities, winter is also an ideal season in which to enjoy the warm, therapeutic waters of natural hot springs, such as those in Oku-Nikko Yumoto Onsen, a traditional hot spring area with a long history.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の四季 - 冬

奥日光では、11月に初雪が降り、12月には、湯ノ湖と竜頭ノ滝が部分的に凍結します。特に寒い日には奥日光全体が雪で覆われ、氷の結晶、霧氷が辺り一面で見られ、美しい冬の風景を作り出します。またこの季節には華厳の滝の周りの小さな滝も凍てつきます。

ビジターは、スキー、クロスカントリースキー、スノーシュートレッキングなどのウィンタースポーツやアクティビティを楽しむことができます。冬は、雪のない時期と比べて危険な箇所もあるため、この時期の旅行者にはガイドと共に探索することをオススメします。アウトドアの活動以外にも、冬は、長い歴史を持つ伝統的な温泉地「奥日光湯元温泉」のような、温泉の暖かく癒しの効果があるお湯に浸かるには最適な季節です。

#### 本事業以前の英語解説文

Four Seasons of Nikko: Winter

When the snow starts falling in November, water birds migrate to the lakes. In December, Lake Yunoko and the

Ryuzunotaki Falls freeze over in part, and hoar frost appears on some days. The presence of the animals can be detected through their tracks in the deep snow.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Unusual Insects

Autumn darter (*Etheostoma autumnale*)

A color-changing dragonfly

Born in low-lying areas, these dragonflies spend the summer in the cool climate of Oku-Nikko. In the fall, their bodies turn bright red and they return to the low-lying areas.

Chestnut tiger (*Parantica sita*)

A migratory butterfly that travels great distances

The chestnut tiger butterfly migrates between Japan's main island, Honshu, the Ryukyu Islands of Okinawa, Kagoshima Prefecture, and Taiwan. Some of these large butterflies travel as far as 1,000 km.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

珍しい昆虫

アキアカネ

色が変わるトンボ

低地で生まれるこのトンボは夏の間を奥日光の涼しい気候の中で過ごします。秋になると、彼らの体は鮮やかな赤に変化し、低地に戻っていきます。

アサギマダラ

長い距離を旅する蝶

アサギマダラは日本最大の島・本州、沖縄県の琉球諸島、鹿児島県、そして台湾の間を移動します。この大型の蝶の中には、1000kmもの距離を旅するものもいます。

## 本事業以前の英語解説文

### Peculiar Insects

#### Autumn Darter

A dragonfly that turns red

After emerging in low-lying areas, Autumn Darter dragonflies migrate to the cooler Oku-Nikko in the summer. Its color turns red when autumn arrives.

#### Chestnut Tiger

A travelling butterfly

Chestnut Tiger butterflies migrate between Honshu, the Nansei Islands and Taiwan. Some even travel distances as large as 1,000km.

【施設名】ビジターセンター展示①

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Insects in Oku-Nikko

The melting snow and new buds in the forests signal the beginning of new insect activity in Oku-Nikko. Insects including colorful butterflies, dragonflies, and longhorn beetles make their appearance in late May. The Japanese spring cicada (*Terpnosia nigricosta*) can be heard singing between spring and early summer. Unfortunately, due to environmental changes and damage from deer, insects such as the poplar admiral (*Limenitis populi*) and the Kohyomomodoki (*Mellicta ambigua nippona*) butterflies are no longer found here.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の昆虫

雪解けと、森の中での新しい植物の芽吹きは、奥日光の昆虫たちが活動を始める合図です。5月下旬には、色とりどりの蝶や、トンボ、カミキリムシなどが姿を現します。エゾハルゼミは春から初夏にかけてその鳴き声を聞くことができます。

一方残念なことに、環境の変化やシカの食害により昔はいたオオイチモンジやコヒョウモンモドキは奥日光から姿を消してしまいました。

本事業以前の英語解説文

Insects of Oku-Nikko

When the long winter comes to an end with the melting of the snow in the forests and the trees start budding, the season of the insects arrives as signaled by the cries of the Japanese spring cicada.

Accompanied by the cries of the Japanese spring cicada, the period from late May ushers in a new season of green leaves for Oku-Nikko, and this is also the time when various insects such as butterflies, dragonflies and longhorn beetles become active.

However, butterfly species such as the Poplar Admiral and the Kohyomomodoki (*Mellicta ambigua nippona*) have already disappeared from Oku-Nikko due to feeding damage from deer and environmental changes.



【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Pellet Stove Usage

The Ministry of the Environment uses environmentally-friendly pellet stoves. These burn biomass pellets (made from living organic sources and not fossil fuels), a sustainable form of energy. The carbon dioxide emissions from the burning of biomass pellets are used in photosynthesis by trees, helping to maintain an appropriate balance of greenhouse gases.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

ペレットストーブの利用

環境省は環境に優しいペレットストーブを使用しています。ペレットストーブはバイオマスペレット(化石燃料ではない、生物由来の燃料)を燃やす、持続可能なエネルギーです。バイオマスペレットを燃やすことで発生する二酸化炭素は、木々の光合成に使われ、温室効果ガスの適切なバランスを維持することに役立っています。

本事業以前の英語解説文

Pellet Stove

Amid growing interest in global warming countermeasures and renewable energy, stoves that use woody biomass (e., resources derived from living organisms excluding fossil fuels) are becoming more popular. The CO<sub>2</sub> emitted by the burning of biomass pellets is absorbed by tree growth. Pellet stoves thus provide a way to keep greenhouse gases in check.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

History of Oku-Nikko

Oku-Nikko is a naturally dramatic region with a recorded history dating back to the Nara period (710–792). In 767, the monk Shodo, who was born in Tochigi Prefecture, set out to climb Mt. Nantai in Nikko, a mountain considered sacred. On his third attempt, he reached the summit of the mountain and founded the Okunomiya inner shrine of the Futarasan Shrine in 782. Oku-Nikko became a particularly sacred region in Japan for *yamabushi*, followers of *Sangaku Shinko*, or mountain worship. This practice is still popular today. In 788, Shodo discovers Yumoto Onsen hot springs. Over the following centuries, Oku-Nikko drew many religious practitioners from around Japan and became a pilgrimage destination.

After the Meiji Restoration in 1868, international travelers began to visit Japan, and Oku-Nikko was popular as a place to escape the summer heat in Japan. In 1872 British diplomat Ernest Satow's first visited Oku-Nikko. There are a number of former diplomatic summer residences in Nikko. In 1873 Iwana char were released into Lake Chuzenji for the first time by a local resident, and in 1878 British travel writer Isabella Bird visited Oku-Nikko.

In 1934 Nikko was designated a national park.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の歴史

奥日光は、奥日光はとても印象的な地形を持つ土地であり、その歴史は奈良時代(710–792)にまで遡ります。767年、栃木県生まれの高僧・勝道上人が、男体山の登頂を始めます。日光の男体山は(その頃から)聖なる場所として考えられていました。782年、彼は3度目の挑戦で登頂を果たし、二荒山神社の奥宮を設立します。奥日光は、特に日本の「山伏」たちにとっての聖地となります。山伏とは、山々を崇拜する「山岳信仰」の信徒(修行者)のことです。このような修行は現在も行われています。

788年には、勝道上人が湯本温泉を発見。その後数世紀に渡って、奥日光は日本全国から多くの宗教者・修行者を引き寄せる、巡礼地となりました。

1868年の明治維新以降、海外からの旅行者が日本を訪れはじめ、奥日光は避暑地として特に人気となります。

1872 年には英外交官のアーネスト・サトウが始めて日光を訪問。日光には外交官たちのかつての夏の邸宅が(今も)残っています。

1873 年には地域住人により始めてイワナが中禅寺湖に放流され、1878 年には旅行作家のイザベラ・バードが奥日光を訪れます。

そして 1934 年、日光は国立公園に認定されたのです。

## 本事業以前の英語解説文

### History of Oku-Nikko

#### Ancient Period

#### Medieval Period

#### Early Modern Period

782 年 Shodo-shonin successfully climbs to the top of Mt. Nantai and discovers Lake Chuzenji

788 年 Shodo-shonin discovers Yakushinoyu (Yumoto hot spring)

1649 年 Mt. Shirane volcano becomes active

1868 年 Meiji Restoration

#### Modern Period

1871 年 Rule preventing women from visiting Oku-Nikko is abolished

1873 年 Sadagoro Hoshino releases Iwana (char species) from the Daiya River into Lake Chuzenji

1875 年 Ernest Satow publishes the first Nikko guidebook

1878 年 Isabella Bird visits Nikko

1902 年 Major storm causes debris flow from Mt. Nantai to cause severe damage to Chugushi.

1902 年 Thomas Glover releases North-American-bred brook trout in the Yugawa River.

1927 年 Construction of Nishirokuban Villa for Tokyo Angling Club

#### Present Day

1934 年 Nikko designated as national park

1954 年 Opening of Iroha-zaka Toll Road

1964 年 First visitor center in Japan opened in Yumoto

1965 年 Opening of 2nd Iroha-zaka and Konsei Road

1993 年 Nikko Municipal Route 1002 closed to general vehicles and restricted to low-emission bus traffic.

2005 年 Oku-Nikko-shitsugen registered on the Ramsar List of Wetlands of International Importance

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

History of Oku-Nikko (1868–Present)

The dramatic landscape and mild summer climate of Oku-Nikko began to attract foreign residents and travelers in Japan during the Meiji period (1868–1912). Ernest Satow (1843–1929), a British diplomat, traveled to Lake Chuzenji from Yokohama in spring 1872. He praised the lake, describing it as picturesque, and was charmed by the region. He constructed a villa in Nikko, and in 1875 wrote *A Guide Book to Nikko*, the first English-language guide in Japan. British writer and traveler Isabella Bird (1831–1904) was greatly interested in the Yumoto Onsen area, a hot spring district in Oku-Nikko, and included it in her travel chronicles. Thomas Glover (1838–1911), a prominent Scottish businessman in Japan at the time, released river trout from North America into the Yugawa River, and later helped build Oku-Nikko's reputation for fly fishing. The area flourished during this time and saw the development of many foreign embassy villas. The beautiful landscape and many outdoor activities including hiking, watersports, and skiing, continues to attract many visitors to Oku-Nikko.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光の歴史(1868年から現在)

明治時代(1868–1912)になると、印象的な自然と夏の涼しい気候が、外国人居住者や、日本への旅行者などを魅了し始めます。1872年春、イギリス人外交官のアーネスト・サトウ(1843–1929)が横浜から中禅寺湖へ旅行で訪れました。彼は「絵のような湖」と賞した中禅寺湖とこの地域に惚れ込み、別荘を建て、1875年、日本で初めての英語のガイドブックである、「日光のガイドブック」を書きました。イギリス人の作家で旅行家のイザベラ・バード(1831–1904)は、奥日光の温泉地帯、湯元温泉に深く興味を持ち、彼女の旅行記で紹介しました。当時日本でよく知られていたスコットランド人商人、トーマス・グラバー(1838–1911)は、湯川に米国産の川鱒を放流し、その後の奥日光のフライフィッシングの発展に貢献しました。この時代に奥日光は繁栄し、多くの外国大使館別荘が開発されました。その美しい景観と、ハイキング、ウォータースポーツ、スキーなどのアクティビティを通じて、(今も)多くの訪問者を惹きつけ続けています。

本事業以前の英語解説文

History and People of Oku-Nikko

Nikko has attracted human interest for a long time through history (e.g., it was revered as a sacred mountain in the

Sangaku Shinko religion), and today it is known as a national park where visitors can easily get in touch with a rich natural environment.

It became a sacred place for the Sangaku Shinko religion after Shodo-shonin climbed to the top of Mt. Nantai in 782. From the Meiji Period, a diplomat villa was built as a summer resort near Lake Chuzenji, and a membership resort club was also added. Accordingly, it was often said that that Ministry of Foreign Affairs officials traveled to Nikko in the summer. In 1934, Nikko was designated a national park, and Oku-Nikko has now become an area for many people to enjoy nature.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

National Park Volunteers

Park volunteers throughout Japan give their time to improve and preserve the national parks. The volunteers are members of the public who are registered with the Ministry of the Environment. The park volunteer system at Nikko dates from 1985. The volunteers work to help visitors to better understand and enjoy this precious natural environment.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立公園のボランティア

日本中のパークボランティアたちが、自らの時間を割いて、国立公園の保全や改善に貢献しています。ボランティアたちは、環境省に登録された一般の方々です。日光のパークボランティア制度は、1985年にさかのぼります。ボランティアの方々の活動によって、地域の貴重な自然環境をよりよく知り、楽しむことが出来ています。

本事業以前の英語解説文

Park Volunteer

Park volunteers are certified by the Ministry of the Environment and engage in a wide range of activities based on the unique needs of various areas belonging to national parks across Japan.

Park volunteers are private citizens who are registered with the Ministry of the Environment as volunteers that aim to contribute to various activities at national parks and promote the protection of nature. They participate in initiatives on a voluntary basis. Nikko park volunteers were first deployed in 1985, and they have since participated in a wide range of activities to promote the beauty of Oku-Nikko's natural environment and ensure visitors enjoy their stay in the area.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The Work of Nikko Park Volunteers

Park volunteers contribute to the preservation of Nikko National Park in many different ways. This includes conducting surveys of plants and wildlife, removing invasive plant species, and providing guided tours of the Yumoto area.

Volunteers cleaning around the park

Volunteers removing invasive plant species

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日光パークボランティアの活動

パークボランティアはさまざまな方法で日光国立公園の保全に貢献しています。この活動には、植物や野生生物についての調査や、外来植物の除去、湯元エリアを訪れた人々へのツアーガイドの提供などが含まれています。

公園周辺の清掃ボランティア

外来動植物を除去するボランティア

本事業以前の英語解説文

Nikko Park Volunteer Activities

In the Oku-Nikko region of Nikko National Park, park volunteers engage in a wide range of activities including cleanup efforts, nature explanations, fauna and flora surveys, removal of alien species, deer feeding damage surveys, winter patrols and magazine publication.

Cleanup patrol

Activities to remove alien species

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Chuzenji

It is believed that Lake Chuzenji was created when lava flows from Mt. Nantai blocked the flow of water out of the valley around 20,000 years ago.

In the nineteenth and early twentieth centuries, foreign diplomats and residents sought refuge in Oku-Nikko, and Lake Chuzenji in particular, from the intense heat of summer in Japan. It was during this period that Nikko became famous for fishing in the lake and rivers, and particularly for fly fishing. The former villas of the British and Italian embassies are now open to the public.

In addition to enjoying water activities, the scenic paths along the shores of the lake offer superb walking. Warm sunlight filters through the greenery and gentle breezes flow over the waters in the early summer. In the fall, the vivid foliage contrasts beautifully with the lake's cobalt waters. Often, all that can be heard is the hushed rustle of visitors walking on fallen leaves.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

中禅寺湖

中禅寺湖は約 2 万年前、男体山の溶岩流が谷の流れをせき止めたことで形作られたと考えられています。

19-20 世紀初頭にかけて、日本の夏の暑さを避けようとする外国人外交官、在住外国人が奥日光、特に中禅寺湖を訪れました。この時期、日光の川や湖は釣り、特にフライフィッシングで有名になりました。旧イギリス、イタリア大使館別荘は、現在一般に公開されています。

ウォーターアクティビティを楽しむだけでなく、湖畔の風光明媚な小道では素晴らしい散策が行えます。暖かい木漏れ日、水面に吹く柔らかな風を、初夏には味わえます。秋になれば、鮮やかな紅葉が湖の青い水に映えるでしょう。（そこには）落ち葉を踏みしめる音だけが響きます。



## 本事業以前の英語解説文

### Lake Chuzenji

With a circumference of roughly 25km and an area of about 11.5km, Lake Chuzenji is a famous landmark of Oku-Nikko. The lake has an elevation of 1,269 m, and maximum water depth of 163m. It was formed as a dammed lake some 20,000 years ago through lava outflows from Mt. Nantai. Seven rivers including the Jigoku River and the Toyamazawa River flow into the lake, and the water discharged from the Daijiri River ultimately heads toward Kegonnotaki Falls.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Kegon no taki Falls

Kegon no taki Falls is a 97-meter tall waterfall fed from Lake Chuzenji. It is designated one of Japan's three great waterfalls, and is one of Nikko's forty eight best-known waterfalls. There are different theories about where the waterfall got its name. In Japanese, the characters in the name "Kegon" mean "flower" and "stone." The name is thought to be a reference to the azaleas that bloom on the cliffs where the waters cascade down.

Throughout the year, the powerful roar of the falls cascading over the stone cliff fills the air.

In summer, house martins (*Delichon dasypus dasypus*) fly around Kegon no taki Falls. When it snows in the region, the smaller cascades framing the main waterfall often freeze, creating a stunning winter landscape.

At the top of the Akechidaira Ropeway, the observation deck offers breathtaking views of the entire waterfall, Lake Chuzenji, and Mt. Nantai — three of the most spectacular sights in Oku-Nikko.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 華嚴の滝

華嚴の滝は、中禅寺湖から流れる 97メートルの滝です。この滝は、日本三大瀑布に選ばれているとともに、日光の48の最も有名な滝の1つともされています。滝の名前の由来には諸説ありますが、日本語で「華嚴」とは、花と石という意味があり、この名は水が流れ落ちている崖の近くに咲くツツジの花からきたものとされています。

1年を通じ、滝の力強い轟きが岸壁からあふれ、あたりを満たします。

夏には、イワツバメが滝の周りを飛び交います。この地域で雪が降る際には、メインの滝の周辺を流れる小さな滝が凍結し、素晴らしい冬の光景を作り出します。

明智平ロープウェイの頂上(終点)にある展望台からは、息を呑むような景観を望めます。華嚴の滝の全体像、中禅寺湖、男体山という、奥日光で最も壮観な風景です。

## 本事業以前の英語解説文

### Kegonnotaki Falls

The Kegonnotaki Falls have a height of 97m, and are ranked among Japan's top three waterfalls. They converge with twelve smaller waterfalls that gush out from the cliffs to collectively cascade from the precipice.

Visitors can take an elevator down to the observatory to view the impressive falls up close. Around June, a large number of common house martin birds can be seen flying across the rocky stretches of the area.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Mt. Nantai

Mt. Nantai mountain was considered sacred by followers of *Sangaku Shinke*, which places significant emphasis on the sacredness of mountains, and the mountain has close ties to the temples and shrines of Nikko. In 782 CE, Shodo Shonin (735–817), who established the shrines and temples in Nikko, climbed the mountain and built a small shrine on its summit. Worshippers pray to the deities of Mt. Nantai at this Okunomiya Shrine which belongs to the Nikko Futarasan Shrine.

Volcanic activity by Mt. Nantai created Lake Chuzenji and the surrounding landscape in ancient times. The hiking trails up the 2,486 m mountain pass through Japanese beech (*Fagus crenata*) changing to Northern Japanese hemlock (*Tsuga diversifolia*) forests. The summit offers a view of majestic Lake Chuzenji, the Senjogahara Wetland, and Mt. Fuji on clear days. A symbol of the Oku-Nikko region, Mt. Nantai is designated as one of Japan's top 100 mountains. There are stunning views of Mt. Nantai from vantage points throughout Oku-Nikko.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

男体山

男体山は山岳信仰を信仰する人々から聖地として考えられて来ました。山岳信仰とは、山々の神聖さ重きを置く信仰の形で、男体山は日光の社寺とも深い関係を持っています。

782年日光の社寺を創始した勝道上人(735-817)が男体山に登り、山頂に小さな祠を作りました。登拝者は、この日光二荒山神社奥の宮で、男体山の神に祈りを捧げます。

男体山の太古の火山活動は中禅寺湖や周辺の景観を生み出しました。

2,486mのハイキングコースは、ブナ林を通り抜け、やがてコメツガ林に変わります。山頂では中禅寺湖、戦場ヶ原の見事な眺めを望められ、晴れた日には富士山まで見渡せます。奥日光エリアの象徴として、男体山は日本100名山にも認められています。男体山の見事な姿は、奥日光の様々な場所から眺めることができます。

本事業以前の英語解説文

Mt. Nantai

Mt. Nantai is a beautiful cone-shaped mountain with an elevation of 2,486m that is symbolic of Oku-Nikko. Since

ancient times, it has been revered as a holy site in Japan's mountain worship tradition, and is also affectionately referred to as Mt. Kurokami, Mt. Futara, Mt. Fudaraku, etc. It is counted among Japan's 100 famous mountains and its summit offers spectacular views that attract a large number of mountain climbers and pilgrims.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Ryuzu no Taki Falls

The Ryuzu no Taki Falls were formed by lava flows from eruptions by Mt. Nantai. The falls flow over rock formed from consolidated ash from the eruptions. The name of the falls means “dragon’s head.” In Japanese, “ryu” means dragon, and “zu” head. The basin at the foot of the waterfall is said to resemble a dragon’s face, and the cascades of water are said to look like flying dragons.

Oku-Nikko is famous for its many different types of maple trees and the gorgeous autumn colors they produce. The foliage contrasts vividly with the cascading waters, attracting many visitors. The waterfall is also stunning in late May when the Togoku mitsuba tsutsuji (*Rhododendron wadanum*) are in bloom.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

竜頭滝

竜頭滝は男体山の噴火による溶岩流によって形成されました。現在は、噴火によって生じた灰が固まってできた岩の上を、水が滑り落ちています。滝の名前は日本語で「龍の頭」という意味です。日本語では、“竜”とはドラゴンを、“頭”とは頭を意味します。滝つぼが竜の顔に似ていると言われており、流れ落ちる水の様子は竜が飛んでいる姿のように見えると言われていたのです。

奥日光は楓の種類が多いこと、それらが織りなす華やかな秋の色彩で知られています。紅葉と滝の水の鮮やかなコントラストが、多くの観光客を惹きつけています。トウゴクミツバツツジが咲く五月下旬もまた、(景観が)素晴らしいです。

#### 本事業以前の英語解説文

Ryuzunotaki Falls

The Ryuzunotaki Falls have a height of roughly 60m, and drop from the slanted cliff over a distance of roughly 210m. The water that falls down from the falls passes through Jigoku River and pours out in Lake Chuzenji at Shobugahama. There is a trail alongside the falls that offers view of vivid Togokumitsubatsutsuji (*Rhododendron wadanum*) and other flowers in late May, and of spectacular autumn leaves in the autumn period.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Senjugahama Beach

Located at the western end of Lake Chuzenji, the Senjugahama beach offers majestic views of Mt. Nantai. Japanese oak (*Quercus crispula Blume*) and Japanese elms (*Ulmus davidiana var. japonica*) dot the shore. This beach is the start and end point for hikes along the shores of Lake Chuzenji. Access here is restricted to pedestrians and low-emission buses. Senjugahama Beach is especially popular in the early summer when the magenta-colored Japanese primroses (*Primula japonica*) are in bloom.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

千手ヶ浜

中禅寺湖の西岸に位置するこの浜からは、男体山の壮大な景色が一望できます。浜には、ミズナラやハルニレなどの木点在しており、この場所を起終点とする中禅寺湖岸沿いのハイキングコースがあります。千手ヶ浜へのアクセスは、歩行者と低排出ガスのバスに限られています。

ここを訪れた人々たちからは、マゼンタ色のクリンソウが一面に咲く初夏に特に人気があります。

#### 本事業以前の英語解説文

Senjugahama Beach

Senjugahama Beach stretches out on the west bank of Lake Chuzenji, and offers front-facing wide panoramas of Mt. Nantai. It is populated with many large trees such as Mizunara (*Quercus crispula Blume*) and Japanese elm (*Ulmus davidiana var. japonica*), and allows for enjoyable walks through the nature-rich lakeside area. It is accessible by the low-emission busses that run seasonally from Akanuma. Alternatively, there is a hiking trail that leads to the beach.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Sai no ko

Lake Sai no ko is a small lake to the west of Lake Chuzenji. This lake was once connected to Lake Chuzenji, but sediment from rivers separated the bodies of water. The fertile soil here allows Japanese ash trees (*Fraxinus mandshurica* var. *japonica*) and other trees to thrive along its peaceful shores. Visitors can fully immerse themselves in nature here, enjoying the crystal-clear waters and pure air interrupted only by the sound of the breeze and birdsong. You may hear the calls of the deer, or maybe even encounter one.

To protect the pristine ecosystem, only pedestrians and low-emission buses are allowed into this environment. A short, 30-minute hike to Lake Sai no ko from Senjugahama Beach takes visitors through attractive woodland.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

西ノ湖

西ノ湖は、中禅寺湖の西に位置する小さな湖です。この湖はかつて中禅寺湖とつながっていましたが、川からの土砂によって切り離されました。その肥沃な土は、ヤチダモなど、穏やかな岸辺の木々が成育するのを助けています。（この場所を訪れた人々は、風と鳥の声だけが聞こえる空間で、透き通った水、きれいな空気などの自然に浸ることができるでしょう。（時には）鹿と出会い、彼らの鳴き声を聞くこともあるかもしれません。本来の生態系を守るため、歩行者と低公害バスのみがここへ来られるようになっています。千手ヶ浜から西ノ湖への 30 分あまりの短いハイキングコースは、魅力的な森林の中を通っています。

本事業以前の英語解説文

Lake Sainoko

Lake Sainoko is a small lake located west of Lake Chuzenji. The area surrounding the lake is populated with Yachidamo (*Fraxinus mandshurica*) trees. Long ago, the lake was part of Lake Chuzenji, but earth and sand deposits from Toyamazawa River and Yanagizawa River separated the two. Lake Sainoko can be reached via a roughly 20-min hiking course starting from the low-emission bus route.



【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Senjogahara Wetland

The Senjogahara Wetland is one of the largest wetlands that can be relatively easily accessed from Tokyo. Formed around 10,000 years ago when Mt. Nantai erupted, its name means “battlefield.” It is said that the deities of Nikko’s sacred Mt. Nantai and Mt. Akagi, a nearby mountain in Gunma Prefecture, fought over control of Lake Chuzenji here. The broad wetland, with its lush greenery and fascinating natural history, can be explored via a wooden walkway designed to help conserve the wetland environment.

Plants, including peat moss (*Sphagnum*), cover the wetland for many kilometers. The wetlands are particularly beautiful between May and October, when Japanese crabapple (*Malus sieboldii*), hare’s tail cottongrass (*Eriophorum vaginatum*), and a wide range of other plants flower. In areas that have accumulated deeper soils, the bright pink flowers of Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*) bloom profusely, a symbol of the delicate balance and subtle changes within this fragile wetland environment.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

戦場ヶ原

戦場ヶ原は、東京近郊にある最も大きな湿原のひとつです。約 1 万年程前に男体山の火山活動でできたこの湿地の名前は、「戦場(battlefield)」という意味です。日光の聖なる男体山の神と、群馬県の赤城山の神が、中禅寺湖をめぐる、かつてここで戦ったと言われています。(戦場ヶ原は)豊かな緑と魅力的な歴史を持つ広大な湿地で、域内を木製の遊歩道で探索することができます。この小道は、湿地の環境保全につながるよう設計されています。

何 km にも渡ってミズゴケなどの植物が、戦場ヶ原を埋め尽くしています。この湿原が特に美しいのは 5 月から 10 月の間です。(この時期、)ズミやワタスゲなどの多種多様な花が咲き誇ります。土が堆積したところにはピンク色の花を豊かに咲かせるホザキシモツケが出現しており、戦場ヶ原湿原内の繊細な環境バランスと、その変化を示しています。

#### 本事業以前の英語解説文

Senjogahara Wetland

Senjogahara (“battle field”) Wetland derives its name from a legendary battle between the deities of Mt. Nantai and Mt. Akagi in ancient times. The wetland is largely covered by water, and features a diverse range of vegetation including

Peat Moss (*Sphagnum*) and Sedges (*Carex*). In the period from May to October, the footpaths through the wetland offer pleasant views of various flower species such as Zumi (*Malus toringo*), Japanese azalea (*Rhododendron japonicum*) and Sorbaria grandiflora (*Spiraea salicifolia*).

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Odashirogahara Wetland

The Odashirogahara Wetland is one of four wetlands most associated with Nikko. Although it is classified as a wetland, it looks more like a grassland or prairie. Japanese larches (*Larix kaempferi*), Japanese oaks (*Quercus crispula Blume*), and a variety of other plants thrive here. Birdwatching can be enjoyed year-round. Access to this sensitive area is restricted to low-emission buses and visitors on foot. The relatively small size of Odashirogahara allows visitors to fully appreciate the tranquility of the wetland via a 2 km wooden walkway around the perimeter.

The wetland is known for its lone white birch, known as “Kifujin” in Japanese which means noblewoman. It attracts many photographers. The multicolored grasses are like a brilliant tapestry in the fall. In the spring and summer, iris and Japanese thistle (*Cirsium japonicum*) bloom, creating a colorful, stunning landscape. On rare occasions after heavy rain, an indigo pond appears as if by magic, creating a unique wetland scene.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

小田代原

小田代ヶ原湿原は、日光を代表する4つの湿原のうちの1つです。湿地と分類されていますが、その見た目は草原のようです。ここでは、カラマツやミズナラなど多くの植物が育っており、1年中バードウォッチングを行うこともできます。センシティブな(影響を受けやすい)場所であるため、アクセスは低公害バスか歩行者に限られます。小田代原は比較的コンパクトな大きさであり、旅人は外周2km程の木の遊歩道を歩きながら、その平穏な雰囲気を楽しめます。

この湿原は、貴婦人と呼ばれる1本のシラカンバで知られ、多くの写真家を魅了しています。秋の色とりどりの草(訳注：草紅葉のこと)は、まるで華麗なタペストリーのようです。春と夏にはノハナショウブとノアザミが咲き誇り、色とりどりの素晴らしい景色を作り出します。稀にある大雨の際には神秘的な藍色の池が形成され、独特の湿地の風景を作り出します。

#### 本事業以前の英語解説文

Odashirogahara Wetland

The Odashirogahara Wetland is a wetland that stretches out over roughly 2km inside forestland. It has a famous

Japanese white birch tree that is referred to as "the lady of Odashirogahara," and attracts a large number of hikers every year. It is surrounded by a hiking trail, and many flowers can be observed in the area during the period from spring to summer. During the autumn period, the vegetation assumes autumn colors that create a spectacular mosaic-like appearance.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Yudaki Falls

Yudaki Falls are a majestic sight, roughly 70m high and 110m long. They are located at the southern end of Lake Yunoko. The waterfall is believed to have been formed by lava that flowed from nearby Mt. Mitsudake. The dramatic, awe-inspiring waterfalls are best seen from the observation platform by the basin close to the falls. During heavy flows, a fine mist from the tumbling falls helps cool visitors! Many hikes into Oku-Nikko, including the Senjogahara, Lake Yunoko, and Odashirogahara routes, pass by the Yudaki Falls.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

湯滝

湯滝は、高さ約 70m、長さ約 110m メートルの雄大な滝です。この滝は湯ノ湖の南端に位置しており、隣接する三岳からの溶岩流によってできたとされています。滝壺付近の展望台では、ドラマチックで荘厳な滝の姿を眺められるでしょう。滝が激しく流れる中、心地よい霧(ミスト、水しぶき)が訪れた人を冷やします！奥日光でハイキングを行えば、戦場ヶ原コース、湯ノ湖コース、小田代原コースを含む多くのコースで、湯滝に立ち寄ることができます。

本事業以前の英語解説文

Yudaki Falls

Located at the southern tip of Lake Yunoko, the Yudaki Falls have a height of roughly 70m. They drop down in a spectacular fashion from the cliffs created by lava outflows of Mt. Mitsudake, which gave rise to Lake Yunoko. The bottom-level observatory offers an impressive up-close view of the basin of the falls. The top-level observatory allows visitors to enjoy views of the lip of the waterfall as well as wide panoramas of the Senjogahara Wetland and Mt. Nantai.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Lake Yunoko

Lake Yunoko is located close to Oku-Nikko's Yumoto Onsen, a hot spring area with a long history. Similar to other lakes in the park, it is a high-elevation lake formed as a result of volcanic activity. Lava flows from Mt. Mitsudake caused dammed streams that subsequently grew into Lake Yunoko. The seasonal beauty of this lake is best appreciated from the 3 km-long walkway around the lake. There is a small peninsula on the eastern shore of the lake, which has a wetland with cranberry plants (*Vaccinium oxycoccos*) and hare's-tail cottongrass (*Eriophorum vaginatum*).

Blooming Togoku mitsuba tsutsuji (*Rhododendron wadanum*) dot the shores of the lake in May and June, and the water of the lake beautifully reflects the multi-colored foliage in fall. Fishing is popular, and people fishing peacefully at the lake, surrounded by serene forests, is a common sight.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

湯ノ湖

湯ノ湖は、長い歴史を持つ温泉地「奥日光湯元温泉」の近くに位置しています。公園内のその他の湖と同様に、湯ノ湖も火山活動の結果として形成された高地にある湖です。三岳の溶岩流が川流れせき止め、やがて湯ノ湖が形成されました。この湖の季節ごとの美しさは、湖を囲む 3km の歩道からもっともよく鑑賞できます。湖東部の小さな半島には、ツルコケモモやワタスゲのある湿原があります。

5 月や 6 月には、トウゴクミバツツジが湖に咲き、秋には色とりどりの紅葉を湖の水が美しく映し出します。フィッシングの場としても人気で、穏やかな樹林に囲まれた湖で、優雅に釣りを楽しむ人々の姿も、定番の風景です。

#### 本事業以前の英語解説文

Lake Yunoko

Lake Yunoko has a circumference of roughly 2.8km and is located at an elevation of 1,480m. It is a dammed lake formed by lava outflows from Mt. Mitsudake. There is a hiking trail that goes around the lake and from mid-May to mid-June, visitors can enjoy views of Azumashakunage (*Rhododendron degronianum*) flowers. It is also an excellent location to observe various species of water birds throughout the year.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Mt. Nikko Shirane

Located in the west of Nikko National Park, at 2,578m Mt. Nikko Shirane, a strato-volcano, is the tallest mountain north of and contained within the Kanto area in eastern Japan. It is designated as one of the top 100 mountains in Japan. Alpine plants, including Shirane aoi (*Glaucidium palmatum Siebold & Zucc.*), grow in abundance on the mountain. Hikers can access the mountain from both the Oku-Nikko Yumoto Onsen area and the Sugenuma trailhead in Gunma Prefecture.

Located part way along the mountain trail is Goshikinuma (literally “Five-Color Lake”), known for its ethereal, multihued waters.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日光白根山

日光国立公園の西部に位置する、標高 2578 メートルの日光白根山は、関東地方以北で最も高い山であり、成層火山です。また、この山は日本百名山に選ばれています。この山にはシラネアオイなどの高山植物が多く育っています。この山へは、奥日光湯元温泉や群馬県側の菅沼登山口等から登ることができます。

登山道の途中には、その多彩な色で知られる五色沼(5つの色の沼)があります。

#### 本事業以前の英語解説文

Mt. Shirane

With an elevation of 2,578m, Mt. Shirane is the highest mountain of the Kanto area. It is ranked among Japan's 100 famous mountains together with Mt. Nantai, and is accessible via mountain trails from Yumoto, the Konsei Pass, Lake Suganuma, Lake Marunuma, and other locations. Goshikinuma Pond is situated between Mt. Mae-shirane and Mt. Goshiki. A peculiar feature of the lake, which attracts large number of hikers, is that the water surface is said to change color depending on the day.

【施設名】ビジターセンター展示②

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Lake Kirikomi and Lake Karikomi

Lake Kirikomi and Lake Karikomi are small, twin lakes located in northern Oku-Nikko. The lakes are connected by a narrow channel, which makes them look like a gourd. The shape of the lakes is believed to have been made long ago by lava flows from Mt. Mitsudake. The names of the lakes are linked to myths surrounding the great priest Shodo (735–817), founder of the temples and shrines of Nikko. It is said that he hunted down and killed an evil snake. In Japanese, *kiri* means to cut, *kari* means to hunt, and *komi* means to push down. Surrounded by subalpine forest, the lakes are relatively unknown, even though the environment is pristine. The lakes can be accessed and explored on a hiking trail that links the Yumoto Onsen and Kotoku Onsen hot spring areas of Oku-Nikko, passing through immaculate coniferous forest.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

切込湖と刈込湖

切込湖と刈込湖は、奥日光の北部にある小さな2つの湖です。この2つの湖は狭い水路でつながっており、ひょうたんのような形をしています。はるか昔に三岳から流れた溶岩流によって形成されたと考えられています。その名前は、奥日光を開山した勝道上人(735–817)に関わる伝説に由来しています。伝説によると、勝道上人は悪いへびを狩り殺したと言われています。日本語で「Kiri」は切る、「Kari」は狩るの意味を持ち、「Komi」には込める(沈める)という意味があります。亜高山帯の森に囲まれ、手つかずの風景がある秘境として知られています。これらの湖は、奥日光湯元温泉と光徳温泉の間にある、針葉樹林を通り過ぎていくハイキングコースを辿ってアクセスすることができます。

本事業以前の英語解説文

Lake Kirikomi & Lake Karikomi

Lake Kirikomi and Lake Karikomi are twin lakes that are connected in a calabash-like shape. Similarly to Lake Yunoko, they were formed as dammed lakes by lava outflows from Mt. Mitsudake. The two lakes are located on a hiking course that circles around Mt. Mitsudake starting from Yumoto Onsen and heading toward Kotoku. There is virtually no human activity in the area surrounding the lakes, allowing visitors to enjoy peaceful walks through the forests.



【施設名】日光湯元施設展示施設 HP

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

Nikko Yumoto Visitor Center

Discover More About the Rich Natural Environment of Nikko at the Nikko Yumoto Visitor Center

The Nikko Yumoto Visitor Center is a one-stop resource where travelers can discover more about nature in Oku-Nikko. It is located beside Lake Yunoko in Oku-Nikko Yumoto Onsen in the Nikko National Park. The facility is highly recommended for travelers wanting to make the most of their time in this region, which is famous for its dramatic landscapes, unique wildlife, and fascinating history. Visitors are encouraged to join a nature tour to learn more and experience Oku-Nikko more fully. Detailed information on tours and events can be found at the center.

First-time visitors to Nikko and travelers of all ages are welcome. There are no charges for using the facilities at the center.

Operating Hours

Nikko Yumoto Visitor Center hours of operation vary with the seasons.

April to November: Open every day from 9 a.m. to 4:30 p.m. (8:30 a.m. to 5:30 p.m. from July 1<sup>st</sup> to August 31<sup>st</sup>).

December and January: Open weekends only from 9:30 a.m. to 4:30 p.m.

February and March: Open every day from 9:30 a.m. to 4:30 p.m. Closed Wednesdays.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

日光湯元ビジターセンター

日光湯元ビジターセンターで、日光の豊かな自然環境を発見しよう

日光湯元ビジターセンターは、奥日光地域の自然についてたくさんのことを学ぶことができる場所です。日光国立公園の奥日光湯元温泉の湯ノ湖近くにあります。

この施設は、素晴らしい風景、特徴的な野生生物、そして魅力的な歴史を持つ当地域で、自分の時間を最大限活

用したいと考える旅行者に強くオススメです。奥日光についてよりたくさんのことを学び、経験するためには、自然体験ツアーに参加するのも良いでしょう。詳しいツアー、イベント情報はセンターで入手できます。

日光に初めて来る人も、どんな年齢の人々もこの施設を使うことができ、施設の利用料はかかりません。

#### 営業時間

日光湯元ビジターセンターの営業時間は季節によって異なります。下記をご覧ください。

4月から11月：毎日午前9時から午後4時半まで（7月1日から8月31日までは午前8時半から午後5時半まで）

12月と1月：午前9時半から午後4時半まで 平日には休業

2月と3月：午前9時半から午後4時半まで 水曜日は休業

#### 本事業以前の英語解説文

Welcome to the Visitor Center

The facility located at Yumoto Onsen is the travelers' hub of the Oku Nikko area where we provide the information necessary for experiencing nature, including plants, wild animals, and the hiking courses in the area. We also sponsor seasonal events such as nature observation sessions.

#### User Guide

##### Opening days and hours

April to November: Open every day from 9 a.m. to 4:30 p.m.

(8:30 a.m. to 5:30 p.m. in summer [7/1-8/31])

December and January: Closed on weekdays. Open from 9:30 a.m. to 4:30 p.m.

February and March: Closed on Wednesdays. Open from 9:30 a.m. to 4:30 p.m.

#### Admission fee

Free of charge

#### Please note the following upon visiting

Pets are not allowed to enter the facility (except for a guide dog, hearing dog, or service dog.) You are not allowed to eat, drink, or smoke inside the facility. Please take home all garbage. \*For eating and drinking, please use the Park House (the adjacent visitors' building.)

【施設名】日光湯元施設展示施設 HP

【整備予定媒体】W E B

#### できあがった英語解説文

##### About the Visitor Center

The Nikko Yumoto Visitor Center is an excellent resource for visitors to the Oku-Nikko area of the Nikko National Park. The center provides information for visitors and seeks to generally enhance your experience of the Oku-Nikko region.

##### Informative Displays

The main building has displays explaining Oku-Nikko. There is information in English, along with photos and exhibits that explain the different environments, wildlife, and history of the region.

##### Activities and Hikes

The visitor center holds special events, including nature observation sessions and guided hikes in the spring, summer, and autumn, and snowshoe trekking during winter. English pamphlets with area information are available for visitors, and employees can provide further assistance.

##### Additional Facilities

Hiking maps and equipment are available for purchase at the front desk in the main building, and snowshoes can be rented in the winter. There is a separate building where travelers can relax and view photographs featuring Oku-Nikko. There is a cafe space inside the center and a deck outside where visitors can rest.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### ビジターセンターについて

日光湯元ビジターセンターは、日光国立公園奥日光地域を訪れた旅行者に対しすばらしい情報を提供しています。旅行者に奥日光の情報を伝え、奥日光地域での体験価値を向上させることを目的としています。

##### 魅力的な展示物

センターのメイン棟では、奥日光を説明する展示が行われています。奥日光エリアの様々な環境、野生動物、歴史に

ついでに、写真やその他の展示物と共に、英語で展示されています。

### アクティビティとハイキング

旅行者向けの特別イベントとして、自然観察ツアー、春夏秋のガイドハイキング、冬のスノーシュートレッキングなどが行われています。英語のエリア情報がパンフレットの形で手に入るとともに、職員がさらなる手助けをしてくれるでしょう。

### その他の設備

メイン棟の窓口では、ハイキングマップやその他の備品を購入できるほか、冬にはスノーシューのレンタルを行っています。別の棟は休憩所として使われており、奥日光の景観を捉えた写真を眺めながら休めます。ビジターセンターの建物内では、カフェスペースと休憩用のデッキが設置されています。

### 本事業以前の英語解説文

About Visitor Center

The facility located at Yumoto Onsen is the travelers' hub of the Oku Nikko area where we provide the information necessary for experiencing nature, such as plants, wild animals, and the hiking courses in the area. We also sponsor seasonal events such as nature observation sessions.

User Guide

Opening days and hours

April to November: Open every day from 9 a.m. to 4:30 p.m.

(8:30 a.m. to 5:30 p.m. in summer(7/1 - 8/31))

December and January: Closed on weekdays. Open from 9:30 a.m. to 4:30 p.m.

February and March: Closed on Wednesdays. Open from 9:30 a.m. to 4:30 p.m.

Admission fee

Free of charge

Please note the followings upon visiting

Pets are not allowed to enter the facility (except for a guide dog, hearing dog, or service dog.) You are not allowed to eat, drink, or smoke inside the facility. Please take home all the rubbish. \*For eating and drinking, please use the Park House (the adjacent visitors' building)

Map around Visitor Center

Access

By car

Enter Nikko Utsunomiya Road (limited highway) from the Utsunomiya Exit on the Tohoku Expressway and get off at the Kiyotaki Exit. Yumoto is about 40 minutes from the exit on National Route 120.

By train

Use a bus bound for Yumoto Onsen from Nikko Station on the JR Line or Tobu Nikko Station on the Tobu Line. The amount of time required is about 1 hour and 25 minutes.

【施設名】日光湯元施設展示施設 HP

【整備予定媒体】WEB

### できあがった英語解説文

#### Hiking Trails

#### Hiking in Oku-Nikko

Nikko is a popular hiking destination. The stunning, dynamic landscapes including mountains, wetlands, and lakes are easily accessed from Tokyo. There are hiking trails suitable for visitors of all levels, from walks for beginners to more strenuous routes for experienced hikers. The history and development of Nikko is deeply rooted in nature, and Nikko thus offers a great opportunity to enjoy both the great outdoors and traditional Japanese culture.

#### Mt. Nikko Shirane

At an elevation of 2,578 m, Mt. Nikko Shirane is the highest mountain contained in and north of Japan's eastern Kanto region. It is designated as one of the top 100 mountains in Japan. Hiking routes of varying difficulty and length allow visitors to enjoy superb views of the surrounding lakes from the mountain.

Total Distance: approximately 6.2 km to 12.5 km, depending on the route

Increase in Elevation: maximum 1,091 m

Time Required: approximately 5 to 9 hours, depending on the route

Trailheads: Yumoto Onsen, Sugenuma, Nikko Shiranesan Ropeway

Restrooms: Sugenuma parking lot, Nikko Shiranesan Ropeway Sancho Station

#### Lake Yunoko (circular route)

On the closest hiking route to Nikko Yumoto Visitor Center, Lake Yunoko was formed when lava flows from Mt. Mitsudake blocked a river. Around 90% of its waters are spring water, including natural hot springs. In the winter, steam can be seen rising from the surface of the lake. On the hike towards the towering 70 m Yudaki Falls, there is a wide variety of brightly colored azaleas, and majestic Japanese thuja trees (*Thuja standishii*), and magnificent views of the lake.

Total Distance: approximately 3 km

Increase in Elevation: approximately 1 m

Time Required: approximately 1 to 1.5 hours

Trailhead: Yudaki parking lot

Restrooms: Inside Yumoto Onsen, Yudaki parking lot

#### Senjogahara Wetland Area

The Senjogahara Wetland is located between Lake Yunoko and Lake Chuzenji. It was formed when Mt Nantai erupted in ancient times. Hiking courses start and end at Oku-Nikko's impressive Yudaki Falls and Ryuzu no taki Falls, and follow the gently flowing Yugawa River across the Senjogahara Wetland. The hiking route has some wooden walkway sections and also includes walks through the forest.

Total Distance: approximately 5 km

Increase in Elevation: approximately 100 m

Time Required: approximately 2.5 to 3.5 hours

Trailheads: Yudaki parking lot to Akanuma parking lot

Restrooms: Yudaki parking lot and Akanuma parking lot

#### Lake Kirikomi and Lake Karikomi

Lake Kirikomi and Lake Karikomi are twin lakes formed by lava flows. They are situated along a hike connecting Oku-Nikko Yumoto Onsen and Kotoku. Visitors will reach the emerald-green lakes after an uphill hike from Oku-Nikko Yumoto Onsen. These lakes are surrounded by coniferous forests and are recommended for travelers looking for a serene and tranquil environment.

Total Distance: approximately 10 km

Increase in Elevation: approximately 300 m

Time Required: approximately 4.5 hours or longer

Trailheads: Yumoto Onsen parking lot, Kotoku parking lot

Restrooms: Yumoto Onsen (north parking lot), Kotoku parking lot

#### Lake Chuzenji

Lake Chuzenji is a large lake in Oku-Nikko which became popular with foreign diplomats in the early twentieth century who came to enjoy its pristine nature and cool summer climate. The northern side of the lake has a number of historic villas which formerly belonged to foreign embassies. The southern side of the lake has a 13-kilometer hike along which visitors can enjoy the peaceful sound of waves lapping on the shores and unspoiled views. Due to its length, the southern route is recommended for stronger hikers.

Total Distance: approximately 13 km

Increase in Elevation: approximately 50m

Time Required: approximately 4.5 hours or longer

Trailheads: Utegahama parking lot, Senjugahama bus stop

Restrooms: Utegahama parking lot, Senjugahama bus stop

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## ハイキングコース

### 奥日光でのハイキング

日光には、山、湿原、湖などの見事でダイナミックな風景があり、東京からアクセスしやすいことから、ハイキングができる場所として有名です。初心者のための散策コースから、経験豊富なハイカーのためのより厳しいコースまで、あらゆるレベルの訪問者に適したハイキングコースがあります。日光の歴史と発展は周辺の自然環境に根ざしており、旅行者はここで素晴らしい自然と伝統的な日本文化の両方を楽しむことができます。

### 日光白根山

2578メートルの日光白根山は、日本の東部、関東地域以北で最も高い山です。また、この山は、日本の百名山にも選ばれています。距離、難易度によって複数のハイキングコースがあり、山からは周囲の湖の素晴らしい景色を眺めることができます。

総距離： 6.2 kmから 12.5 km、コースによる

標高差： 最高で 1091m ほど

所要時間： 約 5 時間から 9 時間、コースによる

出発点と終着点： 湯元温泉、菅沼、日光白根線ロープウェイ

トイレ： 菅沼駐車場、日光白根山ロープウェイ山頂駅

### 湯ノ湖(往復)

日光湯元ビジターセンターから一番近くにあるハイキングコースです。湯ノ湖は、三岳の噴火によって流路が溶岩によって川が堰き止められてできた湖です。湖の水の約 90%が湧き水であり、天然の温泉も湧出しています。冬季には湖からは湯気が立ち上る様子が見られます。

このコースでは高さ 70mの高さを流れ落ちる湯滝に向かいながら、道中はクロベの大木やツツジの花々、美しい湖の景色を楽しめます。

総距離： 約 3 km

標高差： 約 1m

所要時間： 1 時間から 1 時間半

出発点と終着点： 湯滝駐車場

トイレ： 湯元温泉内、湯滝駐車場、

### 戦場ヶ原地域

戦場ヶ原は、湯ノ湖と中禅寺湖の間に位置し、太古の男体山の火山活動によって形成されました。ハイキングコースは湯滝や竜頭滝といった奥日光を代表する滝を起終点に、戦場ヶ原をゆったりと流れる湯川を辿ります。整備された



木道や樹林内を歩くことができます。

総距離: 約 5 km

標高差: 約 100m

所要時間: 2.5 から 3.5 時間

出発点と終着点: 湯滝駐車場から赤沼駐車場

トイレ: 湯滝駐車場と赤沼駐車場

#### 切込湖・刈込湖

切込湖と刈込湖は溶岩流によって生まれた 2 つの湖です。奥日光湯元温泉と光徳を結ぶハイキングコースです。奥日光湯元温泉から続く上り坂を越えると、エメラルドグリーン色の湖にたどり着きます。湖の周りは針葉林に囲まれており、穏やかで静かな環境を楽しみたい人にはおすすめです。

総距離: 約 10 km

標高差: 約 300m

所要時間: 4.5 時間以上

出発点と終着点: 湯元温泉駐車場、光徳駐車場

トイレ: 湯元温泉北駐車場、光徳駐車場

#### 中禅寺湖

中禅寺湖は、奥日光にある大きな湖で、20 世紀初めに、その手つかずの自然と涼しい夏の気候を楽しむ海外の外交官から人気を集めました。湖の北岸には、歴史的な旧大使館別荘がいくつか残っています。一方でその南岸にある 13km のハイキングコースでは、穏やかな波の音と、手つかずの自然の風景を楽しめます。南のルートは長距離であるため、健脚の方向けです。

総距離: 約 13 km

標高差: 約 50m

所要時間: 4.5 時間以上

出発点と終着点: 歌ヶ浜駐車場、千手ヶ浜バス停

トイレ: 歌ヶ浜駐車場、千手ヶ浜バス停

#### 本事業以前の英語解説文

Hiking Courses

Mt.Nikko-Shirane 2578m(Mountains Map of Around Yumoto Onsen)

Mt.Nikko-Shirane 2578m(Mountains Map of Around Yumoto Onsen)

Mt.Shirane (白根山) , 2578m, is highest mountain in the Kanto region and is one of the best 100 mountains in Japan. Situated on the Gunma/Tochigi prefectural border and just west of Yumoto Spa(湯元温泉). Lake

Karikomi(刈込湖) and Lake Kirikomi (切込湖) are dammed lake in mountain. Twin lakes which were formed when lava from an ancient eruption of Mt. Mitsudake (三岳) blocked river.

It take 4-hour hiking from Yumoto Spa to Kotoku Pasture (光徳牧場). (About 8km)

Round-trip tour of Lake Yunoko

This route is closed in winter.

Distance

About 3 km

Elevation gain

About 1 m

Amount of time required

1 to 1.5 hours

Restrooms

Inside Yumoto Onsen (Lakeside Square)

Yutaki parking lot

Parking lots(Starting point and ending point)

Yumoto Onsen parking lot

Parking space near Yutaki Falls outfall

Yutaki parking lot

Senjogahara (Akanuma to Yutaki)

Distance

About 5 km

Elevation gain

About 100 m

Amount of time required

2.5 to 3 hours

Restrooms

Yutaki parking lot

Akanuma parking lot

Parking lots (Starting point and ending point)

Yutaki parking lot Akanuma parking lot

Lake Kirikomi and Lake Karikomi

Distance

About 10 km

Elevation gain

About 300 m

Amount of time required 4.5 hours or more

Restrooms

Inside Yumoto Onsen (North parking lot)

Kotoku parking lot

Parking lots (Starting point and ending point)

Yumoto Onsen parking lot

Kotoku parking lot

Lake Chuzenji southern shore

Distance

About 13 km

Elevation gain

About 50 m

Amount of time required

4.5 hours or more

Restrooms

Utahama parking lot

Senjugahama parking lot

Parking lots (Starting point and ending point)

Utahama parking lot

【施設名】日光湯元施設展示施設 HP

【整備予定媒体】W E B

#### できあがった英語解説文

##### Experiencing Oku-Nikko

The stunning lakes, waterfalls, peaceful wetlands, and sulfurous hot springs of Oku-Nikko, were formed over millennia by volcanic activity and other natural forces. The region today offers visitors an opportunity to enjoy spectacular landscapes, to encounter wildlife, and to experience the dynamic, ever-changing rhythms of nature.

##### Oku-Nikko's Sacred Sites and Cosmopolitan Face

Towards the end of the Nara period (710–794), the mountains of Oku-Nikko were considered sacred, and generations of novice monks have visited Oku-Nikko for the purpose of religions training. Mt. Nantai has particular spiritual significance, and remains a symbol of Oku-Nikko today.

The shrines and temples of Nikko are designated World Heritage Sites. They are closely connected with the sacred nature of the landscape. Shodo (735–817), the great priest who founded the Futarasan Shrine and Rinnoji Temple at Nikko, is said to have discovered Lake Chuzenji, having spotted it from Mt. Nantai. These sites have been revered ever since, and special events held on the mountain and at the lake continue to this day.

In the nineteenth and twentieth centuries, foreign residents and diplomats were attracted by the beauty and mild climate of Oku-Nikko and built villas, creating one of the first multicultural communities in Japan. The former British and Italian embassy villas on the shores of Lake Chuzenji are open to the public.

This combination of culture with nature is symbolic of the great respect in which the Japanese have held nature since ancient times.

##### Discover the Diverse Flora and Fauna

Spring through summer is a wonderful season in Nikko when the wildflowers are all in bloom. On walks in the wetlands, visitors are likely to see hare's-tail cottongrass and Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*) in the Senjogahara Wetland, and Japanese thistle (*Cirsium japonicum*) in the Odashirogahara Wetland. Hungarian glider (*Neptis rivularis*) and silver-studded blue (*Plebejus argus*), which feed on the flowers of Hozaki shimotsuke (*Spiraea salicifolia*) as caterpillars, can also be observed. This is also the season to watch birds: common stonechats (*Saxicola torquatus*) are regular visitors to the wetlands, and black-faced buntings (*Emberiza spodocephala*) are frequently spotted on Japanese crabapple

trees (*Malus sieboldii*).

Visitors can experience the cool waters of the Kegon no taki Falls and the Ryuzu no taki Falls, while enjoying the colorful azaleas that frame them. With the coming of summer, the lush greenery deepens in color, and the greens of the trees in full leaf are stunning.

When fall comes, Oku-Nikko is transformed. Brilliantly colored leaves carpet the woods, painting Oku-Nikko red and gold.

The region has a wide variety of trees, including maples. Plants in the wetlands, such as Hozaki shimotsuke (*Spiraea sacifolia*), also change color, creating beautiful tapestries of color.

#### Warmth in an Austere White Wonderland

A hush descends on Oku-Nikko as winter closes in. The mountains and grasslands are blanketed in powder snow, the lakes freeze over, and the air is crystal clear. The stillness presses on the senses. Winter activities, including snow shoe hiking and skiing, are highly recommended.

Soaking in the traditional onsen hot springs here is not to be missed during this chilly season. Onsen are popular in Japan, and Oku-Nikko Yumoto Onsen has a long history as a hot spring resort. The region offers many traditional Japanese ryokan inns. Oku-Nikko Yumoto Onsen is the ideal place to lodge as access from there to the Senjogahara Wetland and other areas in Nikko is easy.

#### Going with the Flow: Oku-Nikko's Trails

A good way to enjoy Oku-Nikko's lakes, rivers, and streams is on the paths around Lake Yunoko's shores.

Visitors can begin their journey from the warm waters of Lake Yunoko. Waters from here flow over the Yudaki Falls, and into the Yugawa River. Strolling along the Yugawa River, the gentle flow and clear waters of the river are quite mesmerizing. Following the stream, the path joins the Senjogahara's nature trail, passes the Ryuzu no taki Falls, until eventually reaching Lake Chuzenji. Rain water is filtered and purified through the forest soils, and feeds into the rivers, which in turn flow into Lake Chuzenji. The waters of the lake then cascades over the Kegon no taki Falls, and eventually flows to the towns and villages downstream.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 奥日光を体験する

美しい湖や滝、穏やかな湿地、硫黄の薫る温泉などの奥日光(の自然)は、火山を中心とする周囲の自然活動が、数千年をかけて形づくったものです。この地域では現在、素晴らしい景観や野生動物との出会いを経験でき、絶え間

なく変化するダイナミックな自然の営みを体験できます。

#### 奥日光の聖地と、国際的な一面

奥日光の山々は、奈良時代の後期(710-794)から、聖地として崇められてきており、数多くの修行僧が修験の場として奥日光を訪れました。男体山はそのような宗教的な意味を持ち、今日でも奥日光のシンボルです。

日光の社寺は世界遺産に指定されています。それらの社寺もまた、(日光の)神聖な自然と深い関わりを持っています。

日光を開山し、二荒山神社と輪王寺を創建した僧侶の勝道上人(735年-817年)は、男体山の登頂に成功した際、山の上から中禅寺湖を発見たと言われています。それ以来これらの場所は崇敬を集め続け、現在も山や湖で儀式が続いています(訳注：男体山登拝祭や船禅頂)。

また 19~20 世紀頃、奥日光の美しい景観と冷涼な気候が、日本在住の外国人や外交官を魅了。彼らは別荘を建築し、日本でも最初の多文化コミュニティのひとつが作られました。現在でも中禅寺湖畔の旧英・伊大使館別荘が一般公開されています。

この文化と自然の組み合わせは、日本人が古くから抱いてきた自然への尊敬を象徴しています。

#### 様々な動植物を観察する

まず、春から夏にかけては、花々の咲き誇る素晴らしい季節です。

湿原の散策路を進めば、戦場ヶ原ではワタスゲやホザキシモツケ、小田代原ではノアザミなどの花々が咲く様子を眺めることができます。幼虫時にホザキシモツケを食草とするフタスジチョウやヒメシジミ等の(チョウ)も観察できます。この時期は野鳥観察の季節でもあります。湿原内ではニバキが、ズミ林ではアオジが見かけられやすいです。

華厳滝や竜頭滝まで足を運べば、涼しげに流れる滝の水とツツジの彩りを楽しめます。夏に近づくにつれてさらに青々と深みを増し、木々の緑も見事になります。

秋になれば、奥日光全体が一変します。鮮やかな色の葉が絨毯のように広がり、奥日光中を赤や金色に染め上げるのです。

カエデのような木々だけではなく、この地域には様々な木々が生育しています。湿原ではホザキシモツケをはじめとする植物が色づき、草紅葉のモザイク模様(beautiful tapestries of color)を形作ります。

#### 厳しく白い世界の中にあるぬくもり

冬の奥日光には静寂が訪れます。山々や草原に粉雪がそっと降り積もり、湖は凍結。空気は透き通り、静寂に包まれます。スノーシューハイキングやスキーといった冬ならではのアクティビティもオススメです。

伝統的な温泉(Hot Spring)も、寒い季節には欠かせません。温泉が人気の日本の中でも、奥日光湯元温泉は長

い歴史を持つ由緒ある温泉地です。この地域にはいくつもの旅館があり、戦場ヶ原などの各所にアクセスがしやすいので、滞在の拠点としてもオススメです。

水の流れを辿る、奥日光の散歩道

奥日光の湖、川、小川などを味わいたいなら、ぜひ湯の湖畔から始まる遊歩道を進んでみましょう。

温かい湧水に恵まれた湯ノ湖から旅が始まります。流れた水は湯滝を通じて流れ落ち、湯川に注ぎます。湯川沿いの遊歩道を進めば、穏やかな流れ、透明な水に魅了されることでしょう。水の流れに沿って戦場ヶ原の自然研究路を抜け、竜頭ノ滝の脇を通れば、その先は中禅寺湖。雨水が森林の土壌を通して濾過・浄化され、川に注ぎこみ、やがて中禅寺湖に流れ着くのです。水は中禅寺湖に溜まったあと、華厳の滝を通じて最終的には下流の町や村へと運ばれて行きます。

本事業以前の英語解説文

Nature in Oku Nikko

The area up the Iroha-zaka slope road is called Oku Nikko, where a wide variety of environments are concentrated. Located on the boundary of Pacific-type weather and Japan Sea-type weather and with elevations from about 900 m to 2,500 m, the area has lakes, waterfalls, rivers, forests, and vast marshes. the area is habitat for various animals and plants adapted to the respective environments.

The area has many visitors every year, providing a place for natural experiences, such as appreciation of seasonal flowers and autumn leaves, hiking, authentic mountain climbing, tours visiting waterfalls, bird watching, and fly fishing.

Ryuzu Falls(in spring)

Odashirogahara(in summer)

Lake Yunoko(in autumn)

Frozen Lake Yunoko(in winter)

【施設名】日光湯元施設展示施設 HP

【整備予定媒体】W E B

#### できあがった英語解説文

##### Oku-Nikko Bear Information

##### Bears in Japan and Oku-Nikko

Oku-Nikko is home to the Asian black bear (*Ursus thibetanus*), and bears are often sighted here. Asian black bears are found on Honshu, the main island of Japan, and the island of Shikoku.

##### Characteristics and Behavior

Asian black bears are medium-sized, almost completely black except for a white crescent-shape on the chest. Fully grown adults can reach 110 to 130cm in size, and 40 to 130kg in weight. They are agile tree climbers, and can run at speeds of 40 to 50km per hour, much faster than humans. Asian black bears are omnivores. Their diet consists mostly of plants, supplemented with animal carcasses and bees.

In Oku-Nikko, bears are known to be most active in the early morning and at night, as well as on rainy, foggy, or hazy days. In the spring and autumn, they forage during the day. Winter hibernation is from around December to April in Oku-Nikko, although the bears can wake if startled.

##### Evidence of Bear Activity

Evidence of the presence of the bears in Oku-Nikko includes claw marks on trees, stripped tree bark (*kumabagi* in Japanese), broken branches on trees where bears have foraged for food (*kumadana* in Japanese), footprints, and feces.

##### Bear Safety and Essential Precautions

Visitors should check bear sighting reports in advance. Be cautious during the early morning and early evening hours, and in rainy, foggy, or hazy weather, when these bears are known to be most active. Do not leave uneaten food, food waste, or cans around, as this may attract bears.

##### What to Do If You Encounter a Bear

Encountering bears is dangerous for both visitors and the bear. The bear will feel fear just as you do. Under all circumstances, it is important to remain calm and do your best not to startle or excite the bear.



### 1. Do Not Startle the Bear

Do not startle the bear with sudden noises, running away, taking photos, or flashing a flashlight. Be as quiet as possible.

### 2. Leave the Scene

The best way to avoid danger is to quietly leave the scene immediately, but without running, as this may startle the bear. If you are close to the bear, do not turn your back to it, but move away backward, slowly.

### 3. Hide and Protect Your Neck and Head

If you are unable to leave the scene, try to hide behind a big rock or fallen tree. Protect your neck and head with your arms and curl up into a ball facing the ground. As these bears can run at 40 to 50km per hour, can climb trees, and swim, we humans are not fast enough to outrun them.

### 4. Keep Well Away from Bear Cubs

Bear cubs are adorable, but the mother is always nearby and will aggressively protect her cubs. Leave the scene quietly if you encounter bear cubs.

### The Role of Bears in Oku-Nikko

The bear population of Oku-Nikko plays an important part in the ecosystem here. Bear sightings are not uncommon, although there have been extremely few incidents resulting in human injury. Even so, visitors are strongly recommended always to take precautions to protect themselves and to respect the presence of the bears, so that bears and humans can peacefully coexist.

### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

#### 奥日光の熊について

#### 日本と奥日光の熊

奥日光はツキノワグマの生息地となっており、よく目撃されています。日本でツキノワグマは本州と、本州の南西にある四国に生息しています。

#### 特徴とふるまい

ツキノワグマは中型で、胸の白い三日月型の模様を除くとほぼ全身が黒いです。成熟した大人は、110 から 130 センチほどの大きさで、40 から 130 キロほどの重さになります。彼らは木登りが得意です。また、人間よりも格段に速い時速 40 から 50 キロほどで走ることができます。ツキノワグマは主に雑食性です。主に植物を食べますが、死んだ動物の肉やハチなども食します。

奥日光では、熊たちは早朝と夜、また雨の降っている日、もやのかかっている日、霧の濃い日などに最も活発であるとされています。春と秋には彼らは日中に餌を探します。奥日光での冬眠は 12 月から 4 月ごろとなっていますが、彼らは時に脅かされると起きることがあります。

## 熊の活動の痕跡

奥日光の熊たちの存在を示す痕跡としては、木にある爪痕や、樹皮を剥いだ跡(日本語で熊剥ぎ)、熊が樹上で採餌の際に折った折れた枝の集まり(日本語で熊棚)、足跡や、フンなどがあります。

## 安全と大切な予防処置

奥日光では、熊の目撃レポートを事前にチェックする必要があります

熊の活動が最も活発になるのは朝や夕方の時間、そして雨や霧、曇りなどの天候時です。このようなときは、十分に注意して下さい。食べ残し、食べ物のゴミ、缶などは放置しないで下さい。熊を引き寄せることがあります。

## 遭遇した際の対処法

熊と遭遇することは、訪問者だけでなく熊にとっても危険な状況です。人が熊と遭遇した時に危険を感じるように、熊も危険を感じています。どんな状況下でも、何よりも冷静さを保ち、熊を驚かせたり興奮させないように、最善を尽くすことが大切です。

### 1. 熊を驚かせない

突然音を出す、逃げる、写真を撮る、懐中電灯を向けるなどして、熊を驚かせないようにしましょう。できる限り静かにしましょう。

### 2. その場を立ち去る

危険を避ける最善の方法は、すぐさま静かにその場を立ち去ることですが、この際、熊を驚かせる可能性があるため、走ってはいけません。もし熊との距離が近い場合には、熊に背中を向けずに、後ろ向きに動きゆっくりと距離を取りましょう。

### 3. 首と頭を隠し、守る

その場を立ち去ることが不可能な場合には、大きな岩や倒木の下に隠れるべきです。腕で、首と頭を守り、ボールのように丸くなり地面に伏せましょう。熊は時速 40-50 キロで走り、木登りもでき、泳ぎも得意です。人間が逃げられる速さではありません。

### 4. 子熊から距離をとる

子熊はとても可愛らしいですが、常に母熊が近くにおり、攻撃的に子を守ろうとします。子熊にでくわしたら、その場を静かに立ち去りましょう。

## 奥日光における熊の役割

奥日光の熊は、この地域の生態系にとってとても重要な役割を果たしています。熊の目撃情報は少なくありませんが、人間が怪我をする事故はとても少ないです。それでも訪問者のみなさまには、熊から身を守るための予防処置を講じ、熊の存在に敬意を持つことを強くオススメします。そうすることで、熊と人間は平和に共存することができるのです。

## Bear Information

### About the bears

The following is the basic biology of the Asian black bear.

### Distribution

In Japan, there are two kinds of bears-the Asian black bear and the brown bear. The Asian black bears in Oku Nikko are distributed throughout Honshu and the Shikoku Islands (extinct on Kyushu Island).

\*The brown bear lives only in Hokkaido in Japan.

### Feeding

Bears are omnivorous and feed on beech-tree sprouts and bamboo in spring; leaves and grass seeds, termites, and honeycombs in summer; and nuts from oak, beech, and chestnut trees in autumn. They also eat fish, dead deer, and wild rabbits.

### Form

[Bodily characteristics]

- Physical ability: Good at climbing trees and swimming and can run faster than humans.

- Body: Entirely black except a white pattern like a crescent on the chest (with few exceptions without such a pattern).

Have sharp claws and fangs. Adults measure 110 cm to 130 cm in length and weigh 40 kg to 130 kg.

### Behavior

Rather than marking their territory, they seek seasonal food. When they are short of food, they expand their range.

They forage within a range of 40 to 70 sq. km.

[Hours when they are active]

- Although bears are most active in early morning and evening, they forage throughout the day in spring and autumn.

Additionally, they are active in the daytime when it's raining, foggy, or hazy.

### Hibernation (Winter confinement)

After having accumulated fat from eating acorns in autumn, bears hibernate from around December to April. Because bears generally do not lower their body temperature during hibernation, they sometimes wake from any external stimulation, so it is also called fuyugomori (winter confinement.)

### Traces

In their habitat, bears leave traces, such as feces, claw marks on trees, peeled off tree bark (kumahagi), and collections of broken tree branches showing that they foraged for the nuts on trees (kumadana).

traces

feces

kumadana

kumahagi

To avoid danger

It is important to let bears know of your presence and not get close to bears.

Check where they are witnessed

Check in advance for information on bear sightings and keep away from places where bears have been seen.

Let bears know your existence

The most important thing is to let bears know of your presence with a bear bell (\*) in order to avoid sudden encounters. Although you may encounter a bear even when wearing a bear bell, the risk is much less if the bear is alerted to your presence from the sound of the bell. Conversely, sudden encounters are the most dangerous, so you need to be careful, especially in places with poor visibility or where there may be bears by not running and by making noise. However where there are a lot of people, you need to give consideration to the others by not making too much noise.

\*High-pitched sound that resonate to distant places is effective. Radios, etc., are not appropriate.

Avoid acting in morning and evening, and separately

Early morning and early evening are the times when bears are most active, so be especially careful. The same is true when it's raining, foggy, or hazy. Incidentally, in recent years, bears have often been seen during the daytime regardless of time and weather, so please be careful.

Do not create dangerous bears

Leaving garbage, uneaten food, and empty cans outside will attract bears. Never discard or bury garbage.

If encountered

It is dangerous not only for you but also for the bear. If you encounter a bear, remain calm and do not do anything that may excite the bear.

Leave quietly

If you are far away from the bear, do not run or make noise-instead leave quietly. When you are close to the bear, do not turn your back-instead move backward slowly. If you are very close, wait for the bear to leave, and then leave the place.

Do not excite the bear

The bear is also upset when encountering humans. Behaviors, such as shining a flashlight on the bear, taking a picture, and running (moving suddenly), are very dangerous regardless of the distance.

Do not get close to bear cubs

Bear cubs can be very cute, but the mother is always nearby. Mother bears are especially aggressive in order to protect their children, so never get close.

If attacked

Because Asian black bears can run at 40 to 50 km per hour, and can climb trees and swim, think about protecting your body instead of running away. Curl up in a ball, face down, and protect your neck and head with your arms, or hide behind a big rock or fallen tree, while waiting for the bear to leave.

【施設名】湯本集団施設地区（奥日光湯元温泉）

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Oku-Nikko Yumoto Onsen Hot Spring

Oku-Nikko Yumoto Onsen is a natural hot spring onsen thought to have been discovered 1,200 years ago, possibly in 788, by Shodo (735–817), a great monk who founded the temples and shrines of Nikko. The traditional practice of “*toji*”, when people visit hot springs for an extended time to heal ailments and improve health, is still practiced here at Yumoto Onsen. Nearby Onsenji Temple, a branch of Rinnoji Temple, where the main image is a Yakushi Nyorai (Healing Buddha), and Onsen Shrine, a Shinto shrine founded by Shodo and dedicated to the guardian deity of onsen, can both be visited. A mini bronze shrine found at Onsen Shrine is engraved with the year 1513, suggesting the hot springs were in use at that time.

Many bath facilities and traditional Japanese ryokan inns were constructed here during the Meiji period (1868–1912). Many of the buildings date today back to the rebuilding after a catastrophic fire in 1928. The sources of the sulfurous hot springs are in the surrounding mountains and the waters are a milky-white color. Their coloration is the result of oxidation. Yunodaira Wetland in Oku-Nikko has numerous hot spring sources where hot water bubbles up from the ground. There are many wooden huts here built above the hot springs. The huts supply hot spring water to the ryokan nearby. Visitors are welcome to enjoy these unique hot springs. The waters are believed to have many health benefits, including improving the circulation.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

奥日光湯元温泉

奥日光湯元温泉は、約 1200 年前、おそらく 788 年に、勝道上人(735–817)によって発見されたと考えられている天然温泉です。勝道上人は、日光の社寺を創始した高僧として知られています。(日本には、)病気を治し、健康を増進させるために長期間温泉を利用する「湯治」という文化があり、奥日光湯元温泉もこのようにして使われてきました。輪王寺に関係し薬師如来を祀る温泉寺、温泉の守り神として勝道上人が創建した温泉神社の両方に訪れることができます。温泉神社で見つかった 1513 年に彫られた青銅製の小さな祠は、この温泉が当時利用されていたことを示唆しています。

明治時代(1868–1912)、多くの温泉施設や旅館がこの地域に建ち並びました。現在の建物の多くは、1928 年の大火災の後で再建されたものです。周囲の山から湧き出る硫黄の温泉は、酸化によって乳白色をしています。源泉の

集まる湯ノ平湿原では、地面のいたるところから温泉が湧き出ています。温泉の上には木の小屋が多く建てられ、そこから近くの旅館に温泉水を供給しています。ここを訪れた人々は、これらの温泉を楽しむのがオススメです。温泉は血行改善などの健康的な効能が望めるでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

## **Mt.6 多言語解説整備協議会（草津）**



【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Just a five-minute drive from the hot spring town of Kusatsu Onsen, this ski resort's powder snow and fun family activities have attracted visitors since 1935. From challenging hills with steep gradients to gentle runs perfect for beginners—and plenty in between—there's something for every skill level. The 2018–2019 season features the addition of a new forest trail, R292, which makes use of a roughly two-kilometer stretch of road that is closed to vehicular traffic during the winter.

Always evolving, the resort now offers snowshoeing, with two pleasant forested trails to choose from. For families, the Family Slope and Kids' Park offers skiing, sledding, slides, and bouncy castles, perfect for children.

One of the winter highlights is the Kusatsu Onsen Fuyu Hanabi fireworks show, held on the first Saturday of March (postponed in case of inclement weather). Over 1,000 fireworks light up the sky and the slopes. Coinciding with night-skiing events, fireworks aficionados can enjoy the Tengu-yama Slope with fireworks bursting overhead.

2018–2019 season: December 15th to March 31st

#### Story of Kusatsu Onsen

The hot spring area of Kusatsu Onsen sits on a plateau 1,200 meters above sea level, with the mountains in the west of the region reaching elevations of more than 2,000 meters. Considered one of the top three hot spring resorts in Japan, the city is famed for its *yumomi* bathing culture that grew around a rather unusual way of cooling its piping hot water, and for the large volume of water that springs from its grounds—the highest in Japan at approximately 32,300 liters per minute.

For hundreds of years, a steady stream of bathers has made the journey to Kusatsu to soak in the acidic, sulfur-infused *onsen*. The water's antibacterial properties are said to cure every ailment outside of a broken heart! The healing waters were even transported cross-country to alleviate the afflictions of shogun samurai lords.

In the words of a local folk song, "*Kusatsu yoi tokeo; Ichido wa oide,*" "Come visit Kusatsu once in your life; you are in for a treat."

### **History of Kusatsu Onsen Ski Resort**

With ample amounts of powdery snow, and gentle winter temperatures, Kusatsu is the ideal location for a ski resort. In fact, Kusatsu was one of the pioneers in introducing skiing to Japan. Just two years after skiing was brought to Japan by Austro-Hungarian soldier Major Theodor Edler von Lerch (1869–1945) in 1911, the sport crossed the mountains from Niigata Prefecture to Kusatsu, where it quickly took off. In 1914, just one year after the first skiers took to the area's slopes, the town's first ski resort opened. That same year, Kusatsu's skiing club—the second one in Japan at the time—was established.

In 1935, Kusatsu Onsen Ski Resort—then called Rinkan Ski Resort and consisting of the Tenguyama Slope that still exists to this day—opened its pistes to the public. Since then, it has been home to a number of "firsts" in the development of skiing in Japan. Kusatsu was the first ski resort in Japan to open a chair lift in 1948 and also first resort to operate a ski school. It even hosted Japan's first ever ski tournament.

Along the way, Kusatsu Onsen Ski Resort has continued to add to its historic lineup, opening new trails, chairlifts, and activities. The latest addition is the R292 Trail, which was opened during the 2018–2019 season.

Skiing the hills of Kusatsu makes you part of the history of the sport in Japan. Visitors will carve up the same slopes as some of the first Japanese skiers did over one hundred years ago.

### **Kusatsu Quality**

During the winter months, Kusatsu is blessed with fresh snowfall multiple times per week. The regular availability of fresh snow is just one of the joys of skiing and snowboarding in Kusatsu.

But beyond great snow, ski resorts also need to preserve the surrounding natural environment and wildlife habitats. Kusatsu Onsen Ski Resort is part of the Mt.6 (Mount Six) group of mountain resorts. Since 1999, this group has strived to preserve the culture of classic ski resorts while providing top-notch service to patrons, both on the slopes and in the nearby natural hot springs.

### **Fun for the Whole Family**

Besides skiing and snowboarding down the slopes, Kusatsu Onsen Ski Resort offers many options to enjoy the snow and scenery. With a huge range of winter sports and activities, visitors of all ages and abilities are sure to leave with smiles on their faces. In addition to skiing and snowboarding, Kusatsu Onsen Ski Resort also offers snowshoeing, and for younger children, a sledding hill and an outdoor play park. Indoors, families ready for a break will find a playroom, as well as a supervised day-care center where parents can entrust their young children and enjoy some time alone on the slopes.

### **A Year-Round Resort**

While most famous for its powder and soothing hot water, Kusatsu Onsen Ski Resort is not just a winter destination. During the green season, the resort is a paradise for outdoor enthusiasts. Kusatsu's natural scenery and the relatively cool summer climate make exploring the hiking routes and seasonal highland scenery a pleasure. Activities like grass skiing, mountain boarding, putter golf, and tennis are also popular.

In spring and summer, the hills are brightened by alpine flowers, while in autumn the mountainside is ablaze with autumn leaves. Breathe in the clean forest air, whether on the slopes and snowshoe trails in winter or hiking the hills during the green season.

### **Food and Drink**

Nothing works up an appetite quite like fresh mountain air, and Kusatsu Onsen Ski Resort has plenty of options to satisfy the keenest skier. Located at the base of the main Tenguyama Slope you will find Tenguyama Main Restaurant, Tenguyama Cafe, and Tenguyama Lodge. Hungry skiers can choose from a wide variety of Japanese and international dishes, including ramen noodles and *katsudon* pork cutlet rice bowls, as well as favorites like pizza, beef stew, loco moco, and more. A Special Kids' Plate, complete with a drink and dessert, is available for younger guests. Be sure to try *maitake*, a type of mushroom considered a local delicacy!

Skiers craving a snack on the slopes can find high-altitude sustenance at Tenguyama Tenbo Cafe (coffee and light meals), Onari Lodge (hot drinks and snacks), and Aobayama Restaurant (homemade Chinese cuisine).

### Relaxing Onsen Hot Spring

After a day on the slopes, soothe your muscles with a long soak in the local *onsen*. Kusatsu Onsen is considered one of the top three hot spring regions in the country, and is home to an extraordinary number of public baths and outdoor *rotenburo* baths, the vast majority of which accommodate international visitors with body art. So do not be shy—ease your tired bones and aching muscles into an *onsen* and emerge from the restorative waters refreshed and ready to tackle the slopes again.

### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

草津温泉街から車でたったの 5 分。このスキーリゾートのパウダースノーと家族向けレジャーの数々は、1935 年以来、多くの訪問客を惹きつけてきました。難易度の高い急斜面から、初心者にぴったりの緩やかなコースまで、全てのレベルの人に対応した様々なスキーゲレンデが用意されています。2018-2019 年シーズンには、新たな林間コース、R292 が追加されました。このコースは、2 キロの長さの道路を冬季通行止にして利用しています。

このリゾートは常に進化を続けており、現在では、爽やかな林道 2 種類から選択して、スノーシューもお楽しみいただけます。家族向けには、ファミリーゲレンデとキッズパークで、スキーやそり、滑り台やフワフワ遊具で遊べるので、お子様も大満足。

冬の一大イベントとなる花火ショー、草津温泉冬花火は、3 月の第一土曜日に開催されます（悪天候の場合は延期）。1,000 発以上の花火が、冬の空とゲレンデをライトアップします。花火好きの皆さんは、頭上に花火を望みながら、天狗山ゲレンデでナイタースキーをぜひお楽しみください。

2018-2019 年シーズン：12 月 15 日～3 月 31 日

### 草津温泉について

草津温泉の温泉地は、標高 1,200 メートルの高原に位置しており、その西には標高 2,000 メートルの山々が聳えています。日本三名泉のひとつである草津温泉は、湯もみと呼ばれる入浴文化で有名です。湯もみは、噴出する高温の湯を冷ます独特の方法として確立されました。また、草津温泉は、自然湧出量が日本一であることでも有名で、その量は毎分およそ 32,300 リットルにも及びます。

何百年もの昔から、この酸性の硫黄泉を求めて、草津まで入浴客が絶え間なく訪れてきました。この温泉水には殺菌効果があり、恋の病以外の全ての病を治すと言われています。さらに、この癒しの水は、将軍の病を癒すため、山野を越えて運ばれました。

地元の民謡ではこう歌われています。「草津よいとこ 一度はおいで」と。

## **草津温泉スキー場の歴史**

膨大なパウダースノーと穏やかな気温の冬が、草津が理想的なスキーリゾートたる所以です。実際に、草津は日本でスキーを最初に始めた場所のひとつです。1911年、オーストリア＝ハンガリー帝国のテオドール・エードラー・フォン・レルヒ少佐（1869-1945年）によりスキーが日本に持ち込まれました。そのわずか2年後、スキーは新潟から山脈を越えて草津に伝えられ、そこで急速に広がりました。最初のスキーヤーが草津の山を初めて滑り降りたわずか1年後の1914年、草津で初めてのスキー場がオープンしました。同年、当時日本で2番目となるスキークラブが草津で設立されました。

1935年、草津温泉スキー場のゲレンデが大眾に公開されました。当時は林間スキー場と呼ばれ、当時からある天狗山ゲレンデは、現在でも利用されています。それ以降、草津温泉スキー場は日本のスキーの発展において「初」となる数々の事柄を行ってきました。草津は、日本のスキー場で初めてスキーリフトを導入し、スキー教室を開きました。さらに草津は、日本で初めてスキー大会を開催しました。

それと並行して、草津温泉スキー場は新たなコースやスキーリフト、様々なレジャーを旧来のラインナップに追加し続けています。最近では、2018-2019年シーズンに、R292コースが新たに追加されました。

草津の山々を滑り降りると、日本のスポーツの歴史の一部になった心地がすることでしょう。訪問者は、100年以上前の日本人初のスキーヤー達がスキーの跡を残した、同じゲレンデで滑ることができるのです。

## **草津ブランド**

冬の間、草津は週に何度も新たな積雪に恵まれます。常に新鮮な雪上を滑走できることは、草津でのスキーやスノーボードの楽しみの一つです。

しかし、素晴らしい雪の他にも、スキー場では周りの自然環境や野生生物を保護する必要があります。草津温泉スキー場は、山岳リゾートによる地域活性化組織、Mt.6（ベスト・オブ・ザ・クラシック・マウンテンリゾート）の一員です。Mt.6は、1999年の設立以来、伝統的なスキー場文化の保護に努める一方で、スキー場と近隣の天然温泉で、お客様に一流サービスを提供し続けています。

## **家族向けレジャー**

ゲレンデをスキーやスノーボードで滑ることだけが冬の楽しみではありません。草津温泉スキー場には、雪遊びや景観を楽しむための様々な方法が用意されています。幅広いウィンタースポーツやレジャーを揃えており、全ての年代の様々なレベルの訪問客は皆、笑顔でスキー場を後にするに違いありません。草津温泉スキー場では、スキーやスノーボードに加え、スノーシューや、小さなお子さん向けのそりや野外キッズパークを用意しています。屋内には、休憩が必要な家族のためのプレイルームの他、親たちが子どもを預けてゲレンデを楽しむことができる、専属保育士付きの託児所があります。

## 年中楽しめるリゾート

パウダースノーと癒しの温泉で有名な草津温泉スキー場ですが、ここはウィンターシーズンだけの行楽地ではありません。グリーンシーズンには、このスキー場はアウトドア好きにとってのパラダイスとなります。草津は自然豊かで夏も比較的涼しいため、ハイキングコースや高原の風景をお楽しみいただけます。グラススキー、マウンテンボード、パターゴルフ、テニスなどのレジャーも大人気。

春と夏には、斜面が高山の花々で彩られ、秋には、山腹が紅葉で輝きます。ウィンターシーズンのゲレンデやスノーシューコース、そしてグリーンシーズンのハイキングで、清々しい森の空気を胸いっぱい吸い込みましょう。

## 飲食

新鮮な山の空気ほど食欲を刺激するものではありません。そして、草津温泉スキー場では、舌の肥えたスキーヤーたちも満足するメニューを取り揃えています。天狗山メインゲレンデの麓には、天狗山メインレストラン、天狗 cafe、天狗山ロッヂがあります。お腹をすかせたスキーヤーたちは、ラーメンやカツ丼、ピザ、ビーフシチュー、ロコモコなど、様々な日本食や洋食からお好きなものをチョイスできます。子ども向けに、飲み物とデザートをついたスペシャルお子様ランチも用意されています。地元の名物である舞茸もぜひお試しください！

ゲレンデで小腹が空いたスキーヤーは、天狗山展望カフェ（コーヒーと軽食）、おなりロッヂ（温かい飲み物と軽食）、青葉山レストラン（自家製中華料理）に行き、山の上でほっと一息つくことも。

## 温泉でリラックス

ゲレンデで1日を過ごした後は、地元の温泉にゆっくり浸かって疲れた筋肉をほぐしましょう。草津温泉は、日本三名泉のひとつであり、多くの公衆浴場や野外露天風呂を有しています。その多くがタワーのある海外訪問客にも対応しています。恥ずかしがる必要はありません。疲れ切った体と筋肉を温泉で癒しましょう。そして、癒しの湯から上がる頃には、ゲレンデに挑戦する元気が戻っていることでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Front and center at Kusatsu Onsen Ski Resort is the Tenguyama Slope, the resort's main trail. As the resort's first ski hill—it was opened in 1935—slaloming down Tenguyama allows you to connect with the history of skiing in Japan.

While it is a historic slope, it also offers plenty of fun challenges. Though it may look tame from the bottom, the slope's upper Tengu no Kabe section is surprisingly steep. While this portion is best left to advanced skiers ready to tackle the 30-degree plunge, less experienced skiers can still enjoy the gentler bottom section of Tenguyama. Joined via other runs, this part of the piste is perfect for intermediate skiers as well as beginners.

On Saturdays and several other days throughout the season, the Tenguyama course is open late with a night-skiing pass for those who just can't get enough powder during daylight hours.

Level: Easy, intermediate, and advanced

Course length: 450 meters

Average slope degree: 16 degrees

Maximum slope degree: 30 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

草津温泉スキー場の正面と真ん中にあるのは、スキー場のメインコースである天狗山ゲレンデです。天狗山ゲレンデは、このスキー場で初めてできたゲレンデで、1935年に開かれました。天狗山を滑り下りれば、日本のスキーの歴史に触れることができるでしょう。

ここは歴史の古いゲレンデですが、たくさんの楽しい仕掛けが用意されています。麓から見ると平坦に見えるかもしれませんが、上部の天狗の壁は驚くほどの急勾配です。この部分は30度の急斜面に挑戦したい上級者向けですが、天狗山の下部のゲレンデはなだらかで、比較的経験の少ないスキーヤーでもお楽しみいただけます。他のコースとも合流するこのエリアは、中級スキーヤーや初心者にぴったりです。

日中のスキーだけでは飽き足らないスキーヤーには、シーズン中の毎週土曜日とその他不定期に、ナイター券で夜間の天狗山コースをご利用いただけます。

レベル：初級、中級、上級

滑走距離：450メートル

平均斜度：16度

最大斜度：30度

本事業以前の英語解説文

なし



# 356

No.3 Family Slope

<草津、群馬>

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

## できあがった英語解説文

If you are new to the sport, very young, or just a bit nervous, then this is the piste for you. The Family Slope's gentle hill is safely removed from steeper, faster trails, so beginners can enjoy the descent without worrying about speedier skiers cutting ahead. Just long enough to feel accomplished without getting overwhelmed, this is an excellent option to introduce children to the joys of winter sports.

The Tenguyama Family pair chairlift is also beginner-friendly, as riders can hold their skis or snowboard on the way up, avoiding the tricky process of dismounting from the lift while wearing all your gear.

Level: Easy

Course length: 450 meters

Average slope degree: 8 degrees

Maximum slope degree: 8 degrees

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

スキー初心者、幼いお子さん、もしくは単に少し怖がっている人向けのゲレンデです。ファミリーゲレンデは、急斜面の高速コースの無い、なだらかで安全なコースです。高速で滑り降りるスキーヤーに行く手を阻まれることもなく、安心して滑走を楽しめます。達成感がある一方、怖気付くには至らないちょうど良い距離なので、子どもたちにスキーの楽しさを教えるのにぴったりのゲレンデです。

天狗山ファミリーペアリフトも初心者向けで、スキーやスノーボードを抱えたまま上まで昇れるため、全ての装備をした状態でリフトから降りるといった難易度の高い作業を回避できます。

レベル：初級

滑走距離：450メートル

平均斜度：8度

最大斜度： 8 度

本事業以前の英語解説文

なし

# 357

No.4 Onariyama Slope

<草津、群馬>

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

## できあがった英語解説文

The perfect in-between piste for those ready to progress beyond beginner trails, the Onariyama Slope offers both easy and intermediate skiing across its breadth. The gentle incline with slightly steeper sections provides a chance for confident beginners to take on a challenge without completely leaving their comfort zone, while remaining interesting for more experienced skiers. Combined with the Natsumichi Trail—another intermediate hill suitable for confident beginners—and the bottom-half of the Tenguyama Slope, this long run gives beginners who take up the challenge a tremendous feeling of accomplishment and a good workout. The panoramic views of the Kusatsu Onsen Hot Spring District from the top of Onariyama only add to the thrill of the piste.

Level: Easy to intermediate

Course length: 250 meters

Average slope degree: 8 degrees

Maximum slope degree: 18 degrees

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

初心者コースからのステップアップにぴったりのおなり山ゲレンデは、初級から中級まで幅広いスキーコースをご用意しております。ところどころ傾斜のある緩やかな斜面は、自信のついた初心者が、安全を保ちつつ徐々に困難に挑むことができる一方で、経験を積んだスキーマーも楽しく滑ることができます。自信のついた初心者のためのもう1つの中級コース、夏道コースや天狗山ゲレンデの下半分と合わせることで、この長いコースは挑戦する初心者に心地よい達成感を与え、良いトレーニングとなります。ゲレンデでのスリルに加えて、おなり山の頂上からは、草津温泉街のパノラマをお楽しみいただけます。

レベル：初級～中級

滑走距離：250メートル

平均斜度：8度

最大斜度：18度

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

After dismounting from the chairlift have a good look around. On clear days, Mount Fuji is visible in the distance, wishing you luck from 140 kilometers away as you dash down the mountainside—and dash you will, thanks to the run's maximum 28-degree slope, the second steepest on the mountain. Beginning 1,600 meters above sea level, Aobayama Dai-ichi is the highest slope at Kusatsu Onsen Ski Resort, so breathe deep and slalom into the powdery soft snow.

Level: Intermediate to advanced

Course Length: 250 meters

Average slope degree: 21 degrees

Maximum slope degree: 28 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

スキーリフトから降りたら、辺りを見渡してみてください。天気の良い日には、富士山が140キロのかなたから、スキーヤーの滑走を見守ってくれます。このゲレンデは、スキー場で2番目に急なゲレンデであり、スキーヤーたちは文字通り「滑走」することになるでしょう。標高1,600メートルからスタートする青葉山第一ゲレンデは、一番高い位置にあるゲレンデです。大きく深呼吸をして、パウダースノーのゲレンデに美しい弧を描いてみませんか。

レベル：中級～上級

滑走距離：250メートル

平均斜度：21度

最大斜度：28度

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

While not as steep as its sister slope Aobayama Dai-ichi, this piste still packs a punch and is recommended for serious skiers up for a challenge. But before you push off, take a minute to savor the scenery spread before you: a panoramic view of the Kusatsu Onsen Hot Spring District. You may even detect the subtle scent of sulfur drifting down from the volcanic peaks, a reminder of the soothing hot springs that await below.

Level: Intermediate to advanced

Course length: 360 meters

Average slope degree: 15 degrees

Maximum slope degree: 23 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

姉妹ゲレンデの青葉山第一ゲレンデほど急斜面ではありませんが、このゲレンデもスリル満点で、挑戦を求める本格的なスキーヤーにおすすめです。しかし滑りだす前に、しばしの間、目の前の景色を味わってください。草津温泉街のパノラマが眼前に広がります。さらには、火山の噴火口から下へと流れる煙からは硫黄の匂いも感じ取れるかもしれません。早く麓まで下って、温かい温泉にゆっくりと浸かりたいはずですよ。

レベル：中級～上級

滑走距離：360メートル

平均斜度：15度

最大斜度：23度

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Fun for the whole family, this snow park is a place where three generations (or more) can relax together. Make lifelong memories playing with your young children as they enjoy frolicking in the snow.

A kid-friendly area offering sledding, skiing, and play equipment, the Kids' Park is a popular option for families with young children. A kids-only nursery slope gives youngsters a chance to safely learn the ropes—without the need for Mom and Dad to worry. Complimentary sledding equipment provides hours of fun for the whole family. To save precious energy best devoted to romping in the snow, the park has a moving sidewalk, allowing kids and partners-in-play to sail down the slope time and time again without having to tow sleds back up the hill.

A bouncy castle and other play equipment add to the excitement, and a covered rest area provides a spot to warm up and take a quick break.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

このキッズパークは、家族3世代（もしくはそれ以上）が一緒になってリラックスできる場所で、家族全員でお楽しみいただけます。雪の上を跳ね回る子どもたちと一緒に遊んで、一生の思い出を作りませんか。

子どもに安全なこのエリアでそり滑りやスキー、遊具を楽しめるので、キッズパークは小さなお子さんのいる家族に人気のスポットです。子ども専用のキッズゲレンデでは、子どもたちがスキーのコツを安全に身につけることができるため、パパママの心配も無用。無料のそりを借りて、家族全員で楽しむことも。大切なエネルギーを全力の雪遊びに費やせるように、キッズパークにはスノーエスカレーターが常設されています。子どもや親たちは、そりを自力で上まで運ばなくとも、何度でもそり遊びが楽しめます。

フワフワ遊具などの遊具で、遊びをもっと楽しく。さらに屋根付きの休憩所は温まりながらの小休止にぴったりです。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Strap on a pair of snowshoes and head into the forest for a winter hiking adventure. Start with a gentle climb among Japanese larch, Mongolian oak, Japanese clethra, Erman's birch, and Japanese rowan. Keep your eyes peeled for the delicate dried flowers of the deutzia shrub peeking out from under the snow near the trailhead, and the vibrant red berries of the scarlet leaved viburnum near the trail's end.

Did you know that snowshoeing requires more energy than hiking? You will find plenty of room to flop down in the snow for a rest where the trail widens—why not make yourself comfortable by fashioning a snow table and stools? As you near the double-back point, do not be surprised if you suddenly get a second wind. The Koridani Trail leads to the Koridani *himuro* or ice room, a spiritual place said to re-energize those who make the pilgrimage.

For the trip back, though it may be tempting to try a different trail, please stick to the Koridani Trail as crossing the ski hills can be dangerous.

Length: Two kilometers (round trip)

Time: Approximately one and a half to two hours

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

スノーシューを履いて、林の中へとウインターハイキングに出かけましょう。このコースは、カラマツやミズナラ、リョウブやダケカンバ、ナナカマドに囲まれた緩やかな登り坂からスタートします。コースのスタート地点付近では、ウツギのドライフラワーの茂みが雪の下から顔を覗かせています。そしてゴール付近には、紅葉したカメの木の色鮮やかな赤い実が。ぜひ目を凝らしてご覧ください。

スノーシューは普通のハイキングよりエネルギーを消費することをご存知ですか？ 道幅が広い場所では、雪の中に思い切り寝転がって休憩することもできます。どうせなら雪のテーブルと椅子を作ってくつろいでみるのはどうでしょうか？ 折り返し

地点に近づくにつれて、突然元気を取り戻しても驚きではないでしょう。氷谷コースは、氷谷の氷室に続きます。この場所は、巡礼に訪れた人に活力を与える霊場だと言われています。

帰り道に異なるコースを通ってみたくなるかもしれませんが、同じ氷谷コースを必ずご利用ください。スキーゲレンデを横断するのは危険です。

全長：2キロメートル（往復）

所要時間：約1時間30分～2時間

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

On the opposite side of the resort from the Koridani Trail, the Yazawagawa Snowshoeing Trail shadows the Yazawa River through the woods. As you make your way through the trees, keep an eye out for rabbit tracks zigzagging across the snow, and pygmy and great spotted woodpeckers poking their heads from cozy cavity nests in old trees.

Look out for the large konara oak near the bend in the river. The claw mark-like scars in the tree's bark hint of another forest dweller, the bears who roam these woods while no humans are around. But do not worry, they do not venture out in winter.

Keep an eye out for bunches of leaves in the treetops above you as well. These are mistletoe, a plant that grows among the branches of—and receives nourishment from—its host, the Mongolian oak. Further along, natural ice formations decorate the trailside beneath tall Japanese alder and oak, and the delicate dried flowers of the deutzia shrub peek through the snow along the trail's edges.

A quick note on safety: snow slides are a possibility along the Yazawagawa Trail, so even as you bask in the beauty of the forest, please remain vigilant.

Length: Three kilometers (round trip)

Time: Approximately two hours

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

氷谷コースとはスキー場を挟んで反対側にあるのが、谷沢川スノーシューコースです。このコースは、谷沢川沿いの林を散策します。林の中を進んでいくと、雪の上にジグザグについたウサギの足跡や、コゲラやアカゲラが古い幹の快適そうなウロから頭を覗かせている姿が見られるかもしれません。ぜひ見逃さないように。

川が湾曲する部分の近くにある、コナラの大木をぜひご覧ください。木の幹に見られる爪痕らしき傷は、この森に他にも住人がいることを示しています。そう、人々がいない時間は、熊たちが歩き回っているのです。しかし心配はいりません。熊たちは冬場、外には出てきません。

木の上にある葉の塊を探してみてください。それはヤドリギです。宿主であるミズナラの枝々の間で、宿主から栄養をもらいながら育つ植物です。さらに、コースに沿って生える背の高いハンノキやミズナラの真下では天然の氷の結晶が花を添え、コースの脇では雪の下からウツギのドライフラワーが顔を覗かせます。

安全のための注意点：谷沢川コースでは、雪崩が起こる危険があります。そのため、森の美しさに浸りすぎず、十分に用心してください。

全長：3 キロメートル（往復）

所要時間：約 2 時間

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

While covered in snow during the winter, this course's name is firmly planted in spring. The Shakunage Trail is named for the rhododendron, a spring flower beloved by the Japanese, varieties of which can be found throughout Japan. The brightly colored blossoms grow in profusion in alpine areas, and Kusatsu is no exception.

The larch-bordered Shakunage Trail holds the title of "Most Popular Trail with Families" at Kusatsu Onsen Ski Resort. The gentle slope is wide and 3,200 meters long, making it easy enough for beginners while still interesting enough for more advanced skiers. A final run on this scenic route is a great way to end a day on the slopes.

Level: Easy

Course length: 3,200 meters

Average slope degree: 8 degrees

Maximum slope degree: 12 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

冬の間は雪に覆われていますが、このコースは春にはシャクナゲが花咲きます。しゃくなげコースは、日本人に愛される春の花、シャクナゲから名付けられました。このシャクナゲの様々な品種は、日本各地で見ることができます。その色鮮やかな花は高山地帯で咲き乱れ、草津もまた例外ではありません。

カラマツ林が続くしゃくなげコースは、草津温泉スキー場の「家族に大人気のコース」に選ばれました。3,200メートル長の幅広くなだらかなゲレンデは、初心者にも易しく、しかし同時に中級以上のスキーヤーも十分楽しめます。この景色のいいコースで、ゲレンデでの1日の最後を締めくくるのもよいでしょう。

レベル：初級

滑走距離：3,200メートル

平均斜度：8度

最大斜度： 12 度

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Another run for families keen to ski together, the Kamoshika Trail is a moderate run with slow curves and a few bumps to keep things interesting. Appropriate for beginners looking to try something a little more challenging, Kamoshika provides just the right amount of trial while avoiding tribulation.

Adding to the excitement is the possibility of catching a glimpse of a *kamoshika*, from which the trail takes its name. Known as Japanese serow in English—and sometimes referred to as a goat antelope—the *kamoshika* is a protected species that you can find only in Japan. These curious-looking creatures live in the woods that border the run. The chance of catching a glimpse of one of these critters will have kids begging to hit the Kamoshika Trail again and again.

Level: Easy

Course length: 1,600 meters

Average slope degree: 6 degrees

Maximum slope degree: 8 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

一緒にスキーを楽しみたい家族向けのもうひとつのコース、かもしかコースは、ゆるやかなカーブと起伏が面白い、易しいコースです。かもしかコースは、少しだけ挑戦を求める初心者にぴったりで、困難に感じない程度の適度な試練を与えます。

その名の由来となった、カモシカの姿を垣間見る機会があることも、このコースの楽しみのひとつです。英語では Japanese serow、または Goat antelope と呼ばれるニホンカモシカは、日本にのみ生息しており天然記念物に指定されています。この不思議な見た目をした生き物は、コースの周りの林に生息しています。この生き物の姿を一目見ようと、子どもたちは、かもしかコースを滑りたいと何度もせがむことでしょう。

レベル：初級

滑走距離：1,600メートル

平均斜度：6度

最大斜度：8度

本事業以前の英語解説文

なし



# 365

No.12 R292 Trail

<草津、群馬>

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

## できあがった英語解説文

New to the Kusatsu Onsen Ski Resort lineup for the 2018–2019 season, during warmer months the R292 Trail is actually part of National Highway Route 292. Closed to vehicular traffic in winter months due to the region's substantial snowfalls, the road becomes a slope for skiers and snowboarders of every skill level.

This unusual slope is gentle and wide, so even beginners can pick up some speed gliding down this easy slope as it wends its way partway down the mountain. More confident skiers can extend their run by starting with the Aobayama Dai-ichi slope before joining R292, and then finishing up by cruising down the Tenguyama course by way of Onariyama for an extended run of 4,300 meters.

Level: Easy

Course length: 2,000 meters

Average slope degree: 5 degrees

Maximum slope degree: 8 degrees

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

2018–2019年シーズン、草津温泉スキー場のラインナップに新たに加わった R292 コースは、実は春から秋にかけては国道 292 号線の一部となります。雪量の多さから冬季車両通行止となるこの道路は、全てのスキルレベルのスキーヤーやスノーボーダーのためのゲレンデとなります。

この珍しいゲレンデは、ゆるやかで幅広く、初心者でも、山を下っていくに従いスピードに乗って滑走できます。さらに自信のあるスキーヤーは、青葉山第一ゲレンデからスタートして R292 コースに合流し、その後おなり山ゲレンデを経由して天狗山ゲレンデを滑走することで、コースを 4,300 メートルまで拡張することができます。

レベル：初級

滑走距離：2,000 メートル

平均斜度：5度  
最大斜度：8度

本事業以前の英語解説文  
なし

# 366

No.13 Natsumichi Trail

<草津、群馬>

【施設名】 草津温泉スキー場  
【整備予定媒体】 パンフレット

## できあがった英語解説文

The name of this trail translates as “Summer Road,” which may seem odd for a ski slope. In the days before mass transport, the Natsumichi Trail was an important transportation route that connected Kusatsu to Mount Shirane and beyond. As it was impassable during the winter season, the trail could be used only in snow-free months, leading to its summery name. However, nowadays the mountainside is dedicated solely to the pursuit of outdoor fun.

Curving down the mountain from the top of the Tengu-yama lifts, the Natsumichi Trail snakes across the mountainside and under those same lifts to join the main Tengu-yama Slope. Adjoining Tengu-yama below the advanced-level Tengu no Kabe, this trail is appropriate for beginners and intermediate skiers, making it a good transition course for those ready to graduate from the gentle Family Slope.

Level: Intermediate

Course length: 600 meters

Average slope degree: 10 degrees

Maximum slope degree: 15 degrees

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

このコースの名前「夏道」は、スキーゲレンデの名前としては奇妙に映るかもしれませんが。大量輸送手段の無い時代、この夏道は草津と白根山、さらにその先を繋ぐ重要な輸送ルートでした。冬季は通行ができなかったため、この道は雪のない期間しか使用できず、そこから夏道と名付けられました。しかし今日では、この山腹はアウトドアを楽しむ目的のみ使われています。

天狗山リフトの頂上から続く夏道コースは、山腹を蛇行しながら先程乗ったリフトの下を通り抜け、天狗山メインゲレンデに合流します。上級レベルの天狗の壁の真下に合流するこのコースは、初心者や中級者に適しており、簡単なファミリーゲレンデから卒業したいスキーヤー向けの良いステップアップとなるでしょう。

レベル：中級

滑走距離：600メートル

平均斜度：10度

最大斜度：15度

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Skipping the final curve of the Natsumichi Trail as it veers towards Tenguyama, and heading straight down the mountain, confident intermediate and advanced skiers can take on the steep piste of the Natsumichi Challenge Trail. This run is not for the faint-hearted, but it will reward skiers with a thrilling ride.

Zippering down the steep mountainside, it is easy to understand why the steep trail was impassable in winter months back when it was just a footpath. With such an impressive gradient, it should come as no surprise to learn that a previous incarnation of the route also included a ski jump.

Level: Intermediate to advanced

Course length: 300 meters

Average slope degree: 20 degrees

Maximum slope degree: 23 degrees

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

天狗山ゲレンデに向かう夏道コースの最後のカーブを曲がらずに真っ直ぐ下に向かうと、自信のある中級者や上級者向けの夏道チャレンジコースの急斜面が始まります。このコースは、臆病者はお断りのスリリングなコースです。

急斜面を、風を切って滑り下りれば、その昔、夏道コースが小道だった頃、どうして冬季は通行不可能だったのか理解できるはず。このような見事な傾斜の夏道コースなら、元はスキージャンプ台があったと聞いても驚きではないでしょう。

レベル：中級～上級

滑走距離：300メートル

平均斜度：20度

最大斜度：23度

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Far from being a winter-only destination, Kusatsu Onsen Ski Resort offers plenty of green season activities for all visitors—including pets. The verdant mountain scenery and cool, clear air make the region an excellent escape from the heat and humidity of the city.

Visitors as young as three can get their adrenaline pumping as they fly through the air on the resort's bungee trampoline, where one jump will send you soaring skyward for mid-air somersaults. Feel the need for speed? Rent a mountain cart or mountain board and scoot down the slopes as fast as you dare.

For slower speeds but still top-notch fun, try scooting across the summer slopes on push scooters and stand-up Ninebot scooters. Grass skiing allows those who miss the snowy slopes to slalom down the hills even in high summer.

More relaxing recreations like mini-putt or mallet golf are also available, while the entomologically inclined can rent butterfly nets and bug boxes and spend the day studying local fauna. For furry family members, the dog run will have tails wagging.

Tennis courts are located nearby; and soccer balls, frisbees, badminton sets, and glove sets are available for rent, to be used on the miniature athletic field and free space.

Green season: Late April until early November; 9:00 am until 5:00 pm (final entry 4:00 pm)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

冬季のみの行楽地からは程遠い草津温泉スキー場は、あらゆる訪問客のためにグリーンシーズンのレジャーも多数用意しています。そしてペットも大歓迎。この地域の緑豊かな山の景色と涼しく澄んだ空気は、都会の熱気や多湿から逃れるためには絶好の避暑地となります。

3才以上の訪問客であれば、スキー場にあるスカイトランポリンでスリルを満喫できます。1回のジャンプで空へ向かって飛び上がって宙返り。スピードを体感したい? それなら、マウンテンカートやマウンテンボードを借りて、ゲレンデを思い切り滑り降りましょう。

スピードはゆっくりでも最高の楽しさを求める時は、キックボードやナインボットで夏のゲレンデを走り回りましょう。雪のゲレンデが恋しい人は、グラススキーで真夏のゲレンデを滑走することも可能です。

ゆっくりレジャーを楽しみたい人には、パターゴルフやマレットゴルフなども用意されています。虫好きなら、虫取り網と虫かごを借りて、草津に棲息する昆虫を採集して1日を過ごすことも。さらにシッポのある家族もドッグランでハッピーに。

近くにテニスコートもあり、ミニチュアアスレチックやフリースペースで遊ぶためのサッカーボールやフリスビー、バドミントンセット、グローブセットも貸出可能。

グリーンシーズン：4月下旬～11月上旬の9:00～17:00まで（最終受付 16:00）

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Serious hikers and sightseers alike can hop on the Tenguyama Tenbo Lift and sail up the mountainside while enjoying majestic views of the Kusatsu Onsen area and the beauty of the distant mountains. In autumn, the fiery colors of the forested slopes are particularly photogenic.

As you glide up the mountain in the green season, take a moment to look down at the Tenguyama Slope beneath your feet, and imagine the green grass buried under deep white snow and dotted with skiers carving their way down the hill in winter.

After dismounting from the lift, take your time wandering the mountainside. In spring look for the pink *Epigaea asiatica*, azaleas, and rhododendrons that bloom in May and June. Stop by the Tenguyama Tenbo Cafe for coffee and a light meal before boarding the lift for the return trip—and one last chance to savor the bird’s-eye view of Kusatsu Onsen and the mountains of Gunma.

Tenguyama Tenbo Lift: May until November (Please check for holidays and availability in advance); 9:00 am until 4:00 pm

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

本格的なハイカーでも観光客でも、誰もが天狗山展望リフトに乗って山腹を昇ってだけで、草津温泉エリアの素晴らしい景色や遠くの美しい山々を楽しむことができます。秋、木々に覆われた山の斜面が燃える赤に染まる様子は、格別にフォトジェニックです。

グリーンシーズンに展望リフトで山を昇る際は、足下の天狗山ゲレンデをぜひ見下ろしてみてください。緑豊かなゲレンデから、深い雪に埋もれて点在するスキーヤー達が弧を描き滑る光景が思い浮かぶでしょう。

展望リフトから降りたら、山腹を散策してみましょう。春 5 月から 6 月にかけて、桃色のイワナシやアザレア、ツツジが花を咲かせます。帰りの展望リフトに乗る前に、天狗山展望カフェに立ち寄り、コーヒーや軽食と一緒に、草津温泉と群馬の山々の景色を楽しむのはいかがでしょうか。

天狗山展望リフト：5 月～11 月（運休日と運行状況を事前にご確認ください）；9:00～16:00 まで

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉スキー場（天狗山プレイゾーン）

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

A hike through the hills does a body—and soul—good, and Kusatsu's forested trails certainly fit the bill. The three main courses vary in length from three to sixteen kilometers (roundtrip), providing options for casual to serious hikers. Those in need will find trekking poles and other equipment for rent at the base of the hills.

Along the trails you can spot seasonal plants, such as the brightly colored blossoms of rhododendron, azalea, fringed galax, thistle, heath, scarlet leaved viburnum, and the fluffy heads of tussock cottongrass. The forests are dense with trees, moss, and enough flora and fauna to satisfy nature-lovers and photographers alike.

The shortest of the hikes, the Koridani Hiking Trail, begins near the base of Kusatsu Onsen Ski Resort. Starting near Tenguyama Rest House, the route winds beneath the leaves of Japanese clethra, Mongolian oak, and Japanese larch, Erman's birch, Japanese rowan, and scarlet leaved viburnum as it ascends the mountainside. Along the trail's edges, here and there luminous moss grows in shadowy corners and rocky caves.

The Koridani Hiking Trail leads to a cave believed to be a spiritual place that endows visitors with healing energy. The cave is called the *himuro*, or ice room. True to its name, ice remains in the cave until July, keeping the temperature low and refreshing even during the hottest days of summer. Whether you are a believer or not, the *himuro* and its environs can give you a taste of ancient Japanese spiritual traditions.

The moderate path of the Koridani Hiking Trail is suitable for all levels, though proper footwear—and sound preparations suitable for changeable weather—are advised.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

山々のハイキングで、心身ともにリフレッシュ。木々に囲まれた草津のハイキングコースは来る人を癒してくれるでしょう。3つのメインコースは、3～6キロメートル（往復）と距離が異なり、軽いハイキングから本格的なものまで幅広い選択肢を提供します。山の麓では、登山用ストックやその他の装備の貸し出しも行なっています。

コース沿いでは、色鮮やかなツツジやアザレア、イワカガミ、アザミ、エリカ、ガマズミ、綿帽子をもつワタスゲなど、季節の花々がご覧いただけます。林は木々や苔が生い茂り、その動植物相には自然愛好家や写真家も大満足間違いなし。

最も短い氷谷ハイキングコースは、草津温泉スキー場の麓からスタートします。このコースは天狗山レストハウス付近から始まり、リョウブやミズナラ、カラムツ、ダケカンバ、ナナカマド、ガマズミなどの落ち葉に覆われた道を曲がりくねって進みながら、山腹を登っていきます。コースに沿って、薄暗がりや岩の洞窟のあちこちで、ヒカリゴケがぼんやりと光を放っています。

氷谷ハイキングコースを進むと、訪れる人に癒しのエネルギーを与える霊場だと伝えられる、洞窟にたどり着きます。この洞窟は、氷室と呼ばれます。その名の通り、氷室の中では氷が7月まで残っており、夏の暑い日でも涼しく爽やかに過ごせます。氷室一帯では、信者では無くとも、日本古来の信仰文化の雰囲気を感じることでしょう。

氷谷ハイキングコースの緩やかな道程は、全てのレベルのハイカーに適しています。ただし、適切な靴、そして変化の多い山の天気に対応したしっかりとした装備をお勧めします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉 御座之湯

【整備予定媒体】 パンフレット

できあがった英語解説文

### Recharge at Kusatsu Onsen!

Having spent a day in the great outdoors, it is time to relax in one of Kusatsu's natural hot spring baths, commonly known as *onsen*.

Bathing has been a major part of Japanese culture since antiquity, and Kusatsu Onsen's baths are a fantastic chance to dip your toe (and more!) into this essentially Japanese cultural experience. Do not just take our word for it either—Japan's major travel agents have voted Kusatsu Onsen the number-one *onsen* in Japan for over fifteen years in a row.

The bountiful waters drawn directly from the Yubatake hot spring fields naturally contain acid, sulfur-containing aluminum sulphate, and chloride, with pH values between 1.7 and 2.1, and temperatures varying between 51 and 94 degrees Celsius. An iron nail placed in the hot spring would be reduced to rust in just nine days. But do not worry, the centuries-old *yumomi* method of cooling the water makes it perfectly safe for everyone to enjoy, and the accompanying ceremony is now a local attraction, with regular demonstrations enlivened by folk songs.

The rich mineral content of Kusatsu's waters have become known for their metabolism-boosting effects and as a natural way to promote more beautiful skin. The hot springs are also said to be beneficial for a variety of conditions, including muscle pain, bruises and sprains, fatigue recovery and more. Said to cure basically everything except lovesickness, you are bathing in good company—even the leaders of the Tokugawa shogunate during the Edo period (1603–1867) ordered barrels of hot spring water to be delivered to Edo Castle.

Take a deeper look into three of Kusatsu Onsen's famed hot spring baths.

**Gozanoyu**

Located in the center of Kusatsu Onsen overlooking the iconic Yubatake hot spring fields, Gozanoyu has been loved and enjoyed by bathers looking to relax in its natural waters for over 1,000 years.

The main building was re-created in April 2013, using Japanese turn-of-the-century architecture with Japanese cedar wood *totonbuki* roofs and wall plaster characteristic of the early Meiji period (1868–1912). Back then the whole township would relocate to the warmth of the *onsen* during the harsh wintertime. Built with traditional techniques and harmonious natural materials, a visit to Gozanoyu is like stepping back in time.

Inside the *onsen* itself there are two stone and wooden baths, both constantly filled from two springs: the Yubatake spring with acidic sulfur and Bandai spring with acidic chloride sulphate, the latter said to be beneficial for neuralgia, joint pain, and burns among other conditions. Visitors can try both types of hot spring water, as the baths are available for men and women on alternating days.

Also inside the building are two Japanese-style halls for bathers to unwind and rest after soaking in the waters. The great hall is over 100 meters square with good views of the Yubatake hot water fields and is free for all visitors to Gozanoyu to use. The middle hall is available for rent at 2,000 yen per hour, for those who want a more private *onsen* experience with friends and family.

Be sure not to miss out on Gozanoyu's exclusive "Yukata de Sanpo" course, where both men and women can dress in a stylish light cotton kimono, for an authentic Japanese *onsen* adventure. The three-hour experience includes the full set-up with robes, sandals, and a handy bag, with a free dressing service on hand to make sure you look your best. Photo opportunities and a suggested walking course around the Kusatsu area help you to make the most of your visit.

Available all year round, take the opportunity to don traditional Japanese clothing and enjoy the atmosphere of Kusatsu town and Gozanoyu in the time-honored fashion. The course costs 2,500 yen and includes entry to Gozanoyu.

Gozanoyu

Opening hours: 7:00 am–9:00 pm (entry closes at 8:30 pm) \* may change according to season

Prices: Adults 600 Yen, Children 300 Yen (ages 3–12)

Inquiries: Oazakusatsu 421, Kusatsu Town, Agatsuma County, Gunma Prefecture 377-1711

Tel: 0279-88-9000

<http://www.gozanoyu.com>

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## 草津温泉でリフレッシュ!

アウトドアで 1 日を楽しんだら、草津の天然温泉でリラックスしましょう。

入浴は古来より日本文化で大きな部分を占めています。草津温泉の名湯の数々は、日本文化の本質へと足（そして体まで!）を踏み入れる素晴らしい機会となります。私たちだけがそう言っている訳ではありません— 日本の旅行会社も、15 年間連続して草津温泉を日本一の温泉として選出しています。

湯畑から直接引かれた豊富な湯は、pH が 1.7~2.1 ある酸性の硫酸アルミニウムや塩化アルミニウムを含んだ天然硫黄泉で、温度は摂氏 51~94 度もあります。温泉の中に沈めた鉄くぎは、たった 9 日間で錆だらけになり最後はなくなってしまふでしょう。しかし心配は無用です。何世紀も続く湯もみ法により湯を冷ますことで、誰もが安心して温泉を楽しめます。そして今では、この一連の作法は草津の名物となり、民謡に合わせた実演が定期的に行われています。

ミネラル分が豊富な草津の湯は、代謝を活性化する美肌の湯としても知られるようになりました。この温泉は、筋肉痛や打ち身や捻挫、疲労回復など、様々な症状に効果があると言われていました。恋の病以外は全て癒すと伝えられるこの湯には、今まで多くの人々が浸かってきました。その中には、江戸幕府（1603-1867 年）の代々の将軍もいます。将軍たちは温泉を詰めた樽を江戸城まで運ぶよう命じました。

草津温泉の 3 つの名湯について、詳しくご紹介します。

## 御座之湯

草津温泉の中心部、湯畑を見渡す場所にある御座之湯は、天然温泉をゆったりと楽しみたい入浴客たちに 1000 年以上に渡って愛されてきました。

本館は、杉板のとんとん葺きの屋根と漆喰の壁といった明治初期（1868-1912）の特徴を持ち、日本の伝統的な建築法を用いて、2013 年 4 月に再建されました。当時この地域では、厳しい冬を越すために街全体が暖かい温泉を求めて移動する、冬住みを行なっていました。伝統的な技法と調和した天然素材で造られた御座之湯へ訪れると、まるでタイムスリップをした気分になることでしょう。

御座之湯には、石之湯と木之湯があり、これらは酸性硫黄泉の湯畑源泉と酸性硫酸塩泉の万代源泉の 2 箇所から常に温泉が供給されています。後者の万代源泉は、神経痛や関節痛、火傷などの症状に効果があると言われています。2 つの湯は日毎に男女で入れ替わるため、訪問客は両方のタイプの温泉を試すことができます。

建物内部には、入浴客が入浴後にゆったり休める、和風の広間が2部屋あります。100平方メートル以上ある大広間からは湯畑を眺めることができ、御座之湯の入浴客なら誰でも無料で利用できます。中広間は、家族や友人とプライベートでゆっくり温泉を楽しみたい人々向けに、1時間2,000円で貸し出しています。

御座之湯独自の「浴衣 de 散歩」コースを見逃してはいけません。男性も女性も粋な浴衣を着て、本格的な温泉の旅に出かけましょう。この3時間の体験には、浴衣と下駄、竹かご一式の貸し出しと、その場での着付けサービスが含まれ、完璧な装いでお出かけいただけます。写真撮影と草津エリアのおすすめ散歩コースガイドも付いており、草津の旅を最大限楽しめます。

この「浴衣 de 散歩」は通年ご利用いただけます。この機会に、日本の伝統衣装を身にまといつつ、昔ながらの方法で草津温泉街と御座之湯の雰囲気味わいませんか。コース料金は2,500円（御座之湯入湯料を含む）。

#### 御座之湯

営業時間：7:00-21:00（最終入館は20:30まで） \* 季節により変更あり

価格：大人 600円、小人 300円（3-12才）

お問い合わせ：〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津 421

電話：0279-88-9000

<http://www.gozanoyu.com>

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 草津温泉 大滝乃湯

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

Known as the “hot spring of beauty,” Otakinoyu is just minutes from the Yubatake hot water fields of Kusatsu.

Drawing its water from the Nikawa hot spring source with acidic sulfur, Otakinoyu’s 100% natural free-flowing water baths have long been beloved by Japanese men and women alike. The *awase-yu* baths with gradually escalating temperatures have been popular since ancient times and may be the secret to clear and healthy skin.

These spa waters are said to be beneficial for skin complaints and disorders as well as general skin beautification, making Otakinoyu an ideal spot to indulge in a little self-care. The *onsen* has special “cloudy water” days on the second and fourth Saturday of each month when the hot spring deposits are cleaned from the piping mechanisms, resulting in spring water densely filled with enriching minerals.

Otakinoyu offers various baths partitioned for men and women, with its famed *awase-yu* baths varying in temperature from a relatively cool 38 to a steamy 46 degrees Celsius. These temperatures are maintained not by dilution but by natural cooling, which allows bathers to become accustomed to the naturally high temperature and acidity of the hot spring waters. The *awase-yu* bathing style has been a huge draw for Japanese travelers for centuries and is quite rare even in Japan, so be sure to experience it for yourself.

Other baths include the vast great bath and open-air bath, both partitioned for men and women, as well as hot water cascades that mimic the natural flow of waterfalls.

Otakinoyu also offers private “Shakunage” baths for rent at 2,000 yen per hour, available for couples and families to bathe together, and these private baths are barrier-free for all to enjoy.

Otakinoyu doesn't just offer bathing but a full resort experience, as visitors to the *onsen* are also able to relax in the lounge café with premium Japanese-style ice cream, try Kumazasa udon at the Yunohana restaurant, or find that perfect gift at the souvenir shop.

Other facilities include a sauna and massage rooms, as well as relaxation rooms for families and private functions available from 1,000–2,000 yen per hour.

With such a wide range of bathing, cuisine, and relaxation options on offer, Otakinoyu is a luxurious Japanese *onsen* experience that is sure to be the highlight of your journey to Kusatsu Onsen.

Otakinoyu

Opening hours: 9:00 am–9:00 pm (entry closes 8:00 pm)

Prices: Adults 900 Yen, children 400 Yen (ages 3–12); towel sets are available for 250 Yen

Inquiries: Ozakusatsu 596-13, Kusatsu Town, Agatsuma County, Gunma Prefecture 377-1711

Tel: 0279-88-2600

<http://www.ohtakinoyu.com>

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

「美人の湯」として知られる大滝乃湯は、草津の湯畑からわずか数分の所にあります。

酸性硫黄泉の煮川源泉から温泉を引いている大滝乃湯は、100%天然温泉掛け流しで、老若男女を問わず長年愛され続けてきました。徐々に熱い浴槽へと巡っていく合わせ湯は、古来より人気を博し、これこそ美肌の秘訣かもしれません。

この温泉水は、お肌の悩みや疾患、美肌に効果があると言われており、大滝乃湯の美容効果で自分にご褒美をあげるのはいかがでしょうか。毎月第2・4土曜日に「白濁の湯」の日を設けており、配管内の温泉沈殿成分を清掃後、豊富なミネラルを高濃度で含む温泉をお楽しみいただけます。

大滝乃湯では、男女ともに様々な種類の浴槽を用意しており、特に有名な合わせ湯では、湯温が比較的低い摂氏38度から熱々の46度まで様々な浴槽を備えています。この湯温は、水で薄めるのではなく自然冷却で適温にしており、入浴客は徐々に高温の酸性泉に慣れることができます。合わせ湯の入浴法は、日本でも非常に珍しい入浴法で、何世紀も前から日本人旅行者を惹きつけてきました。ぜひご自身で体験してみてください。

合わせ湯の他にも、男女別の大浴場や露天風呂、滝を模した打たせ湯などがあります。

大滝乃湯では、一緒に入浴したい家族やカップル向けに、1 時間 2,000 円で貸切風呂「しゃくなげ」もご用意できます。この貸切風呂はバリアフリーでどなたでもご利用いただけます。

大滝乃湯での楽しみは温泉だけではなく。訪問客は、ソフトクリームを片手にラウンジカフェで寛いだり、お食事処湯の華でくま笹うどんを試したり、お土産コーナーで理想のお土産を見つけたりと、リゾート体験を満喫できます。

その他、施設にはサウナやマッサージルームのほか、家族で気兼ねなく寛げる有料休憩室も併設されており、1 時間 1000～2000 円でご利用いただけます。

様々な温泉、料理、リラックス方法を提供する大滝乃湯は、日本での贅沢な温泉体験、そして草津の旅のハイライトとなること間違いありません。

大滝乃湯

営業時間：9:00-21:00（最終入館は 20:00 まで）

価格：大人 900 円、小人 400 円（3-12 才）；タオルセットは 250 円で利用可。

お問い合わせ：〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津 596-13

電話：0279-88-2600

<http://www.ohtakinoyu.com>

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 草津温泉 西の河原露天風呂

【整備予定媒体】 パンフレット

#### できあがった英語解説文

A short twelve-minute stroll from the Yubatake hot water fields in the center of Kusatsu town brings you to Sainokawara Rotenburo, for a truly natural outdoor *onsen* experience.

The large outdoor bath (*rotenburo*) is separated for men and women, and at 500 meters square can comfortably accommodate up to one hundred people at a time, making this a good choice for larger groups. Fed by the Bandai hot water springs containing acidic chloride sulphate, and recommended for conditions including chronic digestive diseases and recovery from illness, the vast bath also features a hot waterfall-like cascade.

Sainokawara Rotenburo can be enjoyed at any time of year, and the four seasons provide a rotating backdrop to the baths. On clear nights, you can enjoy stargazing, while the changing autumn leaves bring a touch of vibrant colors to the experience. In winter, soaking in the hot waters of the bath under a gentle snowfall is unforgettable.

Although located just a short walk from Kusatsu Onsen town center, Sainokawara Rotenburo is very much part of the countryside of the area. A stone-paved promenade leads visitors along a winding path past a variety of popular sightseeing spots including Anamori Inari shrine, the Oni no Chagama monument, Matchmaking Jizo (a series of Buddhist statues which are said to be protectors of children and travelers), and the Kusatsu Visitor Center. This easy path is a good introduction to the natural beauty of the surrounding area. Not only can you immerse yourself in the healing waters of the outdoor bath but also in the history and culture of Kusatsu.

On your walk, be sure to seek out the busts of German physicians Dr Erwin Bälz and Dr Julius Scriba, local heroes of Kusatsu Onsen who were instrumental in expounding the healing virtues of the hot springs in Japan and abroad.

Sainokawara Rotenburo also offers an evening of mixed bathing every Friday, when the bath is open to everyone, including couples and families. During the mixed bathing evenings visitors can wear swimwear or wrap themselves in a towel, a chance to enjoy the full *onsen* experience together.

Sainokawara Rotenburo

Opening hours: April 1st–November 30th 7:00 am–8:00 pm (entry closes at 7:30 pm), Dec 1st–March 31st 9:00 am–8:00 pm (entry closes at 7:30 pm)

Prices: Adults 600 Yen, children 300 Yen (ages 3–12)

Inquiries: Ozakusatsu 521-3, Kusatsu Town, Agatsuma County, Gunma Prefecture 377-1711

Tel: 0278-88-6167

<http://www.sainokawara.com>

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

草津温泉街の中心にある湯畑から歩いて 12 分のところに、露天風呂を十二分に楽しめる、西の河原露天風呂があります。

男女別の大露天風呂は、計 500 平方メートルあり、一度に 100 人まで快適に入浴できます。そのため、大人数グループでの入浴におすすめです。万代源泉から引かれた温泉は、酸性硫酸塩泉で、慢性消化器疾患や病み上がりの方におすすめです。広大な温泉には、温泉が流れ出る小さな滝もあります。

西の河原露天風呂は年中いつでも利用可能で、四季折々の風景とともに入浴を楽しむことができます。晴れた夜には星を愛で、秋には色づく木々を眺めて、思い出に鮮やかな景色を焼き付けましょう。冬の日には、雪がちらつくなか入る暖かい温泉は格別です。

西の河原露天風呂は、草津温泉街の中心から歩いてすぐの場所にありますが、草津エリアの自然豊かな場所に位置します。訪問客は石畳の散歩道を歩いて、穴守稲荷神社や鬼の茶釜碑、縁結び地蔵（子どもや旅人へ加護を与える仏像の一種）、草津ビジターセンターなどの様々な人気観光名所を散策することができます。この歩きやすい散歩道は、周辺の自然と親しむための良いきっかけとなるでしょう。露天風呂の癒しの湯に浸かるだけでなく、草津の歴史文化も味わうことができます。

散歩の際、ドイツの医学者エルヴィン・ベルツ博士とユリウス・スクリバ博士の胸像をぜひともご覧ください。彼らは草津温泉の英雄で、温泉の治療効果を日本や海外に紹介しました。

西の河原露天風呂では、毎週金曜夜に混浴も行っており、その時は家族やカップルが揃ってご入浴いただけます。混浴の日の夜には、訪問客は湯あみ着やタオルで体を覆うことができ、温泉体験をみんなで一緒に存分にお楽しみいただけます。

西の河原露天風呂

営業時間：4月1日～11月30日 7:00-20:00（最終入館は19:30まで）、12月1日～3月31日  
9:00-20:00（最終入館は19:30まで）

価格：大人 600円、小人 300円（3-12才）

お問い合わせ：〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町大字草津 521-3

電話：0278-88-6167

<http://www.sainokawara.com>

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】「草津温泉」源泉掛け流し

【整備予定媒体】 Web サイト

<http://onsen-kusatsu.com/>

#### できあがった英語解説文

Torrents of milky blue waters descend from the volcanic peaks of Mount Shirane and burst into Kusatsu Onsen's Yubatake *onsen* fields, creating clouds of steam that cover the town in a misty haze. This boiling water is then tamed by a centuries-old system of stirring the waters using paddles, in a ceremony called *yumomi*; cooling it just enough for visitors to take a dip and enjoy the therapeutic benefits of the hot springs.

Considered to be one of Japan's three most important *onsen* resorts, Kusatsu boasts so many bathing facilities you'll be spoiled for choice.

For an especially indulgent experience as you bask in nature, explore Sainokawara Rotenburo, a 500-square meter open-air bath surrounded by forest views. Each season offers a different view—snow-capped trees in winter, cherry blossoms in spring, deep green in summer, and vibrant reds, yellows, and orange in autumn.

For a taste of what Kusatsu was like in centuries past, head to Gozanoyu, a beautifully reconstructed bath facility that combines both Edo- and Meiji-period styles. This expansive facility boasts elegant Japanese architecture and views of the softly steaming Yubatake *onsen* fields in the town below.

Otakeinoyu gives bathers a chance to experience the traditional *amase-yu* bathing culture, where several baths are taken in turn, each hotter than the last. In the recently renovated bath, the wooden pillars reach up to the ceiling, resembling tall trees standing in the mist as the hot spring steam wraps around them, giving the feeling of being outdoors.

The hot spring's curative effects are also the stuff of legend. It is said that the waters at Kusatsu Onsen are able to cure any illness but lovesickness. The town's hot springs are also unrivaled in quantity, boasting the largest output of natural hot spring waters in Japan. With over 32,000 liters gushing out per minute, the waters do not need to be diluted or reheated. High in acidity, bacteria and fungi cannot survive in these piping hot waters, giving it an antibacterial effect that has furthered the belief in the hot springs' therapeutic effects over the centuries.

## **Immerse Yourself in Centuries-Old Bathing Tradition**

As one of Japan's three most famous hot spring resorts, Kusatsu boasts a vibrant traditional *onsen* town atmosphere so you can experience centuries of Japanese tradition and culture intertwined with the hot springs.

Between baths, stroll down the town's main street basking in the retro romance as you browse shops laden with local souvenirs, glassware crafts, and more. Drop by one of the many charming confectionary shops to sample tasty *wagashi* sweets that have been steamed in the therapeutic waters. Enjoy these warm, sweet buns as you stroll the narrow streets around the town, taking in the historic buildings swathed by swirling steam, a sight all the more remarkable when illuminated at night.

To make your visit even more authentic, rent a yukata at Gozanoyu and don it for your outing. A dressing service is available and you do not need to prepare anything yourself! Circle Yubatake and be enveloped in steam as you take in the view of milky blue waters gushing forth through the old pinewood tubs. Free footbaths let you to rest your feet while you enjoy the scenery.

## **Enjoying Your Visit!**

To discover more of the wonders that await you at Kusatsu Onsen, be sure to explore the rest of this website. Here, you'll find countless tips on where to eat, drink, and stay to find the perfect spots for your visit to Japan's original resort town. There are also sightseeing suggestions for areas around the town to make the most of your stay here, and examples of popular souvenirs for that special someone at home. If you want to know more about Japanese bathing customs, there is a step-by-step guide available on the website, as well as plenty of information upon arrival to guarantee you turn into an *onsen* pro.

To make sure you enjoy the baths safely, although the baths have therapeutic effects, it is important to note that your body will sweat more while enjoying them, perhaps more than you may realize. Drink plenty of water between baths to stay hydrated—which you can do with Kusatsu's own natural mineral waters for an extra dose of well-being. Also, the acidity of some of the waters at Kusatsu Onsen is strong enough to cause silver to develop an instant patina, so be sure to remove all your jewelry before you bathe.



Finally, for guests from overseas, rest assured that the vast majority of Kusatsu Onsen inns and bath facilities are welcoming to those with non-gang-related body art. Travelers with tattoos can enjoy the healing hot waters here without any worries, and join the approximately three million annual visitors to this world-class hot spring resort.

We welcome you to Kusatsu Onsen, and we are sure you will be back time and time again!

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

白根山の火口から流れ出たミルクブルーの温泉は草津温泉の湯畑に吹き出ます。その時立ち上る湯けむりで、街はぼんやりと霞んでいます。この煮えたぎった温泉は、板でお湯をかき混ぜるという何世紀も前から続く作法、湯もみによって慣らされます。そして入浴客が温泉に入って効能を満喫するのに十分なまでに冷やされます。

草津は日本三名泉のひとつに数えられており、贅沢な数々の温泉施設を誇ります。

自然を満喫しながらの贅沢な温泉体験には、木々に囲まれた 500 平方メートルの野外露天風呂、西の河原露天風呂をお試しください。冬の雪のかぶった山々から、春の桜、夏の深緑、秋の色鮮やかな紅葉まで、四季折々の様々な風景をお楽しみいただけます。

何世紀も昔の草津を味わいたいのなら、江戸時代・明治時代の建築様式を見事に融合して再建した、御座之湯がおすすめです。この広大な施設は、優雅な日本建築を誇り、湯気が立ち上る湯畑の風景を眼下に見ることができます。

大滝乃湯では、入浴客は伝統的な合わせ湯の入浴文化を体験できます。合わせ湯では、徐々に熱くなる浴槽に順に浸かっていきます。最近改築された浴場には、天井までの木柱がそびえ立っています。温泉の湯けむりが周りに立ち上ると、霧の中に木が立っているようで、まるで野外にいる気分になれます。

温泉の効能にも、言い伝えがあります。草津温泉は、恋の病以外の全ての病を治すと言われていました。草津の温泉は、その量の多いことでも有名で、自然湧出量は日本一を誇ります。毎分 32,000 リットル以上湧き出るため、薄めたり再加熱をする必要はありません。この温泉は酸性度が高いため、バクテリアやカビが生息できず、草津温泉が何世紀にもわたり癒しの湯と親しまれる所以の殺菌効果をもたらします。

#### 何世紀も受け継がれる入浴法を堪能しよう

日本三名泉のひとつである草津温泉は、活気溢れる伝統的な温泉街として有名で、温泉にまつわる日本の伝統文化を体験することができます。

温泉の合間には、街のメインストリートを散策し、地元特産品やガラス工芸品などの店を見て回ってレトロな雰囲気を楽しみましょう。たくさんあるお酒落な菓子店のひとつに立ち寄り、温泉水で蒸しあげた美味しい和菓子をぜひお試しください。ほかほかの甘い饅頭を味わいながら街中の小道を散策し、湯けむりの立ち上るなかライトアップで魅力を増した歴史的建築に足を運んでみてください。

滞在をさらに本格的なものにするには、御座之湯で浴衣を借りて、浴衣のまま散策に出かけましょう。着付けサービスが利用できるため、自分で準備する必要はありません！湯けむりに包まれて湯畑を巡りながら、古い松の木の浴槽から湧き出るミルクブルーの温泉を眺めましょう。無料の足湯では、景色を楽しみながら一休みできます。

### **草津温泉をエンジョイ!**

草津温泉であなたを待つさらに様々なレクリエーションは、ウェブサイトからご覧いただけます。ウェブサイトでは、オススメの飲食店やホテルなど、日本古来から続くリゾート地での滞在を理想的なものにするためのヒントが散りばめられています。滞りをより良いものにするための周辺観光情報や、大切な人へのプレゼントにもオススメの人気のお土産情報も掲載されています。日本の入浴文化について詳しく知りたい場合、ウェブサイトでは入浴方法が順を追って説明されており、さらに、あなたを温泉のプロに変える豊富な情報が掲載されています。

入浴を安全にお楽しみいただくために、下記にご注意ください。温泉には癒し効果がありますが、入浴中、体は思っている以上に汗をかきます。入浴の合間に水分補給を行い、脱水症状にならないよう気をつけてください。草津の天然ミネラルウォーターを飲んだらさらに健康になれるかもしれません。また、草津温泉は酸性度が強く、銀製品には錆が発生します。入浴前には必ず全ての貴金属類を外してください。

最後に、海外からのお客様へ。草津温泉の旅館や入浴施設の多くは、犯罪組織と関係のないツアーの入ったお客様を歓迎しています。安心してご入浴ください。世界レベルの温泉リゾート、草津温泉には年間 300 万人の旅行者が訪れており、ここでは、ツアーの入った旅行者も安心して癒しの湯を楽しめることができます。

草津温泉にぜひお越しください。一度お越しただければ、必ず何度でも訪ねたくなるはずですよ！

本事業以前の英語解説文

なし

# 上武絹の道事業企画会議

【施設名】パンフレット はじめに 前文

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

For centuries, the monarchs of Europe and the imperial dynasties of China flaunted their wealth by adorning their courts with the world's most sought-after cloth: silk. It was in China during the fourth millennium BCE that humans first produced silk by twisting together the delicate filaments of silkworm cocoons. Compared to other natural fabrics, silk is cool and flowing and has an enchanting sheen when woven into cloth. These properties make the fabric valuable for trade, and it began to spread throughout Asia, eventually passing through what is now Turkey and into the Roman empire through an intercontinental trade route that is still known as the Silk Road. Silkworm cultivation reached Japan during the fourth century CE and arrived in Western Europe by the twelfth.

In the latter half of the nineteenth century, the major European silk-producing countries of France and Italy struggled with diseases that threatened both their silkworms and the mulberry trees on which they fed. At approximately the same time, Chinese export of silk had been largely halted by the Taiping Rebellion. In response to European demand silk traders turned to Japan, whose silk industry still remained strong. Japan began to modernize during the 1868 Meiji Restoration, and silk production became a major source of profit for its new government. By the early twentieth century, Japan was the largest producer of silk in the world, producing almost 60% of all raw silk.

Japan's rapid growth was facilitated by innovations within what are now Gunma and Saitama Prefectures. The area was home to many pioneers in silkworm cultivation, such as Tajima Yahei (1822–1898) and Takayama Chogoro (1830–1886). The Tomioka Silk Mill and the Arafune Cold Storage, built in 1872 and 1905 respectively, were pillars of the Japanese industrial revolution and expanding silk industry. By chilling the silkworm eggs in Arafune Cold Storage, hatching could be delayed for many months, and silk production could continue year-round at Tomioka's massive mill. Through the increased production, silk became affordable for the middle class. In recognition of their impact on the global silk industry, Tomioka Silk Mill, Tajima Yahei Sericulture Farm, Takayama-sha Sericulture School, and Arafune Cold Storage were registered as UNESCO World Heritage Sites in 2014. While Japan is no longer a major producer of silk, the protected buildings, sites, and museums in Gunma and Saitama show the important role that silk manufacturing played in Japan's development as a nation.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

何世紀もの間、ヨーロッパの君主と中国の王朝は、世界で最も人気があり入手困難な布である絹を使って宮廷飾ることとでその富をひけらかした。人間が最初にカイコの繭の脆弱な糸をひねって絹を作ったのは、紀元前4千年紀、中国においてであった。他の天然布と比較して、絹は涼しくて流動的であり、布に織られると魅惑的な光沢が出る。絹のこれらの特性が貿易上の価値を高め、今もなおシルクロードとして知られている大陸間の貿易ルートを通じて現在のトルコか

らローマ帝国に次第に伝わり、アジアを中心に広がり始めた。カイコの栽培は4世紀に日本に伝わり、西ヨーロッパには12世紀までに伝わった。しかし、19世紀後半には、フランスやイタリアといったヨーロッパの主要な絹生産国が、カイコと餌である桑の木の両方を脅かす病気に苦しんだ。ほぼ同時期に中国の絹の輸出は太平天国の乱により大部分が中止されていた。ヨーロッパの需要に応えて、絹の貿易業者は依然勢力を保っていた日本の絹産業を頼りにした。日本は1868年の明治維新の間に近代化が始まり、絹の生産は新政府の主要な利益源となった。20世紀初頭までに、日本は世界で最大の絹生産国となり、生糸の60%近くを生産していた。

日本の急速な成長は、現在の群馬県と埼玉県内のイノベーションによって促進された。現在の群馬県と埼玉県には、田島弥平や高山長五郎といった多くの養蚕業の先駆者たちが住んでいた。1872年と1905年にそれぞれ建設された富岡製糸場と荒船風穴は、日本の産業革命と拡大する絹糸産業の柱だった。荒船風穴でカイコの卵を冷やすことで、何ヶ月も孵化を遅らせることができ、富岡の大規模工場では年間を通して絹の生産を続けることができた。増産により、シルクは中流階級にとっても手頃な価格となった。世界の絹産業への影響が評価され、2014年に富岡製糸場、田島弥平旧宅、高山社養蚕学校、荒船風穴がユネスコの世界遺産に登録された。日本はもはや絹の主要生産国ではないが、群馬と埼玉の保存された建物、遺跡、博物館は、絹製造が日本の発展に果たした重要な役割を示している。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】養蚕について

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Silkworms are the caterpillar stage of the silkworm moth's life cycle. In temperate countries such as Japan, silkworm moths naturally reproduce only once a year, laying their eggs at the end of summer and hatching in the spring. Each summer, a single female moth will lay around 500 eggs. When silkworms hatch, they are about 3 mm long and black. During the caterpillar or larval stage of life, silkworms do nothing but eat, molt, and grow larger and whiter. After 28 to 50 days, the caterpillars stop eating and turn slightly yellow. At this point, they have molted four times and are about 10,000 times larger in mass. The change in color is the sign that they are ready to spin their cocoons and enter the pupal stage. Silkworm growers have the silkworms spin their cocoons in a lattice of small cubicles, a process which takes about three days. The cocoon is made mostly from two proteins: fibroin, which is the main component of silk thread, and sericin, which acts as glue to hold the thread together. The cocoon is spun from a single strand of silk roughly 1,400 meters in length, which is secreted from a spinneret located in the silkworm's mouth. After one to two weeks, the silkworm moth will emerge from the cocoon to mate, and the next generation's life cycle will begin.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

カイコは、カイコ蛾のライフサイクルにおいては毛虫の段階である。日本のように温暖な国では、カイコ蛾は自然では年1回だけ繁殖する。夏の終わりに卵を産み、春に孵化する。毎夏、1匹のメスの蛾は約500個の卵を産む。カイコが孵化すると、体長は約3mmで黒くなる。毛虫や幼虫期の段階では、カイコは食べて、脱皮し大きく白くなる以外何もしない。28～50日後、毛虫は食べるのをやめ、かすかに黄色く変色する。この時点で、4回脱皮しており、およそ10,000倍大きくなっている。色が変わるのは、繭を作って蛹ステージに入る準備ができているという印である。養蚕業者は仕切りのついた小さな四角形の部屋でカイコに繭を作らせる。このプロセスは約3日間かかる。繭は絹糸の主成分であるフィブリンと糸をくっつけ接着剤として作用するセリシンの主に2種類のタンパク質から成る。繭は蚕の口にある紡糸口金から分泌される長さおよそ1,400メートルの絹の一本の撚り糸から紡がれている。1～2週間後、カイコの蛾が繭から出て、交尾し、次世代のライフサイクルが始まる。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】製糸について

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

When harvesting silk, the cocoons are collected and the pupae inside them are killed to stop them from hatching, which would damage the cocoon. This is done in a variety of ways, such as drying out the cocoons (which also allows them to be stored) or boiling them. Boiling the cocoons to dissolve the glue-like protein sericin is also the first step in the silk reeling process. The cocoons are then rubbed to loosen the tangled filament. The waste silk, called *frison*, is removed, and the end of the silk filament is unraveled by hand or by machine. One silk filament is too fragile to be used as thread by itself, so six to nine cocoon filaments are twisted together. As this happens, the thread is reeled onto a winding bobbin. When one of the cocoons is unwound completely, another is automatically twisted into the thread by the machine. This continues until the bobbin is full, which requires about 300 cocoons. Next, the raw silk is given a bath with soap and other chemicals to wash out the remaining sericin and make the silk absorb water. The initial silk reeling process stretches the silk fibers out, so the next step is to re-spin the thread onto a different bobbin to relax it. The silk is now ready to be used to make cloth or other products. Roughly 2,000 cocoons are needed to make a single silk dress.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

絹を収穫するとき、繭は集められ、羽化により繭が傷つかないよう蛹は繭の中で殺される。繭を乾燥させたり（これも蛹を中に留ませる）、繭を煮沸したり、様々な方法でこれは行われる。繭を煮沸して糊状のタンパク質であるセリシンを溶かすのも、絹の巻き取り工程の第一ステップになる。次に、繭をこすって、もつれたフィラメントをほぐす。きびそという廃シルクが取り除かれ、絹のフィラメントの端を手または機械で引き出す。1本の絹のフィラメントはそれ自体を糸として使用するにはあまりにも脆いので、6本から9本の繭糸を一緒に撚り合わせる。その後、糸は巻き取りポビンに巻き取られる。1つの繭が完全にほどかれると、機械が自動的に別の繭を糸に撚る。ポビンが一杯になるまでこれを繰り返すと、約300個分の繭を使用する。次に、生の絹を石鹼と他の化学物質を入れた浴槽に浸し、残りのセリシンを洗い流したら、絹に水を吸収させる。最初の絹巻き取り工程は、絹繊維を引き伸ばすので、次の工程は、糸を別のポビンに紡ぎ直して緩める。これで絹は、布や他の製品を作るために使用することができるようになる。シルクドレス1着には、おおよそ2,000もの繭が必要である。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】パンフレット「シルクロードを伝わって各地で花開いた絹文化」 前文

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Silkworm cultivation spread through trade routes to the Korean peninsula and reached Japan by the fourth century CE. Wealthy Japanese wore silk kimono as a way to show their status. During the Edo period (1603–1867) demand for silk was high, and much of the silk in Japan was imported from China. Throughout the Edo period domestic silk production steadily increased, and while the amount of silk made in Japan continued to grow in the 1800s, production techniques remained largely unmechanized.

Most silk production was done by single households; families raised their own silkworms and twisted the silkworm cocoons together on hand-powered wooden spindles. They raised the worms in the spring and summer and spun silk in the autumn. While silk production became mechanized in France and Italy and silk weavers had to struggle to compete with new inventions such as the Jacquard loom, Japan continued to be isolated by its government's restrictions on trade with the West, and silk production techniques remained unchanged. When the country was forced to open to Western trade, the Japanese silk production was still centered around a household model. During the rapid cultural shifts of the Meiji Restoration, the silk industry began to modernize, particularly in the areas around Tomioka, in modern-day Gunma and Saitama Prefectures.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

カイコの栽培は朝鮮半島への交易路を通じて広がり、4 世紀までに日本に伝わった。身分を示す方法として、裕福な日本人は絹の着物を着ていた。江戸時代（1603 年-1867 年）は絹の需要が高く、日本の絹の多くは中国から輸入されていた。江戸時代を通して、国内の絹の生産量は着実に増加し、日本で生産された絹の量は 1800 年代に増加し続けたが、生産技術はほとんど機械化されないままだった。ほとんどの絹の生産は世帯ごとに行われた。自分のカイコを育て、手動の木でできた紡錘でカイコの繭を縫っていた。春と夏にカイコを育て、秋に絹を紡いだ。

フランスとイタリアで絹の生産は機械化され、絹織物業者はジャカード織機などの新しい発明と競争しなくてはならず、苦勞した。日本は政府が行った西洋との貿易規制によって孤立し続けたため、絹の生産技術は変わることはなかった。日本が西洋貿易のために開国することを余儀なくされたとき、日本の絹の生産は依然として家庭の様式を中心としていた。明治維新に文化が急速に変化する間に、絹工業は現代の群馬県と埼玉県を中心に、特に富岡地域周辺で近代化を始めた。

#### 本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】パンフレット「19 世紀、欧州の絹産業の絶体絶命の危機を救った日本のシルク」 前文  
 【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト  
<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

By the nineteenth century, the industrial revolution had made Europe's silk industry the most technologically advanced in the world, but starting in the 1840s the silkworm population was nearly wiped out by two diseases. The diseases were *pébrine*, an affliction caused by a fungal parasite that makes silkworm larva unable to spin cocoons, and *bouffée flacherie*, a non-infectious disease caused by exposure to extreme heat that causes the larvae to turn flaccid and die. Prices for healthy silkworm eggs skyrocketed in Europe, and both silk and eggs were sold in great volume at the newly opened silk markets of Yokohama.

Around the same time, farmers from the village of Shimamura (now part of Isesaki, in Gunma Prefecture) formed a sericulture collective, working together to raise silkworms and produce high-quality silk. After the Meiji period, they reorganized into a company called Shimamura Kangyo. This company sent a group led by a man named Tajima Yahei (1822–1898) to sell silkworm eggs directly to Italian silkworm farmers. As one of the founding members of Shimamura Kangyo, Yahei is remembered as one of the leaders of the silk revolution.

Yahei also designed a building for raising silkworms. The second floor of the long building had a raised section of roof with windows that could be opened to admit outside air. Using this design, farmers were able to control airflow and maintain an ideal temperature around the silkworms. The fresh air protected the silkworms from disease, improved their yields, and increased the reliability of the silkworm crop. Yahei's design quickly spread throughout the Shimamura community and other parts of Japan. In recognition of the massive impact that his contributions had on Japanese sericulture, his house is included as part of the World Heritage Site.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

19 世紀に、産業革命によってヨーロッパの製糸生産は技術的に最も発展していたが、1840 年代からヨーロッパのカイコの個体数は 2 つの病気によってほぼ完全に破壊された。その 2 つは、カイコの幼虫が繭を回転させることができなくなる真菌性寄生虫に起因する「微粒子病」と、強い熱にさらされることによって引き起こされる非感染性の病気でカイコの幼虫を弱らせ死に至らせる「軟化病」である。健康なカイコの卵の価格はヨーロッパで急騰し、横浜に新しく開かれた絹市場ではシルクと卵の両方が大量に販売された。

同時期に、島村（現在の群馬県伊勢崎市）の農民たちが養蚕業者の協同組合を作り、カイコを育て、上質な絹を作り出した。明治以降、彼らは島村勧業という会社に再編成された。この会社は、カイコの卵をイタリアのカイコ農家に直接販売するために、田島弥平（1822-1998）という男が率いるグループを派遣した。島村勧業の創業メンバーの一人として、弥平は絹革命のリーダーとして知られている。

弥平はカイコを育てるための建物を設計した。長い建物の 2 階には、外気を取り入れるために開くことができる窓が付いた高い屋根の部分があった。この設計を使用して、農家は気流を制御し、カイコの周りの理想的な温度を維持することができた。新鮮な空気はカイコを病気から守り、収量を改善し、カイコ収穫の信頼性を高めた。弥平の設計は、島村村内や日本全国に急速に広まった。彼の貢献が日本の養蚕業に大きな影響を与えたことが評価され、彼の家は世界遺産の一部になった。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】田島弥平

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Tajima Yahei (1822–1898) grew up in Shimamura, a village in Gunma Prefecture where many families practiced sericulture. Silkworms were hard to breed due to their delicate nature, and thus cocoons were hard to produce in great volume. When Yahei was a child, the silkworm farmers of Shimamura had to buy their eggs from Fukushima to the north. Yahei therefore dedicated himself to finding better sericulture techniques, and eventually discovered the importance of good ventilation. He called his technique *seiryō-ikeu* (literally, “chilled cultivation”) and wrote a book titled *Yosan Shinron* (New Theory of Sericulture) detailing his methods. This book was unique for including many pictures and diagrams that allowed even illiterate farmers to reproduce his techniques. Previously, only the people who lived in the colder and drier northern regions of Japan had been able to raise silkworms with any consistency, but by employing proper ventilation techniques farmers in the warmer and more humid southern regions of Japan could join the silk industry. Yahei also cultivated a breed of silkworms that could survive and reproduce in his hometown of Shimamura. These were such important achievements that Yahei was invited to the imperial palace to teach the court his new method.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

田島弥平は多くの世帯が養蚕業を行う群馬県の島村で育った。カイコは繊細で、カイコを育成し、一貫して安定した繭を生産することは難しかった。弥平が子供のころ、島村の養蚕農家は福島以北の場所から蚕種を購入しなければならなかった。そのため、弥平はよりよい養蚕技術を見つけることに専念し、最終的に良好な換気的重要性を発見した。

以前は、より寒く乾燥した日本の北部地域に住んでいた人々だけが、一貫してカイコを飼育することができたが、適切な換気技術を採用することによって日本の暖かく湿気が多い南部地域の農家も絹産業に参入することができるようになった。

弥平はまた、故郷の島村で生息し繁殖することができるカイコの品種改良も行った。これらの重要な功績により、弥平は皇室に新しい方法を教えるために招聘された。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】田島弥平旧宅

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Tajima Yahei's (1822–1898) residence and silkworm farm were built in 1863 and feature his own original architectural addition called a *yagura*. A *yagura* is a raised roof built on the peak of the main roof that is lined with windows that can be opened or closed to control air flow. The first floor served as the family's living area while the second floor was devoted to sericulture. The residence, a registered UNESCO World Heritage Site, is still home to the seventh generation of Tajima's descendants. The interior of the family home is not open to visitors, but they are allowed on the property to view the exterior of the building, the grounds, and to go into a mulberry storage building that displays old farm tools and samples of silkworm cocoons.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

田島弥平（1822年 - 1898年）の住居と蚕室は1863年に建てられた。「やぐら」と呼ばれる彼自身がオリジナルに追加した建築を特徴としている。やぐらは空気の流れを制御するために開閉することができる窓が並んでいるメインルーフのてっぺんに建てられた高い屋根である。1階は家族の居間として機能し、2階は養蚕業に使われた。ユネスコの世界遺産に登録されているこの住居には、まだ田島の7代目の子孫が住んでいる。家族の住居の内部は入館者には開放されていないが、建物の外側、敷地の見学や、古い農具やカイコの繭のサンプルを展示している桑倉庫に入ることには許可されている。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】田島弥平旧宅案内所

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Located a short walk from Tajima Yahei's (1822–1898) residence stands the Tajima Yahei Sericulture Farm Information Center. The information center was once a local elementary school but has since been converted to offices and a museum. At the museum, visitors can watch an informational video, read informational pamphlets, and see artifacts significant to the town's history. One such artifact is a 140-year-old copy of Yahei's famous book, *Yosan Shinron*, which was stamped by Emperor Meiji (1852–1912) and Saigo Takamori (1828–1877), a key figure in the Meiji Restoration. The information center is also located next to the Tone River, the area's principal route for transporting silk and other goods to Tokyo.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

弥平の家から少し歩いたところに田島弥平旧宅案内所がある。案内所はかつて、地元の小学校であったがオフィスや博物館に改造された。博物館で、入館者は情報ビデオを見たり、情報パンフレットを読んだり、町の歴史にとって重要な成果物を見ることができる。そのような成果物の1つは、明治天皇（1852年 - 1912年）と明治維新の重要人物であった西郷隆盛（1828年 - 1877年）によって刻印された弥平の有名な本、140年前の養蚕新論のコピーである。案内所は、絹やその他の物資を東京に輸送するための地域の主要ルートである利根川にも隣接している。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】境島村養蚕農家群と蚕種製造

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

As a result of Tajima Yahei's (1822–1898) innovations, the Shimamura region steadily grew into a flourishing center of silkworm egg and cocoon production. Tajima Buhei (1833–1910), a relative of Yahei, specialized in rearing and breeding the highest quality silkworm eggs. Buhei came up with a clever way to further increase cocoon production: rather than selling eggs to the local silkworm farmers, he lent the eggs to them on credit instead. Once the farmers produced cocoons, they could sell the raw silk and pay for the eggs. Lending eggs rather than selling them allowed even poor farmers without cash to begin raising silkworms, which led to a large increase in silk production. It also meant that there was a strong incentive for the Tajimas to continue breeding the best eggs. Tajima Buhei's home is still standing, and his descendants have turned the second floor, which was used for sericulture, into a museum. There, visitors can see stacks of old lending ledgers, learn about methods of silkworm egg cultivation, and see other artifacts collected from silkworm farming families of the area. The museum is located a few hundred meters from Tajima Yahei's residence in a neighborhood of other farm houses built in the late 1800s.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

田島弥平（1822年 - 1898年）の革新の結果、島村地域は蚕種の繁殖と繭の産地として着実に成長した。最高品質の蚕種の飼育と繁殖を専門とする、弥平の親戚である田島武平（1833-1910）。武平は、繭の生産量をさらに増やすための賢い方法を思いついた。地元の蚕農家に蚕種を売るかわりに貸し出すことにした。農民が繭を生産し、生糸を売ることができれば卵の代金を払うことができる。卵を売るのではなく貸し出すことで、貧しい農家でも現金を使わずにカイコの飼育を始めることができ、その結果、絹の生産量が大幅に増加した。それはまた、タジマが最高の卵を繁殖し続けるという強い動機があったことも意味していた。田島武平の家はまだ残っており、彼の子孫は養蚕業のために使用されていた2階を博物館に変えた。そこでは、入館者は積み重ねられた古い貸し出し台帳を見たり、カイコの卵の栽培方法について学んだり、その地域の蚕農家から集められた他の遺物を見ることができる。博物館は、1800年代後半に建てられた他の農家が近所にある田島弥平の住居から数百メートル離れた場所にある。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】島村勸業会社

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

In 1872, Tajima Yahei (1822–1898) established the Shimamura Kangyo Company, a cooperative of Shimamura silkworm farmers and the first public silkworm egg company in Japan. Their business was the grading and the sale of high-quality silkworm eggs in the port town of Yokohama, which opened to foreign trade in 1859. Because silk trade in Europe was suffering from silkworm blight, in the late 1800s there was a large demand in Europe for raw silk from Japan. In 1879, the company decided to try selling their eggs directly on the international market. They sent Yahei, along with two other men, to travel to Italy. This was one of the first recorded instances of anyone from Gunma traveling to Europe. They traveled east across the Pacific and Atlantic Oceans, and on their return journey continued east through the Indian Ocean, circumnavigating the globe. Yahei set up a base in Milan, where they were able to sell around 30,000 sheets of silkworm eggs. The company continued to bring back foreign culture and new ideas during the course of four subsequent international trips. Tajima Keitaro (dates unknown), a younger relative of Tajima Yahei, went on the third and fourth missions and brought back seven microscopes from Italy, which allowed the company to adopt Western methods of checking silkworm eggs for disease. The first Christian church in the area, called the United Church of Christ in Japan, was built in Shimamura in 1897 as a result of this intercultural exchange.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

1872年、田島弥平は日本初の公的な蚕種の会社である島村養蚕農家の協同組合、島村勸業会社を設立した。彼らの事業は、1859年に対外貿易のため開港された横浜の港町で、高品質の蚕種の格付けと販売を行うことだった。ヨーロッパの絹貿易はカイコの疫病に苦しんでいたため、1800年代後半には日本の生糸に大きな需要があった。1879年、会社は日本の蚕種を直接国際市場で販売してみることにした。2名の社員と一緒に弥平をイタリアに派遣した。これは群馬県出身者がヨーロッパへ旅したとされる最初の記録のうちの一つである。彼らは太平洋と大西洋を横切って東へと旅し、帰路はインド洋を通過してさらに東へ行き、世界を一周した。弥平はミラノに拠点を開設し、そこで約3万枚の蚕種を売ることができた。それに続く4回の海外派遣の間、会社は外国の文化と新しいアイデアを持ち帰り続けた。田島弥平の若い親戚である田島啓太郎（生没不明）は、3回目と4回目の任務を受け、イタリアから7個の顕微鏡を持ち帰り、同社は蚕種の病気の西洋式検査方法を採用することができるようになった。この異文化交流の結果、1897年に日本基督教団島村教会と呼ばれるこの地域における初のキリスト教の教会が島村に建設された。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】パンフレット「富岡製糸場―「開国」とともに始まった日本の蚕糸業近代化のシンボル」前文  
 【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト  
<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The silk industry was a huge boon to the Japanese economy and helped drive the modernization of the country through foreign trade. By 1863, silk and related products made up over 80% of total Japanese exports. Unfortunately, as producers focused on generating profit by increasing production quantity, silk products varied significantly from business to business, and foreign merchants did not consider Japanese silks to be of high quality. In order to increase the flow of foreign money into the country, the Meiji government asked Shibusawa Eiichi (1840–1931), an official in the Ministry of Finance, to build a reeling mill in Tomioka, Gunma Prefecture. Paul Brunat (1840–1908), a former silk inspector in Yokohama, was brought on by Shibusawa as an advisor to the government. The government asked him to import a French-made reeling machine and steam power generator for the mill. The mill buildings were completed in 1872 and were a fusion of Japanese and French architecture.

Eiichi installed his brother-in-law, Odaka Junchu (1830–1901), as the manager of the new reeling mill, and Paul Brunat stayed at the mill as the director of operations for its first four years before moving back to France. It was initially hard to attract workers, so Junchu hired his own daughter as the first Japanese female worker at the factory. The mill soon became the center of silk production in Japan and the model for a new type of silk reeling factory that integrated Western and Japanese silk production styles. The factory was privatized in 1893 and continued to operate until 1987. In 2014 it was registered as a UNESCO World Heritage Site.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

絹産業は日本経済に好景気をもたらし、対外貿易で日本に近代化の道を開いた。1863年、シルク関連製品が日本の輸出の80%以上を占めた。しかし残念ながら生産者が量に重点を置くにつれ日本のシルクの品質は低下し、絹製品は企業によって大きく異なり、外国の商人は日本の絹を高品質とは考えないようになってしまった。明治政府は、外貨の流れをより確実に増やすため、大蔵省の役人である渋沢栄一(1840–1931)に群馬県富岡市に製糸場を建設するよう頼んだ。

横浜のシルクの検査技師をしていたポール・ブリューナ(1840–1908)は、渋沢の推奨によって、政府のアドバイザーとなった。政府は彼に依頼して、フランス製の製糸器械と蒸気機関を輸入した。製糸場は1872年に完成し、日本とフランスの建築が融合され建てられた。渋沢は新しい製糸場のマネージャーとして従兄の尾高惇忠(1830–1901)を雇い、ポール・ブリューナは工場のオペレーション責任者として4年間勤めた後、フランスに戻った。

当初、工場に労働者を連れて来るのは難しかったため、惇忠は最初の日本人女性労働者として自分の娘を雇った。まもなくして、この製糸場は日本のシルク生産の中心地となり、日本の他の地方に対し、西洋と日本のシルク生産を統

合した新しいタイプの製糸場のモデルとなった。1893年に工場は民営化され、1987年まで稼働を続けた。2014年、ユネスコの世界遺産に登録された。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】富岡製糸場（繰糸所）

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

In 1872, the Meiji government built the Tomioka Silk Mill, one of the country's first mechanized silk reeling factories. With it, they were hoping to achieve mass production of silk while maintaining a high level of quality. The government also sought to adopt Western technology and imported a silk reeling machine from France, along with the steam engine that powered it. Even with mechanization, workers were still needed to feed the cocoon filaments into the steam-powered silk reeling machines, but these machines greatly improved the quality and quantity of the silk produced at the factory. Tomioka silk impressed visitors to the 1873 Vienna World's Fair, and the name "Tomioka silk" spread through Europe. The mill's success led to the construction of twenty-six other machine-reeling factories based on the Tomioka model around Japan between 1873 and 1879.

The Tomioka Silk Mill was the largest reeling factory in the world at the time it was built. The mill was constructed using an interesting mix of Western and Japanese designs. Western elements include brick walls, glass windows imported from France, and a truss roof that made the traditional central columns of Japanese buildings unnecessary. The Japanese elements include traditional lime plaster finish on the interior walls, Japanese roof tiles, and Tajima Yahei's (1822–1898) *yagura* raised roof for ventilation. The mill was privatized in 1893 and changed ownership several times until it was bought by the Katakura Company. The company introduced automatic reeling machines to the mill in the 1960s, and these were used until the mill finally ceased operation in 1987. Using these machines, it is possible to automate almost the entire silk reeling process, and they are still the most advanced form of silk reeling machines used today.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

1872年、明治政府は、日本初の機械化された絹糸製糸工場の1つである富岡製糸場を建設した。これにより、彼らは高レベルの品質を維持しながら絹の大量生産を達成することを望んでいた。また、政府は西洋の技術を採用することで近代化を模索し、フランスから動力を与える蒸気機関と製糸器械を輸入した。機械化しても労働者は繭糸を蒸気動力の絹の巻き取り機に供給する必要があった。しかし、これらの機械は工場で生産される絹の質そして量を大幅に改善した。富岡のシルクは1873年のウィーン万国博覧会で世界に広く受け入れられ、「富岡シルク」の名前はヨーロッパに広がった。製糸場の成功は、富岡モデルに基づき1873年から1879年に日本全国に建てられた26戸の製糸場につながった。

富岡製糸工場が造られた当時、この工場は世界最大の製糸工場であった。また工場の建築は西洋と日本のデザインが合わさった興味深いものであった。西洋の要素としてレンガの壁やフランスから輸入されたガラスの窓、また中心柱を

使わず工場の重い屋根を支えるための屋根組が取り入れられた。日本の要素は内壁を仕上げるための伝統的な石灰漆喰、日本の屋根瓦、田島弥平(1822-1898)の屋倉風の換気用屋根が取り入れられた。

1893年、工場は民営化され、また片倉会社を買収するまで所有権が数回変更された。1960年代に自動巻き取り機を工場に導入し、稼働が停止される1987年まで使用された。これらの機械は製糸プロセスをほぼすべて自動化し、今日でも最も高度な製糸機となっている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】ポール・ブリユナ宅

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Paul Brunat (1840–1908) grew up in France, in a town called Bourg-de-Péage where silk was the major industry. He worked as a quality inspector at a French silk trading house and was sent to their Yokohama branch in 1866. Although steam engines were invented in Europe during the Industrial Revolution in the 1700s, the technology did not arrive in Japan until the 1800s, when Japan first opened its ports to foreign trade. The Japanese government was keen to utilize steam power for their Tomioka Silk Mill project, but they needed Westerners to show them how to operate a steam-powered factory. Paul Brunat was an ideal choice, having already lived in Japan for several years and having worked in the silk industry for even longer. In 1870, the Japanese Government commissioned Brunat to find the ideal location for the mill. Tomioka was selected for its three major advantages: first, the region already had a large and successful silkworm egg and cocoon industry, including Tajima Yahei's (1822–1898) sericulture farm. Second, there were two nearby coal-mining towns, Takasaki and Yoshii, that could supply coal. Third, and perhaps most importantly, their plans were accepted by the local community. Construction of the mill was completed in 1872, and Brunat moved his family into a house built for him on the site. They were initially joined by two French engineers and four French silk-reeling women whose job it was to train the Japanese staff. Brunat's home at the mill, including his personal wine cellar, still stands today.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

ポール・ブリユナ(1840–1908)はシルクが主要産業であったフランスのブル＝ド＝ページュで育った。1866年、ブリユナは横浜支店に彼を送ったフランスのシルク商社でシルク品質検査官として働いた。産業革命の1600年代、ヨーロッパで蒸気機関が発明されたが、その技術は日本が外国貿易へ開港する1800年代まで日本に持ち込まれることはなかった。日本政府は富岡製糸場のプロジェクトに蒸気力を利用することに熱心で、彼らは蒸気で動く工場をどのように操業するかを彼らに示すために西洋人を必要とした。ポール・ブリユナは理想的な人選だった。ブリユナはすでに数年間日本に住んでおり、それよりも長くシルク産業に勤めていた。1870年、日本政府は理想的な工場のある場所を見つけるようブリユナに委託した。そして3つの大きな利点のある富岡が選ばれた。まず、田島弥平氏(1822–1898)の養蚕農場をはじめとする大規模で成功した蚕種・繭産業があり、第二に炭鉱のエネルギー需要を満たすことができる2つの石炭鉱山町、高崎と芳井が近くにあった。第三に、これがおそらくもっとも重要な点だが、彼らの計画は地域社会に受け入れられた。工場の建設は1872年に完成した。そしてブリユナは家族を敷地内で彼のために建てられた家に移した。当初、2人のフランス人エンジニアと4人のフランス人製糸の女性が日本人スタッフに設備の使い方を指導していた。ワインセラーを含む、ブルナットの製糸所の家は今日でも残っている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】渋沢栄一

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Shibusawa Eiichi (1840–1931) was born in what is now the city of Fukaya in Saitama Prefecture. He learned business from a young age by working for the family, who operated a farm and indigo dye business. Eiichi studied the Chinese classics under the guidance of his cousin, Odaku Junchu (1830–1901), which fostered his lifelong principle of valuing social welfare over company profits. During this time, the Tokugawa shogunate was struggling to retain power, and Eiichi felt compelled to serve them in Kyoto. In 1867, as part of a shogunal delegation to the International Exposition in Paris, Eiichi spent a year and a half traveling in France and other European countries, where he observed Western society and economics. Upon his return, Eiichi used his knowledge to found Japan's first joint-stock company, Shoho Kaisho. By this time, the Tokugawa shogunate had been overthrown and the Meiji government was in power. Although Eiichi had been a part of the opposition, the new government valued his financial wisdom and appointed him to the Ministry of Finance. One of his last jobs as a bureaucrat was overseeing the development of the Tomioka Silk Mill. Having grown up near Tomioka, he was already familiar with the region and its silkworms. After leaving the government in 1873, Eiichi's career was only just beginning. He went on to establish the First National Bank and purportedly helped run over five hundred companies, most of which were financial institutions. Not only was he immensely successful in business, he was also a well-known philanthropist involved with over six hundred charitable organizations. Eiichi continued to work and promote social welfare programs until his death at age 91. Shibusawa Eiichi is often called the "Father of Japanese Capitalism," as he played a vital role in the development of Japan's modern corporate and financial systems.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

渋沢栄一(1840–1931)は1840年に現在の埼玉県深谷市で生まれた。栄一は若い頃から家族農場とインディゴの染料事業を通じビジネスを学んだ。栄一は従兄弟の尾高惇忠(1830–1901)の指導の下で中国の古典を研究した。それは会社利益よりも社会福祉を重視するという彼の生涯の原則を育んだ。この期間、徳川幕府の軍事政権は権力を維持しようと奮闘し、栄一は京都での奉仕を強いられる。1867年、栄一はパリ万国博覧会の代表団の一員として、フランスやヨーロッパ諸国で1年半を過ごし、西洋社会や経済を視察した。帰国後、栄一は培った知識を活かし日本初となる株式会社「商法会所」を設立した。この頃、徳川幕府は崩壊し、明治政府が権力を握っていた。栄一は在野の一員だったが、明治政府は渋沢の財界の知恵を重視し財務省に任命した。官僚としての彼の最後の仕事の1つは富岡製糸場の開発を監督することであった。富岡の近くで育った栄一は、蚕とその地域の知識を十分に身に付けていた。1873年に政府を離れたが、それは栄一のキャリアの始まりでもあった。第一国立銀行を設立し、金融機関を中心とした500社以上の企業経営に役立った。ビジネスで成功しただけでなく、600以上の慈善団体に関わ

る慈善家として有名であった。栄一は 91 歳で亡くなるまで、社会福祉プログラムを推進し続けた。渋沢は日本の近代的な企業・金融システムの発展に不可欠な役割を果たし、「日本資本主義の父」と呼ばれている。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】渋沢栄一記念館

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Shibusawa Eiichi Memorial Building was completed in 1995 in Shibusawa Eiichi's (1840–1931) hometown of Fukaya. The main room of the memorial building presents the key events in Eiichi's life using photographs, artifacts, and informational boards. One display shows examples of a modern proposal to print Eiichi's likeness on Japanese currency in recognition of his important role in the financial industry. On the north side of the building's exterior is a large statue of Eiichi that faces Mount Akagi. Located near the memorial building, visitors can tour Eiichi's home, his cousin Junchu's home, and the brick manufacturing facility Nihon Renga Seizo KK that Eiichi helped establish.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

渋沢栄一記念館は、1995年に渋沢(1840–1931)の故郷である埼玉県深谷市に開館した。記念館のメインルームには写真や遺品、栄一の生涯をまとめた資料が展示されている。そのうちの一つは、渋沢が財界の主要人物であったことから、日本の紙幣に印刷される肖像画の候補になった時の資料である。また、屋外、記念館の北側には、渋沢の銅像が赤城山の方向を向いて建てられている。記念館の近くには栄一の生家や従兄である尾高惇忠の生家、そして栄一の主導で設立された有名なレンガ製造工場、旧・日本煉瓦製造株式会社があり、見学することができる。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】尾高惇忠

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Odaka Junchu (1830–1901) was born in Fukaya to a family that served as *myoshu*, or village headmen, during the Edo period. He enjoyed intellectual pursuits from a young age, and eventually turned his family home into an academy for local children. His cousin Shibusawa Eiichi (1840–1931), who was ten years younger, studied at his school for several years. As a leader in his community, Junchu helped farmers from his region petition the Meiji government over a dispute with local authorities. Junchu had been previously employed by the Ministry of Popular Affairs and based on his leadership and knowledge he was asked to work on the site selection, construction, and management of the Tomioka Silk Mill. Junchu delegated the important task of sourcing the construction materials to Nirazuka Naojiro (1823–1898), a local man who had worked for Junchu’s family since his youth. The walls of the mill were to be made of brick, but brick had never before been made in that region, so Naojiro consulted the French workers and carefully tested different local clays until he was successful in producing high-quality building materials. The bricks he developed still make up the walls of the Tomioka Silk Mill. Once the construction of the mill was complete and operations had begun, Junchu became the manager for the Japanese workers. His own daughter worked as a “factory girl,” and he strongly supported the education and general welfare of the women at the mill.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

尾高惇忠(1830–1901)は江戸時代に名主または村主を務めた家の子として、現在の深谷市に生まれた。若い頃から学問に親しみ、長じて自宅を地元の子供たちのため学校へ変えた。10歳年下である従兄弟の渋沢栄一(1840–1931)も学校の生徒であり、数年間生徒として指導を受けた。農民たちと当時の自治体との間で揉め事があった折、惇忠は地域の長として仲介を求めべく明治政府へ嘆願を行なった。彼は以前に総務省に雇用されていたが、惇忠の知識やリーダーシップに感銘を受けた明治政府は、彼を富岡製糸場の立地選定、建造、運営の責任者に招聘した。惇忠は建築資材の収集を若い頃から尾高家に仕えていた葑塚直次郎(1823–1898)に委ねた。製糸場の外壁は煉瓦で造る予定であったが、当時国内で煉瓦の製造実績はまだなかった。そのため葑塚はフランス人技師と相談のうえ日本の粘土を使って実験を重ねた結果、基準を満たす煉瓦の製造に成功した。その煉瓦は今でも製糸場の外壁として当時のまま使われている。製糸場が無事竣工、稼働がはじまると惇忠は日本人工員の監督となった。彼自身の娘も製糸場の“女工員”として働き、女工たちの教育や福利厚生に尽力した。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 尾高勇

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

It was initially difficult for the Tomioka Silk Mill to find workers because of an unusual rumor that the French director Paul Brunat (1840–1908) and the other French employees drank blood. This rumor started when the locals saw the French workers drinking red wine, which was not common in Japan at the time. Overcoming this cultural understanding, Odaka Junchu's (1830–1901) 14-year-old daughter Odaka Yu (1859–1923) bravely volunteered to be the first female mill worker, and her example led others to follow. Silk reeling was generally done by young women because it requires good eyesight and dexterity, and the mill hired many unmarried women between the ages of 15 and 25. Women from all over Japan found work at the mill, and at one point over 400 “factory girls” were employed there.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

操業当初、フランス人監督のポール・ブリューナ(1840–1908)とフランス人労働者が血を飲んでいてという噂があったため、富岡製糸場では労働者を探すことが困難だった。この噂は、赤ワインの知識を持ち得ていなかった日本人が、フランス人労働者が赤ワインを飲んでいるのを目にして勘違いしたことで広まった。尾高惇忠(1830–1901)の長女で当時 14 歳だった尾高勇(1859–1923)は、最初の女性工員として手を挙げ、その仕事ぶりは他の工員たちのよい手本となった。製糸場での仕事は若い女性の視力と器用さが求められたため、15～25 歳の独身女性が工員として雇われた。これにより工場で働きたい女性が日本全国から集まり、一時期 400 人の女性工員が雇用された。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】パンフレット「横浜から世界へー絹の大衆化で世界が変わった」前文  
【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト  
<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The creation of the Tomioka Silk Mill and other silk reeling factories made it possible to efficiently produce high-quality silk all across Japan. Production was hindered only by the number of cocoons that were produced in each area. Cocoons were harvested only once a year, and the yield was still unreliable. Silkworms are particularly vulnerable to disease, and an outbreak could cause a large-scale sericulture farm to suddenly lose all their silkworms. Furthermore, silk quality is strongly affected by the conditions in which the silkworms are raised, which made the industry unstable overall. Two sericulture schools, each of which promoted new techniques for silkworm rearing, helped educate the new generation of silkworm farmers and push silk production to the fore of the Meiji industrial era. The two schools, Takayama-sha and Kyoshin-sha, were founded by brothers who had figured out that the right combination of heat and ventilation could cause silkworms to mature quickly. The schools they started both educated thousands of students and created a huge increase in cocoon production across Japan.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

富岡製糸場や日本各地にシルク製糸場が創設されたことで、効率よく、高品質の繭を加工することが可能になった。シルクの生産は各地の繭の数によって妨げられた。繭は年に一度だけ収穫され、収率はまだ不安定であった。蚕は特に病気に弱く、大規模な養蚕農場で病気が発生した場合、すべての蚕を一度に失う危険性が高かった。蚕がどのように飼育されたかによりシルクの品質は大幅に変化し、全体的に不安定な産業だった。2つの養蚕学校が、カイコの飼育のための新しい技術を奨励し、新世代のカイコ農家の教育に役立て、絹の生産を明治産業時代の最前線へと変えた。高山社と競進社は、暑さと換気の正しい組み合わせがカイコを急速に成熟させる可能性があることを発見した兄弟によって設立された。彼らが始めた学校は両方とも何千人もの学生を教育し、日本中で繭生産の大幅な増加を生み出した。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高山社跡

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Takayama-sha sericulture school in Fujioka operated from 1884 to 1927. The school taught the most up-to-date sericulture methods of its day to people from all over Japan, as well as countries like Korea, China, and Taiwan. Takayama-sha was founded by Takayama Chogoro (1830–1886), a former samurai who turned his ancestral home into a sericulture farm after the start of the Meiji Restoration in 1867. For six years, Chogoro failed to produce a good crop of silkworm cocoons, but he continued to try different methods and eventually found success by combining Tajima Yahei's *seiryō-iku* ventilation technique with a technique from Fukushima called *ondan-iku* in which the air around the silkworms is heated. Although the heat needed to be regulated carefully to prevent disease, it also encouraged the silkworms to grow faster and spin their cocoons after 28 days rather than 50. Chogoro combined the names of these two methods, calling his new approach *seion-iku*, and he shared his knowledge freely with his neighbors. As his reputation grew, silkworm farmers from across Japan began to visit his home to ask for advice. This led Chogoro to turn his sericulture farm into a school. Soon there wasn't enough room at the Takayama-sha for all the students, so a new building and several branch schools were built. Unlike the head school, the branch schools did not charge tuition in order to allow poorer families to attend. Of the thousands of graduates, 3,500 became sericulture teachers themselves, traveling around Japan to teach the *seion-iku* technique at the request of various cities. Takayama-sha has been credited with the rapid expansion of Japan's silk industry by cultivating a broad base of knowledgeable farmers and teachers.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

群馬県藤岡市にある高山社は、1884年から1927年までの間に運営された。

この学校は当時最新の養蚕方法を日本全国だけでなく、韓国や中国、台湾から訪れる人々に教えた。高山社は高山長五郎(1830–1886)という元侍で、1867年に明治維新が始まった後、彼の先祖代々の家を養蚕場に変えた。長五郎は6年間、良い蚕の繭を収穫することができなかった。しかし、彼は様々な方法を試し続け、最終的には田島弥平の換気技術である「清温育」と、部屋の空気を暖めることに焦点を当てた福島県の「温暖育」の技術を組み合わせ成功を取めた。病気を防ぐために熱を注意深く調節する必要があったが、熱は蚕を早く成長させ、繭の生産時間を50日から28日に短縮した。長五郎は彼の新しい方法を2つの名前を組み合わせ「清温育」と呼び、学んだことを隣人たちと自由に分かち合った。彼の評判が上がると共に、日本全国から蚕農家が彼の元にアドバイスを求めた。これにより、長五郎は養蚕農場を公立学校に変えた。すぐに高山社は十分な生徒が入るスペースがなくなってしまうため、新しい建物と、いくつかの分校が建てられた。本校とは異なり、支部の学校は貧しい家庭が通うことを許可するために授業料を請求しなかった。何千人もの卒業生のうち、3,500人が養蚕の教師になり、多くの都市の要請によ

り日本各地を回り「清温育」の技術を教えた。高山社は、幅広い知識豊富な農家や教師を養成することによって、日本の絹産業の急速な拡大に貢献した。

本事業以前の英語解説文

なし

## 【場所】

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

## できあがった英語解説文

The Takayama-sha Information Center includes tourist information desks, bathrooms, a multipurpose room with sericulture tools and displays, a silkworm-raising room, and a lounge that occasionally hosts special events such as silkworm cocoon crafts. Outside is a parking lot, a mulberry bush grove, a statue of Takayama Chogoro (1830–1886), and a riverside promenade that leads to the old Takayama-sha building. Guides at the Takayama-sha Information Center can accompany visitors to the historical site for a tour in Japanese, and audio guides are available in other languages as well.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

高山社情報館は、観光情報デスク、トイレ、養蚕のための道具や展示を供えた多目的ルーム、蚕飼育室、カイク繭工芸などの特別イベントを開催するラウンジがある。

屋外には駐車場、桑の茂みの森、高山長五郎(1830–1886)の像、高山社に通じる川沿いの遊歩道がある。高山社情報館のガイドは、史跡をめぐるツアーに付き添い日本語でガイドをしてくれる。オーディオガイドは他の言語でも利用可能。

## 本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】競進社模範蚕室

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Kyoshin-sha Sericulture School was a sericulture school built in 1894 in Honjo, Saitama Prefecture, by Takayama Chogoro's (1830–1886) younger brother Kimura Kuzo (1845–1898). Kuzo was adopted into the Kimura family after marrying their daughter. Like his brother, he wanted to improve his sericulture techniques, and the two maintained a good relationship with a healthy rivalry. The brothers shared their research information with each other, and Kuzo developed a technique he called *ippa ondan-iku* that was similar to Chogoro's but allowed greater control of the temperature around the silkworms.

Kyoshin-sha began as a sericulture academy that hosted silkworm-rearing competitions and cocoon exhibitions, but in 1897 it became a research facility. Kyoshin-sha went on to create thirty branch schools in prefectures across Japan. In total, 30,000 students were educated at Kyoshin-sha, greatly assisting the silkworm industry. Although Kyoshin-sha was relocated and renovated in 1979, the building still has its original tiles and remains true to its original form. The first floor has a small museum with old silk-weaving and reeling tools, as well as displays about the founders. There are also silkworm raising rooms that show the heating and ventilation systems.

Kyoshin-sha's education legacy can be traced to the modern day, as the local high school carries an academic lineage that reaches all the way back to the first Kyoshin-sha school. The biology curriculum at the current high school contains lessons about sericulture in recognition of the area's heritage of silk production.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

埼玉県本庄市にある競進社は、1894年に高山長五郎(1830–1886)の弟、木村九蔵(1845–1898)が創設した養蚕学校である。九蔵は木村家の娘と結婚後、木村家の養子となった。兄と同様に、彼は養蚕技術を向上させたいと考えていたので、両者は健全な競合相手として良い関係を維持した。兄弟は互いの研究情報を共有し、九蔵は「一派温暖育」と呼ばれる技術で、長五郎の技術と似ているが、より温度管理に重点を置いている技術を開発した。競進社は養蚕業や繭展を主催する養蚕業アカデミーとしてスタートしたが、1897年に研究施設となった。1979年に移築、改装されたが、当時のままの屋根瓦で、建物は当時の形を忠実に残している。1階には、古いシルク織と巻き取るルールが並ぶ小さな博物館になっており、創設者についての展示もある。また、当時採用されていた暖房、換気システムを展示している蚕飼育室がある。地元の高校には最初の競進社の学校までさかのぼる学術系譜があるので、競進社の教育的遺産の当時からこれまでを追うことができる。現在の高校の生物学カリキュラムには、その地域の伝統的な絹生産の認識から、養蚕に関するレッスンが含まれている。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 荒船風穴 蚕種保存

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Arafune Cold Storage was a natural refrigerator used to store silkworm eggs that was built in a valley in the town of Shimonita in Gunma Prefecture. In the 1870s in Nagano Prefecture, it was discovered by chance that storing silkworm eggs in naturally cold caves and valleys would allow for multiple cocoon rearing cycles in a single year. Naturally cold valleys, like the one in which the Arafune Cold Storage was built, are rare. Even in the summer, when daytime temperatures rise to above 30 degrees Celsius, the air flowing through the valley is just above freezing. This phenomenon is due to the open spaces in the valley's rock. Snow and ice that falls between the rocks is insulated from the spring melt, and when mountain air blows through the valley it is chilled by the unmelted snow. Arafune Cold Storage was built by Niwaya Seitaro (dates unknown), a local silkworm farmer from Shimonita. His son Niwaya Senju (dates unknown) studied sericulture at Takayama-sha and realized the chilly valley from his hometown could be turned into a natural cold storage facility like those in other prefectures. He told his father, who spearheaded construction of the storage buildings. Construction began in 1904, and the facility was in use until 1939. The storage buildings were built into the valley to catch the cold air that flows through the rocks. Wooden walls and roofs were also built on top of the stone foundations, but they no longer remain today. While Arafune Cold Storage existed, it was the largest natural cold storage facility ever built in Japan and could store over a million egg cards. Arafune Cold Storage allowed silkworm farmers to hold three hatching cycles a year, tripling their cocoon production and therefore their silk production.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

荒船風穴は群馬県の下仁田の谷に作られた天然の冷蔵庫の遺跡で、蚕卵を保管するために使われた。長野県で1870年代には、偶発的に自然の寒風がふく洞窟や谷に蚕の卵を保管することで、1年で複数回の繭の飼育が可能になることが発見された。荒船風穴のような寒い谷は、自然の中でも稀である。夏の気温が日中、摂氏30度以上に上昇しても、谷を流れる空気は凍る寸前の冷たさである。これは谷の岩にある隙間によるものだ。岩の間に落ちる雪や氷は春の雪解けを免れ、山の空気が谷を流れるときは解けていない雪の影響を受けて冷たい。荒船風穴は地元の養蚕農家であるニワヤセイトロウ（時期不明）によって作られた。養子のニワヤセンジュ（時期不明）は高山社で養蚕を学び、故郷の寒い渓谷は他の都道府県のような自然の冷蔵施設に変わることができると気づいた。彼は倉庫の建設を先導した父親に、そのことを伝えた。1904年に建設が始まり、1939年まで施設は利用された。岩を流れる冷たい空気を捕らえるために、貯蔵棟は谷間に建てられた。木造の壁や屋根も石造りの基礎の上に建てられたが、今日では残っていない。荒船風穴が存在している間、これは日本で建設された最大の天然冷蔵施設で、100万

枚以上の蚕卵紙を保存することができた。荒船風穴により、養蚕農家は、年間 3 回の孵化サイクルを実施し、繭生産量、したがって絹生産量を 3 倍にすることができた。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 下仁田町歴史館

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Shimonitamachi History Museum is located along Route 254 in Shimonita. Although the museum contains displays of the town's most popular export—a type of green onion called “Shimonita Negi”—most of the museum is dedicated to the history of Arafune Cold Storage. Several models show the mountain valley and illustrate what Arafune Cold Storage would have looked like during its existence. The displays and informational video show the science behind the valley's low temperatures, the silkworm life cycle, and how the hatching cycles were affected by the storage facility.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

下仁田町歴史館は下仁田にある 254 号線沿いにある。館内には町の最大の特産品である「下仁田ねぎ」で知られる緑色のたまねぎの一種の展示があるが、館内の大部分は荒船風穴の歴史に特化している。山谷と荒船風穴の全盛期の様子を表すいくつかの複製品（レプリカ）がある。展示物と解説ビデオによって、寒い谷の科学的背景と、蚕のライフサイクル、そして孵化サイクルが貯蔵施設によってどのように影響されたかを示すのに役立っている。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】パンフレット「現在も「上武絹の道」エリアは日本の工業の最前線」前文  
 【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト  
<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Japan was the world's leading exporter of silk for nearly half a century and changed silk from a product only the rich could afford to one enjoyed by the middle class. However, the Japanese silk industry suffered greatly when more affordable synthetic fibers—such as nylon—were introduced in the 1930s. Conditions worsened when trade with the United States ceased during World War II. In the postwar period, the demand for Japanese silk steadily declined, forcing silkworm farmers and reeling factories in Japan to shut down. This includes the Tomioka Silk Mill, which finally ceased operation in 1987. There are about three hundred households across Japan that still raise silkworms, and their silk is processed at two reeling factories. One of these is Ususeishi Co., Ltd. about 20 kilometers from Tomioka in the city of Annaka. First founded as the Usui Raw Silk Manufacturing Agricultural Cooperative Association in 1959, Ususeishi has become important to the maintenance of silk production in Japan. While the area is no longer known for silk production, this factory still takes in many of the cocoons produced around Japan for processing into silk.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本は半世紀近くにわたり世界でも有数のシルク輸出国であり、高所得者層しか購入できなかった絹を中級所得者層が楽しめるものに変化させた。しかし、日本の絹産業は、ナイロンなどの合成繊維が1930年代に導入され、絹より手頃な価格になった際、大きな打撃を受けた。第二次世界大戦中にアメリカとの貿易が途絶えると、状況は悪化した。戦後、日本の絹の需要は着実に減少し、日本のカイコ農家と製糸工場に閉鎖を強いることとなった。これには富岡製糸場も含まれ、1987年に休業することとなった。日本全体で今もまだ約300世帯が養蚕業を行っており、この絹を加工するために、日本には2つの巻取工場がある。ひとつは安中市の富岡から20キロほどのところにある碓氷製糸株式会社だ。

1959年に碓氷製糸農業協同組合として設立され、碓氷製糸は日本の絹生産の維持にとって重要な役割を担うようになった。この地域はもはや絹の生産では知られていないが、この工場では絹に加工するために日本中で生産された繭の多くを取り入れている。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】片倉シルク記念館

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

The Katakura Silk Museum was built by Katakura Industries to remember to the Kumagaya silk reeling factory that once stood on the site. The museum is housed in the renovated remains of two of the factory's old cocoon warehouses. The owner, Katakura Industries Co., Ltd., was founded in 1873 and for 121 years was a major part of the silk industry, taking over ownership of the Tomioka Silk Mill and running it until it stopped operations in 1987. The company was responsible for updating the factories to the latest fully-automated silk reeling machines. Examples of these machines can be seen at the Tomioka Silk Mill and Katakura Silk Museum and in fact they are still in use in other parts of the world. While Katakura Industries Co., Ltd. no longer produces raw silk, in order to preserve the knowledge of silk production the museum displays examples of the machines used in each step of the process.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

片倉シルク記念館はかつて同じ敷地に立っていた熊谷製糸場に敬意を表して造られた記念館である。記念館は、工場の2つの古い繭倉庫を改装した建物の中に建てられている。1873年に設立され、121年間にわたり絹産業の大部分を占めてきた片倉工業株式会社の所有者は、富岡製紙場の所有権を引き継ぎ、1987年に閉鎖するまでそれを稼働させた。同社は最新の全自動製糸機を更新する責任を負っていた。これらの機械の例は富岡製糸場と片倉シルク記念館でみることができる。実は、これらは他国でいまだに使用されている。片倉工業はもはや生糸を生産していないが、絹生産の知識を維持するために、記念館は工程の各段階で使用される機械の例を展示している。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 碓氷製糸（株）概要

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Ususeishi Co., Ltd. is one of only two raw silk reeling factories remaining in Japan. It processes 60% of all Japanese silkworm cocoons and produces most of Japan's raw silk. The location of the current Ususeishi headquarters was originally owned by a different company. This company collected silkworm farmers' *frison*, sticky waste silk, and made it into a soft silk stuffing. By 1959, this factory was in danger of going out of business, and it was purchased by a farmer cooperative. In 2017, it incorporated into Ususeishi Co., Ltd. Today, the factory is supported by the government, organizations, and private individuals in order to continue operating as an important relic of one of Japan's former great industries.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

碓氷製糸株式会社は日本に残っている2つの製糸工場のうちのひとつです。碓氷製糸株式会社は日本の繭の60%を処理し、日本のシルクの多くを生産している。碓氷製糸株式会社の本社はもともと別の会社によって保有されていた。この企業は蚕農家からキビソ、粘着性のある廃シルクを収集し、それを柔らかい絹の詰め物にした。1959年まで、工場が廃業する危険にさらされ、碓氷製糸農業協同組合に買い取られた。2017年、碓氷製糸株式会社に組み込まれた。今日、工場は、日本のかつての偉大な産業の一つの重要な遺産として運営を続けるために、政府、そして多くの組織・団体から支援されている。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 碓氷製糸(株) 製糸工程について

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Although places like the Tomioka Silk Mill and the Katakura Silk Museum display old factory machines, to see the machines in operation you will have to tour the Ususeishi factory. The tour begins in the upper floor of the factory, where the silk cocoons are delivered. Cocoons come from all over Japan. In response to the way the silk reeling industry has shrunk since its heyday, the factory preserves and displays bags marked with the brands of other, now out-of-business silk reeling factories. On the same floor are informational boards that give a simple explanation of the steps in the reeling process in both English and Japanese. Heading down one floor, visitors can see where the cocoons are dried and placed into storage. An adjacent building stores the cocoons, which are delivered to the sorting rooms by conveyor belts before being sorted and reeled. One of the few processes that has not been automated is the sorting of the cocoons. Experienced factory workers deftly remove cocoons with blemishes, holes, or those that contain multiple pupae.

The cocoons head to the boiler to be softened, and then it's on to the automated reeling machine. The machines automatically pull out the filament from the cocoons and reel it into a thread. Depending on the quality of the cocoons, the thread might snag or break. When this happens, it is the worker's job to fix the thread and restart the reeling process. The first steam-powered models brought to Japan from France required a lot of man-power: every pair of reeled thread had to be carefully watched by a "factory girl." With modern machines, however, just a single person can monitor over 120 reeling threads at once. There is little to no waste, as the damaged cocoons, sericin and *frison*, and even the pupae are all processed and sold as well. At the end of the tour, some of the different varieties of silk are on display, and occasionally these can be purchased.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

富岡製糸場や片倉シルク記念館では古い機械が展示されているが、稼働中の機械を見るには、碓氷製糸工場を見学する必要がある。見学ツアーはカイコの繭が運ばれてくる工場の上層階から始まる。繭は日本全国から運ばれる。繭の清算は徐々に縮小傾向にあり、工場は廃業した製糸工場の袋を展示している。同じフロアには英語と日本語の両方で巻き上げプロセスのステップを簡単に説明している情報版がある。一つ下の階に降りると、参加者は繭が乾燥され、貯蔵に移動した場所を見ることができる。隣接する建物は繭を貯蔵しており、ベルトコンベアは巻き取りの時がくると繭を選別室に運ぶ。自動化されていないいくつかのプロセスの1つに、繭の選別がある。経験豊富な工場労働者は、傷、穴のあいた繭、または玉繭をすばやく素早く取り除く。

繭は軟化するためにボイラーに向かい、自動巻き取り機に向かいます。機械は自動的に繭からフィラメントを引き出し、それを糸に巻き取ります。繭の品質によっては、スレッドが引っ掛かるか壊れてしまう。その場合、労働者は、糸を固定し



て巻き取りプロセスを再開させる。フランスから日本にもたらされた最初の蒸気動力モデルは多くの人力を必要とした。2台の製紙機は、一人の「工女」によって注意深く見守られなければならなかった。しかし、現代の機械では、一人だけで一度に120台以上の製紙機を監視している。

破損した繭、セリシン、“キビソ”、そして蛹さえもすべて処理され販売されているので、無駄はほとんどない。ツアーの終わりには、さまざまな種類のシルクが展示されていますが、購入することもできる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】パンフレット あとがき

【整備予定媒体】パンフレット、WEB サイト

<https://www.jobu-kinunomichi.jp/en/index.html>

#### できあがった英語解説文

Japanese industrial growth exploded in the late nineteenth century, and then again after the end of World War II. Japan joined other top industrial countries as a leading innovator, and the phrase “Made in Japan” came to signify high quality and reliability throughout the world. The evolution of the Jobu Silk Road exemplifies the changes that took place during Japanese industrialization and offers perspective on a unique side to Japanese history that cannot be seen in the modern megalopolis of Tokyo or even the thousand-year-old city of Kyoto.

Although the silk industry in the Jobu region is no longer as prestigious as it once was, it is still the center of silk production in Japan. Today, tourists come not just to experience the continuation of an ancient tradition, but also to purchase high-quality silk goods. The natural proteins in silk, including collagen, have been found to have excellent cosmetic benefits, and the region is now a leading producer of luxurious silk soaps. Several biotech companies in the region are also researching the use of silkworms for medical purposes such as vaccines and diagnostic agents. Recently, the world’s first genetically engineered silkworms were produced here. Some were created to make extra-fine, extra-soft silk, while others spin fluorescent silk that may soon be available for purchase.

Although it no longer dominates the world silk trade, the Jobu region will continue to have an important place in world history for its innovation in the silk industry. The history of silk in Japan is not just a history of interactions with foreign cultures, but the history of domestic industry and Japan’s technological evolution—a history that continues today.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本の産業は19世紀後半と第二次世界大戦後に急速に発展した。そして、日本はイノベーションのリーダーとして産業先進国に名を連ね、“Made in Japan”は世界的に高品質と信頼性を意味するものとなった。上武絹の道は、日本の産業化の過程で起こった変化の例であり、現代のメガポリス、東京や千年の歴史を持つ京都でも見られないユニークな歴史を持っている。

上武地域のシルク産業はかつてほど権威的ではないが、現在でも日本のシルク生産の中心地となっている。今日では、観光客は古代の伝統の継承を経験するだけでなく、高品質の絹製品を購入するようになった。コラーゲンを含む絹の天然タンパク質は優れた美容上の利点を有することが発見されており、この地域は現在、贅沢なシルク石鹸の主要メーカーとなっている。また、この地域のいくつかのバイオテクノロジー企業はワクチンや診断薬などの医療目的でカイコを研究している。最近では、この地で世界初の遺伝子組換えカイコが生産された。良質な絹を追求し、超ソフトな絹を作る一方で、もうすぐ市場に出回るであろう蛍光シルクを生産していたりもする。

今では世界の絹貿易を支配していないが、上武地域は絹産業の発展にとって世界的に重要な場所であり続けている。日本のシルクの歴史は外国文化との交流の歴史にとどまらず、国内産業の歴史であり、日本の技術の進化の歴史である。そしてその歴史は今日も続いている。

本事業以前の英語解説文

なし

# 成田観光仕事人会議

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple

Naritasan Shinshoji is one of the main temples of Shingon Buddhism with a history dating back over 1,000 years. Shingon Buddhism is one of the major schools of Buddhism in Japan. Shingon Buddhism was brought back from China by the famous monk Kukai (Kobo Daishi) in the ninth century. It is a school of esoteric Buddhism, which holds that enlightenment is possible in this very life, through the practice of rituals and meditation. The temple is one of the largest and most popular in eastern Japan, covering 220,000 m<sup>2</sup> and welcoming 10 million visitors every year. Five of Shinshoji temple's buildings are designated Important Cultural Properties, including the two former main halls and the Sanju no to, a three-storied pagoda. The famous image of Fudo Myoo, a Buddhist deity of fierce compassion, which is enshrined in the Daihondo Great Main Hall, is also an Important Cultural Property.

“Naritasan” is the *sango* (the “mountain name” prefix; *san* means mountain) of Shinshoji Temple. Buddhist temples were often built on mountains, and it became common to prefix temple names with the name of the mountain on which they are located.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山新勝寺

成田山新勝寺は、1000 年以上の歴史を持つ「真言密教」の大本山である。真言宗は、日本で最も主要な仏教宗派のひとつで、9 世紀に高僧・空海(弘法大師)によって中国から日本に伝わった。儀式や瞑想を通して、生涯をかけて悟りを開くことができると考える、難解な仏教宗派である。1,000 万人もの参拝客が毎年訪れ、220,000 平方メートルの境内面積を誇る本寺は、東日本で最も人気があり広い寺の一つである。新勝寺の建物のうち、2 つの旧日本堂や三重塔など五つが重要文化財に指定されている。大本堂にある、強い慈悲を持つことで知られる「不動明王」像も重要文化財に指定されている。

※「成田山」とは、新勝寺の「山号」である。日本の仏教寺院は、山に建立されることが多かったため、寺院名の前に立地となる山の名前を冠されることがある。

## 本事業以前の英語解説文

### Naritasan Shinshoji Temple

Naritasan Shinshoji Temple is the head temple of Shingonshu sect and is affectionately known as “Narita’s O-Fudo-sama.” The top-ranked of the “Big Three” temples of the Kanto region, it is visited by about 10 million people each year. In 1980, 5 important religious structures from relatively modern times were designated as important cultural properties: Komyodo Hall and Shakado Hall, which were formerly the main building, and the Three-storied Pagoda, NiomonGate, and Gakudo Hall.

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Daihondo, Great Main Hall

The Daihondo, Great Main Hall, of Shinshoji Temple was built in 1968 and houses a statue of Fudo Myoo, one of the guardian king deities of Buddhism, which the temple was founded to house over 1,000 years ago. Shinshoji's famous *Goma* fire ritual, in which wooden *Goma* sticks are burned in prayer, is performed here daily before the Fudo Myoo altar.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大本堂

新勝寺の大本堂は 1968 年に建立された。成田山新勝寺が 1,000 年以上前に開基されてから、不動明王(仏教の守護尊)を奉安している。「護摩木」という薪をたいて祈りを捧げる、新勝寺の有名な御護摩祈祷が、不動明王の御前の護摩壇で毎日行われている。

本事業以前の英語解説文

Great Main Hall

Great Main Hall was completed in 1968. The principal image is Fudo-Myoo, whose figure was consecrated bay the priest Kobo-Daishi. There is holy fire for invocation in this hall. Talismans and prayer charms are sold on the 1<sup>st</sup> floor, and scapegoat talismans are received in the east and west rooms of the 2<sup>nd</sup> floor.

1080<sup>th</sup> anniversary of the founding of Naritasan

“Commemorative unveiling of a treasured Buddhist image”

Period

April 28 through May 28 in 2018

# 405

No.3 Heiwa Daito, Great Peace Pagoda, Naritasan Shinshoji Temple,

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Heiwa Daito, Great Peace Pagoda

This 58 meter pagoda was built in 1984 in prayer for world peace and happiness. Its two-tiered, five-floor structure is derived from esoteric Buddhist teachings. On the first floor, there is an exhibition about the temple's history and a room for the practice of sutra copying (*shakyo*). The second floor is a prayer hall.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

平和大塔

この総高 58 メートルの仏塔は 1984 年に、世界の平和と幸福を祈願して建立された。二重基壇で 5 階建ての建築は、密教の教えを象徴している。1 階には成田山の歴史展示と写経道場、2 階は拝殿である。

本事業以前の英語解説文

Great Peace Pagoda

This solemn structure is a 58-meter- high Buddhist pagoda. The architecture of the double estrade and 5-level interior symbolizes the teachings of Hingon Esoteric Buddhism.



# 406

No.4 Somon, Main Entrance Gate, Naritasan Shinshoji Temple

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Somon, Main Entrance Gate

The fifteen-meter-high main entrance to Shinshoji Temple marks the boundary between the outside world and the temple grounds. The gate is carved with images of the twelve animals of the Chinese zodiac. Carved into the gate are images of the animals representing the twelve-year cycle of the Chinese zodiac. The eight Buddhist deities affiliated with the twelve years (four are guardians to two different years) are enshrined in the upper floor and protect all those who pass through the gate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

総門

新勝寺の総高 15 メートルの正門は、境内と境外を区切っている。門には十二支(Chinese zodiac)の絵が彫られており、これらの動物は 12 年周期の各年を象徴している。楼上には、十二支に対応する八体の仏が祀られている(8 体のうち 4 体は 2 つの年(動物)を守護している)。これらは、門を通る全ての人を守る仏である。

本事業以前の英語解説文

Somon Gate

The gate is made of zelkova wood. Images of eight principal guardians such as the deity Fudo-Myoo are enshrined on the gate.

# 407

No.5 Three-Storeyed Pagoda, Naritasan Shinshoji Temple

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Three-Story Pagoda

Important Cultural Property

The pagoda in front of the Daihondo Great Main Hall was built in 1712. It is 25 m tall, and in it are enshrined the Gochi-Nyorai, or the Five Great Buddhas. These celestial Buddhas represent the five all-pervading wisdoms of existence and are central to Shingon Buddhism. The pagoda was restored to its original appearance in 1983. A unique feature is the carved and decorated panels under the roof eaves.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

三重塔

重要文化財

大本堂の前にある総高 25 メートルの塔は 1712 年に建てられ、五智如来と呼ばれる 5 つの偉大な仏が祀られている。これらの天上仏は、5 つの知恵を備えた、真言宗における中心的な存在です。1983 年に、この美しい塔の当初の色を復元した。また、ひさしの下に彫られた装飾が特徴的である。

本事業以前の英語解説文

Three-storeyed Pagoda (Important Cultural Property)

Built in 1712 and located in front of Great Main Hall, this 25-meter high pagoda conveys the spirit of the middle Edo Period to the modern era. In 2007, work was done to recreate the lacquered finish, and it was restored to its former splendor. It is dedicated to the deity Gochi-Nyorai.

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】案内板

#### できあがった英語解説文

##### Three-Story Pagoda

Traditionally Buddhist pagodas were built as memorials for important saints, although now they are mostly thought of as enshrining Buddhist statues. The Five Buddhas of Wisdom, with Dainichi Nyorai at the center, are housed inside the pagoda. Sixteen Rakan, Buddhist saints said to have attained Nirvana, are carved in relief on the inner walls.

Built in 1712, the pagoda is 25 m tall and is listed as an Important Cultural Property. Three-dimensional carvings of dragons, *kirin* (auspicious mythical hoofed creatures) and *baku* (mythological chimera said to devour bad dreams) decorate the beams holding up the roof of each story. These mythical beasts were said to appear in times of peace, and thus collectively they represent a prayer for peace. The panels of clouds and water carved out of large panels of wood, which are under the eaves of the pagoda, are a very unusual feature.

The lacquer and polychrome decoration were restored between 1981 and 1983 to its original splendor, based on documents dated 1803.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 三重塔

伝統的には、仏塔は重要な聖者のための記念碑として建てられるが、現在は仏が祀られる場所とも理解されている。この塔内には大日如来を中心に、五智如来が奉安される。また、板壁に十六羅漢(涅槃に到達したとされる仏)の彫刻がめぐらされている。

1712年に建てられたこの25メートルの仏塔は、日本の重要文化財である。各層の外縁には竜、「麒麟」(縁起の良い、蹄を持つ神話上の生き物)と「獺」(悪い夢を食べるとされる神話上の生き物)が立体的に彫られている。これらの生き物は平和なときに現れるため、平和を願うことを象徴する。塔の庇の下には雲水紋の彫刻が施されている。これは一枚板で作られた珍しい構造である。

1981年から1983年にかけて、三重塔の漆塗りと彩色の工事が1803年の書物に基づいて行われ、建立当初の美しさが蘇った。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Komyodo, Former Main Hall

Built in 1701, this was the main hall of Shinshoji Temple before it was replaced by the Shakado. An important example of mid-Edo period architecture, this structure is listed as an Important Cultural Property. The three Buddhas enshrined here are, in the center, Dainichi Nyorai, the supreme deity of Japanese Esoteric Buddhism, flanked on either side by the fierce Fudo Myoo and Aizen Myoo, whose name means “stained by love.”

上記解説文の仮訳（日本語訳）

光明堂、旧本堂

1701年に建立された光明堂は、釈迦堂に代わられて移転する前まで、新勝寺の本堂であった。江戸時代中期の貴重な建物であり、日本の重要文化財に指定されている。この建物には、三種類の仏が祀られている。中央にいるのは、日本の密教で最高位の仏である大日如来、その両隣にいるのは、恐ろしい表情の不動明王と「愛に染まる」と書く愛染明王である。

本事業以前の英語解説文

Komyodo Hall (Important Cultural Property)

The old main hall was built in 1701. The main icon is that of the Dainichi Buddha, and the fire deity Fudo-Myoo and Aizen-Myoo (prayer for marriage) are enshrined here.

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】案内板

#### できあがった英語解説文

Komyodo, Former Main Hall

Built in 1701, this was the main hall of Shinshoji Temple before it was replaced by the Shakado. An important example of mid-Edo period architecture, this structure is listed as an Important Cultural Property. The three Buddhas enshrined here are, in the center, Dainichi Nyorai, the supreme deity of Japanese Esoteric Buddhism, flanked on either side by the fierce Fudo Myoo and Aizen Myoo, whose name means “stained by love.” While the faithful pray to all three, the six-armed red Aizen Myoo, in particular, has many devotees, as this Buddha is thought to assist in matters of the heart. Worshippers often light a candle before him and pray for luck in love.

The Komyodo is a fine example of the Genroku period (1688–1704), a luxurious culture often said to mark the high point of Edo period (1603–1867). The building has a hip-and-gable roof, with traces of red lacquer still visible on the roof tiles. Previously there was a veranda around the hall, but this was removed when the hall was moved to its current location.

Behind the hall is the Okunoin cave where a very wise Buddha is enshrined. This cave is opened every year during the beginning of July for the Gion Festival.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

光明堂、旧本堂

1701年に建立された光明堂は、釈迦堂に代わられて移転する前まで、新勝寺の本堂であった。江戸中期の貴重な建物であり、現在、日本の重要文化財に指定されている。

堂内には、三種類の仏が祀られている。中央にいるのは、日本の密教で最高位の仏である大日如来、その両隣にいるのは、恐ろしい表情の不動明王と「愛に染まる」と書く愛染明王である。参拝客は全員に祈りを捧げるが、縁結びの仏とされている赤い6本腕の愛染明王は、特に信者が多い。愛染明王の前に蠟燭を灯し、良縁を願う参拝客もいる。

光明堂の構造は、江戸時代初期(1603年-1868年)に栄えた元禄時代(1688-1704)の文化を象徴している。屋根は入母屋造であり、瓦に朱漆が残っている。かつてはベランダ(回廊)があったが、現在の場所に移される際に撤去された。

建物の裏には、とても賢い仏が祀られている奥之院があり、毎年7月初めの祇園祭りのときに開扉される。

本事業以前の英語解説文

なし

# 411

No.9 Shakado, Naritasan Shinshoji Temple

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Shakado Hall

Important Cultural Property

The Shakado, built in 1858, is the second of the two former main halls of Shinshoji. The historical Buddha, Shaka-Nyorai, otherwise known as Prince Siddhartha, is enshrined here. On the outer walls of the hall are highly detailed carvings from the nineteenth century of 500 Rakan (disciples who have gained enlightenment), and the 24 paragons of filial piety.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釈迦堂

重要文化財

釈迦堂は新勝寺の前の本堂であり、1858年に建立された。ここにはいわゆる仏陀(釈迦如来、またの名をシッダールタ王子)が安置されている。周囲の板壁には、五百羅漢(悟りを開いた弟子)と親孝行で知られる模範となる24の人々(訳注：二十四孝)の、19世紀の緻密な彫刻がなされている。

本事業以前の英語解説文

Shakado Hall (Important Cultural Property)

Built in 1858, the old main hall still conveys features of its late Edo Period origins. Around the temple are sculptures such as Gohyakurakan (Five Hundred Disciples of the Buddha) and Nijuyon-ko (24 filial exemplars). Visitors come here to pray to ward off bad luck.



【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Shakado Hall

The Shakado, is the former main hall of Shinshoji temple, replacing the Komyodo Hall. It was built in 1858 and is listed as an Important Cultural Property. The founder of Buddhism, Shaka-Nyorai, otherwise known as Prince Siddhartha, is enshrined here.

On the outer walls of the hall are highly detailed carvings from the nineteenth century of 500 Rakan (disciples who have gained enlightenment). It is said it took the master craftsman Matsumoto Ryozan (1801–1872) took ten years to complete the reliefs, giving each disciple a different expression. The subject is thought to be based on a famous work by Japanese painter Kano Kazunobu (1816–1863), said to one of the most important religious paintings of the Edo period (1603–1867). On the doors are also beautiful carvings by Shimamura Shunpyo of the 24 Chinese paragons of filial piety.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

釈迦堂

光明堂から代わった釈迦堂は、新勝寺の前本堂であった。1858年に建立され、現在は重要文化財となっている。仏教を開かれた釈迦如来(またの名をシッダールタ王子)が安置されている。

周囲の板壁には、五百羅漢(悟りを開いた弟子)の、19世紀の緻密な彫刻がなされている。仏師松本良山(1801–1872)が10年の歳月をかけて彫刻し、それぞれの弟子に異なる表情を与えた。これらの像は、日本の絵師狩野一信の有名な絵をもとにしたと考えられている。その絵は、江戸時代(1603–1867)の最も重要な宗教画だとも言われる。扉には、嶋村俊表による中国の24人の模範的孝行人たち(訳注：二十四孝)の美しい彫刻がある。

本事業以前の英語解説文

なし

# 413

No.11 Niomon, Guardian Kings Gate, Naritasan Shinshoji Temple

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Niomon, Guardian Kings Gate

Important Cultural Property

The four fierce guardian deities enshrined in this massive, eight-pillar gate protect the temple grounds from evil. Built in 1831, the design, materials, and carvings used in the gate are typical of early-modern temple architecture. The massive lantern in the center is made of gunmetal and weighs 800 kg.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁王門

重要文化財

この大きな八脚門には、猛々しい守護尊が四尊祀られ、境内を悪から守っている。1831年に建てられた門で、そのデザイン、材料、彫刻などは、近代初期の寺院建築の典型です。中央の巨大な提灯は砲金製で、800キロもの重さである。

本事業以前の英語解説文

Niomon Gate (Important Cultural Property)

There are two imposing statures, “Vermillion Deva Kings,” one on either side of the 19-meter-high gate, which serve to protect the temple.

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Niomon, Guardian Kings Gate

The four fierce guardians enshrined in the Niomon protect the temple grounds from evil. The two imposing figures at the front of the gate to the left and right are Misshaku Kongo and Naraen Kongo. Since they used to be colored red, they are also called the Vermillion Kings. At the back to the left and right respectively are Tamonten, who grants good fortune, and Komokuten, who inspires Buddhist contemplation. They have the power to see and hear over long distances, which makes them suitable protectors of the temple as nothing escapes their attention.

This eight-pillar gate was built in 1831 and is listed as an Important Cultural Property. Its materials, design, and carvings are typical of early-modern temple architecture. The large plaque at the front of the gate was written by the chief administrator of Todaiji Temple in Nara, High Priest Dojyo (1668–1732). The calligraphy reads *Naritasan*. The slips of paper stuck on the gate pillars were left by pilgrims to mark their visit to the temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

仁王門

仁王門には、猛々しい守護尊が四尊祀られ、境内を悪から守っている。正面向かって左右にはそれぞれ、力強く立派な密迹金剛と那羅延金剛がいる。かつて赤色であったことから、「朱振りの仁王尊(訳注：英語では Vermillion Kings)」とも呼ばれている。裏の左右にはそれぞれ、福德を授ける多聞天と仏心を起こさせる廣目天がいる。彼らは遠くまで見聞きする力があり、いかなるものも見逃さず新勝寺をしっかりと守っている。

この八脚門は 1831 年に建てられ、現在は日本の重要文化財に指定されている。その材料、デザイン、彫刻は近代初期の寺院建築の典型である。正面にある大きな額は、奈良にある東大寺の別当(訳注：英語では chief administrator)である高僧・道恕上人の筆であり、「成田山」と書かれている。また、門柱にはられた紙切れは、巡礼者が寺院への訪問を記念するために残したものである。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Gakudo, Votive Tablet Display Hall

Important Cultural Property

This magnificent structure is the Gakudo, where votive offerings from worshippers, including tablets inscribed with prayers and wishes called *ema* (tablets with pictures of horses), are displayed. Built in 1861, this is Naritasan Shinshoji Temple's second Gakudo. The first, dedicated by the famous Kabuki actor Danjuro Ichikawa VII (1791–1859) in 1821, tragically burned down in 1965.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

額堂

重要文化財

この壮大な建物は額堂と呼ばれ、ご信徒からの奉納品である額が掲げられている。これは、信徒の祈りや願いが込められており、絵馬(馬の絵などが描かれた額)と呼ばれている。この 1861 年に建立された額堂は、成田山新勝寺において 2 代目の額堂である。

初代の額堂は 1821 年に、有名な歌舞伎役者・七代目市川團十郎(1791–1859)により寄進されたが、悲しいことに 1965 年に焼失した。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】案内板

できあがった英語解説文

Gakudo, Votive Tablet Display Hall

The Gakudo is where votive offerings from worshippers, including tablets inscribed with prayers and wishes called *ema*, which have a horse painted on them, are displayed. Originally, live horses were offered to the gods. Later, these plaques with a painting of a horse were offered in place of an actual horse.

There have been two Gakudo at Shinshoji. This is the second, built in 1861. The first building burned down in a fire in 1965. Many of the important *ema* that were displayed in the first Gakudo are now preserved in the Reikokan as valuable cultural properties. The stone statue of the famous Kabuki actor Danjuro Ichikawa VII (1791–1859), who dedicated the first Gakudo to Naritasan Shinshoji Temple in 1821, was relocated after the fire.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

額堂

額堂には、ご信徒からの奉納物がある建物である。奉納物には、護身との祈りや願いが記された板、絵馬(馬の絵などが描かれている)などが掲げられている。かつては生きた馬が奉納されていた。のちに馬を描いた額が、実際の馬の代わりに捧げられるようになった。

新勝寺には今まで額堂が二つ建てられた。現在あるのは、1861年に建立された2代目の建物である。前の額堂は1965年に焼失した。最初の額堂に掲げられていた重要な絵馬の多くは、貴重な文化財として霊光館で保存されている。有名な歌舞伎役者である七代目市川團十郎(1791–1859)の石像は、火災のあとも同じ場所に残っている。七代目市川團十郎は1821年に、成田山に初代の額堂を寄進した人物である

本事業以前の英語解説文

なし

# 417

No.15 Ioden, Buddha of Healing Hall, Naritasan Shinshoji Temple

<成田、千葉県>

【施設名】成田山新勝寺

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Ioden, Buddha of Healing Hall

Generations of devotees have come to Naritasan Shinshoji Temple to pray to Yakushi Nyorai, the Buddha of medicine and healing, for good health and longevity. This revered Buddha was previously enshrined at the Yakushido, but to give visitors better access, it was relocated in 2017 to the Ioden, which was built to commemorate the 1080th year anniversary of the founding of Shinshoji Temple. The twelve Heavenly Generals protect Yakushi Nyorai against the constant temptations and worries coming from all directions that lead to suffering.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

醫王殿

ご信徒の方々は何世代にもわたり、健康と長寿のため、薬と治癒の仏である薬師如来に祈りに成田山新勝寺へとやってきました。この崇敬を受けてきた御仏は以前、薬師堂に祀られていたが、参拝者が訪れやすいように2017年、醫王殿に移された。この建物は新勝寺の開基1080周年に合わせて建立されたものである。また、醫王殿では薬師十二神将(訳注：英語では The twelve Heavenly Generals「天界の12将」)が、苦しみの原因となる、あらゆる方面からの絶え間ない誘惑や心の迷いから薬師如来を守っている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山新勝寺（成田山表参道）

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Yakushido, Former Buddha of Healing Hall

This is the oldest of the former main halls of Naritasan Shinshoji Temple. Built in 1655, it was moved to its current location outside the temple grounds in 1855. It was at this hall that the famous Edo period (1603–1867) Kabuki actor Danjuro Ichikawa I prayed for a child. His son was born soon after. In 1969 the city of Narita designated Yakushido a Tangible Cultural Property.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

薬師堂

薬師堂は、成田山新勝寺の旧本堂の中で最も古い建物である。1655年に建立され、1855年に現在の境外に移築された。江戸時代(1603年–1868年)の有名な歌舞伎役者である初代市川團十郎は、この場所で子授けを祈願した。のちに、彼に息子が生まれる。1969年に、薬師寺は成田市によって有形文化財に指定された。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山新勝寺（成田山表参道）

【整備予定媒体】案内板

#### できあがった英語解説文

Yakushido, Former Hall of the Buddha of Healing

The Yakushido is the oldest of the former main halls of Naritasan Shinshoji Temple. It was built in 1655 and moved here outside the temple grounds on the main approach (*omotesando*) to the temple in 1855 when the Shakado was built.

The Buddha of medicine and healing, Yakushi-Nyorai (Bhaiṣajyaguru), was enshrined here before it was moved to the Ioden. Worshippers came to pray to Yakushi Nyorai for good health and longevity, including the famous Kabuki actor Danjuro Ichikawa I (1660–1704), who in the Genroku period (1688–1704) is said to have prayed here for a child. His son was born soon afterward. He celebrated by playing the Naritasan Shinshoji Temple deity, Fudo Myoo, on stage, gaining the Ichikawa school of Kabuki the stage name “Naritaya.” His descendants have had strong ties with the temple ever since.

In 1969, the city of Narita designed this hall a Tangible Cultural Property.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

薬師堂(元の薬師如来堂)

薬師堂は、成田山新勝寺の旧本堂の中で最も古い建物である。1655年に建立されたが、釈迦堂が建てられた後の1855年に、境外の表参道沿いにてであるこの場所に移築された。

薬と癒やしの仏である薬師如来(Bhaiṣajyaguru)は、醫王殿に移される前、この建物に祀られていた。参拝者たちは、健康と長寿を薬師如来に祈るためここを訪れた。そのうちの一人、有名な歌舞伎役者である初代市川團十郎(1660–1704)は、子宝に恵まれず、江戸元禄期(1688-1704年)にこの場所で子授けを祈願したと言われている。のちに、彼に息子が生まれた。團十郎は(歌舞伎の)ステージ上で、成田山新勝寺の御本尊である不動明王を演じてこれを祝い、歌舞伎の市川家は「成田屋」というステージネーム(屋号)を得た。それ以来、彼の子孫も代々、新勝寺と強い縁を持ち続けている。

1969年に、薬師堂は成田市により有形文化財に指定された。



本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山公園

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

#### できあがった英語解説文

Naritasan Park

Naritasan Park is a beautiful 165,000m<sup>2</sup> park in the grounds of Naritasan Shinshoji Temple, spreading from the Great Peace Pagoda that is the symbol of the temple. Originally designed in 1928, this park includes a waterfall (with an enshrined Fudo Myoo called “Otaki Fudosen” above), three ponds, a plum tree grove, and ample green open spaces that express the Buddhist respect for the sanctity of life and all living things. The European garden features a grand fountain and a floating gazebo is an accent in the middle of Ryuichi pond. The park includes the Calligraphy Museum, haiku monuments to famous poets such as Matsuo Basho (1644–1694) and Takahama Kyoshi (1874–1959), and the tea room Sekishoan. Off to the side of the museum is a Japanese garden feature called a *suikinokutsu*, literally a water harp cave. Put your ear to a bamboo pole placed in the ground and listen to the melodic sounds made by water falling into this musical device. Seasonal festivals like the Narita Plum Tree Festival in spring and Naritasan Autumnal Leaves Festival are very popular seasonal events. The peaceful Naritasan Park is a popular area of rest and contemplation for visitors to Naritasan Shinshoji Temple.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山公園

成田山公園は、成田山新勝寺の境内にある16万5000平方メートルの美しい公園で、新勝寺の象徴でもある平和大塔(の直下)から広がっている。1928年に設計されたこの公園には、滝(上のほうに「御滝不動尊」という不動明王が祀られている)、三つの池、梅林、広い豊かな緑のエリアがあり、生きとし生けるもの全ての生命を尊ぶという仏教の思想を表現している。

西洋庭園は大きな噴水があり、竜智の池では中程にある浮御堂がアクセントとなっています。園内には書道美術館、松尾芭蕉(1644–1694)や高浜虚子(1874–1959)など著名な文人たちの句碑、茶室「赤松庵」がある。また、美術館の脇には、水琴窟とよばれる日本庭園独特の設備がある。これは地中に刺した竹の棒に耳を当てて水の落ちる音を聞くことができる施設である。そして、春の梅まつり、秋の紅葉まつりなどの四季のお祭りが、とても人気な季節のイベントである。穏やかな成田山公園は、成田山新勝寺に参拝する人にとって、休息して物思いにふけられる、人気の空間です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】宗吾霊堂

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

#### できあがった英語解説文

Sogo Reido Sanctuary

Sogo Reido, otherwise known as Toshoji Temple, is an ancient temple believed to have been constructed by general Sakanoue no Tamuramaro (758–811) in the late 700s to memorialize those killed during war. Its popular name changed about 360 years ago when it enshrined Sakura Sogoro (1605–1653), also known as Sogo-sama, a rural headman who stood up to the shogun (military dictator and sovereign of Japan) of the time to save rural citizens from poverty and famine. Today, Sogo Reido is known as a viewing spot of beautiful hydrangeas, as well as for the Otaiya Festival, which is a memorial service for Sakura Sogoro.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

宗吾霊堂

宗吾霊堂、別名東勝寺は、700年代後半に将軍・坂上田村麻呂が戦没者供養のために建立したと言われる古寺である。約360年前に、「宗吾様」として知られる佐倉惣五郎(1605–1653)を祀ってから、その呼称が変わった。宗吾様は地域の長であり、貧困や飢餓から農民を救うために、当時の将軍(日本の軍事的独裁者であり支配者)に対し立ち上がった人物である。今では、宗吾霊堂は紫陽花の名所として知られ、また佐倉惣五郎を偲ぶ御待夜祭が行われることで知られている。

#### 本事業以前の英語解説文

Feel the history, nature and culture

Sogo Reido Sanctuary

Meisho-zan Thoshoji Temple

This is the family temple of Sogo Sakura, a public-spirited man of the Edo Period who saved farmers from overtaxation. The temple features the Sogo Reihoden and its collection of sogo's personal effects, and the sogo Oichidaikikan, where visitors can enjoy a 13-sided 3D panorama of 66 dolls.

【施設名】成田山表参道

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Naritasan Omotesando, the Main Approach to the Temple

The street that leads from Narita Station to the entrance gate of Naritasan Shinshoji Temple is the *omotesando*. The restaurants, sweets, medicine, and souvenirs shops that line the street are all reminiscent of an Edo period (1603–1867) townscape, providing an experience of Japanese heritage that spans several city blocks. There are statues of Chinese zodiac animals and famous poets to be found along the street, as well as a number of important historical buildings. Narita's tourist office is located on the *omotesando*.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山表参道

成田駅から成田山新勝寺の門まで続く表通りが、表参道である。路傍に連なる、料理屋、お菓子や薬、お土産のお店、そのいずれもが、日本の江戸時代(1603-1867年)の町並みを思い起こさせ、数ブロックにわたって日本の遺産を体感させる。干支の動物像や有名な詩人の石像が通りの中で見つけられ、またいくつかの有形文化財も道沿いに見られる。成田の観光オフィスも、表参道にある。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山表参道

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Ichiryugan Mitsuhashi Pharmaceutical Company

Ichiryugan Mitsuhashi is a pharmaceutical company that produces over 300 types of traditional Japanese natural and holistic remedies. The company is said to have been established between the years 1688–1704, and its namesake, the “Ichiryugan on-the-road stomach medicine,” has been sold for over 300 years to pilgrims traveling to Naritasan Shinshoji Temple. The company's black-painted, two-story building with thick mortar-walls was built in the Meiji period (1868–1912) and is designated a National Tangible Cultural Property.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

一粒丸三橋薬局

一粒丸三橋は、300種類を超える日本の伝統的な生薬をつくる製薬会社である。創業は1688年-1704年の間と言われている。社名の元になった道中薬「はらのくすり成田山一粒丸(Ichiryugan on-the-road stomach medicine)」は、成田山新勝寺へ詣る人々に、300年以上にわたって販売されてきた。黒塗りされたしっくい作りの2階建ての建物は、明治時代(1868年-1912年)に建てられたもので、日本の有形文化財に指定されている。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】成田山表参道

【整備予定媒体】パンフレット・Web サイト

できあがった英語解説文

Onoya Ryokan, Former Hotel

Only a handful of buildings both remain from the time when the *omotesando* approach to Naritasan Shinshoji Temple began to flourish in the Edo period (1603–1867) and also subsequently survived the two World Wars. The split-level Onoya Ryokan did. Built in 1935, this soaring and spacious wooden structure is located near Shinshoji Temple's Yakushido and is now a nationally registered Tangible Cultural Property. It no longer hosts overnight guests as an inn, but still operates as a restaurant where Japanese cuisine and delicacies such as eel can be enjoyed.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大野屋旅館

江戸時代(1603年-1867年)に成田山新勝寺へと至る道として表参道が繁栄し、その後、二度の世界大戦に耐え抜いたあと、あとに残った建物は一握りであった。乱平面造り(翻訳補足：段差のある階層構造の家)の大野屋旅館も、その一つである。1935年に建てられた、空にそびえる大規模な木造建築は、新勝寺薬師堂の近くに位置する。また、現在は日本国有形文化財に登録されている。現在は宿泊施設としてゲストを泊めることはないが、料理店として営業しており、日本料理や鰻などの美味しい料理を楽しめる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Exploring Narita City

Population: 130,000

Area: 214 km<sup>2</sup>

Narita city is located in Chiba Prefecture between the Tone River to the north and Inbanuma Marsh in the west. It is home to Narita International Airport, which welcomes around 15 million visitors each year from all over the world. Historically Narita flourished as a temple city, with two famous temples. Naritasan Shinshoji Temple dates back over 1,000 years and is one of the most popular temples in eastern Japan. Toshoji Temple (also known as Sogo Reido Sanctuary) dates back to the eighth century. Toshoji is the family temple of Sakura Sogoro (1605–1653), who is said to have been executed for appealing to the shogun for a reduction in taxes for the people of Narita during a famine. In 2016, Narita and three neighboring cities were designated Japan Heritage sites for their historical Edo-period townscapes. The Edo period (1603–1867) was the last era of traditional Japanese culture and society, ruled by the samurai before rapid modernization began. Narita is an easy place to explore Edo-period culture.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田市の探索

人口：130,000 人

面積：214 平方キロメートル

成田市は千葉県に位置し、北は利根川に、西は印旛沼に接する都市です。年間約 1,500 万人の訪問客を世界中からお迎えする、成田空港も抱えています。歴史的には、成田市は 2 つの有名な寺を持つ、寺院の町として栄えてきました。1,000 年以上の歴史を持つ、東日本で最も人気な寺院の一つである成田山新勝寺と、8 世紀からあると言われる、東勝寺(宗吾霊堂とも呼ばれる)です。東勝寺は、佐倉惣五郎の菩提寺(family temple)で、彼は飢饉の際に、将軍に対して成田の人々のために減税を訴えた人として知られています。2016 年、成田市と近接する 3 都市が、その「江戸の時代の町並み」を日本遺産に認められました。江戸時代(1603-1867)は、侍が統治し、伝統的な文化と社会があった、近代化前の最後の時代です。成田は、江戸時代の文化を容易に探索できる場所です。



## 本事業以前の英語解説文

The place where Narita city does not come to

Approximately 214 km<sup>2</sup> in area, the population that the Narita city is located on the north total plateau of the North Chiba center, and the west contacts with Lake Imba in the Tone River in the north are cities of approximately 130,000 people. I prospered mainly on famous Naritasan Shinshoji Temple and a family temple, Sogo Reido Sanctuary of Sogo, Sakura where I made an effort for for general public in the Edo era as hallowed ground for a long time as Monzen-cho that was full of taste. In addition, Japanese central station, Narita International Airport are had, and approximately 14 million a year customers are invited as International Tourist city. In 2016, as for the Narita city, story "north total four city Edo travelogue, north total ① cityscape to feel Edo" received the authorization of the inheritance of Japan with Sakura-shi, Katori-shi, Choshi-shi. It is the city that traditional charm to enjoy walk of the cityscape full of the Edo emotion as nearest "Edo" from the world and the charm that international atmosphere is rich in harmonized.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple

Naritasan Shinshoji Temple is the center of Narita city. It was founded in 940, and today it is one of the most popular temples in eastern Japan with over 10 million visitors a year. The temple is the most visited of all Japan's temples for *hatsumode* (first shrine or temple visit of the New Year) when it welcomes 3 million people. It is one of three leading temples of the Chisan sect of Reformed Shingon Buddhism, a school of esoteric Buddhism, which today for many Japanese is defined by its consecrated fire ritual. The *Goma* fire rite is performed daily before the Fudo Myoo, one of the Wisdom Kings in Buddhism, who protects by burning away all impediments and defilements, thus aiding people towards enlightenment. The ritual is held twice each day. There are five buildings that have been designated Important Cultural Properties on the temple's 220,000 m<sup>2</sup> of grounds. These are the Komyodo and Shakado, which previously served as the main hall of the temple, and the Sanju no to (three-storied pagoda), the Niomon Gate, and the Gakudo. Some of the structures date back over 300 years and are important examples of early modern temple architecture.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山新勝寺

成田山新勝寺は、成田市のある中心にある。940年の創始で、今日では毎年1,000万人を超える参拝客が訪れる、東日本で最も人気な寺院の一つである。初詣(first shrine or temple visit of the New Year)で訪れる参拝客の数は、日本のお寺の中で一番多いと言われ、300万人もの人々を出迎えている。成田山新勝寺は、密教真言宗智山派を主導する3つの寺院のうちのひとつ。多くの日本人にとっては、炎の儀式で知られている。

護摩祈祷は、不動明王の前で行われる日々の儀式で、不動明王とはあらゆる障害や不浄を燃やし去る、智慧の仏のひとつ。悟りに向かう人々を助ける存在である。儀式は日に2回行われる。

境内の広さ220,000平方メートルの成田山において、五つの建物が重要文化財に指定されている。旧本堂である光明堂と釈迦堂、三重塔、仁王門と額堂である。いくつかの建築は300年以上の歴史を持ち、近世の寺院建築を知ることができる貴重な場所となっている。

## 本事業以前の英語解説文

### Naritasan Shinshoji Temple

Place of faith full of approximately 3 million prayer visitors more than 10 million people a year on the first three days of a new year for New Year holidays

The Naritasan Shinshoji Temple got close to by the nickname of "the Fudo state of Narita" is large Motoyama of the Shingon Buddhism intellect mountain group. In national eminent hallowed ground proud of the history more than 1,000 years to since a founder, the prayer visitor more than 10 million a year visits it. It is full of approximately 3 million New Year's visit to a Shinto shrine visitors on the first three days of a new year for New Year holidays and is proud of the national first place for a Buddhist temple. Five of the triple tower, Deva gate, ex-voto gallery are appointed including Shakado the light temple which is the old main hall of a Buddhist temple by the important cultural property of the country. It is extremely exceptional that five are appointed in a mass at one temple by an important cultural property, and know the early modern temple architecture; come to be valuable. Open basis 1080 is reached in 2018, and memory size exhibiting a Buddhist image is held. During a large exhibiting a Buddhist image period to have the relationship once in ten years, various events are held in Narita mountain.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

Improve Your Luck with a Prayer

Naritasan Shinshoji Temple has been a place of great spiritual power for over 1,000 years. Entering the vast temple precinct, you will gain a refreshing sense of peace walking through its beautiful grounds and sacred halls. Learn more here about the different power spots that bring spiritual awareness and luck.

The temple offers a number of highly recommended programs and experiences, which will relax your body and soothe your soul, as they have for so many people throughout the centuries.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

祈りを捧げて運氣向上

信仰の地として、1,000 年以上の歴史がある成田山新勝寺。広大な境内に足を踏み入れると、美しい空間と神聖なお堂に囲まれ、さわやかな安らぎを感じられることだろう。神聖な感覚や、運氣をもたらす、その他のパワースポットについて学んでみよう。

成田山新勝寺は、数々のオススメな体験プログラムを提供している。多くの人々が何世紀にも渡って経験してきた、体をリラックスさせ、魂を落ちかせるプログラムである。

本事業以前の英語解説文

I pray for fortune appeared in the natural phenomena up in Power spots

Mt. Narita with the history that is more than 1,000 years as a place of faith. If hands are put together in front of a temple buildings Buddhist monastery built in the very large precincts, and the rich Nature is touched, it should be able

to be felt that a heart becomes quiet, and power rises in the whole body. Power spots & benefit spot of such 新勝寺 is introduced.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

Sutra Copying Experience

At Naritasan Shinshoji Temple, guests can take part in sutra copying (*shakyo*) on the first floor of the Heiwa Daito, Great Pagoda of Peace. A sutra is a religious text or excerpt from Buddhist teachings, and copying the text by hand is thought to heighten awareness as well as calm the mind. Traditionally people sat on the floor and copied sutras onto a sheet of blank paper. At Naritasan Shinshoji Temple, we have made the experience more accessible. You can sit on a chair and trace over the Chinese characters which are printed onto the page. In today's busy world, it is important to take the time to relax and recenter yourself, and copying a sutra is perfect to focus and settle the mind.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

写経体験

成田山新勝寺では、平和の大塔の1階でお経を写す「写経」を体験することができる。お経とは宗教的文章、または仏教の教えを抜粋したもので、手で書き写すことによって意識が研ぎ澄まされ、心の平穏がもたらされる。伝統的な写経では、床に座って白紙に書く。しかし成田山新勝寺では、よりとつきやすい形で体験できる。椅子に座り、漢字が書かれた紙をなぞるのである。慌ただしい現代では、穏やかな時間を過ごして自分を見つめ直すことは非常に大切である。写経は、集中して心を落ち着けるのに最適である。

本事業以前の英語解説文

The Buddhism experience that the daily life is left, and an ease is got from

Copying of a sutra experience

In the Mt. Narita, copying of a sutra can be experienced anytime. It is relief in the beginner in what can be copied while a text of a sutra being printed on copying of a sutra paper thinly, and writing a letter, and tracing it. In addition, I may not put a burden on a foot as a chair seat is prepared. In the busy present age, as for the time to write a letter carefully, it is valuable. It will be that an ease is felt for passage of calm time.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

The *Goma* Fire Prayer Ritual

The *Goma* fire ritual is central to the religious observances of Naritasan Shinshoji Temple. It is performed at set times every day in the Daihondo Great Main Hall. Visitors write a prayer onto special, wooden tablets called *gomagi*, which are then burnt in a sacred fire before the Buddhist deity Fudo Myoo. The fire is thought to carry the written message directly to Fudo Myoo, so that he may answer and alleviate followers' concerns. Everyone is welcome to participate in this ritual, following in the footsteps of so many people whose prayers have been answered over the centuries. Participants may also have possessions precious to them passed through the flames during the *Goma* ritual, to receive protection from Fudo Myoo, which is called *obikaji*.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

護摩祈祷

御護摩祈祷は、成田山新勝寺でもっとも重要な宗教的祭祀である。決まった時間に毎日、大本堂で行われる。参拝客は、護摩木という特別な木の棒に願いを書き、護摩木は不動明王の聖なる炎に入れられる。炎は、書かれたメッセージを不動明王に直接届けると考えられており、不動明王はそれに応え、信者の悩みを軽くしてくれる。誰でも堂内に上がって祈祷に参加し、何世紀にもわたって多くの人々が祈りを届けてきた足跡を辿ることができる。参加者は、護摩祈祷の間、自分自身の大切な持ち物を火に当てる「お火加持」も行うことができる。これにより、不動明王の守りを受けられるのである。

本事業以前の英語解説文

Goma prayer prayer

The goma prayer that is the most important to Mt. Narita. The hesitation of the heart of people is quitted by burning down the whole goma tree by flame of the wisdom of the God of the Fire, and I pray so that all wishes accomplish it, and I continue without dying out since a founder. Anyone gets nervous in a temple and can visit it and can perform "fire incantation" to allot an important belonging for fire of the goma, and to have benefit.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Physically connect with Fudo Myoo

In front of the altar of the Daihondo Great Main Hall is a five-colored rope. This rope is tied to the left hand of the sacred image of Fudo Myoo. It is believed that you can deepen your connection with Fudo Myoo by praying for the protection of the Buddha while holding this rope.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

不動明王との絆（お手綱参拝）

大本堂の祭壇(護摩壇)の前には、5色の綱がある。この綱は、不動明王像の左手とつながっている。この綱に触れて仏の加護を祈ると、不動明王とのつながり(絆)をより深めることができると信じられている。

#### 本事業以前の英語解説文

Reins worship

The reins told to deepen a bond with the God of the Fire who is a principal idol can be touched when I advance before an altar for cedar-stick burning. The reins (five colors of ropes) are tied up to the left hand of the God of the Fire and this rope is touched and binds a relationship together with the God of the Fire firmly and prays to be able to have protection. The God of the Fire is seen close and is the moment when the value of the relationship can be realized.



# 431

No.29 Goshuin (seal stamp) Tour, Naritasan Shinshoji, Feel Narita

<成田、千葉県>

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

## できあがった英語解説文

Goshuin (Seal Stamp) Tour

Many Japanese people have a book to record their visits to temples and shrines. You can receive proof of your visit with a seal (*goshuin* in Japanese). At Shinshoji, you can collect different seals at each of the Daihondo (Great Main Hall), Komyodo, Shakado, Shusse Inari Shrine, and Heiwa Daito (Great Peace Pagoda), Ioden (Healing Buddha Hall). A special seal-collection book called *Goshuincho* makes a great memory of your visit to take home.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

御朱印巡り

多くの日本人は、寺院や神社を訪れた記録を残すための本を持っている。参拝者は訪問を証明する印(日本語で“御朱印”)を受けられる。新勝寺では、大本堂のほか、光明堂、釈迦堂、出世稲荷、平和大塔、醫王殿のそれぞれでことなる御朱印を集めることができる。御朱印帳と呼ばれる専用の本は、素敵な旅の思い出、そしてお土産になるだろう。

## 本事業以前の英語解説文

Sealed letter issued by a shogun circulation

A sealed letter issued by a shogun which is granted to a person of prayer as proof of the prayer. In the Mt. Narita, I can have a sealed letter issued by a shogun that a sumi painting did the name of the principal idol of each Mido in light temple, Shakado, success in life Inari, Daito of the peace other than the large main hall of a Buddhist temple. Let's enjoy "sealed letter issued by a shogun circulation" to attract various sealed letters issued by a shogun in an exclusive sealed letter issued by a shogun book while praying.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Weddings

Over 3,000 couples have begun their new life together by making their vows before the Buddha Fudo Myoo in Naritasan Shinshoji Temple's Daihondo Great Main Hall. Getting married before the treasures of Naritasan Shinshoji Temple is a once-in-a-lifetime memory for the happy couple. If there is a wedding taking place, please refrain from taking photographs or from disturbing the proceedings.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

結婚式

成田山新勝寺ではこれまで 3,000 組以上が、大本堂の不動明王の前で誓いを交わし、新たな人生をスタートさせた。成田山新勝寺の宝物の前で執り行われる結婚式(御宝前結婚式)は、幸せなカップルにとって一生に一度の思い出となる。もしも結婚式の場に出くわした場合は、写真撮影や邪魔をしないことが求められる。

#### 本事業以前の英語解説文

Before Buddha wedding ceremony

The wedding ceremony in the temple is said to be a Buddhist altar wedding ceremony, but the wedding ceremony held in Mt. Narita is called before Buddha wedding ceremony. Bridal couples more than 3,000 sets gave the words of the oath to principal idol King Akira Fudo until now and, in the Mt. Narita, started the new life. A wedding ceremony held solemnly in the large main hall of a Buddhist temple will be that it is an unforgettable memory throughout the life.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

History of Naritasan

Naritasan Shinshoji Temple's Connection to Ichikawa School of Kabuki

The stage name of the Ichikawa school of Kabuki is “Naritaya,” reflecting the long and close relationship with Naritasan Shinshoji Temple. This relationship dates back to the seventeenth century.

Ichikawa Danjuro (1660–1704) was born in old Edo (Tokyo) and became one of its most famous Kabuki actors after he first took to the stage in 1673. However, since he was without an heir, he went to Naritasan Shinshoji Temple to pray for a child. His wish was granted in 1688 when he was blessed with a son. Danjuro expressed his thanks to the temple by playing the Buddhist deity Fudo Myoo in a Kabuki play. This became a great hit, and the fame of Naritasan Shinshoji Temple spread. The Fudo Myoo role became a speciality for Danjuro, and Naritaya became his hereditary stage name. His descendants, who have also taken the name Ichikawa Danjuro, have maintained the strong connection with Naritasan Shinshoji Temple.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山の歴史

成田山新勝寺と市川一門の絆

歌舞伎の市川一門のステージネームである「成田屋」は、彼らと成田山新勝寺との長く密接な関係を反映している。その関係は 17 世紀にまでさかのぼる。

江戸(東京)生まれの市川團十郎(1660-1704 年)は、1673 年の初舞台以降、一番有名な歌舞伎役者の一人となった。しかし、彼は子宝に恵まれなかったため、成田山新勝寺を訪れ子授けを祈願。1688 年に息子が生まれて願いが成就する。

團十郎は、歌舞伎で不動明王を演じることで新勝寺にに対し感謝を表す。この芝居が大当たりとなり、成田山新勝寺の名声は広がったのである。不動明王の役は團十郎の得意な役となり、「成田屋」が代々の屋号(ステージネーム)になったのである。それ以来、市川團十郎と呼ばれる彼の子孫たちも、成田山新勝寺と強い縁を持ち続けている。

本事業以前の英語解説文

The history of the Mt. Narita

Bond of Kabuki, Muneie Ichikawa and the Mt. Narita

The 子授けの prayer accomplishment is an opening of "the Narita-ya"

After first Ichikawa Danjuro who was the first person of Edo Kabuki not being blessed with inheritors, and praying for 子授けを in Narita mountain, in 1688 (Genroku 1), the long-awaited eldest son was given. Pleased first Danjuro gave the first public performance of Kabuki which featured the theme of King Akira Fudo in 1695 (Genroku 8) and often played King Akira Fudo afterwards. It became the forte, and Muneie Ichikawa came to use the name of "the Narita-ya".

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

The Founder of Naritasan Shinshoji Temple

The founder of Naritasan Shinshoji Temple was the monk Kancho Daisojo (916–998). He was a grandson of Emperor Uda (867–931) and the first chief abbot of Shingon Buddhism. In 939, he came to the Kanto region by order of the emperor to suppress an ongoing rebellion against the imperial court led by a samurai named Taira no Masakado (died 940). He brought with him a sacred image of the Buddhist deity Fudo Myoo, which he enshrined at Naritasan Shinshoji Temple. He performed a *Goma* sacred fire ritual before the statue. On the last day of the ritual, the rebellion was quelled and a temple was built here and named Shinshoji (“New Victory Temple”). In addition to Naritasan Shinshoji Temple, Kancho Daisojo also founded Henjoji Temple in Kyoto.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山の開祖

成田山開山の祖は、寛朝大僧正(916-998 かんちょうだいそうじょう)である。彼は宇多天皇(867-931)の孫であり、真言宗の最初の大僧正でもある。平将門(?-940)という侍が率いた、朝廷に対する反乱を鎮めることを天皇に命じられ、939 年に関東地方を訪れた。寛朝は聖なる不動明王を現地に連れて(制作会社注：勧請して)成田山に祀る。御仏の前で護摩の儀式を行ったのである。儀式の最後の日に反乱は収まり、寺院が建設され、新勝寺(「新たな勝利の寺」と名付けられたのである。寛朝大僧正は、成田山の他にも京都に遍照寺を開基している。

#### 本事業以前の英語解説文

Father of the Mt. Narita founder

寛朝大僧正 (かんちょうだいそうじょう) which was the father of the Mt. Narita founder went down it in Kanto to quiet Rebellion of Taira Masakado in 940 (Tengyo 3), and a founder did Narita mountain. The blood relative with the Imperial Family was appointed in the priests who had high a certain large anomaly later by Shingon Buddhism first Archbishop, too. Of the Mt. Narita, besides, perform a founding of 遍照寺 in Kyoto.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple's Fudo Myoo

The statue of the Buddhist deity Fudo Myoo enshrined at Naritasan Shinshoji Temple is said to have been carved by the founder of Shingon Buddhism, Kukai (774–835). Kukai was one of the most influential of Japanese Buddhist monks and is posthumously known as Kobo Daishi. The statue was brought to Narita in 939 to aid in the suppression of a rebellion against the Emperor. Fudo Myoo (“Immovable Wise One”) is the central deity of the Myoo group of Buddhist deities, the Wisdom Kings, which all have ferocious and menacing features, designed to subdue evil and frighten unbelievers into accepting Buddhist law. Fudo Myoo is the most venerated of the group in Japan. Fudo converts anger into salvation, and for centuries people have come to Naritasan Shinshoji Temple to participate in sacred fire rituals that burn away all material desires.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山新勝寺の不動明王

成田山新勝寺では、真言宗の開祖、空海(774-835)が自ら彫ったとされる不動明王像を祀っている。空海は日本で最も影響を及ぼした仏僧のひとりで、弘法大師の諡号でも知られている。

不動明王像は 939 年の朝廷に対する反乱を鎮めるために成田にもたらされた。不動明王(Immovable Wise One)は、明王(Wisdom kings)と呼ばれる仏のグループの中でももっとも中心的な存在である。彼らはみな猛々しく、勇ましい見た目をしている。これは、悪を抑え不信心を払い、仏法を浸透させるためである。

不動明王は、日本で最も崇敬される仏のひとつでもある。不動明王は怒りを救いに変える。この仏は何世紀にも渡って人々を成田山新勝寺に集め、物欲を燃やし去る護摩の儀式へと参加させた。

#### 本事業以前の英語解説文

With "a Fudo state of the Mt. Narita"

In the Mt. Narita, an initiator of the Shingon Buddhism, propagating Buddhism Great Teacher sky Sea are doing the

Acala who did 敬刻開眼 by oneself with a principal idol. While it is more than 1,000 years, by protection of this King Akira Fudo, I pray for the praying accomplishment of people without running out of fire of the goma. In the present ahead of founder 1080, the faith of many people is gathered as "Fudo of the Mt. Narita".

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

The *Goma* Sacred Fire Ritual

The origins of the *Goma* sacred fire ritual can be traced back over 3,000 years to India. In Japan, the sacred fire ritual is central to Shingon Buddhism and the deity usually invoked is Fudo Myoo. The prayers and supplications of the participants are offered to Fudo Myoo through the medium of fire. The *Goma* ritual has been performed daily at Naritasan Shinshoji Temple ever since the tenth century when it was first performed here to quell a rebellion. Everyone is welcome to participate in the ritual, which is performed at set times in the Great Main Hall (Daihondo).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

御護摩祈祷

護摩の儀式の起源は、3000 年以上昔のインドにまでさかのぼる。日本では、この神聖な炎の儀式は真言宗の中心  
的な(儀式)であり、一般的には不動明王に対して行われる。

参拝者の祈りと願いは、火を通じて不動明王に届けられる。御護摩は 10 世紀に反乱を鎮めるために行われて以来、  
毎日成田山新勝寺で行われてきた。大本堂で決められた時間に行われるこの儀式には、誰もが参加できる。

本事業以前の英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple goma prayer

It is a place of the prayer having been continued since a highlight, the Heian era of sightseeing in Mt. Narita

The Naritasan Shinshoji Temple is ordered than the Emperor for the peace period, and I have the creator of flat の  
Masakado omen who let a revolt converge by a goma prayer. Since a founder, a goma prayer can be continued regularly  
all day long in the Mt. Narita. A goma prayer is a ceremony of the Buddha's preach about truth esoteric Buddhism to  
pray the God of the Fire that the wish of the person of prayer accomplishes it. By the held goma prayer, anyone rises  
every day in a temple and can visit it in the Narita Yamadai main hall of a Buddhist temple.



【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple's Deep Ties with the Ichikawa Kabuki Family

Naritasan Shinshoji Temple has maintained a strong connection to Kabuki for centuries through the famous Ichikawa family line of actors. The first Ichikawa Danjuro (1660–1704), who gained the line the hereditary stage name “Naritaya,” was a highly successful Kabuki actor in the Edo period (1603–1867). He prayed at Naritasan Shinshoji Temple for a child and was soon blessed with a son. To celebrate, Danjuro performed as the temple's revered Buddhist deity, Fudo Myoo, in a Kabuki play that was very well received. His performance brought attention to Shinshoji's Fudo Myoo and increased the temple's following. His descendants, who also took the name Ichikawa, have maintained their relationship with Shinshoji ever since. The current heir to the Ichikawa line, Ichikawa Ebizo, is a Narita City Tour Guide and participates at important events such as the temple's 1080-year commemoration and wedding ceremonies.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山新勝寺と歌舞伎の市川一門との深い絆

成田山新勝寺は、有名な市川一門の歌舞伎役者を通して、何世紀にもわたって歌舞伎と深く関わってきた。

「成田屋」の屋号を世襲する初代市川團十郎(1660-1704)は、江戸時代（1603年～1867年）に大きな成功を収めた歌舞伎役者である。

彼は成田山新勝寺に子宝を授かるよう祈願したところ、すぐに息子を授かった。これを祝って團十郎はがこの寺で崇拝される仏、不動明王を歌舞伎演じたところ、大好評を得た。團十郎の演技により、新勝寺の不動明王が注目されるようになり、この寺の信者も増えたという。それ以来、市川の名を継ぐ團十郎の子孫も、新勝寺との繋がりを継承している。

現在の市川家継承者・市川海老蔵は、「成田市御案内人(Narita City Tour Guide)」でもあり、新勝寺の1,080年祭記念行事や結婚奉告など、重要な行事に参加している。

## 本事業以前の英語解説文

Narita city X Kabuki

Naritasan Shinshoji Temple and deep edge of the Ichikawa Danjuros

The Ichikawa Danjuros and Naritasan Shinshoji Temple known for a name of "the Narita-ya" are bound together in a bond of the Narita mountain God of Fire faith since the Edo Genroku era, and the Muneie Ichikawa school visits it on the Narita mountain every turning point. After Kabuki actor first generation Danjuro who won popularity in the Edo era not being blessed with children, and praying the Narita mountain which I believed in since ancestors, a long-awaited child (second generation Danjuro) was given. After first Danjuro being pleased with this miracle very much, and staging Kabuki concerning the Narita God of Fire, the play is a big success. Taking this occasion, the name of "the Narita-ya" came to be used. By achievement of Danjuro, Fudo Narita was widely known to many people, and Mt. Narita prayer spread out among Edo general public. When a string removes the history, there is a story to feel the Ichikawa Danjuros and depth of the relationship with the Narita mountain a lot, and there is the ground of the connection around the Narita mountain. In the Narita city, Motoichi was visited in Mt. Narita open basis 1,070 anniversary memory event and 結婚奉告, and Ebizo Ichikawa was appointed "a Narita city guide" for the familiar eleventh generation. Through Ebizo taking the traditional arts, culture succession of Japan, charm of Narita is sent.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple and the Ichikawa Family Connection

The relationship between the Ichikawa family line of Kabuki actors and Naritasan Shinshoji Temple can be traced back to the Genroku period (1688–1704) of the Edo period (1603–1867), to the first Ichikawa Danjuro (1660–1704). The family continues to maintain its connections to this day by visiting the temple during holidays and to celebrate major life events.

Danjuro I and the stage name “Naritaya”

The famous Kabuki actor Ichikawa Danjuro I's father was born in present-day Hataya, Narita city.

Ichikawa Danjuro I, the first of the Ichikawa school, debuted on stage in 1673 at the age of 14, painting his face in red and black in a heroic performance as the samurai Sakata no Kintoki. Although he quickly gained popularity as an actor, he was troubled because he was childless. So he went to pray at Naritasan Shinshoji Temple for a child and was soon blessed with a son in 1688.

Danjuro I was overjoyed by this miracle, and in 1695 he celebrated by playing the part of Naritasan Shinshoji Temple's revered deity Fudo Myoo on stage. This play was the first of its kind and a great success. He would continue to perform the role many times during his lifetime. The role became a favorite of the Ichikawa family and has since continued to be a part of their *obako*, or repertoire. This play is said to be the beginning of their school stage name, “Naritaya.”

The heroic dramatism (*aragoto*) of Danjuro I is thought to have instilled a sense of joy and courage in the audience in a way the stage never had never seen before. To many in the audience, the unique red-and-black makeup, and Danjuro's *aragoto* seemed to be like an incarnation of the deity Fudo Myoo. At the climax of the performance, the *mie*, or the moment when an actor strikes a pose staring at the audience, also known as the Fudo *mie*, members of the audience are said to have been cured of their ailments.

The son of Danjuro I, Kyuzo, debuted on stage at the age of 10. With his son, Danjuro I donated a large mirror to Naritasan Shinshoji Temple to express his gratitude for being blessed with a child and for the success of their Kabuki play *Tsumamono Kogen Soga*. The ornamental cabbage crest of Naritasan Shinshoji Temple was worn upon their stage

uniform, showing their deep bond with the temple. It is said that many years later, in reference to his predecessor Danjuro I's devotion, Ichikawa V would, in his specialty play *Shibaraku*, utter the following line: "By the great Fudo Myoo of Narita, the ancestral guardian of children bearing..."

Thus, it may be said that the Fudo Myoo of Naritasan Shinshoji Temple is the origin of the Ichikawa line of Kabuki actors. Perhaps it can even be said that it is due to the devotion that gained them the stage name "Naritaya" that Danjuro I performed as well as he did.

Site of Enmeiin on Omotesando Street

上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山と市川宗家との繋がり

歌舞伎の市川宗家と成田山との関係は、江戸元禄時代（1688年～1704年）の初代市川團十郎(1660-1704)にまでさかのぼる。市川一門は今日までその繋がりを守り、祝日や人生の大きな記念行事ごとに寺を訪れている。

初代團十郎と屋号「成田屋」について

有名な歌舞伎役者である初代市川團十郎の父は、現在の成田市幡谷に生まれた。

市川一門の初代團十郎は、1673年、14歳で初舞台を踏む。侍の坂田公時に扮し、赤と黒に顔を塗り、大胆な演技を披露したのである。役者としてすぐに人気者になるが、私生活では子宝に恵まれずにいた。そこで成田山新勝寺へ行って祈願したところ、その後すぐに願いが叶い、1688年男子を授かったのである。

初代團十郎は、この奇跡を大変喜び、1695年、成田山新勝寺の不動明王を演じてこれを祝った。今までに類を見ないような芝居であり、これは大成功を収める。彼はこの後も度々不動明王を演じたという。こうしてこの役が市川家の十八番(favorite)となり、それ以来人気のレパートリーとして演じ続けられている。また、これが屋号、成田屋の始まりだともいわれている。

初代團十郎による、荒事といわれる勇壮なドラマは、見る人に今までの舞台になかった喜びと勇気を与えたと言われている。多くの観客にとって、その独特な赤と黒のメイク(隈取り)と、團十郎の荒事の演技は、まさに不動明王の化身のようにも思えた。演技のクライマックスに演じられる「見得(俳優が観客を強く見つめる瞬間 不動見得とも知られる)」は、観客の病気を治したとすら言われる。

初代團十郎の息子である九蔵は10歳で初舞台を踏んだ。親子は、子宝に恵まれたことや、歌舞伎「兵根元曾我」が大当たりしたこと感謝し、成田山新勝寺に大きな鏡を奉納した。また、舞台衣装には成田山の葉牡丹紋をあしらうなど、その絆の深さを物語っている。その後何年も経ち、五代目が得意とする演目「暫く」にて、先祖の初代團十郎の信心を引き合いに出し、「成田の不動明王は先祖代々の産神にて…」とのセリフを言ったともいわれている。

このように、成田山新勝寺の不動明王は、市川一門の歌舞伎役者のルーツでもある。もしかしたら、「成田屋」の屋号を与えられるほどの信仰心があったからこそ、初代團十郎はあれほどの演技を行うことができたのかもしれない。

表参道にある延命院旧跡

#### 本事業以前の英語解説文

Connection with Mt. Narita and the Ichikawas

Muneie Ichikawa and the Narita heap of Kabuki are bound together in a bond of the Mt. Narita God of Fire faith since Edo Genroku, and the Muneie Ichikawa school visits it on the Narita mountain every turning point.

Here, the depth of the relationship with Muneie Ichikawa and the Mt. Narita, also known as "a Narita person" of Kabuki is introduced.

In noble family of Edo Kabuki, the Ichikawas and Narita, father of first Danjuro is concerned with the thing from current Hataya, Narita-shi, and it is deep relationship.

First Danjuro went through a debut at 14 years old and, disguised as Kintoki Sakata, shaded off a face with rouge and a sumi, and a wound act did a fighting scene (together with a fault) that was a specialty of the Ichikawas and got serious popularity. However, after first Danjuro not being blessed with children, and praying the Mt. Narita who believed since ancestors, the wish was had realized, and a boy (second generation Danjuro) was given in 1688 (Genroku 1).

First Danjuro was pleased with this miracle very much and gave the first public performance of Mt. Narita King Akira Fudo in 1695 (Genroku 8) and often played King Akira Fudo.

The position of the Fudo becomes the forte of the Ichikawas, and it is said that the name of "the Narita shop" began from this time in this way.

It is said that it puts this repertory in "the box" it is written as "forte", and to read with "forte", and Danjuro family inherits it carefully.

It is said that the fighting scene that first Danjuro founded gave a person seeing it joy and the courage that the conventional stage did not have.

In addition, the pose (see) to decide, stop it, to glare at the at one time movement can be grasped with a figure of the Acala when the performance of unique shade (it is shaded off) and actor who can say the characteristic of the fighting scene reaches the peak.

Nine storehouse (のちの second generation Danjuro) parent and child who went through a debut at first Danjuro

and 10 years old to a child comfortable thing and Kabuki "thanked that soldier root Soga (つわものこんげんそが) made a big hit, and dedicated a mirror to the Narita mountain very much. In addition, stage costume is garnished with the ornamental cabbage which is a temple crest of the Mt. Narita, and depth of the faith is shown.

Seventh generation Ichikawa Danjuro for a while (for a while)

"The pose of the Fudo" played in one's own Kabuki "Fudo" was right said to be the pose in the pose. It may be said that the legend that "a pose of the Fudo" cured the illness of various people was right an expression of the mercy of the God of the Fire.

The fifth generation in Kabuki "for a while" (for a while) of the specialty in "ancestral deities of birth in Chuo Univ. Nihon Univ. St. Fudo, Narita is said that adopted lines such as ..." on the mouth.

From this, the God of the Fire of the Mt. Narita is an ancestor of Muneie Ichikawa, and it may be said that the art of Danjuro became immovable to know if there is the faith.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Danjuro's Kabuki Theater and the Pilgrimages to Narita

Danjuro I's (1660–1704) popular performance of Naritasan Shinshoji Temple's Fudo Myoo in Edo (Tokyo), coinciding with an increase in leisure time for the townspeople, resulted in an increase in the number of people making the three-day one-way trip to visit the temple.

Eating establishments and places to stay that opened in the Edo period (1603–1867) to serve the needs of pilgrims to Naritasan Shinshoji Temple form the basis of the *omotesando* main route to the temple today.

The Ichikawa family have been involved for generations in welcoming pilgrims to Narita. The seventh generation of the Ichikawa line, Danjuro VII (1791–1859), became head of the family when he was only ten years old. He would become a celebrated master of modern theater, and established the repertory of the Ichikawa school, which is still performed today. Danjuro VII dedicated the first Gakudo (a hall to display votive offerings) at Naritasan Shinshoji Temple in 1821. Tea and sweets were served to visitors to the temple here.

Unfortunately, the Gakudo Danjuro VII dedicated burnt down in 1965. After the fire, a stone statue of him was restored and relocated to the second Gakudo, where it still watches over the temple.

Danjuro VII enjoyed the protection of the Enmeiin Temple after 1842 when he was banished from Edo during the Tenpo Reforms. The Tenpo Reforms attempted to stabilize the economy by enforcing simplicity, frugality, and self-discipline, which extended to Kabuki theater. Danjuro VII changed his name to Naritaya Shichizaemon, and ever since the symbol of the Enmeiin Temple has been the Naritaya *mimasu*, three interlayered wooden boxes, which may still be seen at the Enmeiin Temple.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

團十郎の歌舞伎上演と、成田山への参拝者たち

初代團十郎(1660-1704)による、江戸(東京)での成田山新勝寺不動明王の芝居が人気を博し、また当時の人々の余暇の時間が増えたこともあり、新勝寺へ片道 3 日間の旅を行う人々が増加した。

江戸時代(1603-1867)には、成田山新勝寺にくる参詣者のニーズに応えるため、食事処、宿泊処がオープン。寺院へと至る現在の表参道の原型となった。

市川家は、このような参詣者を成田に迎えるために何世代にも渡って関わってきた。七代目の市川團十郎(1791-1859)は、10 歳の時に一門の長となる(訳注：團十郎の襲名のこと)。彼は近代演技者の最高の名人と言われるようになり、市川一門の十八番(repertory)を作る。これは今日も演じられている。七代目団十郎は 1821 年に成田山へ最初の額堂(信者が奉納するものを掲げておく堂)を奉納する。ここではお茶屋菓子(お茶屋)が参詣者へと振る舞われた。

七代目が奉納した額堂は、残念ながら 1965 年の火事で焼失してしまうが、火災のあとに七代目の石像が修復され、今もある 2 代目の額堂に移されている。石像は今日も、成田山新勝寺全体を見守っているのである。

七代目團十郎はまた、1842 年、天保の改革の際に江戸を追放された際、延命院の保護も受けている。天保の改革は、質素儉約と自律を強制することで、経済の安定を試み、歌舞伎の劇場にまでそれを強いた。七代目團十郎は成田屋七左衛門と改名し、それ以来、延命院のシンボルとして、成田屋の三舛の紋(3 つの木箱が重なったマーク)を延命院で見ることができる。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

Beautiful Naritasan Park

The large Naritasan Park is located behind Naritasan Shinshoji Temple. Local residents and tourists alike visit year-round to enjoy the fresh air. The park is beautiful throughout the year with springtime blossoms, lush summer greenery, and golden and crimson autumnal colors. Between mid-November to early December, the Naritasan Autumnal Leaves Festival is held, making this a popular destination in the Tokyo area to admire the changing leaves. From mid-February to March, the Narita Plum Tree Festival is held. Tea ceremonies are performed amidst the flowering trees, offering visitors an elegant, traditional Japanese experience.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

美しき成田山公園

成田山新勝寺の後方には、広大な成田山公園が広がっている。地元住民や観光客が、新鮮な空気を味わいに 1 年を通してここを訪れる。春の桜、夏の緑、秋の紅葉など、公園は 1 年を通して美しい。

11 月中旬から 12 月初旬までは成田山紅葉まつりが開催され、紅葉を鑑賞できる東京近郊の人気スポットとなる。2 月中旬から 3 月までは梅まつりが行われる。花の咲く木々の中で茶会が開かれ、訪れる人たちは、日本の伝統的で優雅な体験ができる。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

できあがった英語解説文

Naritasan Park

Naritasan Park Model Route

Standing 58 m tall, the Great Pagoda of Peace (Heiwa Daito) is just past the Great Main Hall (Daihondo) of Naritasan Shinshoji Temple. The pagoda stands at the entrance of the beautiful Naritasan Park.

View of the Great Pagoda of Peace from Shusse Inari Shrine

Entrance to Naritasan Park, to the right of the Daihondo Hall

The Great Pagoda of Peace. The Western-style garden below the pagoda is a popular area where visitors can relax. Naritasan Park is an expansive 165,000 m<sup>2</sup> of natural beauty. Strolling through the park is a wonderful opportunity to exercise, relax, and breath in the pure air. The park has something to offer in each season: fresh new leaves in the spring, cicadas in the summer, bright autumn colors, and snow in the winter.

It's easy to forget the beauty right before our eyes.

Naritasan Park is there to remind visitors of nature and life.

The park is brimming with plants and living things, exemplifying the Buddhist ideal of respect for all forms of life. The park's three ponds symbolize *hojo* (release and let live), and the entirety of the park nurtures the concept of *fusessho* (nonkilling), valuing peace and honoring life.

Yuhi no Taki Falls

Springtime Floating Gazebo

Floating Gazebo in early fall

At the foot of the stairs close to Komyodo is the Yuhi no Taki Falls. Amidst the forest trees, the falls splash down a rocky mountain face with beams of sunlight glistening off its waters.

The park's three ponds are named Ryuchi, Ryuju, and Monju. In the center of Ryuichi pond is a floating gazebo, a favorite scenic spot where visitors can look down at colorful koi carp. If you reach a hand out to the water or offer fish food, all the koi will gather in an instant.

Ryuju Pond, the second pond, in the summer (left) and autumn (right)

The scenic view from the pond offers a moment of calm.

Nearby the Naritasan Museum of Calligraphy is a special spot called *suikinkeutsu*. Put an ear to the bamboo pole here, and sounds of water dripping from under the ground will echo up. The water droplets hit a basin of water in the bottom of the pit, and the sounds resonate in an earthenware pot above the basin. The sounds are reminiscent of a strummed *koto* (a traditional Japanese stringed instrument).

There are stone monuments in various locations in the park. Some of these monuments are carved with haiku (a type of traditional Japanese poetry) by Japanese poets like Matsuo Basho (1644–1694) and Takahama Kyoshi (1874–1959). They speak to a time when master poets and lyricist gathered in Narita, serving as reminders of the area's cultural and intellectual vibrancy.

To learn more about Suzuki Miekichi, [click here](#).

Monument to the novelist Suzuki Miekichi (1882–1936)

Naritasan Park holds seasonal festivals for visitors, including the Narita Plum Tree Festival in spring and Naritasan Autumnal Leaves Festival. Within the park are over 250 trees, plum, cherry blossom, wisteria, oaks, and ginkgos, which bloom white, red, pink, and green in season. The sight of the leaves changing from green to red in the autumn is stunning and makes this a prime spot in the Tokyo area to view autumnal colors. Koto (Japanese harp) and *niko* (a two-stringed musical instrument) performances during this time are definitely worth seeing.

Tea ceremonies are performed periodically in the park. During the Narita Plum Tree Festival, visitors can sip tea under blue skies among the blooming trees. During the Naritasan Autumnal Leaves Festival, tea ceremonies are held in the park's teahouse, Sekishoan. All events are free for visitors so that everyone can enjoy Naritasan Park to its fullest throughout the year.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山公園

成田山公園モデルルート

成田山新勝寺大本堂を少し奥に進んだところに、高さ 58 メートルの平和の大塔が立っている。この塔は美しい成田公園の入り口に立っている。

(画像キャプション 1)

出世稲荷から平和大塔を望む

(画像キャプション 2)

大本堂に向かって右側の成田山公園入口

(画像キャプション 3)

平和大塔。大塔下にある西洋庭園は参拝客が憩う人気の場所

成田山公園は広さが 165,000 平方メートルという、自然の美しさを誇る広大な公園である。園内を散策すれば、運動し、リラックスし、新鮮な空気を吸える素晴らしい機会を得られるだろう。

春の新緑、夏の蝉しぐれ、秋の紅葉、冬の雪など、公園では四季の楽しみが提供されている。

(画像キャプション 4)

私達の目は、目の前の美しさを簡単に忘れてしまう

成田山公園は、観光客に自然や命について思い起こさせてくれる。

公園内は草木や生き物にあふれ、あらゆる生命を尊ぶという仏教の理想を示している。公園内の 3 つの池は放生(生き物を逃し、生かすこと)を象徴しており、さらに公園全体としては、平和の概念と命への敬意の中で不殺生(殺さないこと)の考え方を育てている。

(画像キャプション 5)

雄飛の滝

(画像キャプション 6)

春の浮御堂

(画像キャプション 7)

初秋の浮御堂

光明堂近くの階段を下りると雄飛の滝が見える。森の木々の中で、日光に反射して光り輝きながら、滝の水が岩肌に弾け落ちている。

公園にある 3 つの池は、竜智、竜樹、文殊と名付けられている。竜智の池の真ん中にある浮御堂は、人気の景勝スポットで色鮮やかな鯉が泳いでいるところを見下ろすことができます。手を水につけたり、餌を投げたりすると、鯉がすぐに集まるだろう。

(画像キャプション 8)

竜樹の池（二の池）、夏（左）、秋（右）

(画像キャプション 9)

池から見える景色は訪れる人たちに安らぎの一時を与えてくれる

成田山書道美術館のそばには、水琴窟と呼ばれる特別なスポットがある。ここで竹の棒に耳を付けると、地下から水がしたたり落ちる音がこだまのように聞こえる。水滴が穴底を打ち、陶器の壺に水滴がこだましているように聞こえ、その音が琴（日本の伝統的弦楽器）をかき鳴らす様子を連想させる。

また、公園内の様々な場所に石碑が立っている。石碑には松尾芭蕉(1644-1694)や高浜虚子(1874-1959)など、日本の有名な詩人の俳句（日本の伝統的詩）が彫られている。これらは著名な詩人や作詞家が成田に集まっていた時代を物語り、この地域の文化的、知的な盛り上がりを思い起こさせる。

鈴木三重吉についてはこちらをクリックしてください。

(画像キャプション 10)

小説家、鈴木三重吉(1882-1936)の碑

成田山公園では、春の梅まつり、秋の紅葉まつりなど、四季折々のイベントを行っている。公園内には梅、桜、藤、榎、イチョウなど 250 本以上の木があり、季節により白、赤、ピンクの花や、緑などの色彩を楽しめる。葉が緑から赤に変わる秋の紅葉は真に鮮やかで、東京近辺の紅葉の名所となっている。この季節に行われる琴（日本のハープ）と二胡（弦が 2 本の楽器）の演奏は一見の価値があります。

公園内ではお茶会も催されています。梅まつりの期間中、訪れた人たちは青空と満開の梅の下でお茶を振る舞われる。紅葉まつりのシーズンは、茶会は公園内の茶室、赤松庵で行われる。全てのイベントは年間を通して無料。だれもが成田山公園を存分に楽しめる。

本事業以前の英語解説文

Solemn "Daito of the peace" proud of 58m in height to the place where I went ahead through the Naritasan Shinshoji Temple Omoto temple to the depths more is built.

The garden coloring the four seasons called the Narita mountain park under eyes opens so that I am watched on the tower symbolizing this peace.

Daito is faced from success in life Inari

Daito is faced from success in life Inari

Mt. Narita Park entrance

Mt. Narita Park entrance right towards the large main hall of a Buddhist temple

Peace Daito

Peace Daito. The Western-style garden under Daito is a place of recreation and relaxation for worshiper

Area is the very large site of 165,000 m<sup>2</sup>, but, in Mt. Narita Park, those three big white domes enter the and a half as area of Tokyo Dome is 46,755 m<sup>2</sup> how large it is. A health-oriented lifestyle is popular, but Narita mountain park one round will take around a walk by all means recently when I came to the Narita mountain for prayer. A body lightens, and there may be surprising benefit including health maintenance and the longevity.

Forest bathing I am lighted up by the positive light to come in through between trees while enjoying forest bathing, and the fresh green, a continuous chorus of cicadas, colored leaves, the expression in the four seasons such as the snow scene can be taken in.

The people who take a walk through a park The natural Nature which is apt to be forgotten carelessly.

Something recalling me to this is left in Mt. Narita Park.

The park overflows in the trees and plants and Nature, and thought to respect all life of all living things of the Buddhism is incorporated, and three ponds such as ponds of the dragon intellect express a place of the let go (fertility), and it is in a place bringing up holy life to symbolize non-killing (ふせつしよ) if the whole park is seen.

Waterfall of the donation

Waterfall of the donation

When the stairs near the light temple in the precincts are gone down, a waterfall of the donation that light comes in from a grove turns up from a huge rocky mountain

Spring floating Mido

Spring floating Mido

Floating Mido of the early fall

Floating Mido of the early fall

The water of the waterfall becomes the water source to three ponds named dragon intellect, Ryuki, Bodhisattva of wisdom and intellect, and around many carps of floating Mido that there is in a pond of the dragon intellect swim, and, as for the scene which gathers all at once when a hand is swatted, and it is fed, there is a heartwarming thing.

Pond (two ponds) of Ryuki of green leaves Autumn park

Pond (two ponds) of Ryuki of green leaves and colored leaves

The scenery of the Nature gives an ease to coming people.

Water koto cave

In addition, there is a place to hear the mysterious sound called the water koto cave near the Naritasan Museum of Calligraphy in the park. When a sound that a drop of water falls in a big jar and echoes listens to it, the clear sound such as the excellent koto is heard.

Furthermore, the stone tablet of well-known writers including Basho Matsuo (1644-1694) and Takahama Kyoshi (1874-1959) is built at each site in the park, and the people who enjoyed it tell a haiku and a song about having been a lot in Narita at the time. Knowledge and the footprint of various ancient people are left in the Nature of the park.

Please see this about Miekichi Suzuki.

Monument of Miekichi Suzuki

Events enjoying colored leaves festival and the four seasons plum Festival in autumn is performed in Mt. Narita Park in spring. There are Bairin, cherry tree and wisteria trellis, sawtooth oak and Japanese oak, approximately 250 Furuki including the tree of the ginkgo whom red-and-white bright plum blossoms bloom in the park, and, as for the performance of a koto and the erhu performed in the splendid scenery that there is little difference between such as the colored leaves which show from green red the wonderful gradation, there is the value of seeing.

Colored leaves of the Mt. Narita "A tea party" of the colored leaves Festival

Park walk Brook

In addition, an outdoor tea ceremony held in cause Bairin of the blue sky is colored leaves festival, and a tea party

among Iori Akamatsu that colored leaves change color particularly vividly is held by the plum Festival. As anyone can participate free, how about enjoying Narita mountain park through the year?



【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Naritasan Shinshoji Temple's Omotesando Main Approach

Walk Through a Historical Edo (Tokyo) Townscape

The 800-meter road starting at JR and Keisei Narita Stations and ending at Naritasan Shinshoji Temple is called Naritasan Omotesando and has been a prosperous street in Narita since the Edo period (1603–1867). It is lined with buildings reminiscent of an Edo townscape, allowing visitors to experience something of the historical atmosphere of this period in Japan.

There are numerous cafes, medicine and souvenir shops, and restaurants that offer Narita specialties, like unagi (eel). Tangible Cultural Properties that date back hundreds of years can be seen along the way. The energetic neighborhood of the *omotesando* has welcomed visitors to the temple for many hundreds of years.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田山新勝寺に至るメインロード「表参道」

歴史的な江戸(東京)の街並みを歩く

JR や京成の成田駅から成田山新勝寺までの 800メートルにわたる道は成田山表参道と呼ばれ、江戸時代（1603年～1867年）から栄えてきました。江戸の景観を連想させる建物が立ち並び、参詣客は、日本のこの時代の歴史的雰囲気を楽しむことができます。

数々のカフェ、薬屋、土産物屋、さらになぎ料理など成田名物を振る舞う食事処が並んでいます。何百年も昔の有形文化財も見つけることができます。表参道界隈の賑やかな(店々は)、何百年にもわたり、寺院への参詣客を迎え入れてきました。

本事業以前の英語解説文 <http://www.nrtk.jp/translate/index.php?lang=en&path=/enjoy/appeal/index.html>

Naritasan Omotesando Street

I take a walk through cityscape full of the Edo emotion

In front of Narita Station of JR and Keisei, Omotesando for approximately 800m prospered to a Naritasan Shinshoji Temple outer gate as Monzen-cho from old days of Edo. Buildings full of the emotion form a line and a color is dark and still leaves a feature of the Edo era.

A restaurant and a souvenir shop providing the specialty Freshwater eel dishes of the meal of Narita link the eaves and receive much prayer visitors through the year and show the turnout full of the vigor.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Narita International Airport

The Gateway to Japan's Skies

Narita International Airport is used by 40 million people each year. Connecting Japan with 41 countries and 118 cities, the airport is one of the main entrances to Tokyo along with Haneda Airport. There are domestic flights to 20 cities available. The airport is also a tourist destination in its own right. From the terminal decks, you have a great view of the runways as aircraft take off and land. Additionally, there are many stores allowing visitors to enjoy international shopping, and there is dining available at each terminal.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田国際空港

日本の空の玄関口

成田国際空港の年間利用客数は 4,000 万人。日本と世界 41 か国 118 都市を結ぶ、羽田空港と同様の東京の玄関口である。日本の 20 都市とも国内線ルートで結ばれている。

成田空港はそれ自体、観光スポットでもある。ターミナルデッキからは飛行機が滑走路を離着陸する様子を眺められる。さらに各ターミナルには、旅客が国際的なショッピングを楽しめる店、ダイニングが集まっている。

#### 本事業以前の英語解説文

Narita International Airport

Air gateway of Japan

The number of the annual users of the Narita International Airport is 39 million people. 110 cities are tied up to Japan from the 3 area of the world in 38 countries, and big presence is had as "Narita Airport Connecting Japan to the World" in the present when Haneda Airport was globalized. In addition, the domestic airline network is linked to 18 cities, and further enhancement is planned in future. Popularity is high as a tourist attraction and can see the taking off and landing of a runway and the powerful airplane freely from the visit deck of the terminal and can enjoy the beautiful night view

that gangs are different from the noon in. In addition, the shops only in the international airport assemble in full force, and each terminal can enjoy global shopping and meal.

【施設名】Feel 成田→成田早わかり

【整備予定媒体】Web サイト

<http://www.nrtk.jp/>

#### できあがった英語解説文

Local Narita Cuisine

Narita is famous for its unagi (eel) dishes, so much so that in the Edo period (1603–1867) was known as “Unagi Town.” There are currently around sixty establishments along Naritasan Shinshoji Temple’s *omotesando* main route to the temple offering eel dishes. Other foods famous in the area include Japanese sweets such as *yokan* (a jelly sweet made from red bean paste) and pickled foods like melon stuffed with pepper and perilla leaf. Rice, peanuts, and Japanese sweet potatoes grow locally, and freshwater fish from Inbanuma Marsh, are also well-known specialties of the area.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

成田の地元料理

成田はうなぎ料理で有名であり、江戸時代（1603年～1868年）には「うなぎの町」として知られるようになった。

現在、成田山新勝寺の表参道（総門へつながるメインの道路）沿いでは、約 60 店舗でうなぎ料理を提供している。

その他のこの地域で有名な食事としては、羊羹（小豆で仕上げたゼリーのようなお菓子）などの和菓子や、メロン（訳注：瓜）の中に唐辛子やシソを詰めた漬物などが知られている。米、落花生、さつまいもなども地元で栽培され、印旛沼で穫れる淡水魚も、有名な成田名物だ。

#### 本事業以前の英語解説文

Meal of Narita

The food culture that reflected climate and the history

There is the attractive food culture that reflected climate and the history of the land in Narita. Above all, I seemed to come to be known as "a town of the Freshwater eel" because Freshwater eel was done with an article for sale as service cooking to a prayer visitor when the Freshwater eel dishes were famous, and 成田詣 became popular in the Edo era.

Among shops in Omotesando of the Naritasan Shinshoji Temple, approximately 60 stores are taking in Freshwater eel dishes on a menu now. In addition, the Pickles such as soaked in "gun" which foods rolled with Japanese basil and blue chili pepper are cut down in a Japanese sweet including the yokan and a gourd dug out, and were pickled is known as a constant seller of the Narita souvenir. In addition, the dairy farming to assume rice growing and Peanuts, production of the Agricultural products including the sweet potato, the fishing of the freshwater fish in the north Lake Imba, the Shimousa Imperial Stock Farm where I made use of the fertile soil in the origin is prosperous.

# 東京アート&ライブシティ構想実行委員会

【施設名】観世能楽堂

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

One of the oldest surviving performing art forms in the world, noh is a form of classical Japanese musical drama. Its origins can be traced back before the ninth century when it was known as *sarugaku*, a loose collection of performing arts including acrobatics, dancing, and comedy. It wasn't until the fourteenth century that the art form was formalized as the prototype for present-day noh.

Noh performances blend storytelling, chanting, dance, and music into a cohesive whole. Many of the plays are based on ancient Japanese literature and revolve around universal human emotions of love, betrayal, longing, and filial piety. The traditional noh structure is as follows: *shite* (a masked protagonist), elaborately robed and holding a fan, is supported by a *jiutai* (chorus), which provides context to the story, and *bayashi* (musicians) playing a flute and three types of drums. To provide levity, noh shows typically feature an element of a comedy (*kyogen*) in between scenes.

To the uninitiated, noh may come across as slow and monotonous, but noh aficionados will insist that its minimalist, highly stylized movements are actually very graceful and elegant. The minimalist and restrained actions and gestures can carry a considerable emotional punch, making the tiniest movements seem profoundly meaningful and expressive. An experienced *shite* can portray a wide range of emotions with a slight tilt of the head.

The performance itself is just one element of the noh experience. Rich artistry goes into the making of masks, which are all handmade and passed down through the generations. There is also the beauty of the luxurious robes, with their intricate traditional motifs and patterns.

While there is little variation when it comes to noh stage design—the sets are bare save for a backdrop of a majestic pine trees and bamboo shoots—the setup is steeped in symbolism. The stage roof nods to the art form's past when it was usually performed outdoors. The pine is regarded as the “tree of the gods” and conveys the message that the stage is a sacred space.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

世界で最も古くから続いている舞台芸術の能は、古典的な日本の楽劇の形式です。その起源は9世紀頃に遡り、当時は猿楽と呼ばれる、軽業、寸劇、喜劇といったいくつかの舞台芸術の緩やかな集合に過ぎませんでした。14世紀に



なつてようやく現在の能の原型となりました。

能の舞台は会話、謡、舞踊、音楽による一体的な表現です。多くの演目は日本の古典文学に基づき、愛、裏切り、憧れ、孝行といった普遍的な人間の感情を中心に展開します。その基本的な構造においては、シテと呼ばれる主役が能面と凝った装束とを身にまとうことで人物を表現しています。またシテはしばしば団扇を持ち歩きます。物語に文脈を与える地謡が脇役を務め、4人の演奏者（囃子）が3種の鼓と笛とを演奏します。能の興行では一般的に幕間に狂言（喜劇）が上演されます。

能に慣れない人には能は緩慢で単調な印象を与えるかもしれませんが、しかしそのミニマルで高度に様式化された動作は非常に優雅で洗練されています。動作と仕草から余分なものを剥ぎ取り、何度も訓練を重ねると、それらはより意味深くなり、その印象はより強く、一切がはるかに表現に富んだものになります。熟練のシテは観客を惹きつけ、自分の頭をほんの少し異なる方向へと傾けるだけでさまざまな感情を表すことができます。

能に関して、実際の上演そのもの以外にも称賛すべき点は多くあります。能面作りには豊かな芸術性が発揮されており、それらはすべて手作りで、ある世代から次の世代へと一座の代々の宝物として受け継がれています。また手の込んだ伝統の模様をあしらった豪華な装束も美しいものです。

能舞台には荘厳な松の木で飾られた背景以外に装飾は施されておりません。能が屋外で演じられていた過去を反映して、舞台には現在も屋根がつけられています。松は神々の木と広く見なされており、松という象徴によって能舞台が神聖な空間であることを表現しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 観世能楽堂

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Kanze's shows have a distinct style. For one, they have some serious pedigree: the Kanze family is related to Kannami and Zeami, the founders of classical noh. Moreover, back when Sakon Tadachika was the ninth grandmaster of the Kanze school (1578–1621), he was appointed the noh instructor to the shogun just as Tokugawa Ieyasu rose to power under the Tokugawa shogunate. This protection from the government was a big boost to the profile of the Kanze school of noh. Today, almost 70 percent of noh actors in Japan come from the Kanze school. The school's illustrious reputation was further cemented in 2016 when Kanze was invited to perform at the Lincoln Center Festival in New York.

While the Kanze family originated from Nara and Kyoto, they first established a theater in what is now Tokyo's Ginza area back in the Edo period. In 1972, the theater relocated to Shoto in Shibuya, and later moved back to Ginza in April 2017. Today, you'll find the gorgeous Kanze Noh Theatre in the basement of the glitzy Ginza Six shopping complex. True to noh traditions, the stage is roofed, even though it is an indoor venue—an homage to noh's heritage as an outdoor theater in its formative years.

There are around 200–250 plays in the noh repertoire, most of which have remained unchanged since the Edo period (1603–1867). However, the Kanze school doesn't just perform these traditional pieces. They have also created a number of original, modern noh dramas. Spring and autumn are the peak seasons for noh, when Kanze puts on eighty of their annual roster of 120 shows. A typical noh performance lasts four hours, including an intermission of a *kyogen* comedy act followed by a *shimai*, which is a type of dance interpretation of a chosen noh text.

Part of the enjoyment of the play is to focus on the emotions and the characters' elaborate costumes and makeup. It's not necessary to follow the spoken words as even most Japanese find the classical language difficult to understand without a translation aid. For beginners, it's advisable to start with the happy hour admission, where the ticket price for just the last act of a performance is reduced to ¥3,000.

The Kanze Noh Theatre in Ginza Six is more than just a noh performance space. It occasionally hosts other performances and events, including pop concerts and classical music recitals.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

観世流の舞台は、ほかのものとははっきりと違う、特有の流儀があります。ひとつは、家系です。観世家は、古典能創設者である、観阿弥・世阿弥につながっています。また、観世流の左近忠親（左近黒雪）は、宗家 9 世時代（1578 年から 1621 年）、徳川家康が徳川幕府として政権を取ると同時に、能の指導者として任命されました。この幕府からの保護により、能観世流の繁栄と長い歴史への道が開かれたのです。時を現在に進めると、およそ 70 パーセントの日本の能楽師は観世流です。この素晴らしく高い評価は、2016 年に観世流が米国ニューヨークのリンカーンセンターに招かれたとき、さらに確固たるものになりました。

観世家は、奈良や京都を起源としますが、江戸時代にまず能楽堂を構えたのは銀座でした。1972 年、能楽堂は、渋谷区松濤に移築された後、2017 年 4 月、銀座に戻りました。現在、豪華な観世能楽堂は、きらびやかな GINZA SIX の地下で見ることができます。舞台は、屋内にありながら、屋根も備えられ、能の伝統に忠実です—これは、能楽堂が戸外にあった、形成期の能の伝統に対する敬意を示すものです。

能には、200 から 250 の演目があり、ほとんどが、江戸時代の頃から変わらないものです。しかしながら、観世流はこれらの伝統演目を演じるだけではありません。独自の現代的な能も多く創作しています。春と秋は、年間 120 の舞台を公演するうち 80 公演が行われる盛んな時期になります。典型的な能の演舞は、4 時間続き、能の合間に、喜劇的な狂言と、その後、しめいという、選り抜きの能の概要のようなものが入ります。

観劇の楽しみ方として、舞台の能楽師の感情の表現の仕方と細部までのこだわりが見られる能面と衣装にうっとりすることが挙げられるでしょう。ほとんどの台詞は古語で念じられ、翻訳がなければ台詞を理解することは難しいため、台詞に追いつこうとする必要はありません。少しだけ味わってみたいということなら、特別割引の機会を狙ってみましょう。座席がある限り、能の最終演舞に限り 3 千円のみでチケットを購入することができます。

GINZA SIX の観世能楽堂は、能の演舞の場所だけのものではありません。ときどき、ポップコンサートやクラシックコンサートといった、ほかの演奏会やイベントも開催しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 歌舞伎座

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

One of the most well-known traditional performing arts in Japan, kabuki is an intriguing, multi-faceted theater performance that traces its origins back to the sixteenth and seventeenth centuries. Looking at its male-dominated form now, it is important to remember that kabuki was originally pioneered by female performers, but their involvement was outlawed in the early seventeenth century when it was deemed too provocative. Today, female roles are still performed by men.

A few characteristics make kabuki distinct from other Japanese performance art. Most prominently, the actors don full-face makeup (*kumadori*) and elaborate costumes. This makes kabuki Japanese theater at its most physical, with heavily stylized and exaggerated movements. Kabuki plays are based on traditional texts and literature: some regale audiences with tales of the glory of the ruling samurai class back in the day, while others are based on the lives of everyday folk.

The Kabukiza Theater in Ginza is an icon of kabuki, with frequent performances that change in program on a monthly basis. It also features a permanent interactive exhibition where you can learn about this UNESCO-recognized enduring art form. Don't miss the shopping center on the second basement floor, where you'll find a variety of kabuki-related gifts and souvenirs.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

舞台芸術として日本屈指の長い歴史を持つ歌舞伎は、興味深く多面的な舞踊劇であり、その起源は 16 世紀から 17 世紀の時代にまで遡ります。現在の男性中心の形式を見ると信じがたいことですが、歌舞伎は元々、女性役者が始めました。しかし、17 世紀初頭、挑発的すぎるとして禁止されました。現在では女性役も男性が演じます。

歌舞伎はいくつかの点で他の日本演劇とは違います。その中でも最も顕著なのは、主要人物が顔全体に隈取として知られる独特の化粧を施し、凝った衣装を身につけることです。これらにより、スタイルを確立して誇張された動きを伴いながら、身体表現の演劇である印象を作り出します。歌舞伎の演目は伝統的な文書や文学に基づいています。昔の支配階級である侍の栄光で観客を楽しませる話もあれば、人々の日常生活に根ざした話もあります。

銀座の歌舞伎座は、東京の歌舞伎のアイコン的存在です。プログラムを時折変更しながら、毎月公演を行っています。それだけでなく、ユネスコにも登録された歌舞伎について学ぶことができるインタラクティブな展示スペースも設けています。歌舞伎関連のお土産を購入できる地下二階にあるお土産売り場もお見逃しなく。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 歌舞伎座

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

It is easier to decipher what kabuki is when you look at the three individual kanji characters that make up its name: “Ka” (歌) refers to the music, “bu” (舞) highlights the dance while “ki” (伎) means “acting.” Simply put, this traditional Japanese theater is a form of dance-drama, in which the actors don elaborate costumes and full-face makeup (known as *kumadori*) and perform stylized and exaggerated movements.

Kabuki has been performed for almost as long as Shakespearean theater. But while Shakespearean theater started with men taking all the roles, kabuki went the other way. It was originally performed by women back in the 16th and 17th centuries, but due to what officials saw as kabuki’s sensuous and provocative nature, women were banned from performing in 1629 and the men took over. This tradition persists today; male actors playing the same sex are called *tachiyaku* while those who play female roles are referred to as *onnagata*. The musicians and the *kuroko*—near invisible stagehands dressed all in black—complete the ensemble.

Throughout its four century-long history, kabuki has not only incorporated fashion references of the times but also borrowed from other traditional performing arts such as *noh* and *bunraku* puppet theatre. This willingness to evolve and adapt has resulted in kabuki having an eclectic and interesting style, which adds to its enduring appeal. In 2008, UNESCO officially recognized kabuki as an Intangible Cultural Heritage of Humanity.

More recently, Japan has seen the emergence of an innovative style of kabuki known as “super kabuki.” This new interpretation seeks to broaden kabuki’s appeal by using modern-day Japanese language and adapting classic storylines to fit in with today’s contemporary culture.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

名称を構成する3つの個々の漢字を見ると、歌舞伎がどのようなものを解釈しやすくなります。「か（歌）」は歌唱を指し、「ぶ（舞）」は踊りに焦点を当て、「き（伎）」は演技を意味します。簡単に言えば、この伝統的な日本演劇は舞踊劇の一形式です。役者が凝った衣装を身につけ、顔全体に独特の化粧（隈取と呼ばれ、通常は主役、権力のある役、または女性役が対象）を施して、様式化され、かつ、誇張された動きで演じます。

歌舞伎には長い歴史があります。実際に、歌舞伎はシェイクスピア演劇とほぼ同時期に始まっています。シェイクス

ピア演劇は全ての役を男性役者が演じることで知られていますが、実のところ、16世紀から17世紀にかけて、元々女性が演じていました。しかし、本質的に官能的で物議をかもしものだったことから、1629年に女性による演技は禁止され、男性が引き継ぎました。この伝統は今日まで続いています。男性役者は「たちやく（立役）」と呼ばれ、女性役の役者は「おんながた（女形）」と呼ばれます。公演一座には他に地方と黒衣がいます。音楽と黒子もいることで、舞台を完成させます。黒子は、全身黒い衣装をまとい、見えないようにしている舞台係です。

4世紀にわたる長い歴史を通して、歌舞伎はその時代の流行を盛り込むだけでなく、能や文楽人形浄瑠璃などの伝統芸能からも様々な要素を借用してきました。進化して適応するこの独特の能力により、歌舞伎は折衷的で興味深いものとなって、人々の心をさらに魅了しています。2008年、ユネスコは歌舞伎を人類の無形文化遺産として正式に認定しました。

近年は、スーパー歌舞伎と呼ばれる革新的なスタイルもできました。スーパー歌舞伎の出現により、今日使われている日本語を使用し、古典的な話を現代文化にフィットさせることで歌舞伎をより多くの人に広めようとしています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 歌舞伎座

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

A distinguished landmark in Ginza, the storied Kabukiza Theatre is a Tokyo institution. Opened in 1889, it is the largest kabuki theater in Japan and the only one that's fully dedicated to the kabuki tradition. This majestic building has gone through several transformations, the latest of which, completed in 2013, saw a makeover by renowned Japanese architect Kuma Kengo. Architecturally, it is an icon, showcasing the building styles from two distinctive periods in Japanese history, namely Nara (600–794) and Momoyama (late sixteenth century).

It is safe to say that Kabukiza Theatre is the most significant building in the kabuki world. The regal, expansive theater is adorned with classic Japanese motifs and designs. There are regular seats spread out over three floors, along with box seats, plus a fourth floor reserved for those watching just a single act at a discounted price. Kabukiza Theatre has also made it easier for non-Japanese speakers to enjoy the show by renting out a translation device that provides commentary, background, and plot explanation in English.

However, Kabukiza Theatre is more than just a show venue. There is a restaurant on-site serving meals during intermission (reservations required), and for visitors who are not catching a performance, they can still shop for kabuki-related souvenirs and memorabilia on the second basement floor as well as the fifth floor of the adjacent Kabuki Tower. Moreover, there's the interactive Kabukiza Gallery featuring sets, costumes, and props that visitors can touch and play with. Just outside the gallery is the scenic rooftop garden, which looks out to the modern skyline of Ginza

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

銀座でひときわ目立つランドマークであり、歴史に名高い歌舞伎座は東京にある施設です。1889年に開場した日本最大の歌舞伎劇場で、歌舞伎の伝統に特化した唯一の劇場だということです。壮大な建物は幾度かの改装を経ましたが、2013年に完成した最近のリニューアルは、日本の人気建築家である隈研吾氏が手掛けました。建築的に、奈良時代（600年～794年）と桃山時代（16世紀後半）といった日本の歴史上重要な2つの時代の建築様式を取り入れた象徴的な建物です。

歌舞伎座は、東京における歌舞界のなかでもっとも重要な建物といって良いでしょう。堂々とした風格を持つ壮大な劇場には、由緒ある日本の模様やデザインの装飾が施されています。一般的な座席は3階にわたって配置されており、



ボックス席がある上、4 階には割引料金で一つの幕だけ鑑賞したい人向け的一幕見席が設けられています。劇場では、公演の解説や、背景、あらすじの説明のほか、英語での字幕を表示する翻訳機器をレンタルすることができ日本語を話さない人も鑑賞しやすくなります。

歌舞伎の殿堂としての歌舞伎座は、ただの劇場ではありません。建物内にはレストランもあるため、長めの食事休憩（事前予約要）の間に食事を楽しむことができます。たとえ公演を鑑賞しなくても、地下 2 階で歌舞伎関連のお土産を購入したり、5 階にある歌舞伎タワーに行くこともできます。さらに、歌舞伎座ギャラリーも訪れてみましょう。ここでは、実際に触ったり遊んだりできる舞台のセット、衣装、小道具も展示されています。ギャラリーの外は屋上庭園担っており、銀座のスカイラインをお楽しみいただけます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 歌舞伎座

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

While the opera-like noh theater was largely associated with the nobility, kabuki emerged as the theater of the people. There are two types of kabuki plays: more formal *jidaimono* based on historical events that often tell tales of the ruling samurai class, and *senjamonno*, stories that revolve around everyday folk, with themes such as romance and moral conflict taking center stage.

In the past, a kabuki performance sometimes stretched on to become a full day's entertainment, with patrons coming and going as they pleased. These days, a show is usually around four hours; it consists of a few acts with several short intermissions plus a longer meal break lasting about 30 minutes.

One distinctive characteristic of kabuki theater is that actors sometimes break through the fourth wall to address the crowd directly. Similarly, audience members can yell out the actors' names as a form of encouragement, known as *oomukou*. Needless to say, a kabuki show is always lively, and the staging plays a role in enabling this immersive experience. The elevated pathway that extends from the stage into the audience, known as the *hanamachi* and unique to kabuki, often blurs the line between the performers and the spectators. This, coupled with interesting props and stage features including trap doors and false walls, results in an engaging show that is historically rich and visually captivating.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

能が主に貴族と密接な関わりを持つものだったころ、歌舞伎は民衆の演劇として登場しました。歌舞伎には 2 つの種類があります。格式ある時代物は、歴史上の出来事に基づき、主に権力を握る侍階級の話で観客を楽しませます。一方で世話物は、恋愛や道徳的な葛藤などをテーマとした日常的な物語が舞台上で繰り広げられます。

かつて、歌舞伎は 1 日かけて行われることもあり常連客が好きなように入出入りしていました。現在、公演時間は通常 4 時間ほどで、2～3 の演目から構成されており数回の小休憩と 30 分程度の食事休憩を挟みます。

歌舞伎公演の特長の 1 つは、役者がよく第四の壁を壊して観衆に語りかけることでしょう。観衆も同様に、場を盛り上げる形で役者の名前を叫ぶことができます(大向こうとして知られています)。言うまでも無く、歌舞伎の公演は常に活気に溢れており、舞台上での公演が歌舞伎の世界にどっぷり入り込めるように一役買っています。舞台から客席まで繋がる歌舞伎特有の張り出した道は花道と呼ばれ、しばしば演者と観客の間の境界線をぼかしています。これに興味深い小

道具や、役者が自由自在に出没できるセリといった舞台の特長が加わることで、歴史的に豊かで視覚的に魅惑的な公演を楽しめるのです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】宝塚劇場

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

For over a century, the all-female theater troupe Takarazuka Revue has been entertaining audiences in Japan. The troupe's performances are a mix of Western-style musicals, French cabaret, and high-kicking precision dancing and are characterized by elaborately choreographed numbers and over-the-top costumes with glitter and feathers. Takarazuka Revue has a huge and dedicated fanbase across Japan, particularly with women, who make up the majority of its audiences.

In 1913, the founder and president of Hankyu Railway Co., Kobayashi Ichizo (1873–1957), created the Takarazuka Revue Company to attract more visitors to Takarazuka in the prefecture of Hyogo. On April 1st, 1914, the group held their first performance with an all-female cast, a direct contrast to kabuki and noh plays that were performed exclusively by men. The troupe was a huge success and held its first Tokyo show in 1918 to huge acclaim. The following year, Kobayashi founded the Takarazuka Music Opera School, now called simply the Takarazuka Music School, to supply his company with performers. As has been the practice since its founding, girls from fifteen to eighteen years of age with dreams of becoming a Takarazuka Revue performer have to pass an audition to attend the school, and then undergo years of rigorous training before they can finally take to the stage.

Such was the group's popularity that it opened its own venue, the Takarazuka Grand Theater, in 1924. This venue was followed by the Tokyo Takarazuka Theater, which was established in the capital's Hibiya district on January 1st, 1934. The opening of the theaters was a huge milestone for the company, as the theaters offered permanent venues for all its performances rather than the rented theaters they had been performing in. Both Takarazuka theaters continue to attract visitors today. After World War II, the Tokyo Takarazuka Theater was renamed the Ernie Pyle Theater and was managed by the Allied Powers. During this period, the Takarazuka Revue had to again perform in rented venues across the city until 1955 when the theater reverted to its original name and the troupe took to its stage once more. The original building was demolished in 1998 due to disrepair, and the troupe's current building, constructed on the same site, opened in 2001.

The new Tokyo Takarazuka Theater, with its red carpets, brilliant chandeliers, and a famous grand staircase, is an icon of Japanese theater. The auditorium has 2,065 seats and is designed so that spectators can enjoy a great view from any seat in the house. The stage has the same set-up as does the Takarazuka Grand Theater in Hyogo, where new shows debut before transferring to the capital a few weeks later. Musicals, revues, and plays are performed one

or two times a day to packed houses. The majority of Takarazuka works are adaptations of classic Western musicals, operas, plays, novels, or films. Takarazuka also occasionally performs interpretations of Shoujo manga or Japanese folktales.

Because of its uniquely imaginative and dream-like performances, Takarazuka is extremely popular and tickets sell out quickly. The theater is located in the heart of Hibiya, Tokyo's theater district, directly beside the Imperial Hotel. It is a five-minute walk from the Hibiya Station.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

宝塚歌劇団は 1 世紀以上に渡り日本で西洋式のミュージカルやレビューを上演してきました。その公演のスタイルはミュージカル、フランスのキャバレー、ラインダンスのミックスが混ざっており、精巧に振り付けられ、衣装はきらびやかで羽根をあしらった豪華なものです。宝塚歌劇団のファン層は厚く熱心で、日本中にまたがっており、その観客の多くは女性です。

阪急電鉄の創業者であり社長であった小林一三は、1913 年に、兵庫県宝塚への観光客を増やすため、全員女性による歌唱グループ、宝塚唱歌隊を設立しました。1914 年 4 月 1 日、同グループは、男性のみで行われる能や歌舞伎とは対照的に、全員女性によるキャストで初公演を行いました。彼らはのちの 1918 年に東京で初公演を行い大きく称賛されました。1919 年、小林は現在の宝塚音楽学校である宝塚音楽歌劇学校を設立しました。宝塚歌劇に出演することを夢見る 15 歳から 18 歳の女子は学校に入るためにオーディションを受け、その後舞台に立つまでに何年も厳しい訓練を受けることになります。

1924 年に兵庫県宝塚に宝塚大劇場がオープンし、そして 1934 年 1 月 1 日には東京宝塚劇場が日比谷に誕生しました。東京宝塚劇場が開場するまで、公演はすべて帝国劇場や歌舞伎座等の会場を借りて行われていました。この劇場の開場は大きな一里塚となり、その後のすべての公演の劇場となりました。現在に至るまで両宝塚劇場は多くの観客を動員し続けています。第二次世界大戦後、東京宝塚劇場はアーニー・パイル劇場と改称され、連合国の管理下に置かれました。1955 年に名前やグループ、ステージを元に取り戻すまで、貸劇場で公演をしなければなりません。旧建物は 1998 年に老朽化のため取り壊されました。現在の建物は 2001 年に開場しました。

東京宝塚劇場は赤い絨毯ときらびやかなシャンデリアで壮大な雰囲気があり、日本の劇場のアイコン的存在です。ホールは 2,065 席を擁し、どの席に座っても観劇を楽しめるよう設計されています。舞台は兵庫の宝塚大劇場と同じ造作がなされています。公演は宝塚大劇場で初演が行なわれた約 2 週間後ここで上演されます。ミュージカル、歌劇、演劇が一日 1、2 回、満員の観客に向けて上演されます。宝塚の作品の多くが西洋の古典的なミュージカルやオペラ、演劇、小説、映画等を脚色したものです。他にも少女漫画や日本の昔話を題材にしているものがあります。

創意工夫がみられ夢のようなパフォーマンスであることから、公演はすぐに売り切れてしまいます。劇場は東京の観劇エリアである日比谷の中心、帝国ホテルのすぐ隣にあります。日比谷駅から徒歩 5 分です。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】宝塚劇場

【整備予定媒体】パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

In 2019, the all-female Takarazuka Revue is celebrating its 105th anniversary. Takarazuka was created in 1914, when Japan was experiencing a growing interest in Western-style theater, which was unlike the traditional forms of Japanese theater. Kobayashi Ichizo (1873–1957) took this opportunity to create a new form of entertainment that combined song, dance, and drama. The original Takarazuka Revue was heavily influenced by French theater and American Broadway musicals. In 1927, the group's *Mon Paris* became the first revue staged in Japan. It became the model for Takarazuka performances and introduced a different kind of performance, including high-kicking dance routines similar to those of New York's Rockettes, which remain the group's hallmark. Takarazuka Revue's fame has spread beyond Japan, and the troupe frequently tours internationally to Europe, Asia, and North America.

Today the company has approximately four hundred performers in five troupes: Flower (Hana), Moon (Tsuki), Snow (Yuki), Star (Hoshi), and Cosmos (Sora). In addition, there is the "Superior Members" (Senka) group, who are part of the four hundred corps members and consist of experienced upperclassmen. They are not affiliated with any of the troupes, rather providing special performances and appearing in any of the troupe's productions as needed. Every Takarazuka performance starts with a play that lasts for about one and a half hours, and in which every character is played by multiple women regardless of identity as the male lead (*otokoyaku*) or female lead (*musumeyaku*). This performance is followed by a short intermission after which spectators are treated to a musical cabaret with bright lights, live orchestra, and a show-stopping, eye-high-kicking dance performance.

Takarazuka has a profound influence in the Japanese entertainment industry, and many former Takarazuka actresses have moved into television and movies after they graduate from the Takarazuka Revue.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

女性だけで構成された宝塚歌劇団は、2019年に創立105周年を迎えます。宝塚が創設された1914年、日本では伝統的な日本の演劇形式とは異なる欧米式の演劇に関心が高まっていました。小林一三は、これを好機と捉え、歌やダンス、ドラマを融合した新しいエンターテインメントを作り出しました。宝塚歌劇は、フランスの演劇やアメリカのミュージカルの影響を色濃く受けており、1927年には、『モン・パリ ～吾が巴里よ!～』が制作されました。日本初のレビュ

『モン・パリ ～吾が巴里よ!～』は、現在も続くロケットダンスを始めとする、それまでとは異なるタイプのパフォーマンスを取り入れ、以後、宝塚公演の象徴および雛形となっています。宝塚歌劇は日本で有名なだけではありません。ヨーロッパやアジア、北米にも遠征して公演を行っており、海外でも知られています。

宝塚歌劇団にはおよそ 400 人の団員が在籍しており、花（はな）組、月（つき）組、雪（ゆき）組、星（ほし）組、宙（そら）組の 5 つの組に分かれています。加えて、専科と言うグループもあり、組に配属され経験を積んだ人たちから形成されています。どこの組にも属さず、それぞれの組の公演には必要に応じて出演します。毎回の宝塚公演は、約 1 時間半の演劇の後に短い休憩が設けられ、劇中の人物はすべて女性が演じており、物語は多くの場合、主演男役と主演娘役を軸に展開されます。公演の後半では、観客たちはきらびやかな照明や生オーケストラと共に繰り広げられるミュージカルショーを堪能し、目を引きつけるほどのラインダンスを鑑賞することができます。

宝塚は、日本のエンターテインメント業界に大きな影響力を持っています。というのも、宝塚の団員の多くは、宝塚歌劇団卒業後にテレビや映画に活躍の場を広げるからです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 宝塚劇場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

After World War II, the General Headquarters (GHQ) of the Supreme Commander for the Allied Powers took over the management of Tokyo Takarazuka Theater and renamed it the Ernie Pyle Theater after the Pulitzer Prize-winning American journalist, who died in Okinawa in 1945. During this period, the Takarazuka Revue Company performed at rented venues such as Nippon Gekijo and Imperial Theater. In 1955, Kobayashi Ichizo (1873–1957) regained management of the venue and changed the name back to Tokyo Takarazuka Theater.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

第二次世界大戦後、東京宝塚劇場は、連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）によって接收され、1945年に沖縄で亡くなった、ピューリッツァー賞受賞者であるアメリカ人ジャーナリストの名前にちなみ、アーニー・パイル劇場と改称されました。この間、宝塚歌劇団は、日本劇場や帝国劇場などの舞台を借りて公演を続けました。1952年、小林一三は興行施設の運営権を取り戻し、劇場はその本来の名前である東京宝塚劇場に戻るようになったのです。

#### 本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 帝国劇場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

As the first Western-style theater in Japan, the Imperial Theater continues to play a pivotal role in the cultural landscape of Tokyo. The theater is located in the Marunouchi district, facing the Imperial Palace. The opulent and impressive interior of this building is something marvelous to behold as soon as you enter the building. The lobby is lush with an abundance of red carpet and several artworks decorating the space. A light installation by Inokuma Genichiro (1902–1992) stands at the foot of the staircase, and four masks by Hongo Shin (1905–1980) decorate one side of the wall. However, what catches attention is the beautiful stained-glass made by Inokuma. The theater also boasts advanced stage technology that includes six underground floors of revolving stages that can be raised and lowered with hydraulic power. The whole theater is designed such that different sets can be taken down and changed within a minute.

The Imperial Theater produces a wide variety of performances every year, including Western musicals such as *Les Misérables*, *Elisabeth*, *The Man of La Mancha*, and *Miss Saigon*, as well as spectacular shows by Japanese entertainers such as *King & Prince – Johnny's Island*. The auditorium can accommodate up to 1,900 people, while the ninth floor houses an art museum with a rotating exhibition.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

帝国劇場は、日本で最初の西洋風な劇場として、東京の文化的景観において中心的な役割を果たし続けております。場所は丸の内にあり、皇居の正面です。建物に入ると、この建物の豪華で印象的なインテリアに目を奪われます。赤い絨毯が敷き詰められたロビーは、数々の芸術作品が並び、豪華な雰囲気にあふれています。階段の踊り場には、猪熊弦一郎による照明装飾があり、壁の片側には、本郷新による4つの仮面が飾られています。しかし、なにより目を引くのは、猪熊の作による美しいステンドグラスです。この劇場には誇るべきことがあり、舞台は水力を利用した高度な舞台技術で吹き抜けになった地下6階までの間を上下できるのです。劇場全体の設計レベルが非常に高く、実際の公演にあたって、セットの設営や変更にも素早く対応することが可能です。

帝国劇場では、1年に様々な公演が行われます。レ・ミゼラブル、エリザベト、ラ・マンチャの男、ミス・サイゴンなどのミュージカル公演の他、日本では人気のジャニーズ事務所の出演者によるスペクタクルなショーも上演しています。収容人数は約1,900人です。また、9階にはミュージアムもあり企画展も行われています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 帝国劇場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

The Imperial Theater, also known as Teikoku Gekijo, is Japan's first Western-style theater. The original four-story building was designed in a Renaissance style by Yokogawa Tamisuke (1864–1945), a renowned architect and founder of Yokogawa Electric Co. Yokogawa spent time in the U.S. and the West studying theater design, and modeled the theater after famous opera houses in Europe. Its construction was prompted by a growing movement that wanted to raise the standard of theater in Japan. Prominent and influential people during the Meiji period (1868–1912) were aware of the importance of the modern theater and were eager to adopt the Western way of construction. The plan to establish a new theater in Tokyo was first conceived in 1906 by former Prime Minister Ito Hirobumi and by Shibusawa Eiichi, a prominent businessman. Soon after, Shibusawa approached many influential people of the time, who were all eager to open a new theater. This culminated in the establishment of the Imperial Theater Corporation in 1907. Yokogawa, the architect and designer, was appointed to develop a venue that would showcase traditional Japanese performance arts, especially kabuki, in a modern theater.

On March 1, 1911, the theater opened with a grand ceremony. However, just over a decade after its opening, the theater was partially destroyed by a fire following the Great Kanto Earthquake that struck the region on September 1, 1923. The theater was soon rebuilt in 1924, but it would undergo several more changes, including a change of management amidst the economic depression from the early Showa period to World War II.

In 1964, the Imperial Theater was closed due to the aging of the edifice. It took two and a half years to finish reconstruction, and it was reopened in September 1966 as a new theater, which still stands today. The present version was designed by Taniguchi Yoshiro, the father of Taniguchi Yoshio, who re-designed the Museum of Modern Art in New York in 2004.

Since its first opening, the Imperial Theater has played a very significant role in modernizing theater and theater management in Japan. For example, the theater introduced a new ticket system in which tickets sales opened ten days prior to the performance. The theater also prohibited eating, drinking, and smoking inside the auditorium, instead building a lounge and dining hall inside the building. The Imperial Theater also fostered other types of performance art in Japan, including opera and ballet. For a while, it had its own opera company. The theater also invited foreign

theaters, opera and ballet companies to come and perform. Finally, the Imperial Theater provided a cosmopolitan cultural atmosphere that, at the time, could not be found anywhere else in Tokyo.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

帝国劇場は日本で最初の西洋式の劇場です。建物は 4 階建てのルネサンス様式で、横河グループの創始者でもある横河民輔（1864～1945 年）が設計を手がけました。米国や多くのヨーロッパ諸国で時を過ごしながら劇場の設計を学んだ横河は、帝国劇場の設計にあたってヨーロッパの有名なオペラハウスを手本にしています。建築時には、日本の劇場の水準の底上げを志す機運が高まっていました。明治時代（1868～1912 年）の著名人や有力者たちは近代的な劇場の重要性に気づいており、西洋の方式を取り入れたいと望んでいました。新劇場建設の計画は、1906 年に元総理大臣の伊藤博文と著名な実業家の渋沢栄一によって最初に発案されました。その後まもなく渋沢は、新劇場開設を願う時の有力者たちに広く働きかけました。そして帝国劇場株式会社が 1907 年に設立されました。建築家で設計者の横河は、日本の伝統的なパフォーマンスアート、とりわけ歌舞伎を近代的な劇場で行えるような施設を実現する役割を任されました。

1911 年 3 月 1 日に帝国劇場は大々的に営業を開始しました。しかし開場から 10 年ほどが過ぎた 1923 年 9 月 1 日に関東地方を襲った関東大震災による火事で劇場は一部が破壊されてしまいました。劇場は 1924 年に再建されました。その後劇場は不況や昭和初期から第二次大戦にかけて起きた経営会社の交代など、複数の変化を経験します。

1964 年に、帝国劇場は老朽化によって休業しました。再建の完了には 2 年半かかり、1966 年 9 月に新しい劇場として再度営業を開始して、この新劇場が今日まで存続しています。現在の建物は、2004 年にニューヨーク近代美術館を再設計した谷口吉生の父である谷口吉郎によって設計されました。

最初に営業を開始して以来、帝国劇場は日本の劇場と経営の近代化において非常に重大な役割を果たしてきました。例えば、帝国劇場は上演の 10 日前からチケットが売り出されるチケットシステムを導入しました。また客席内での飲食や喫煙を禁止し、場内各所に休憩室、食堂を配しました。日本式の近代劇場として果たした重大な役割と同程度に大切なこととして、帝国劇場がオペラやバレエといった他の種類のパフォーマンスアートを促進したことが挙げられます。帝国劇場は一時期、自前の歌劇部を有していました。さらに外国の劇団、オペラ、バレエ団の誘致も行っていました。それだけではなく、帝国劇場は東京の他の場所では見出すことができないような国際色溢れる文化的な雰囲気を作り出したのです。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 銀座ギャラリーズ  
【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Ginza, long home to Tokyo's glitziest shops and malls, has also developed a reputation as the city's art district, with 250 -300 art galleries covering everything from antiques to contemporary art located in the area. The majority of these galleries are easily missed, however, as they are tucked away in side streets or in the basements or upper floors of nondescript buildings that offer little clue from the outside as to the treasures within.

Thirty-five of these galleries are part of an organization called Ginza Galleries, which can be explored independently by following the map available on the Ginza Galleries website.

Created in 2006, the voluntary organization aims to promote the arts and culture of Ginza particularly by supporting smaller, independent galleries that believe they are stronger together. Ginza Galleries hosts several events, including gallery tours and annual Christmas and spring exhibitions. They also collaborate with local commercial and governmental organizations on blockbuster events such as Ginza Art Night, Afternoon Galleries, and Xmas Art Festa that demonstrate the very best that Ginza has to offer. The galleries also provided a place where young artists could interact with fellow artists and visitors. The gallery tours are highly recommended and allow art enthusiasts to go gallery hopping with expert guides who introduce an expansive world of art.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本のショッピングエリアである銀座はまた、アート街として最もよく知られており、この地域内には 250～300 のアートギャラリーがあります。これらのギャラリーは日本の古美術品から現代アートまで、さまざまな分野をカバーしていますが、その大半は横道に、あるいは建物の上層階や地下階に位置しているため、見過ごされがちです。これらのギャラリーのうち、35 は銀座ギャラリーズという団体に属しており、これらのギャラリーは銀座ギャラリーズのウェブサイトにあるマップで見ることができます。

銀座ギャラリーズは 2006 年に、銀座のアートや文化を発信するだけでなく、小規模の独立系ギャラリーをサポートすることを目的として発足しました。この団体を組織することで、小規模のギャラリーもお互いに支えあうことができるのです。銀座ギャラリーズは毎年のクリスマスイベントや春のイベント、ギャラリーツアーを開催しています。また、行政プログラムや銀座通連合会と協業で、銀座アートナイトやアフタヌーンギャラリーズ、クリスマスアートフェスタを開催し銀座にあるアー

トギャラリーの魅力を存分に伝えています。ギャラリーがあることで若いアーティストが仲間のアーティストや訪問者と交流することができる場所が実現しています。銀座ギャラリーズによるギャラリーツアーは、アートファンが次から次へとギャラリーをはしごすることでアートの世界に飛び込むことができるので、特におすすめです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 日生劇場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

The Nissay Theater officially opened in October 1963 with a performance by Deutsche Oper Berlin. The theater has preserved the same design since it first opened more than 50 years ago, thereby taking guests back in time as soon as they enter. The theater, built by Nippon Life Insurance Company, is one of Japan's well-known theaters, which is located in Hibiya's theater district. The theater was designed by the architect Murano Togo (1891–1984) and stands as an exceptional example of Showa-period (1926–1989) architecture. Upon entering, visitors are greeted with an ornate ceiling, granite pillars, and a white marble floor, as well as the grand, red-carpeted spiral staircase that leads up to the theater.

The interior of the auditorium has elegant decorative details that add a unique atmosphere to its productions. The walls are decorated with glass-tile mosaics in different shades of blue, pink, white, and gold, while 20,000 pearl oysters adorn the ceiling.

With a capacity of about 1,300 people, a number of performances are held here including operas, plays, musicals, and remakes of imported productions. The company's former president Hirose Gen was very involved in theater during his youth and wanted to contribute to a fast-growing society by building a venue that offered high quality, stunning stage productions for the public to enjoy. The Nissay Theater also offers family-friendly shows and plays, making it one of the best children-friendly theaters in Tokyo.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日生劇場は、1963年10月にベルリン・ドイツ・オペラによる公演で正式にオープンしました。劇場は開場当時から変わらずその意匠をとどめているため、劇場に足を踏み入れるや否や50年前にタイムトラベルした気分になれるのです。劇場は日比谷の劇場地区の一角にあり、日本を代表する舞台芸術劇場の一つで日本生命によって建設されました。建物は建築家の村野藤吾による設計で、昭和の時代を代表する建築の一例として高い評価を得ています。建物内に入ると、すぐに凝った造りの天井、万成石（花崗岩）の柱、白大理石の床、レッドカーペットが敷かれた大階段と、劇場がある階へと続く螺旋階段が目に入るでしょう。

ホール内の内装には緻密な装飾が施され、劇場の舞台作品に独特の雰囲気を与えています。壁には濃淡様々な青、ピンク、白、金のガラススタイルのモザイクが施され、天井には2万枚ものアコヤ貝の貝殻が散りばめられています。

劇場の収容数は約 1300 人です。オペラ、ミュージカル、海外作品のリメイクなど、数多くの舞台が上演されています。日本生命元社長の弘世現は、自身の若いころの観劇体験をもとに、良質な舞台作品の提供を通じて（人々に提供し、楽しんでもらうことで）豊かな社会づくりに貢献したいと考えました。日生劇場は家族向けのお芝居やコンサートも提供しており、東京で一番の子ども向け劇場でもあります。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 王子ホール

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

In October 1992, the Oji Paper Company built a concert hall within their headquarters in Ginza, at the heart of Tokyo. Oji Hall was built as a creative space that could bring artists and audiences together, making a meaningful contribution to the performing arts. Primarily designed for chamber music and recitals, Oji Hall has hosted numerous prominent artists both from Japan and around the world.

Earlier in 2018 the Oji Hall was briefly closed for renovations, and re-opened on October 25 with a Viennese waltz music by NHK Symphony Orchestra concertmaster Shinozaki “Maro” Fuminori and colleagues. Upon entering the hall, visitors are greeted by a striking high ceiling and marble floors. It’s hard to miss the large-scale artwork on the left side of the lobby, a stunning wall installation, *Mori no Uta* (Songs of the Forest), made in 1991 of copper and earthenware by the renowned Japanese Bizen potter Fujiwara Yu. The spiral staircase leading up to the foyer and concert hall is adorned with paintings by French artist Ramon Dillely. But it’s the concert hall’s glorious interior that steals the show. Designed like a shoebox, the stage is made of wood, which contributes to a space that feels intimate yet seats a sizeable audience. This convivial atmosphere evokes the spirit of 19th-century Europe, extending to the lounge, where guests can enjoy food and drink at a reasonable price, while mingling and chatting with other guests.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

1992年10月、王子製紙株式会社は東京の中心地、銀座にある本社ビルの中にホールを建設しました。王子ホールは観客とアーティストを一つにするような創造的空間として建設され、パフォーミングアートへ重要な貢献をしました。王子ホールは主に室内楽やリサイタル向けにデザインされ、国内外の有名アーティストたちを招待し続けています。2018年の初めに王子ホールは改装のため一時的に閉館し、10月25日にNHK交響楽団のコンサートマスター、篠崎“マロ”史紀と同僚によるウィーンのワルツ音楽で再開されました。ホールに入ると、訪問者は印象的な高い天井と大理石の床に迎えられます。1991年に有名な日本の備前焼の陶芸家藤原悠が作った、ロビーの左側にある大きな壁画、森のうたを見逃すことはできません。ロビーとコンサートホールへ続くらせん階段は、フランス人芸術家のRamon Dillelyによる絵画で飾られています。しかし、ショーを盗むのはコンサートホールの素晴らしいインテリアです。シューボックスのように設計され、ステージは木できており、観客はステージを非常に近く感じることができるでしょう。こ

の陽気な雰囲気は 19 世紀のヨーロッパの精神を呼び起こし、ラウンジへと広がります。ここでは、他のゲストと交流しながらおしゃべりをしながら、お手頃な料金で飲食を楽しめます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 浜離宮朝日ホール  
【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Hamarikyu Asahi Hall was opened in 1992 by the Asahi Shimbun Company newspaper corporation. The hall holds regular concert performances and recitals by prominent musicians from Japan and overseas. The hall's acoustics are considered world-class, rivaling New York's renowned Carnegie Hall.

Upon entering the building located directly outside the entrance to the Tsukiji-Shijo Station, guests are greeted by stunning interiors, featuring marble floors and walls. The wall facing the entrance is made from a single slab of marble. At the top of the stairs, the landing opens on to a grand foyer that features plenty of open space and high ceilings.

Hamarikyu Asahi Hall is designed in a shoebox shape, following the classical standards of European performance halls, in order to create the highest-quality acoustics. The stage is built in the same level as the audience seats, which brings the audience closer to the performer. The hall provides a sense of intimacy and immediacy for both performers and audiences. Accommodating 552 people, guests can enjoy the performance equally from any seat in the venue. Aside from their main events, Hamarikyu Asahi Hall also hosts lunch concerts, which are held between 11.30am and 1pm. These concerts are quite popular among the locals and are a great choice for visitors looking to enjoy a cultural activity in the Ginza area.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

浜離宮朝日ホールは、1992年に朝日新聞社がオープンしました。このホールでは、主に国内外の音楽家のコンサートやリサイタルが開かれています。ホールはニューヨークのカーネギー・ホールに匹敵する美しい音響を生み出す世界最高のコンサートホールの1つとされています。

築地市場駅の出口からすぐ繋がった建物の中に入ると、まず大理石の床、壁でできた素晴らしい内装をご覧になれます。入り口に面した壁は、一枚板の大理石から作られています。2階は、天井の高い広々とした空間のラウンジになっています。

浜離宮朝日ホールは、高音質を実現するために、ヨーロッパの一流ホールの基準に習い、伝統的なシューボックス型

(靴箱のような立方体) に設計されています。ステージは観客席より高い場所に作られていますが、スペースのつくりが演者との距離を近く感じさせており、演奏者と観客の双方が親密さと近さを感じられるでしょう。約 550 人収容することができ、お客様は会場内のどの座席からでもパフォーマンスをお楽しみいただけます。

メインイベントの他に、午前 11 時半と午後 1 時からスタートするランチタイムコンサートも開催されています。コンサートは地元の人たちに大変人気があり、銀座で文化活動を楽しみたい観光客にも必見の価値があることは間違いありません。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 浜離宮朝日ホール  
【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Hamarikyu Asahi Hall is considered one of the world's best acoustic halls, as recognized by the Acoustical Society of America in 1996. The Asahi Shimbun visited several concert halls before its construction in order to build the best hall in Ginza. The classical shoebox shape was chosen as the final design, because this particular style was found to best correspond to the needs of the audience and also to ensure good acoustics.

Leo Beranek (1914–2016), a renowned American acoustics expert, visited the Hamarikyu Asahi Hall in the 1990s, while working as an independent acoustical consultant in Japan. Beranek emphasized how important it was to pay attention to the acoustic sound quality when building a music hall, and Asahi Shimbun achieved this vision of excellence.

The materials used, the measurements of the area, and the stage depth were all taken into consideration for the construction of the hall. For instance, the walls below the balcony are covered by a marble-like material with a corrugated surface, while the rest of the walls and ceilings are composed of either gypsum board or wood. The vertical corrugations of the marble-like wall were added to balance the high-frequency sound waves and reflect them back into the reverberant sound field. Performers have also expressed how stage acoustics and sound are uniform in quality throughout the hall. As a result, the audience can experience beautiful sound quality wherever they sit.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

浜離宮朝日ホールは、米国音響学会が 1996 年に発表した通りアコースティックの響きが世界で最も美しいホールのひとつとされています。ホールの建設にあたり朝日新聞は、銀座に最高のホールを建てようといくつものコンサートホールを訪問しました。古典的なシューボックスのデザイン設計は観客のニーズに最良な形で答えるために適しており、良質な音を確実に表現できるものとして選ばれました。

アメリカの音響学専門家レオ・バラネックは日本で独立した音響コンサルタントとして働いた当時、1990 年代に浜離宮朝日ホールを訪問しました。彼は、音楽ホールを建てる時に音響の質に注意を払うことがどれだけ大切かを主張しており、朝日新聞社はそれを実に優秀に成し遂げていると述べています。

浜離宮朝日ホールは使用する素材や面積の寸法だけでなく、ステージの奥行きまで考慮されています。例えばバルコニーの下の壁は襞状の表面をもつ大理石状の素材で覆われており、それ以外の壁と天井は石膏ボードと木材のいずれかでできています。大理石状の壁にある垂直の襞は、高周波数のサウンドを全体の響きに溶け込ませるためのものです。演奏者もステージの音響とサウンドはホール全体で質的に安定していると述べています。そのため観客はどこに座っていても美しい音を味わうことができるということです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 銀座博品館劇場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Located on the eighth floor of Hakuinkan Toy Park at the heart of Tokyo's theater district, the Hakuinkan Theater greets visitors with evocative retro vibes: the lobby boasts red carpets, wooden ceilings, and Swedish crystal chandeliers. What makes the theater so special is the distance between the stage and the audience. The proximity of the stage makes it easier to feel immersed in the performance.

The theater, which seats almost four hundred people, began staging musical theater in 1978 when this artistic form was not very popular with the Japanese public, and today it continues to focus its energies on this genre, although space is also made in the schedule for dramatic plays, song-and-dance shows, concerts, stand-up comedy, and traditional *rakugo* storytelling. In recent years, the theater has produced original musicals featuring tap dancing as well as shows such as *Ultraman*, based on the Japanese science fiction television series by Tsuburaya Eiji about a superhero who saves the earth from aliens, and *Sylvanian Families*, based on the anthropomorphic animal figurines by Japanese gaming company, produced for children in collaboration with the Hakuinkan Toy Park. Another highlight of its calendar is a science experiment show by Charlie Nishimura, in which he conducts several experiments such as an air cannon constructed from a PET bottle.

Tickets can be bought on the first floor. The building is at the corner of Ginza 8-chome and a three-minute walk from Shinbashi station.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

博品館劇場は劇場地区との中心地にある博品館トイパークの 8 階にあり、劇場のロビーに足を踏み入ると、そこにはレトロな雰囲気漂うロビーが広がり、レッドカーペットが敷き詰められたフロアに木造の天井、スウェーデン製のクリスタルシャンデリアが出迎えてくれます。この劇場の最大の特徴はステージと客席の距離です。ステージと客席の距離が近いいため、観客は目の前で繰り広げられるパフォーマンスと「会話」することができ、パフォーマンスに引き込まれて夢中になれるのです。

収容人数はおよそ 400 人弱で、ミュージカル黎明期に日本でミュージカルを始めた数少ない劇場の 1 つです。今日も主にミュージカルに使用されますが、ストレートプレイやコンサート、落語、漫談、せりふ劇のステージにもなります。最近

では博品館劇場はトイパークと協力し、タップダンスを織り交ぜたミュージカル作品や、ウルトラマンやシルバニアファミリーといった子供向けのオリジナル公演も上演しています。また、チャーリー西村さんによるペットボトルででき空気砲の実験などのサイエンスショーも開催しています。

チケットは1階で購入することができます。劇場は銀座8丁目の角、新橋駅から徒歩3分のところにあります。劇場に関する情報や公演情報については、博品館公式サイトをご覧ください。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 新橋演舞場

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

The Shinbashi Enbujo Theater has a rich history dating back to 1925, when it opened with an Azuma Odori dance revue by Shinbashi geishas—an ideal launch event for a venue created with the laudable goal of presenting and promoting the geisha’s traditional performing arts to a wider audience. The building was reconstructed in 1948 after it was partly destroyed during World War II, and in 1982 the theatre’s interior and audio-visual tech underwent major renovations. Its stage was built according to kabuki traditions, with a *hanamichi*, a raised passageway running straight through the three-tiered auditorium, which has 1,424 seats. Hanging paper lanterns carry the theater’s distinctive logo, known as *setsugekka* (雪月花), which features snow, the moon, and flowers.

Although the theater was built to promote the traditional performing arts of the geishas, it soon added other genres of performing arts to its repertoire: kabuki, Shakespeare plays, musicals, and in more recent years, super-kabuki, an experimental form of traditional kabuki that takes inspiration from manga and anime.

The special effects-laden super-kabuki II project *One Piece* was performed for the first time at this theater, and its success spurred the development of a new kabuki, *Naruto*.

Yet while remaining a proud innovator, the Shinbashi Enbujo Theater has not forgotten its roots. The Azuma Odori, the spectacle that graced its stage back in 1925, is still held once a year and ticket-holders can mingle, chat, and snap selfies with the geisha during the intermission.

Innovative production techniques and seating that is unusually close to the stage makes this a particularly intimate theater-going experience, and a truly memorable night out for international visitors to Japan.

While there is no shortage of great eating options in Ginza, you don’t need to leave the theater if you feel hungry, as the theater restaurant offers food created by local fine-dining restaurants. The Shinbashi Enbujo is located less than ten minutes’ walk away from Kabuki-za Theater.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

新橋演舞場には 1923 年から始まった豊かな歴史があり、新橋の芸者による東をどりの公演で正式にオープンしまし

た。この劇場の狙いは、芸者の伝統芸能をより多くの人々に紹介し広めることでした。第二次世界大戦中に建物が部分的に損壊しましたが、1948年に再建されています。1982年には、劇場の内装だけでなく、照明や音響技術にも焦点を当てた大規模な改装が行われました。ステージは、舞台と同じ高さで観客席をまっすぐ貫く通路である「花道」という歌舞伎の伝統にもとづいて設計されています。観客席は3階建てで1424席あります。劇場の雪と月と花を表す雪月花の座紋が入った提灯が吊るされ、2階の手すりを装飾しています。

劇場は当初、芸者の伝統芸能を広めるための場所として建設されましたが、すぐにそのレパートリーに、歌舞伎、シェイクスピアの演劇、ミュージカル、そして近年はスーパー歌舞伎など、様々なジャンルの舞台芸術が加わりました。スーパー歌舞伎は特殊効果を取り入れた伝統歌舞伎に実験的要素が加わった、漫画やアニメからたくさんのインスピレーションを得た試みです。

スーパー歌舞伎プロジェクトIIとして「ワンピース」は、この劇場ではじめて公演されました。その成功に続いて、新しい歌舞伎「ナルト」がその後制作されました。

誇るべき革新を遂げながらも、新橋演舞場はルーツも忘れていません。1925年の公演行こう、東をどりは今年も1回公演が行われます。休憩時間には、芸者と交流することもでき、演者は観客と自由に会ったり、喋ったり、写真を撮ったりできます。

革新的な制作技術と舞台に近い座席は、演劇体験を近くで受けることができ、訪日観光客にとっては本当に思い出深いものとなります。

銀座は美味しい料理を食べる場所には困りませんが、新橋演舞場にいる際は、お腹が空いてもわざわざ劇場を出る必要はありません。劇場のレストランは地元の老舗料亭の料理人が監修しています。新橋演舞場は国立歌舞伎座から徒歩で10分かからない場所に位置しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 シアタークリエ

【整備予定媒体】 パンフレット、WEB

<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

In 2007, Theater Creation was opened with a play called *The Fearless Otojuro's Company*, written and staged by Mitani Koki. Its predecessor was a theater called Geijutsuza that opened in 1957 and produced numerous plays and musicals until 2005. Playwright Kikuta Kazuo (1908–1973) served as the director for the theater and created not only original Japanese plays such as *Noren* (Split Curtain) and *Horoki* (Vagabond's Diary), but also international plays including *The Miracle Worker*. Geijutsuza was also one of the first venues to put on musicals. The very first Japanese version of *The Sound of Music* premiered at this theater in 1965.

As visitors approach the building, they are guided through a glass façade into a marble lobby. Once in the lobby, visitors are greeted by a word wall, with quotes taken from Greek tragicomedy, all written in Greek. The theater hall is located in the basement and is accessed via stairs or an elevator. When going down the stairs, visitors can see artwork by Japanese artist Yamamoto Aki, where each painting represents a fundamental emotion like delight, anger, sorrow, and pleasure, all portrayed by characters from Shakespeare plays.

The theater hall mainly stages musicals and plays and can accommodate up to six hundred people. More than 80 percent of the theater's guests are women. Most of the directors of the plays and musicals are also female.

The theater is located right by Hibiya Park and is across the street from the Tokyo Takarazuka Theater.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

シアタークリエは 2007 年に三谷幸喜による作品、「恐れを知らぬ川上音二郎一座」を第一公演としてオープンしました。その前身は 1957 年開場の芸術座で、2005 年まで多数の演劇公演を行なっています。有名な劇作家の菊田一夫が芸術座のディレクターを務め、「暖簾」や「放浪記」などの日本オリジナルの演劇作品だけでなく、「奇跡の人」のような国際的な演劇作品も世に送り出しています。芸術座は初めて大衆向けにミュージカル公演を行なった劇場の一つであり、実際ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の最初の日本版は 1965 年にこの劇場で初演されました。来場者が建物に近づくと、ガラスのファサードを通り大理石のロビーへと導かれます。ロビーに入ると台詞の壁に迎えられ、そこにはギリシャ悲喜劇の名文句がギリシャ語で書かれています。劇場ホールは地下階にあり、階段かエレベーターで向かいましょう。階段を下りる際、来場者は日本人芸術家山本品による作品を鑑賞し、楽しむことができます。これらの作品は、それぞれ、喜怒哀楽といったシェイクスピアの戯曲における基本感情を表しています。

劇場ホールは主にミュージカルや演劇を上演し、600 人の観客を収容できます。観客の 80%以上は女性です。この劇場の演劇作品やミュージカルのほとんどは女性プロデューサーにより手掛けられています。劇場は日比谷公園にほど近く、東京宝塚劇場の向かいにあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 東京ミッドタウン日比谷  
【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

Since the Meiji period, the Hibiya area has been at the forefront of modernization in Japan. In 1883, Rokumeikan, a Western-style building, was constructed there and was considered a popular gathering place for foreign traders and diplomats. During the Showa period (1929–1989), the Hibiya area became known as Tokyo's center of entertainment, where theaters and music halls were constructed. Hibiya Public Hall was completed in 1929 and was the first and only music hall in Tokyo at that time. In 1934, the famous Tokyo Takarazuka Theater and Hibiya Movie Theater were also constructed.

On March 29, 2018, Mitsui Fudosan Co., Ltd. built a new shopping and entertainment complex in the heart of Hibiya called Tokyo Midtown Hibiya. The architecture of Tokyo Midtown Hibiya was inspired by the Rokumeikan, a hall that symbolized the westernization in the Meiji period. The complex is about 190,000 square meters, consisting of 35 floors, four underground floors, offices, and over sixty stores and restaurants. Right outside the complex is a square called the Hibiya Step Square, where many events take place. One is the Hibiya Festival, which takes place every year during Golden Week and showcases a variety of performances.

Since Hibiya and its surrounding areas have many theaters, cinemas, and art galleries, the aim was not only to support the creation of new industries, but also to become a hub for art and culture. Toho Group united with theaters such as Tokyo Takarazuka Theater and Theater Creation to create a world-class movie and theater city, and built Toho Cinemas Hibiya within the complex. The new theater is the largest cinema in Tokyo featuring thirteen screens and seating approximately 2,800 people.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治時代より、日比谷エリアは日本の近代化を先導してきました。1883年、日本初の西洋風建物が日比谷に建築され、外国の貿易商や外交官たちに人気の会合場所となりました。昭和時代には、劇場やコンサートホールが日比谷に建てられ、日比谷はエンターテインメントの中心地として知られるようになりました。「日比谷公会堂」と呼ばれる初のコンサートホールは1929年に完成し、当時の東京では唯一のコンサートホールでした。

2018年3月29日、三井不動産はミッドタウン日比谷と呼ばれる、ショッピングとエンターテインメントの複合型商業施設を日比谷の中心部にオープンしました。明治時代の西洋化の象徴である鹿鳴館にインスパイアを受けています。総床面積は19万平米となり、地下4階地上35階建のビルにはオフィスや60を超える店やレストランが入っております。建物の外には日比谷ステップスクエアと呼ばれる広場があり、多くのイベントが催されます。その一つの日比谷フェスティバルは毎年ゴールデンウィークの時期に開催され、様々なパフォーマンスが披露されます。

日比谷やその周辺エリアには多くの劇場や映画館、アートギャラリーがあるため、新たな産業の創出を支援するだけでなく、芸術や文化の中心となることも、プロジェクトの目的でありました。東宝グループは、東京宝塚劇場やシアタークリエ等の劇場と力を合わせることで、世界に誇る映画と劇場の街を創り出しました。こうして、複合施設内にTOHOシネマズ日比谷が開館されました。13のスクリーンと約2800席の座席を誇る、東京最大級の映画館です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 東京アート&ライブシティ  
【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

The Hibiya, Ginza, and Tsukiji districts are regarded as the heart of Tokyo when it comes to shopping. But these districts have much more to offer because these areas are also known as theater districts. Here you will find Japan's leading theaters that offer a variety of productions, such as Noh, Kabuki, theater plays, musicals, operas, and the Takarazuka Revue. These productions have deep cultural roots, spanning from the Edo period to contemporary Tokyo. The history of entertainment is what makes these areas unique.

Some of the best concert halls are also located within these districts, featuring classical music, jazz, and other genres of live music. Movie theaters and other smaller venues are also found throughout, so you can enjoy various genres of quality performances. There are approximately two hundred galleries located in Ginza, specializing in Japanese painting, Western painting, contemporary art, and antiques. The galleries are close to each other, so this is a perfect opportunity to do some gallery tours, while strolling down the boulevard. The Shinkansen Tokyo terminal is located close to these districts so it is easy to get here from anywhere in Japan. If you are in Tokyo, come to these areas where you can combine live entertainment and art with shopping and food.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

東京は世界でも有数の大都市で、世界に通用する多くの博物館やギャラリー、コンサートホールや劇場があります。アートやカルチャーの心躍る中心地です。東京を構成する地区の幾つかの歴史ははるか江戸時代初期にまでさかのぼります。日比谷、銀座、築地地区と言えば、東京における買い物の中心地です。しかし、これらの地区はもっと多くのものを提供しています。というのも、劇場地区としても知られているのです。ここには日本でも指折りの劇場があり、能、歌舞伎、芝居、ミュージカル、オペラ、宝塚歌劇など、幅広い作品を上演しています。

最高のコンサートホールのうちの幾つかもまた、これらの地区にあり、それぞれがクラシック音楽のコンサートを催しています。また、ジャズやシャンソンのライブハウスもあります。映画館や他のより小さな会場も点在しているので、様々なジャンルの質の高い公演を楽しむことができます。さらに銀座には日本画、西洋絵画、現代美術、骨董品を専門とする250ほどのギャラリーがあります。ギャラリーは近接しているので、大通りの散策はギャラリーを巡る絶好の機会ともなります。新幹線の東京駅はこれらの地区に近いので、日本のどこからでもここへ行くのは簡単です。もしあなたが東京にいるのなら、これらのエリアに行ってみましょう。ライブエンターテイメントやアート鑑賞をショッピングやグルメと組み合わせることができます。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 国立映画アーカイブ  
 【整備予定媒体】 パンフレット、WEB  
<https://www.artandlive.net/en>

#### できあがった英語解説文

The National Film Archive of Japan (NFAJ) is Japan's only national institution specializing in collecting, saving, studying, and showing movies. It was first established in 1952 as the film library section of what is now the National Museum of Modern Art, Tokyo (MOMAT). In 2018, NFAJ gained independence from MOMAT and became its own organization. As of 2017, NFAJ holds about 80,000 films and numerous non-film materials such as posters, scripts, and film-related books in its collection.

Two theaters, located on the second floor and basement floor, seat 310 and 151 people respectively. The programs at NFAJ focus on specific topics such as certain film directors, countries, or genres. NFAJ also co-hosts the annual Pia Film Festival that is held in September.

The library can be found on the fourth floor and is accessible to the general public. On the seventh floor, visitors may find a permanent exhibition dedicated to more than one hundred years of Japanese film, with an eclectic collection of posters, photographs, cameras, rare surviving prints, and other film paraphernalia. Among the exhibition's film materials are those from some of Japan's oldest films, including *The Dull Sword*, an animated film released in 1917, and select scenes of *Momijigari*, a Japanese film shot in 1899 which has been designated by the government as an Important Cultural Property of Japan. Temporary exhibitions are also held on this floor two or three times a year.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

国立映画アーカイブ（NFAJ）は、映画を収集・保存・研究・公開する日本で唯一の国立の映画機関です。NFAJ は最初 1952 年に国立近代美術館（後の東京国立近代美術館）のフィルム・ライブラリーとして設立されました。2018 年に NFAJ は MOMAT から独立して、国立映画アーカイブという新組織になりました。2017 年現在、NFAJ は 8 万本ほどの映画や数多くのポスターや台本、映画に関する書籍を所蔵しています。

2 階と地階に 2 つの劇場があり、それぞれ 310 人分および 151 人分の座席があります。ここでは、O Z U と小ホールは監督・俳優・国・ジャンル・時代など様々なテーマに合わせた特集上映を行っています。NFAJ は毎年 9 月に開かれるぴあフィルムフェスティバルの共催もしています。

図書室は 4 階にあり、一般の人々が利用できます。7 階には 100 年以上におよぶ日本の映画の歴史を扱う常設展があります。ここにはポスター、写真、カメラ、貴重な残存プリントや、その他映画関連の資料が展示されています。その中には 1917 年のアニメーション映画『なまくら刀』があります。1899 年に撮影された日本映画『紅葉狩』といった日本

の最古の映画の一部もあり、それは日本の重要文化財に指定されています。この階では年に 2～3 回、企画展も催されます。

本事業以前の英語解説文

なし

**公益財団法人 菊葉文化協会**

【施設名】桃華楽堂

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Tokagakudo Concert Hall

Designed to evoke the shape of a clematis flower, this octagonal hall was built in 1966 to mark the sixtieth birthday of Empress Kojun (1903–2000), the consort of Emperor Showa (1901–1989). Its name, which means “Peach Blossom Hall,” refers to the peach emblem of Empress Kojun. Each wall is decorated with a mosaic representing a bird with outspread wings, each expressing a different theme, such as the four seasons. Western classical music concerts performed by the Court musicians of the Music Department of the Imperial Household are given here in the presence of Their Majesties the Emperor and Empress, and other members of the Imperial Family.

NUMBERED CAPTIONS

1. Wind, water, and fire
2. The four seasons
3. Crane and tortoise
4. Snow, moon, and flowers
5. Court music

OCTAGONAL DIAGRAM CAPTIONS

Left. The necessities of life

Center. Sun, moon, and stars

Right. Pine, bamboo, and plum

Inside: Tokagakudo

上記解説文の仮訳（日本語訳）

桃華楽堂

鉄仙の花を形どってデザインされたこの八面体のホールは、昭和天皇（1901～1989）へ嫁がれた香淳皇后（1903～2000）の60歳の誕生日を記念して1966年に建造されました。「桃の開花ホール」を意味するその名称は、香淳皇后の桃の紀章にちなんだものです。外壁の各面は、四季などの異なるテーマを表現して羽ばたく鳥を抽

象的に描いたモザイクで飾られています。宮内庁楽部の楽師による西洋式のクラシック音楽コンサートが、天皇皇后両陛下とその他の皇族の方々を前にここで開催されます。

#### 番号付き説明

1. 風水火
2. 春夏秋冬
3. 鶴亀
4. 雪月花
5. 楽の音

#### 八角形図面の説明

左. 衣食住

中央. 日月星

右. 松竹梅

内側. 桃華楽堂

#### 本事業以前の英語解説文

This octagonal hall was built in 1966 to celebrate the 60th birthday of the Empress Kojun, His Majesty the Emperor's mother. The roof is in the shape of a flower of clematis. The mosaic images on the shape of a flower of clematis. The mosaic images on the walls include birds, the sun, moon and stars, pine, bamboo and plum trees, and musical notes. Though the hall is not open to the public, it hosts concerts performed by the Music Department Orchestra, distinguished graduates of music universities and others in the presence of the Imperial Family.

【施設名】天守台

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Tenshudai, Base of Edo Castle Keep

This was the site of the keep of Edo Castle. The keep tower was the tallest ever built in Japan. After the 1657 Great Fire of Meireki destroyed the third tower to stand on this site, the fourth shogun Tokugawa Ietsuna (1641–1680) immediately began work on a replacement, completing this foundation by 1658. Construction of the keep itself was abandoned when Ietsuna's uncle pointed out that a stable and peaceful Japan no longer needed such an enormous, awe-inspiring structure. The foundation for the unbuilt tower consists of two rectangles. The larger one—measuring 46 metres north to south, 42 metres east to west, and 10 metres tall—was for the tower itself, while the smaller one was for the entrance slope.

#### PHOTO CAPTION

1. Detail of View of Edo, Pair of Six-Panel Folding Screens (National Museum of Japanese History)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

天守台、江戸城本丸の基部

ここは江戸城本丸の跡地で、その天守閣は当時の日本で最も高い建物でした。1657年に起こった明暦の大火によりこの地に建てられた3つ目の天守閣が消失した後、第4代将軍徳川家綱（1641～1680）は直ちにその再建を開始し、1658年までに基礎部分を完成させました。しかし、安定し平和になった日本ではそのように巨大で圧倒的な建物は必要なくなる、と家綱の叔父が指摘したことを受け、天守閣の建造は中断されました。未完成となった塔の土台部分は、2つの長方形で構成されています。南北に46メートル、東西に42メートル、高さ10メートルの大きな方が天守閣の基礎として、そして小さな方が入場スロープとして作られました。

#### 写真の説明

1. 江戸景色の詳細、1組の6枚屏風（国立歴史民俗博物館）

### 本事業以前の英語解説文

The stone walls constructed in 1659 as the base of a main tower. The plan to build the tower on the walls was abandoned soon after. After Tokugawa Ieyasu entered Edo Castle in 1590, its main tower was built three times. The third and the last one built in 1638 was 58 meters high from the ground, the highest and largest castle main tower ever built in Japan. It burnt down in the great fire in 1657. The rebuilding project was stopped on the completion of this base as an influential uncle of Tokugawa Shogun advised him that, given the stability of the Shogunate. A new main tower was no longer necessary to Edo Castle.

# 469

No. 3 Stone Cellar (Ishimuro)

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】石室  
【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

Ishimuro, Stone Cellar

The exact purpose of this 20-square-metre stone cellar is not known. It is thought to have been a secret escape route for when the castle came under attack, or perhaps was used to protect valuable articles and documents from frequent fires. Located close to the site of the women's living quarters in the Edo Castle palace complex, it is possible that the shogun's consort and concubines used this cellar during fires.

## PHOTO CAPTION

1. Interior of the stone cellar

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

石室、石造りの地下室

20 平方メートルあるこの石室の確かな目的は解明されていません。城が攻撃された際の秘密の逃げ道として、あるいは恐らく、頻発する火災から貴重な品や書類を守るために使用されたものと考えられています。江戸城御殿内でも女性たちの居住区域近くに設置されていることから、将軍の正室と側室たちが火事の際にこの地下室を使用したのかもしれない。

## 写真の説明

1. 石室の内部

## 本事業以前の英語解説文

A stone cellar, probably built as a shelter for important articles in case of fire. The cellar was close to the O-oku, the palace's living quarter for the Tokugawa Shogun's consort and other women. The Tokugawa Shogunate's era, which lasted for 265 years starting in 1603, saw the repetitions of fires and rebuildings of the palace complex on the Honmaru (the main compound) of Edo Castle.



【施設名】富士見多聞

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Fujimi Tamon Defense House

A *tamon* generally refers to a single-storey gallery-like building that was built on the ramparts of a castle compound. It would be used for firing on attackers in wartime, and for the storing of weapons in peacetime. Believed to date from 1659, this *tamon* is the only one of the *tamon* in this area of the castle that survives. The Fujimi Tamon was so named because you could once see Mount Fuji from here. It was also called the “Gokyusoku Tamon,” because of its proximity to the shogun's daytime quarters (Gokyusoku), and might have served a special purpose.

#### PHOTO CAPTIONS

1. Fujimi Tamon from the Hasuike Moat
2. Floorplan based on drawings of Edo Castle in mid-seventeenth century (The Imperial Household Archives)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

富士見多聞衛兵詰所

多聞とは一般的に、城壁上に作られた1階建の長屋のような建物を指します。戦時には襲撃者に発砲するために、そして平時には武器を保管するために使われました。1659年に建てられたとされるこの多聞は、城のこの区域に現存する唯一の多聞です。富士見多聞の名は、かつてここから富士山を望むことができたために名付けられました。また、将軍が日中に生活した区域（御休息）近くにあるため「御休息多聞」とも呼ばれており、特別な用途があったのかもしれませんが。

#### 写真の説明

1. 蓮池の堀から見える富士見多聞
2. 17世紀中頃の江戸城設計図に基づいた間取り図（宮内公文書館）

本事業以前の英語解説文

The Fujimi-tamon Defence House, possibly built in the mid-17th century, is the sole surviving example of the defence houses which, in the period of the Tokugawa Shogunate, together with towers and walls, circled the Honmaru (the main compound) of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle.

# 471

No. 5 Obansho Guardhouse

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】大番所  
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Obansho Guardhouse

Obansho were guardhouses built at the strategically important gates of Edo Castle. This particular Obansho, one of three remaining at Edo Castle, is located near the back of the Naka no Mon, and was the final checkpoint for people going into the *honmaru* main compound of Edo Castle. Because of its important location, it was garrisoned by samurai of relatively high rank. It was converted into a workshop in the late nineteenth century after the fall of the shogunate, but returned to its original appearance in 1968 when the East Gardens were opened to the public.

PHOTO CAPTION

Naka no Mon Gate in the early Meiji period (1868–1912). The Obansho was located behind the gate.

From *Secret Photograph Collection at the Rokumeikan* (Kasumi Kaikan Foundation)

上記解説文の仮訳（日本語訳）

大番所（衛兵詰所）

大番所は、江戸城の戦略的に重要な門に設置された警備のための詰所でした。江戸城に残っている3つの中でも特にこの大番所は中の門の内側近くに設けられており、江戸城本丸を訪れる人々の最終検問所として機能していました。その重要な位置ゆえに、この守備についていたのは比較的高位の侍でした。19世紀後期、幕府時代終焉の後にはここは作業場に用途が変えられました。しかし1968年に東御苑が一般公開されると、元の外観へと復元されました。

写真の説明

明治初期の中の門（1868～1912）。大番所は門の内側に設置されていました。

「鹿鳴館秘蔵写真帖」より（霞会館資料展示委員会）

#### 本事業以前の英語解説文

The O-bansho Guardhouse is one of the three remaining guardhouses of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle. It was located at the final checkpoint before entering the Honmaru(the main compound) of the castle. Members of relatively high ranking bushi class served here. Though the house was altered to a workshop in the latter half of the 19th century, the original shape was recovered in 1968. The photograph shows the heavily fortified gate in front of the O-bansho Guardhouse.

【施設名】松の大廊下跡

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Site of the *Matsu no Oroka* Corridor

The Honmaru Goten palace complex once covered much of the *honmaru* main compound of Edo Castle. This was the site of a corridor known as the *Matsu no Oroka*, the “Great Pine Corridor,” after the pine trees painted on its sliding doors. The corridor was approximately 55 metres in length and 4 metres wide, and linked the large Formal Reception Room to the *Shiro-shoin*, the shogun’s reception room. This was the stage for the *Ako Jiken*, a famous incident that is the basis for the *Chushingura*, a subject perennially popular in Japanese theatre, puppetry, fiction, and film. In 1701, Asano (1667–1701), a feudal lord of Ako, attacked and wounded Kira (1641–1702), one of the masters of ceremonies, in this corridor. For this crime, Asano was ordered to commit suicide. One year later, forty-seven of his retainers—now *ronin*, masterless samurai—killed Kira in revenge. The shogunate was of two minds as to whether the *ronin* should be punished for murder or admired for their loyalty. By way of compromise, the masterless samurai were ordered to commit ritual suicide, an honourable death, rather than be executed.

#### PHOTO CAPTIONS

Detail from *Matsu no Oroka Sliding Door Picture* (Tokyo National Museum)

Detail from woodblock print of Kabuki play *Kanadehon Chushingura* (National Theatre of Japan)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 松之大廊下跡

本丸御殿は、かつて江戸城本丸の大部分を占めていました。ここでは、襖戸に松並木が描かれていたことから「大松の廊下」、松之大廊下として知られている廊下の跡です。この廊下はおおよそ長さが55メートル、幅4メートルで、將軍との対面所である白書院へとつながっていました。日本の歌舞伎、人形浄瑠璃、小説や映画で長年にわたって人気の高い主題である、忠臣蔵の元になった有名な赤穂事件の起きた場所です。1701年、赤穂藩主だった浅野（1667～1701）はこの廊下で高家の吉良（1641～1702）を斬りつけ怪我を負わせました。この罪により、浅野は自決を命じられます。そして1年後、主人を亡くし浪人となった彼の元家臣47人は、復讐として吉良を討ちました。浪人たちを殺人の罪に問うか、その忠誠を称賛するかで幕府の意見は分かれました。妥協案として、主人を亡くした侍たちには斬首刑の代わりに名誉の死である切腹が命じられました。

#### 写真の説明

「松之大廊下襖戸絵図」からの詳細（東京国立博物館）

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の木版画詳細（国立劇場）

#### 本事業以前の英語解説文

Here is the site of the Matsu-no-o-roka, one of the longest and widest corridors of the Tokugawa Shogun's Edo Castle palace, where in 1701 a daimyo (feudal lord) called Asano Takumi-no-kami abruptly attacked Kira Kozuke-no-suke, a high ranking expert in ceremonies in the Tokugawa Shogunate. While Kira escaped with slight injuries, Asano was ordered by the Shogunate to commit honourable suicide on the same day. The incident became the prologue to the story of the 47 ronins (former subjects of Asano), who, in the following year, would accomplish their master's wish to kill Kira. A famous story which has been recreated in various forms, such as Bunraku (puppetry), kabuki, novels and TV dramas, for centuries.

# 473

No. 7 Fujimi Yagura Turret

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】富士見櫓  
【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

Fujimi Yagura Turret

*Yagura* turrets were built at strategic corners of the castle for the wide firing arcs they provided. *Yagura* served as defensive turrets in wartime and as weapon stores in peacetime. Edo Castle once had many *yagura* towers. The Fujimi Yagura is located on the southern corner of the *honmaru* main compound of Edo Castle, and probably dates from 1659, after the 1657 Great Fire of Meireki destroyed much of Edo, including the castle. Towering 16 metres above a 15-metre-high rampart, it became the symbol of Edo Castle after the loss of the main keep tower. The name “Fujimi” derives from the view of Mount Fuji, 100 kilometres away, which was once enjoyed from this *yagura*.

## PHOTO CAPTIONS

Rear view of the turret

View from the turret

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

富士見櫓

櫓は、幅広い角度を防護できる特質のため、城内でも戦略的に重要な場所へ作られました。戦時には守護の砲塔として、平時には武器の保管場所として役立てられました。江戸城には、かつて数多くの櫓が設置されていました。富士見櫓は江戸城本丸の南端に位置しており、建造されたのは1659年頃です。1657年に明暦の大火が、江戸城含め江戸のほとんどを焼き尽くした後でした。15メートルの城壁の上で16メートルの高さを持つ櫓は、天守閣が消失した後に江戸城の象徴となりました。「富士見」の名はかつてこの櫓から望むことのできた、100キロメートル先の富士山に由来しています。

## 写真の説明

砲塔の背面

砲塔からの景色

### 本事業以前の英語解説文

Yagura was a defence tower, usually placed on corners or on some important points of the castle. Of the many yaguras once built in the Tokugawa Shogunate's Edo Castle, The Fushii-yagura, Tatsumi-yagura and Fujimi-yagura are the only three surviving ones. A former Fujimi-yagura, possibly built in the early 17th century, was burnt down in a major fire in 1657.

The current one was built in 1659 and served as substitute for the main tower of the castle, which burnt to the ground in the same fire and was never rebuilt. Some Tokugawa Shoguns saw Mt Fuji, fireworks launched at Ryogoku, a riverside of the Sumida-gawa River, and the sea in the south direction.



【施設名】平川門  
【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Hirakawamon Gate

The Hirakawamon Gate was used by ladies' maid servants and castle officials. It is composed of a small gate with a further, larger gate at right angles, creating an enclosed space. This is a common castle gate defensive feature that forces intruders to turn at right angles once inside, slowing them down, and allows the castle defenders to shoot down on the invaders from all sides. To the side of the Hirakawamon Gate there is an unusual third gate—the Obikuruwamon Gate. It is connected to a long, narrow rampart that cuts across the moat, which is thought to have greatly strengthened the castle defenses.

#### PHOTO CAPTIONS

Hirakawabori Moat

Site of the Takebashimon Gate

Obikuruwa

Otebori Moat

Hirakawamon Gate

Tenjinbori Moat

Photograph courtesy of Asia Air Survey Co., Ltd.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

平川門

平川門は大奥女中と城勤の役人によって使われていました。大小の門で構成されており、小さな門の先の直角位置に大きな門が配置され、その間には閉じた空間が形成されています。これは侵入者が門へ入ってから直角に進路を変えることでその動きを鈍くさせる、という城門の一般的な守備機構です。それにより、城の警備隊は全角度から侵入者を攻撃することが可能になります。平川門の横には独特の3番目の門、帯曲輪門があります。これは、城の守りを大幅に強化したと考えられている堀を横断する長く狭い城壁へとつながっています。

写真の説明

平川濠

竹橋門跡

帯曲輪

大手濠

平川門

天神濠

アジア航測株式会社による写真提供

本事業以前の英語解説文

The Tokugawa Shogunate, Edo Castle's service entrance used by women working in the palace in the main compound. Convicts and deceased persons would be carried out from this gate.

Similar to the Ote-mon Gate, the main gate to the castle, a smaller gate and a larger gate form a right angle the structure which was to slow the advance of intruders. An additional feature of the Hirakawa-mon Gate is another smaller gate on the west side of the larger gate which leads to a narrow long bulwark in the moat outside.

# 475

No. 9 Plum Tree Slope (Bairinzaka)

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】梅林坂

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Plum Tree Slope (Bairinzaka)

The plum trees on this slope that leads from the *ninomaru* second compound of Edo Castle to the *honmaru* main compound were planted before the East Gardens opened to the public in 1968. It is thought that plum trees had been planted here by Ota Dokan (1432–1486), the fifteenth-century warlord who built the first castle on this site. Dokan's castle included a Tenjin shrine. Tenjin shrines enshrine Sugawara no Michizane (845–903), a famous poet-scholar and politician who loved plum blossoms, and traditionally have plum trees in their grounds.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

梅林坂

江戸城二の丸から本丸まで続くこの坂の梅の木は、1968年に東御苑が一般公開される前に植えられました。梅の木は、この地に最初の城を創建した15世紀の武将である太田道灌（1432～1486）によって植えられたと考えられています。道灌の城には、天神社が含まれていました。天神社は有名な詩人であり学者、政治家、そして梅の木を愛した菅原道真（845～903）を祭り、代々その地に梅の木を植栽してきました。

本事業以前の英語解説文

One of the approaches from the Ninomaru (the second compound) to the Honmaru (the main compound) of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle. White and pink plum blossoms covered both sides of the slope in early spring. It is said that, originally, Ota Dokan, a 15th century feudal lord and the founder of Edo Castle, planted plum trees here.

# 476

No. 10 Ninomaru Grove 1

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】二の丸雑木林

【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

Ninomaru Woods

This grove of trees recreates in microcosm the landscape of Musashino, a rural area to the west of Tokyo that was being steadily absorbed into the suburbs when this grove was planted starting in 1983. The beauty of the Musashino Woods was itself a collaboration between people and nature. Traditionally, the inhabitants of Musashino collected brush and fallen leaves from the local woods to use as fertiliser and would fell trees for firewood on a twenty-year cycle. This grove contains such deciduous trees as konara and sawtooth oaks, as well as spring ephemerals like fairy bells that flower before the trees above them burst into leaf.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

二の丸雑木林

この林は、東京西部の田舎地域、武蔵野の景色の縮図を再現しています。1983年にこの林の植林が始まった時、武蔵野は周辺地域へと徐々に吸収されていました。武蔵野林の美しさとは、人と自然とが協調して生まれたものです。伝統的に、武蔵野の住民は地元林から落ちた枝葉を集めて肥料として利用し、20年周期で薪を得るために伐採していました。この林には、コナラやクヌギのような落葉樹、そして木々が落葉する前にその足元で花を咲かせるチゴユリのような春植物が育まれています。

## 本事業以前の英語解説文

The woods once commonplace in Musashino uplands extending from the western part of Tokyo towards northwest and west, had been formed relying on the traditional lifestyle of inhabitants nearby, collecting undergrowth and fallen leaves as fertilisers and felling trees for fuelwood every 20 years. Here in the Ninomaru Grove deciduous trees are maintained which allow undergrowth plants to expand their leaves and bloom in spring before the area is covered by tree leaves.

【施設名】二の丸雑木林

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Ninomaru Woods

This wood was created by Emperor Showa (1901–1989) between 1983 and 1985 in response to the destruction of the woodlands in Musashino in western Tokyo. Soil from areas on the city outskirts that were in line for development was brought here, and the seeds, roots, and insect eggs contained in the soil naturally reproduced the Musashino ecosystem. The grove is carefully maintained with trees being pruned or felled, and undergrowth trimmed to promote the growth of wild grasses.

#### PHOTO CAPTIONS

1. Varied tit (Ninomaru Woods)
2. Red dragonfly (Ninomaru Woods)
3. Mallard duck (Tenjinbori Moat)
4. Common bluebottle (Wild Grass Island)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

二の丸雑木林

この林は、東京西部の武蔵野森林地帯の破壊を憂いた昭和天皇（1901～1989）によって、1983年から1985年の間に造成されました。開発の進んでいた市街地郊外の土がここへ運ばれ、その土の中にあった種、根、昆虫の卵が、武蔵野のエコシステムの中で自然に生殖しました。木々の剪定や伐採、そして野草の成長を促すための下生えの手入れといった作業によって、この林は注意深く維持管理されています。

#### 写真の説明

1. ヤマガラ（二の丸雑木林）
2. 赤トンボ（二の丸雑木林）
3. マガモ（天神濠）
4. アオスジアゲハ（野草島）

#### 本事業以前の英語解説文

This grove was created in 1983-5 at the suggestion of the Emperor Showa, the father of His Majesty the Emperor, Musashino woods, once typical features of the western part of Tokyo but almost disappearing from the area, have been reproduced here. The soil transferred from original Musashino woods contained seeds, roots insects and living things in the soil which helped to revive the ecology of the woods in the Gardens.

【施設名】汐見坂  
 【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Shiomizaka Slope

This slope was built to connect the *ninomaru* second and *honmaru* main compounds of Edo Castle. It led up to the Shiomizakamon Gate. Shiomizaka means “Slope Overlooking the Sea”, since when the castle was built it fronted onto the sea. Now, the area from the front of the palace past Tokyo Station and out to Tokyo Bay is all reclaimed land. Beyond the area where Tokyo Station and Yurakucho Station now stand was a low peninsula called Mae-Jima.

#### PHOTO CAPTIONS

1. Shiomizaka Slope in the early Meiji period (1868–1912; Kasumi Kaikan Foundation)
2. Shiomizaka Slope today

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

潮見坂

これは江戸城の二の丸と本丸をつなげるために作られた坂で、潮見坂門まで続いています。潮見坂とは、「海を見渡す坂」を意味します。城の建造時、この坂からは海が見えたことに由来しています。現在、皇居の前から東京駅を超え、東京湾までの区域は全て埋立地です。東京駅と有楽町駅が今ある場所の向こうには、前島と呼ばれた低い半島がありました。

#### 写真の説明

1. 明治初期の潮見坂（1868～1912；霞会館資料展示委員会）
2. 現在の潮見坂

#### 本事業以前の英語解説文

One of the approaches from Ninomaru (the second compound) to Honmaru (the main compound) of the Tokugawa Shogunate’s Edo Castle. At the top of the slope stood the Shiomi-zaka-mon Gate.

In the old days the slope had commanded a fine view of an inlet nearby, which was reclaimed later.

# 479

No. 13 Ninomaru Garden

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】二の丸庭園

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Ninomaru Garden

The Ninomaru Garden is part of the *ninomaru* second compound of Edo Castle. This area was once the location of the palace for the shogun's heir. The current garden was created in 1964, modeled after a garden from the mid-eighteenth century. It is a *chisen kaiyu* garden, a stroll garden centered around a pond.

PHOTO CAPTIONS

1. Early to mid-June
2. Mid-April to early May
3. Late November to early December

上記解説文の仮訳（日本語訳）

二の丸庭園

二の丸庭園は、江戸城二の丸の一部を構成しています。この区域にはかつて、将軍の後継のための御殿がありました。現在の庭園は、18世紀中頃の庭園を基に1964年に造園されたものです。池泉回遊式をとっており、池を中心として回遊できる設計の庭園です。

写真の説明

1. 6月上旬から中旬
2. 4月中旬から5月上旬
3. 11月下旬から12月上旬

本事業以前の英語解説文



This area was Ninomaru (the second compound) of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle. Though palaces were built and gardens were created here, repeated fires destroyed the area before the closing of the Shogunate period. This Garden was created in 1964 modelling a garden which existed here in the mid-18th century.

# 480

No. 14 Suwa no Chaya Teahouse

<皇居（東御苑）、東京>

【施設名】諏訪の茶屋  
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文  
Suwa no Chaya Teahouse

This teahouse was built by order of Emperor Meiji (1852–1912) in 1912, in the Fukiage Gardens in the western part of the Imperial Palace grounds. The teahouse was moved here to the Ninomaru Garden in 1968 to add a note of elegance to the East Gardens when they were opened to the public. The name Suwa Teahouse refers to the Shinto deity Suwa, to whom there was a small shrine near the teahouse's original location.

## PHOTO CAPTIONS

1. Early to mid-June
2. Mid-April to early May
3. Late November to early December

上記解説文の仮訳（日本語訳）  
諏訪の茶屋

この茶室は1912年、明治天皇（1852～1912）の命を受けて皇居敷地内西側の吹上御苑に創建されました。そして東御苑が一般公開された時に庭園に優雅さを添える目的で、1968年に二の丸庭園へと移設されました。諏訪の茶屋という名は、神道の神である諏訪大明神に因んでいます。茶屋が最初に建造された場所の近くには、その小さな神社がありました。

## 写真の説明

1. 6月上旬から中旬
2. 4月中旬から5月上旬
3. 11月下旬から12月上旬

本事業以前の英語解説文

This building was built in 1912 upon the order of the Emperor Meiji, the great-grand father of His Majesty the Emperor. Originally it stood in the Fukiage Gardens, the western part of the Imperial Palace. It was transferred in 1968 to the current place to add elegance to Ninomaru Garden.

【施設名】同心番所  
【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

Doshin Bansho Guardhouse

This guardhouse is one of three that survives from the Tokugawa Shogunate (1603–1867). It was manned by low-ranking samurai known as *doshin*, or constables, hence its name. Their job was to check visitors to the castle, and to keep watch over the retinues of the feudal lords as they waited for their masters to return from inside the *honmaru* complex. There are three different types of crests to be seen on the roof tiles. The triple hollyhock design is the family crest of the Tokugawa. In addition, there are Imperial chrysanthemum crests and the whorl of three commas of the *mitsudomoe*. The *mitsudomoe* crest dates back to the end of the Heian Period (794–1185), and was also used to ward off fires, since it represents water.

#### PHOTO CAPTIONS

1. A *daimyo* feudal lord entering the castle. The building at the foot of the bridge is the Doshin Bansho Guardhouse. Detail from *Tokugawa Seiseiroku* (National Diet Library, Japan)

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

同心番所（衛兵詰所）

この警護の詰所は、徳川将軍時代（1603～1867）から残存する3つの詰所のうちの一つです。同心として知られる、巡査に相当する下級武士によって警備されていたためこの名がつけました。同心の職務は城を訪れる人々の検問と、主人の本丸からの戻りを待つ大名たちの従者らを見張ることでした。屋根瓦には、3つの異なる紋を観ることができます。葵の御紋は、徳川家の家紋です。その他には天皇家の菊の御紋と、3つのコマが渦を巻く三つ巴の御紋があります。三つ巴の御紋の成り立ちは平安時代の終わりにまで遡り、またそれが水を象徴することから火災除けにも使われました。

#### 写真の説明

1. 入場する大名。橋の足元にある建物が同心番所です。  
「徳川盛世録」からの詳細（国立国会図書館）

### 本事業以前の英語解説文

Doshin-bansho Guardhouse is one of the three remaining guardhouses of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle. When daimyos (feudal lords) attended ceremonies in the Honmaru (the main compound), their retinues were not allowed in and had to wait around here for their masters to return from the ceremony.

In this guardhouse members of doshin, a relatively low ranking warrior class of the Shogunate, kept watch on the retinues.

【施設名】百人番所  
 【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

Hyakunin Bansho Guardhouse

This is the largest of three guardhouses that have survived from the Edo period (1603–1867). Located between the San no Mon and Naka no Mon gates, this guardhouse controlled access to the *honmaru* main compound of Edo Castle. The name means “100-Man Guardhouse.” The 45-metre-long building was manned day and night by four shifts of samurai, each consisting of one hundred low-ranking *doshin* samurai and twenty higher-ranking *yoriki* samurai.

PHOTO CAPTION

1. Hyakunin Bansho with the wooden doors open

上記解説文の仮訳（日本語訳）

百人番所（衛兵詰所）

これは江戸時代（1603～1867）から残るものの中で、最も大きな警護の詰所です。三の門と中の門の間に位置するこの番所は、江戸城本丸への行き来を管理していました。その名称は、「100人の衛兵が守る詰所」を意味します。45メートル長さの建物は、昼夜4交代で侍により守られました。各時間帯には、下級武士である同心100人と上級武士である与力20人ずつが配置されていました。

写真の説明

1. 木戸の開いた百人番所

本事業以前の英語解説文

The guardhouse positioned in the most critical point to guard the entrance to the Honmaru (the main compound) of the Tokugawa Shogunate’s Edo Castle. Hyaku-nin means 100 persons. 4 teams, each consisting of 120 guards, stationed the house in shifts day and night.

The Hyaku-nin-bansho is one of the three remaining guardhouse of the Castle.

【施設名】大手門  
【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

Otemon Gate

During the Tokugawa Shogunate (1603–1867), the Otemon Gate served as the main gate of Edo Castle, and it was used by the shogun and feudal lords. It consists of two gates, one small and one large, set at right angles. This was a device to slow down the momentum of attackers, and to trap the enemy in an enclosed space where they could be fired on from the larger gate's upper story. The larger gate was rebuilt in 1967 after being destroyed in an air raid during World War II. The decorative mythical sea creature beside this panel is from the roof of the original gate, where it acted as a talisman against fire. The date 1657 is inscribed on its head.

## PHOTO CAPTIONS

Otemon in the early Meiji period (1868–1912)

From *Secret Photograph Collection at the Rokumeikan* (Kasumi Kaikan Foundation)

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

大手門

徳川将軍時代（1603～1867）、大手門は江戸城の正門となり将軍と大名たちによって使われました。直角に配置された大小2つの門で構成されています。これは襲撃者の足を遅らせ、閉じた空間内に敵を捕らえて大門の上階から攻撃するための仕掛けでした。大門は第二次世界大戦中の空襲で破壊された後、1967年に再建されました。扉近くに設置された装飾的な海の怪物（シャチホコ）は最初の門の屋根からのもので、火除けの護りとして設置されていました。その頭部には1657という日付が刻印されています。

## 写真の説明

明治時代（1868～1912）初期の大手門

「鹿鳴館秘蔵写真帖」より（霞会館資料展示委員会）

### 本事業以前の英語解説文

The Ote-mon Gate was the main gate of the Tokugawa Shogunate's Edo Castle. Daimyos (feudal lords) used to come to attend ceremonies held inside the castle through this gate. A smaller gate and a larger gate form a right angle, the structure which was to slow the advance of intruders.

Trapped between the two gates intruders would come under attack from firing points of the larger gate. The larger gate was destroyed in an air raid in April 1945 during the Second World War and was rebuilt in 1967.

The decorative aquatic animal in the square was once on placed the roof of the lost larger gate. The inscription on the head of the sculpture reads the year 1657.

**環境省新宿御苑管理事務所**



# 484, 492, 493

No.1, 9, and 10 Kyu-Goryo-Tei (Taiwan Pavilion)

<新宿御苑、東京>

【施設名】 新宿御苑旧御涼亭  
【整備予定媒体】 看板、デジタルサイネージ

## できあがった英語解説文

### A Building with International Charm

Kyu-Goryo-Tei is also known as the Taiwan Pavilion. The building was a gift from Japanese people in Taiwan, a region that was then a part of the Japanese empire. The building was given to commemorate the 1924 wedding of Crown Prince Hirohito (1901–1989), who became emperor in 1926. Construction began in 1927.

The Relaxation Room of the Taiwan Pavilion is a large, open space with a panoramic view of the Japanese Garden beyond. Newspapers of the time referred to it as “A relaxing place above a tranquil pond... An ideal location to enjoy the cool breezes of a summer stroll.”

This building is a rare example of authentic Chinese-style architecture in Japan, and it is highly prized for the color and shape of the roof, the style of the windows, the interior design, and other features. The architectural style is called *Binnan*, from China’s southern Fujian Province, and was popular in Taiwan from the early nineteenth century.

The inversion of the eaves and the stucco swallowtail structure, the color of the roof tiles, the shape of the supports for the pillars, and the decorative stones of the porte-cochère, as well as the ornamental interior design, are all typical features of the *Binnan* style. Many of the construction materials were brought from Taiwan. Taiwan cedars were used for the pillars, and Taiwan cypress was used in the ceiling panels.

The building was opened to the public in the 1940s.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

旧御涼亭は台湾閣としても知られており、当時は旧日本帝国の一部であった台湾在住の邦人から寄贈された建物です。1926年に天皇となられた裕仁皇太子（1901～1989）の1924年の御成婚を記念して献上されたもので、建築は1927年に開始されました。

台湾閣の御休息所は日本庭園を一望できる広く開放的な空間で、当時の新聞では「水の上に建つ御休息所…夏の御散策の際に涼をとる建物」と言及されています。

この建物は中国の本格的な建築様式が用いられている、日本では数少ない建造物の一つです。屋根の色や形、窓の様式、室内装飾、その他多くの特徴が高く評価されています。建築様式は「ピンナン式」と呼ばれる、中国南部の福建省のものであり、台湾では19世紀初頭から人気となりました。

振り返った軒、化粧漆喰のツバメの尾のような構造、屋根瓦の色、柱を支える梁の形、車寄せの装飾石、そして室内装飾、以上のすべてが「ピンナン式」における典型的な特色です。建設資材の多くは台湾から持ち込まれました。柱には台湾杉が使われており、天井板には台湾檜が使われています。

この建物は1940年代に一般公開されました。

#### 本事業以前の英語解説文

Shinjuku Gyoen Goryō-tei

This building was presented by voluntary Japanese Taiwan in commemoration of the Imperial wending ceremony of the Crown Prince (late the Emperor Shōwa) early in the Shōwa era. It displays the architectural style (the Minnan style architecture of the southern China) which had prevailed in Taiwan since the middle period of the Ch'ing dynasty, showing a swastika pattern in the plan of the former retiring room.

In Japan, this is one of the genuine Chinese style buildings, including Okura-syūkōkan (built in 1927; located at Toranomon, Minato-ku, Tokyo), which is characterized by its colour and shape of the roof, its window fashion, its interior design and so on.

When the repairs were done for its preservation in the Heisei era, the housetop was restored to the original state and a reinforcement work was entirely made to obtain proof against earthquake. The repairs of the damaged and deteriorated parts were also done at the same time.

Foundation: The 2<sup>nd</sup> year of Shōwa (1927)

Reroofing and other repairs: The 14<sup>th</sup> year of Shōwa (1939)

Reroofing and other repairs: The 58<sup>th</sup> year of Shōwa (1983)

Repairs for preservation: The 13<sup>th</sup> year of Heisei (2001)

Designer: Matsunosuke Moriyama

Builder: Toyokichi Yokomizo

Building construction:

Wooden one-story building on the foundation of reinforced concrete. Roofed with tiles in the Hon-kawara roofing style.

Measurement:

Building site 165.26m<sup>2</sup>

Frontage 20.453m

Depth 15.908m

Height of ridge 7.943m

Height of eaves 4.040m

# 485

No.2 Tamamo Pond

<新宿御苑、東京>

【施設名】 大木戸休憩所

【整備予定媒体】 看板、デジタルサイネージ

## できあがった英語解説文

Tamamo Pond is a small, often overlooked jewel within Shinjuku Gyoen. This area is a part of a much larger Japanese garden originally owned by Naito Kiyonari (1555–1608), an important vassal of the shogun. The garden is a microcosm of all the most typical features of a Japanese garden. The Okido Rest House offers a wonderful view over the gardens, and walking around the garden reveals new vistas to be enjoyed. The pond is surrounded by deep forest, which includes a very rare *sakura* cherry tree. The pond was originally created in the 1700s and used surplus water from the Tamagawa Aquaduct. Looking at the lake with its tiny island today, this historic garden reminds us of the love of nature and the peacefulness that was prized so highly centuries ago.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

玉藻池を中心とする日本庭園は規模が小さく、新宿御苑の中ではよく見過ごされてしまう場所ですが、実際のところは、まるで宝石のようにとっても貴重な庭園です。このエリアはもともと、将軍の重要な家臣であった内藤清成（1555～1608）という大名の庭園の一部であり、典型的な日本庭園の特徴が凝縮された場所です。大木戸休憩所からは庭園のすばらしい眺めを一望でき、庭園を散策すれば、新たな視点から景色を楽しむことができます。玉藻池は深い森に囲まれており、その中にはたいへん珍しい桜の木も含まれています。この池はもともと1700年代に作られたもので、玉川上水（上水道）の余水を利用していました。今日、この歴史的な庭園で玉藻池やそこに浮かぶ小島を眺めると、自然を愛でる心や平穏さをはるか何世紀も前からきわめて重要視されていたことに気づかされます。

## 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 御苑全体  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

## Origins of Shinjuku Gyoen

The land on which Shinjuku Gyoen now stands is one part of a huge estate given to Naito Kiyonari (1555–1608) by Tokugawa Ieyasu (1543–1616) in 1590. Naito Kiyonari was one of the most loyal vassals of Tokugawa Ieyasu, the great feudal lord who at the time ruled this area of eastern Japan from Edo Castle (now the Imperial Palace). In 1590 Japan was close to the end of a period of near constant civil war that had begun in 1467. This area to the west of Edo castle had enormous strategic importance because it is located close to the crossroads of the key highways leading to Kyoto and Osaka, and also to Kamakura in the south, which had been the political capital of Japan from 1185 to 1333. Since guarding the highroads was so important, a huge estate here was given to Naito Kiyonari as his Edo residence. After the great battle of Sekigahara in 1600, Tokugawa Ieyasu reunified Japan and established the Edo shogunate, which ruled Japan from 1603 to 1867.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

現在新宿御苑を構成している土地は、1590年に徳川家康（1543～1616）から内藤清成（1555～1608）に授けられた広大な屋敷の一部だったものです。内藤清成は、当時江戸城（現在の皇居）から東日本の当地域を治めていた大名、徳川家康の最も忠実な家臣の一人でした。1590年当時、日本は1467年から始まった戦国時代の終わりに近づいており、江戸城の東に位置するこの地域は、西は京都や大阪、南は1185年から1333年まで政治的首都であった鎌倉へと至る主要な街道が交差する要所にほど近いことから、非常に高い戦略的重要性を有していました。この街道を守ることはたいへん重要であったため、徳川家康はこの土地に広大な屋敷を置き、江戸での居所として内藤清成に授けたのです。1600年の関ヶ原の戦いの後、徳川家康は日本を再統一し、1603年から1867年まで日本を治めた江戸幕府の創設者となりました。

## 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 御苑全体  
 【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Shinjuku Gyoen covers about 145 acres (a little under 60 hectares), on a roughly east-to-west axis. Three gates (Shinjuku, Okido, and Sendagaya) allow entry into the park, which contains four major gardens. From east to west these are the Formal Garden, the Landscape Garden, the Japanese Traditional Garden, and the Mother and Child Woods. The Chinese-style Taiwan Pavilion provides a magnificent view of the Japanese Traditional Garden, which has two Japanese tea houses. There are several ponds in the park, and areas devoted to Himalayan cedars, roses, cherry trees that bloom in the spring, and beautifully colored leaves in the autumn. The greenhouse at the north side of the garden houses a wide collection of rare and endangered species of plants from around the Japanese islands, tropical plants from around the world, and also a collection of ornamental orchids whose origins go back to the imperial greenhouses of a century ago. The Old Imperial Rest House west of the greenhouse offers a glimpse of imperial life from over a hundred years ago.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

新宿御苑全体の面積は 145 エーカー（60 ヘクタール弱）であり、おおよそ東西に広がっています。3 つのゲート（新宿門、大木戸門、千駄々谷門）からの入園が可能で、苑内には主要な庭園が 4 つあります。東から西にかけて、風景式庭園、整形式庭園、日本庭園、母と子の森です。中国の建築様式が用いられた御涼亭からは、2 つの茶室を備えた壮大な日本庭園の眺めが楽しめます。苑内にはいくつかの池のほか、ヒマラヤ杉やバラ、春に花開く桜や秋を美しく彩る紅葉など、特定の種類の木々や花々に特化したエリアがあります。苑内の北側にある温室には、日本の島々から幅広く収集された希少種や絶滅危惧種の植物、世界の熱帯植物、1 世紀前の皇室庭園時代からの伝統を持つ観賞用洋ランのコレクションが収められています。温室の西側にある旧洋館御休所では、前世紀の皇族の生活を垣間見ることができます。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 御苑全体  
【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The Vista Line offers an unbroken view of the park stretching from the Formal Garden in the east, across the large expanse of open lawn in the center of the Landscape Garden, to the park boundary near the Shinjuku Gate. The Line forms the central axis in the design of the Shinjuku Gyoen gardens. Standing with your back to the Formal Garden gives a view along the whole length of the garden and into the distance. Shinjuku Gyoen remains popular with Japanese and overseas visitors alike, providing the perfect opportunity in the middle of the city to enjoy nature whatever the season.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

ビスタラインとは見通し線のことです。東側の整形式庭園から風景式庭園の中央にある広大な芝生を横切り、新宿門近くの敷地内の端まで途切れることのない苑内の眺めをもたらしているこのビスタラインは、新宿御苑の庭園デザインの中でも最も中心となるものです。整形式庭園を背にして立ち、ビスタラインを眺めると、御苑の全長を遠くまで見通すことができます。都会にいながら四季折々の自然に触れることのできる場所として、新宿御苑は日本人にも外国人観光客にも長きにわたって愛されています。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

# 489,490

No.6-7 A Spectacular Collection of Cherry Trees

<新宿御苑、東京>

【施設名】 御苑全体

【整備予定媒体】 看板、デジタルサイネージ

## できあがった英語解説文

Shinjuku Gyoen is one of Tokyo's premier *hanami* cherry blossom viewing spots. The park contains approximately one thousand cherry trees of about sixty-five different varieties. Since the time of the blooming of each of the varieties differs, the cherry blossom viewing season at Shinjuku Gyoen is comparatively long. The best viewing season starts from the end of March to early April with Somei Yoshino, the most popular variety of cherry in Tokyo. Then, from the beginning to middle of April, Ichiyo, Kanzan, and other varieties of double-blossom cherries take over.

The cherry blossom has played an important and integral role in Japanese culture since ancient times, appearing in the *Manyoshu* anthology of poetry collected in the eighth century, and the *Kojiki* (Records of Ancient Matters) from the same period, and becoming ever more prominent during the Heian period (794-1185). During the nineteenth century, a boom in new horticultural techniques produced hundreds of ornamental varieties. The Somei Yoshino, by far the most popular variety today, is thought to have been developed during this period.

Japan is famous for its cherry blossoms, and Shinjuku Gyoen has a long history of cherry blossom viewing because of its diverse collection of cherry trees. The first imperial cherry blossom viewing was held here in 1917, and since 1952, the prime minister has hosted dignitaries from around the world at the annual Cherry Blossom Viewing Party.

### Cherry Blossom Calendar and Main Varieties of Cherries in Shinjuku Gyoen

**Somei Yoshino** (*Cerasus* × *yedoensis*; Matsumura “Yedoensis”)

Peak: Late March to Early April

This hugely popular variety was first cultivated in the mid-nineteenth century as a hybrid of two other species of cherry trees. The variety was developed in Somei Village in the northern part of Tokyo, and was originally known as Yoshino Zakura (Yoshino Cherry). Because it grows quickly and produces gorgeous blossoms, the Somei Yoshino has been planted widely since the beginning of the twentieth century, and is now the most common cherry tree in Japan. It is also popular overseas, and is the variety most closely identified with cherry blossoms in



Japan.

The flowers open before the leaves appear, with the whole tree bursting into bloom at the same time. The flowers last for just a few days, before falling en masse, creating a beautiful carpet of pink petals.

There are approximately four hundred Somei Yoshino trees in the park.

**Ichiyo** (*Cerasus lannensiana*; “Ichiyo” Koidzumi)

Peak: Early to Mid-April

This is one of the best-known double-blossom cherries, said to have been first cultivated during the Kamakura era (1185–1333). It is the main double-blossom variety in the garden, with approximately one hundred thirty trees.

**Kanzan** (*Cerasus lannensiana*; “Sekiyama” Koidzumi)

Peak: Mid-April

Kanzan is another beautiful and very popular double-blossom cherry. It is more flamboyant species with blossoms that are larger and a deeper crimson than the Ichiyo. There are about ninety Kanzan trees in the park.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

新宿御苑は東京で最も優れた花見の名所の一つで、苑内には 65 種ほどの桜の木が約 1000 本植えられています。品種によって開花時期が異なるため、新宿御苑の桜の見頃は比較的長くなっています。中でも最高の見頃は、東京で最もポピュラーな桜の品種ソメイヨシノが開花する 3 月下旬から 4 月上旬です。その後 4 月中旬からは、イチヨウやカンザンなどの八重桜が見頃となります。

桜は 8 世紀に編纂された万葉集や古事記にもその名があるように、古くから日本文化において重要かつ欠かせない役割を果たしてきており、平安時代（794～1185）にはそれまで以上に顕著な存在となりました。19 世紀には品種改良技術の急発展により何百もの観賞用品種が生み出され、現在最もポピュラーな品種であるソメイヨシノもこの時期に開発されたと考えられています。

日本は桜で有名ですが、多様な桜の木が揃っている新宿御苑は、花見における長い歴史を有しています。1917 年からは皇室主催の観桜会の開催場所となり、1952 年からは総理大臣主催の「桜を見る会」が毎年開催され、世界中の賓客をもてなしています。

桜開花カレンダーと新宿御苑で見られる主な品種

ソメイヨシノ (*Cerasus × yedoensis*; Matsumura “Yedoensis”)

満開時期：3月下旬～4月上旬

この非常に人気の高い品種は、19世紀半ばに別の桜の木2品種を交配して初めて栽培されました。東京北部の染井村で育成されたこの品種は、当初は吉野桜として知られていました。生育が早く花が美しいことから、ソメイヨシノは20世紀初頭から広く植栽され、現在では日本で最も一般的な桜の木となっています。海外でも人気が高く、日本の桜として最も代表的な品種であると見なされています。

葉より先に咲き一気に樹体全体を覆う花は、わずか数日の後に一斉に散り、美しいピンクの花びらのカーペットを作ります。

苑内には約400本のソメイヨシノが植えられています。

イチヨウ (*Cerasus lannensiana*; “Ichiyo” Koidzumi)

満開時期：4月上旬～中旬

八重桜の代表的品種の一つであり、鎌倉時代(1185～1333)に生み出されたと言われています。御苑の八重桜の中心となる品種で、約130本が植えられています。

カンザン (*Cerasus lannesiana*; “Sekiyama” Koidzumi)

満開時期：4月中旬

カンザンもまた美しく非常に人気のある八重桜の一品種であり、イチヨウに比べると花が大きめで紅色が強く、華やかな印象です。御苑には約90本あります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 御休所  
【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The oldest section of this building dates back to 1896, and was originally used by the imperial family to relax while enjoying the beauty of what was then an imperial garden. At first glance, the building appears to be constructed in the Stick style, which was a late nineteenth-century American architectural style. However, a closer look reveals that Japanese aesthetics have been blended with a Western architectural style that had become so important at the beginning of the twentieth century. The living room in particular was furnished in a hybrid Japanese and Western style.

The original building was quite small, but was remodeled at least four times over a period of several decades. After the addition of a dining room in 1921, the tiny “rest house” was used also for entertaining guests. The imperial family held many luncheon and dinner parties here, decorating the dining table with flowers from the gardens.

The exterior corridor leading to the old greenhouses was originally open to the elements. The window glass was added later and displays the imperfections that are common to handmade glass of that period. The building has a decorative gabled roof and an extended porte-cochère porch designed to protect guests and their carriages from the elements.

In 2001, the Old Imperial Rest House was designated as an Important National Cultural Property.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この建物の最も古い部分は 1896 年に建てられ、もともとは皇族が、当時皇室庭園であったこの場所の自然の美しさを楽しみながらくつろぐために利用していました。一見したところ、この建物には 19 世紀後半にアメリカで流行したスティック・スタイルという建築様式が用いられているように見えますが、もっとよく見てみると、20 世紀初頭にきわめて重視されるようになった西洋の建築様式とともに、日本の美も取り入れられていることがわかります。特に旧御居間では、和洋折衷の雰囲気が演出されています。

元の建物はかなり小さいものでしたが、数十年にわたって少なくとも 4 回の改築を重ね、1921 年の旧御食堂の増設以後、この小さな御休所は来客をもてなすための場所として使われるようになりました。隣接する庭園で栽培された花々でダイニングテーブルを飾った、皇族主催の昼餐会や晚餐会がこの場所で数多く開かれました。

かつての温室へと通じる廊下は当初は覆われておらず、後に追加された窓を見てみると、ゆがんだ形をしていることがわかります。これは当時の手作りガラスに一般的に見られる特徴です。この建物には装飾的な切妻屋根と、来客と車を雨風から守るために設計された屋根付きの車寄せがあります。

2001 年に、旧洋館御休所は重要文化財に指定されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

The greenhouse houses a diverse collection of tropical herbs, shrubs, and trees. Some species are quite rare, and some are in danger of extinction. Visitors are asked to please stay on the walkway, not to pick the flowers or take cuttings, and to be careful not to damage the plants as you pass by. We hope you will enjoy your visit while also trying to keep the greenhouse clean and attractive for others to enjoy.

#### **Greenhouse Guide**

The greenhouse contains a wide range of tropical plants from all over Japan, including the Ryukyu and Ogasawara Islands, as well as a collection of rare and endangered species.

#### **Tropical Lowland Plants**

The plants here are those that people normally associate with the term “tropical” — such as those species that thrive in dense rain forests.

#### **Ogasawara Area**

The Ogasawara Islands lie 1,000 km south of mainland Japan in the Pacific Ocean, and are officially part of Metropolitan Tokyo. These volcanic islands are isolated and support a unique flora.

#### **Desert Plants**

This section displays plants adapted to arid environments, such as cacti and other succulents.

#### **Okinawa Area**

The Ryukyu Islands stretch more than 1,000 km between Kyushu and Taiwan. Several times in the past these islands have been connected to the Asian mainland, and their unique flora contains many species that originated on the continent but later evolved separately.

### **Tropical Pond/Marsh Plants**

Many tropical and subtropical plants live in water habitats such as ponds or marshes. This exhibit features examples of familiar aquatic plants, such as lotuses, that thrive in warm climates.

### **Familiar Tropical Plants**

This area features tropical plants with flowers or fruits that are very familiar.

### **Site of Old Greenhouse**

The old greenhouse was built in the 1890s and frequently remodeled. This site shows part of the foundation of the old greenhouse, which was excavated during the construction of the current building.

### **Special Exhibition Room 1**

The greenhouse is famous for its collection of orchids and orchid seeds. Room 1 contains an exhibit of endangered varieties of these beautiful flowers, including the original collection from over a century ago.

### **Special Exhibition Room 2**

This room contains a very special collection of endangered species from Ogasawara Islands that is cultivated here at the greenhouse.

### **Tropical Mountain Plants**

Tropical climates are not all rain forest. There are also cool, high-altitude areas in the tropics, which is the source of, for example, coffee beans.

### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この温室では熱帯のハーブ、低木、樹木が幅広く育てられています。中には希少種や絶滅危惧種もあるため、来場者の方々には通路から出たり、花や枝を手折ったりせず、通過時に植物を傷つけないように留意していただけますようお願い申し上げます。他のお客様も美しく魅力的な温室を楽しめるように心がけながら、楽しくご鑑賞いただけることを願っております。

## 大温室のご利用案内

この温室では、琉球諸島や小笠原諸島を含む日本全土から集められた幅広い熱帯植物のほか、希少種や絶滅危惧種のコレクションが育てられています。

## 熱帯低地の植物

ここでは「熱帯」という言葉から一般的に連想されるような、密生した熱帯雨林に繁茂している植物などを展示しています。

## 小笠原コーナー

小笠原諸島は日本本土の南 1,000 km の太平洋上にあり、東京都の正式な一部です。他から隔離されたこれらの火山島では、特有の植物相が見られます。

## 乾燥地の植物

サボテンや多肉植物など、乾燥した環境に適応した植物を展示しています。

## 沖縄コーナー

琉球諸島は九州と台湾の間 1,000 km 以上にわたって点在する諸島です。過去にはアジア本土と陸続きであったことも何度かあり、琉球諸島に特有の植物相には、アジア大陸を起源としながら後に異なる進化を遂げた品種が多く含まれています。

## 熱帯池沼の植物

熱帯植物や亜熱帯植物には、池や沼などに自生する水生植物も多くあります。ここでは、ハスなどの温暖な気候で育つ身近な水性植物を取り上げた展示を行っています。

## 身近な熱帯植物

このコーナーでは、人々にとても親しまれている花や果実を持つ熱帯植物を取り上げています。

## 旧温室の遺構

旧温室は 1890 年代に建設され、頻繁に改築が重ねられました。ここでは、現在の大温室建設の際に出土した旧温室の遺構の一部を展示しています。

## 特別室 1

大温室は洋ランや洋ランの種子のコレクションで有名です。特別室 1 では、1 世紀以上前からの歴史を持つ最初のコレクションを含む、絶滅危惧種の洋ランを展示しています。

## 特別室 2

大温室で保存栽培している小笠原諸島の絶滅危惧植物からなる、非常に特別なコレクションを展示しています。

熱帯山地の植物

熱帯気候というのは熱帯雨林ばかりではありません。熱帯地方には気温が低く標高が高い地域もあり、コーヒー豆などが育っています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

できあがった英語解説文

### Origins of Ryukyu Island Chain

During the glacial periods, as sea levels rose and fell according to the changing climate, the Ryukyu Islands were repeatedly connected to and then separated from the Asian mainland. As a result of this unique geological history, many of the plant species on the islands originated on the mainland, but developed independently into unique flora during the long periods of separation. In the Ryukyu chain there are about 1,600 types of vascular plants, including ferns. This small group of southern islands supports, on average, forty to fifty times as many species per square kilometer as do the main islands of Japan.

### Threat of Extinction

These small islands, surrounded by large expanses of ocean, can support only small areas of habitat, and a limited number of individual plants for each species. The islands' botanical diversity is thus highly vulnerable to disturbances in the local ecosystems. Of the total confirmed number of vascular plant species, roughly seven hundred are either extinct or endangered, because of disturbance of their natural habitats by human development, harvesting by collectors, and competition from invasive alien species.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

#### 琉球列島のなりたち

琉球列島は、氷河期と間氷期が繰り返される中で、アジア大陸とつながったり離れたりしながら形成された諸島です。その独特な地質学的歴史の結果として、琉球列島で見られる植物の多くはアジア大陸を起源としながらも、海で大陸と隔てられた長い期間の中で独自の発展を遂げ、特有の植物相が形成されました。琉球列島に生える維管束植物の数はシダを含めて約 1600 種にのぼります。この小さな南の島々には、日本本土に比べると平均で 1 km<sup>2</sup> あたり 40～50 倍もの品種が自生しています。

#### 絶滅の危機

海によって遠く隔たれたこの小さな島々では、各品種の生息地も個体数も限られているため、諸島の植物多様性は現地の生態系の乱れによる悪影響を非常に受けやすくなっています。人間の手による開発が引き起こす生息地の乱れ、

収集家による採取、特定外来生物との生存競争などの理由により、琉球列島で確認されている維管束植物のうち、約 700 種が絶滅したか絶滅の恐れのある植物に指定されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

できあがった英語解説文

### **Origins of the Ogasawara Islands**

Unlike the Ryukyus, the Ogasawara Islands were never part of a continent, but were uplifted independently from the sea bottom. For that reason, the flora on these oceanic islands are all descendants of seeds or spores that arrived by chance and managed to survive and adapt to the islands' soil and climate. In fact, seeds or spores could have arrived in these islands in many different ways. For example, they may have drifted onto shore or floated in on driftwood carried by ocean currents. Lighter seeds and spores, such as those of orchids, ferns, and mosses, may have been blown in by the wind. In some cases the seeds or spores may even have been trapped in the feathers of birds.

Isolated from the continent and the main Japanese islands, once they arrived and settled in the Ogasawara islands these plants developed independently, creating a unique flora, in the same way as the Hawaiian and Galapagos Islands are also isolated oceanic islands with their own unique flora. Over 40 percent of the more than four hundred plants on the Ogasawara Islands are endemic (found only here) to this ecosystem. The percentage for trees is closer to 70 percent.

### **Threat of Extinction**

Just as with the Ryukyu Islands, the Ogasawara Islands face disruption of their natural environment and the resultant loss of biodiversity. Of the more than four hundred confirmed varieties of vascular plants, over one hundred thirty are either extinct or seriously endangered, while for sixteen more plants there is not enough data to accurately assess their status.

### **Countermeasures Against the Loss of Botanical Diversity**

The Ogasawara Islands are taking steps to stem this loss of botanical diversity. Researchers are working to better understand the unique ecological factors involved in the way these plants grow and reproduce on the islands. This information will hopefully help protect some of the endangered species. It is also necessary to prevent loss of plants and disruption of habitats due to the depredations of feral goats and invasive alien rats.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 小笠原諸島のなりたち

琉球諸島とは異なり、小笠原諸島は海底が隆起して形成された海洋島で、一度も大陸とつながったことがありません。そのため、小笠原諸島の植物相はすべて島に偶然たどり着き、島の環境に適応して生き残った種子や胞子の子孫で形成されています。種子や胞子がこれらの島々にたどり着くには数多くのさまざまな方法が考えられます。例えば、海岸に流れ着いた可能性もありますし、流木に付着して海に浮かび、波に運ばれてきたのかもしれませんが、ランやシダ、コケなどの比較的軽い種子や胞子は風に吹かれて飛んできた可能性もあります。場合によっては、鳥の羽毛に絡まって島へたどり着いた種子や胞子もあるかもしれません。

小笠原諸島にたどり着き定着した植物は、アジア大陸や日本本土から隔離された状態で独自の進化の道を歩み、ハワイやガラパゴスなど大陸とつながったことがない隔離された島々と同様に、特有の植物相が形成されました。小笠原諸島に自生する 400 種以上の植物のうち、40%以上が固有種です。樹木に限れば 70%近くが固有種となっています。

### 絶滅の危機

琉球諸島と同様に、小笠原諸島も自然環境の乱れとその結果としての生物多様性の喪失に直面しています。小笠原諸島で確認されている 400 種以上の維管束植物のうち、130 種以上が絶滅したか深刻な絶滅の危機にあり、情報不足により状況を正確に評価できない品種は 16 種にのぼります。

### 植物多様性の喪失への対策

小笠原諸島では、こうした植物多様性の喪失を食い止めるための対策がとられています。研究者たちは島での植物の生育状況にかかわる生態因子をよりよく理解できるよう尽力しており、こうした情報が絶滅危惧種の保護に役立つことが期待されます。また、ノヤギや特定外来種のネズミの食害による植物の喪失や生息地の乱れを防ぐことも必要とされています。

## 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

This area specializes in growing and displaying endangered plants from the Ogasawara and Ryukyu Islands. Both these island groups are situated at a latitude of around 27 degrees north, and are the only subtropical regions in Japan. The two island groups were formed by very different geologic processes, and as a result each supports its own unique flora.

The Ogasawaras are oceanic islands formed by uplifting of the seabed and have never been connected directly to the mainland. The plants seen on these islands today all arrived here by chance and subsequently naturalized. Later, they evolved in isolation, producing numerous endemic (found only here) species and varieties.

The Ryukyus, in contrast, were formerly connected to the Asian mainland, but were later isolated by changes in sea level due to fluctuations in climate. The plants isolated on the islands embarked on their own unique course of evolution, eventually developing into endemic species.

Both the Ryukyus and Ogaswaras are composed of small, isolated islands surrounded by the sea. In isolation they have each fostered their own unique ecosystems. The size of the habitats, as well as the number of individuals for each species, however, are limited, making the island plants and ecosystems extremely vulnerable to disruption from human activity. As a result, many of the unique plants have become extinct or are currently endangered.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

このコーナーは、小笠原諸島と琉球諸島に生育している絶滅危惧植物の展示・栽培を専門としています。両諸島はどちらも北緯 27 度あたりに位置しており、日本に 2 つしかない亜熱帯地方です。この 2 つの諸島の形成過程はたいへん異なるため、それぞれに特有の植物相が見られます。

小笠原諸島は海底が隆起してできた海洋島であり、一度も本土とつながったことがありません。現在島で見られる植物はすべて、かつて偶然島にたどり着いて適応した植物です。その後、隔離された環境下で進化を遂げ、数多くの固

有種が生まれました。

それとは対照的に、琉球諸島はかつてアジア本土につながっており、その後、気候変動による海面の上昇によって島として取り残された大陸島です。島に取り残された植物は独自の進化の道を歩み、ついには固有種となりました。

どちらの諸島も、海に囲まれ他から隔てられた小さな島々から構成されており、その隔離された環境の中で独自の生態系が形成されました。しかし、各品種の生息地の大きさも個体数も限られているため、島の植物や生態系は人間の活動が引き起こす乱れの影響をたいへん受けやすくなっており、その結果として特有の植物の多くが絶滅したか現在絶滅の危機に瀕しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

Japan's history of cultivating tropical orchids really began with the imperial greenhouses erected here in the 1890s. From that point on, orchids were cultivated in earnest for imperial household events. Samples of orchids were imported from abroad and new strains were created here. These greenhouses soon became not only an orchid herbarium, but also a place to train Japanese horticulturists in how to grow these delicate plants. Shinjuku Gyoen continues to thrive as a national center for orchid cultivation and preservation.

Many orchid hybrids were created here. You can find more than twenty such varieties registered in the authoritative *Sander's List of Orchid Hybrids*.

Toward the end of WWII, Tokyo was repeatedly firebombed, and this facility (and much of Shinjuku Gyoen) was badly damaged. Fortunately, the various orchid lines from before the war survived, and today's collection contains a wealth of rare and beautiful specimens.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本における本格的な洋ラン栽培は1890年代にこの地に建てられた旧温室から始まりました。それ以来、皇室行事などに使用するための洋ラン栽培に力が入られ、外国から洋ランを輸入し新しい洋ランの品種が作り出されました。旧温室はまもなく洋ランの標本室となっただけでなく、デリケートな洋ランという植物の栽培方法を日本人園芸家に教えるための場にもなりました。新宿御苑は今も日本における洋ランの栽培および保存の中心地であり続けています。

この地では洋ランの交配種が数多く生み出されました。世界のランの交配種が登録されている、権威ある「サンダーズリスト」には、新宿御苑作出のランが20種以上登録されています。

第二次世界大戦末期、東京は幾度にもわたる空襲を受け、当施設（および新宿御苑の大半）にも大きな被害がありました。幸運なことに戦前から継承されてきた多様な洋ラン品種はなんとか守ることができたため、今日のコレクションには美しく希少な品種が数多く残されています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

Preserving the natural habitats of endangered flora must be a first priority. However, when natural habitats suffer from severe environmental damage and can no longer support particular plants, the flora can be transported to and cultivated in artificial growing environments. This is called “ex-situ conservation” and has proven to be an effective means for preventing many wild plants from becoming completely extinct. The goal is to preserve the natural genetic diversity within each species, and extreme care is always taken to ensure that the genes of one species or regional variety are not mixed with those of closely related forms.

In addition to displaying rare and unusual plants in the garden, Shinjuku Gyoen also cultivate plants to use in research and to protect genetic resources. Ecological research is carried out on the interactions of plants with each other and with their environment. Large botanical gardens serve as centers for plant conservation, taxonomy, and education by combining collections of research materials, preserved botanical specimens, and the collections of living plants.

In addition, Shinjuku Gyoen, as a member of Japan Association of Botanical Gardens, are working on preserving endangered species and conducting research in support of conservation activities. The role of botanical gardens will only increase as the need to protect endangered flora from ecological damage grows ever greater.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

絶滅のおそれのある植物を守っていくためにはその生育地を保全することが最優先事項です。しかし、生育地の環境が極端に悪化してその植物が生育できなくなった場合は、人工的な生育環境に移して栽培することで、種を守ることができます。これを生息域外保全といい、多くの野生植物の完全な絶滅を防いだ有効な手段であることが証明されています。生息域外保全として植物を栽培する場合には、他の類似の品種と雑種ができないように細心の注意を払うとともに、それぞれの品種の中の遺伝的な多様性を保つことが目標とされます。

新宿御苑では珍しい植物を展示公開しているほか、研究に使用したり遺伝資源を守るための植物の栽培も行っています。植物同士や植物と環境との交わりにおける生態学研究も行われています。大温室は研究素材、保存された標

本、生きた植物のコレクションを併せ持つことにより、植物の保全、分類、教育センターとしての役割も果たしています。

さらに、新宿御苑は日本植物園協会の一員として絶滅危惧植物の保全に取り組んでおり、保全活動を支える研究にも尽力しています。より進んでいく環境破壊から絶滅危惧植物を守るため、植物園の役割はますます大きくなっていくことでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

The Japanese archipelago consists of 6,852 islands that have a coastline of more than one hundred meters. Japan stretches over 3,000 km in a north-east to south-west arc at the eastern edge of the enormous Eurasian continent. As sea levels rose and fell throughout the glacial periods, the islands have been repeatedly connected and separated from the continent, resulting in flora similar to those found on the mainland existing side-by-side with plants found only on these islands.

Japan has a highly diverse topography, including mountain ranges, volcanoes, rivers, lakes, marshes, tidal flats, and a complex coastline. The climate is equally varied, ranging from subtropical to subarctic, with ocean currents and seasonal winds giving rise to four distinct seasons. This wide range of climates and habitats adds to the extreme diversity of Japan's flora.

There are over 7,000 species of plant life distributed around Japan, over one-third of which are endemic (found only here) to these islands. In that sense, Japan is truly one of the most botanically blessed countries on Earth.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本列島は 100m 以上の海岸線を持つ 6,852 の島から成り立っており、巨大なユーラシア大陸の東端に位置し、北東から南西へと弧を描きながら 3,000 km 以上に広がっています。氷河期と間氷期の海面の上下により、日本列島は大陸と陸続きになったり離れたりを繰り返していたため、大陸で見られるものと似た植物相と、日本列島固有の植物の両方が共存しています。

日本には山脈や火山、河川や湖沼、湿地や干潟、複雑な海岸線など、非常に多様な地形が存在します。また気候も亜熱帯から亜寒帯までと多様で、海流や季節風の影響によりはっきりとした四季があります。こうした幅広い気候と生息地により、日本の植物相はきわめて多様なものとなっています。

日本各地に分布する植物の数は 7,000 種以上にのぼり、そのうち 3 分の 1 以上が日本列島の固有種です。そうした意味では、日本はまさしく地球上で最も植物に恵まれた国々の一つであると言えるでしょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

Shinjuku Gyoen is committed to the ex-situ conservation of endangered plant life through two specific associations. First, as a member of the Japan Association of Botanical Gardens, it is a designated garden for the Kanto region, a designated garden for preserving orchids and the *hanashinobu* Jacob's ladder [*Polemonium kiushianum*], and a designated garden for the preservation of seeds. Second, Shinjuku Gyoen is committed to the International Agenda for Botanic Gardens in Conservation, which was established by Botanic Gardens Conservation International.

#### **Cultivating Endangered Plants**

As a registered regional conservation garden, Shinjuku Gyoen is working to preserve the lineage of rare domestic plants such as *Polemonium kiushianum* and cultivating other endangered plants in accordance with Law for the Conservation of Endangered Species of Wild Fauna and Flora (LCES).

#### **Collecting and Preserving Seeds of Endangered Flora**

Shinjuku Gyoen works together with botanical gardens, universities, research organizations, and others to collect and preserve the seeds of endangered plant species. Various organizations send seeds that they have gathered from all over Japan for preservation, along with dried specimens to verify the species. The seeds are frozen and preserved here, and the dried specimens are sent to the Tsukuba Botanical Garden, National Museum of Nature and Science for storage and cataloging. A great number of plants can be preserved in this way because seeds require very little space and can be stored for long periods. Compared to actually cultivating and growing the plants, this approach is more efficient and is a practical way to preserve a huge diversity of specimens in a very small space.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

新宿御苑は次の二つの団体への参加を通して絶滅危惧植物の生息域外保全に取り組んでいます。まず第一に、新宿御苑は日本植物園協会の一員であり、関東拠点園、ランとハナシノブ [*Polemonium kiushianum*] の特定

植物保存拠点園、種子保存拠点園に指定されています。第二に、新宿御苑は植物園自然保護国際機構が立ち上げた「植物園の保全活動に対する国際アジェンダ」に登録されています。

#### 絶滅危惧植物の栽培

地域野生植物保全拠点園として、新宿御苑ではハナシノブなどの国内希少野生動植物種の保全への取り組みや、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」に定められたその他の絶滅危惧植物の栽培を行っています。

#### 絶滅危惧植物の種子の収集と保存

新宿御苑は他の植物園、大学、研究機関などと連携して、絶滅危惧植物の種子の収集と保存に取り組んでいます。さまざまな機関によって日本各地で採取された種子が、保存のために種の確認用のさく葉標本と併せて新宿御苑に送られてきます。種子は新宿御苑で冷凍保存され、さく葉標本は国立科学博物館筑波実験植物園に送られて保管・分類されます。種子は保管に場所をとらず、また長期保存できる場合が多いため、こうすることで大量の植物を保存することができます。このアプローチは植物を実際に栽培することに比べ、非常に小さなスペースで膨大な多様性を持つ標本を保存しておける、より効率的で実用的な方法と言えます。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

Botanists have so far identified approximately three hundred species of wild orchids across Japan. Of these, four have become extinct since record-keeping began, and 70 percent (roughly two hundred varieties) are currently in danger of extinction. Because their flowers are so beautiful, orchids are often gathered in the wild, leading to a steady decrease in their numbers. As a result, there are now regulations and ordinances in effect, including the Law for the Conservation of Endangered Species of Wild Fauna and Flora, the Natural Parks Act, and the Law for the Protection of Cultural Properties, which regulate the collecting of such plants from the wild. The orchid family has the greatest number of entries among the flora specified as rare domestic wild plants in the Species Preservation Act.

This is not only a domestic problem. Wild orchids are endangered all over the world, and international regulations, such as the Convention on International Trade in Endangered Species (CITES), also known as the Washington Convention, specifically restrict the cross-border transport of all orchids.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本では現在までに約 300 種の野生のランが確認されています。記録の管理が始まって以来、そのうちの 4 種がすでに絶滅し、70%（約 200 種）が現在絶滅の危機に瀕しています。ランはとても美しい花をつけるため、野山で採取されてしまうことが多く、その数は一定して減り続けています。その結果、現在では「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」、「自然公園法」、「文化財保護法」といった、野山での指定植物の採取を規制する規則や法令が敷かれています。種の保存法により国内希少野生動植物種に指定されている植物の中で、ラン科植物は最も指定種の数が多くなっています。

また、このことは日本国内だけの問題ではありません。野生のランは世界中で絶滅が危惧されており、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約（別名ワシントン条約）」などの国際規制によって、すべてのランには国際間の移動に明確な規制がかけられています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

Hayato Fukuba (1856–1921) is one of the most important figures in the history of Shinjuku Gyoen. The father of modern horticulture in Japan, after studying agricultural chemistry, he entered the Ministry of the Interior in 1877.

In 1886 he traveled to France and Germany to study grape cultivation and brewing and brought back samples of grapes and other specimens. He was the first person in Japan to grow many fruits and vegetables not native to Japan in an unheated greenhouse. His extensive cross-breeding led to the creation of many new strains, such as the eponymous Fukuba Strawberry. In 1891 he was appointed as a technical expert to the Imperial Estates, from which time his connection with Shinjuku Gyoen began. He published an encyclopedia about vegetable cultivation in 1893.

In 1898 Fukuba was appointed to head what was then the Shinjuku Imperial Botanical Garden, and began work on implementing plans for a large-scale development of what is today's Shinjuku Gyoen.

In 1900 Fukuba traveled to Paris for the Exposition Universelle (World's Fair), where he displayed five large Japanese chrysanthemums to wide acclaim. In Paris he met with Professor Henri Martine, a noted professor from the Versailles horticultural school, and he asked Professor Martine to prepare designs for the Shinjuku Imperial Botanical Garden. After five years, the garden, now renamed the Shinjuku Gyoen National Garden, was completed in 1906 based on Martine's designs, and Emperor Meiji (1852–1912) attended the opening ceremony.

Professor Martine's original plans for the garden were destroyed, along with much of the garden itself, during the firebombing of 1945. The only remaining document of the original design is a "bird's-eye view" of the new garden, drawn by Professor Martine himself. After the war, Shinjuku Gyoen was rebuilt relying heavily on Martine's drawing, and the present Shinjuku Gyoen is a very close representation of that design.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

福羽逸人（1856～1921）は、新宿御苑の歴史において最も重要な人物の一人です。日本の近代園芸学の祖である福羽逸人は、農芸化学を学んだ後、1877年に内務省に入りました。

1886年にはブドウの栽培と醸造を学ぶためにフランスとドイツに留学し、ブドウなどのサンプルを持ち帰りました。福羽逸人は、日本国内にない果物や野菜を無加温温室で数多く栽培した日本で最初の人物でした。また大規模な異種交配を行い、自らの名を冠したイチゴ「福羽苺」など多くの新種を作出しました。1891年には宮内省御料局技師に任命され、新宿御苑とのつながりを持ち始めます。1893年には著書「蔬菜栽培法」が刊行されました。

1898年、福羽逸人は当時の新宿植物御苑の掛長に任命され、今日の新宿御苑となる大規模開発計画の実行に取り組み始めました。

1900年には万国博覧会のためにパリを訪問し、菊の大作り 5 鉢を展示して高い評価を得ました。パリで福羽逸人は、ヴェルサイユ園芸学校の有名教授アンリ・マルチネーに新宿植物御苑の設計案の作成を依頼しました。5年後の1906年、マルチネー教授の設計案に基づき、現在では新宿御苑と名を改めた新宿植物御苑が完成しました。その開苑式には明治天皇（1852～1912）からもご臨席を賜りました。

マルチネー教授による設計案の原本は、御苑の大半とともに 1945年の空襲で焼失し、もともとの設計資料のうち残されたものはマルチネー教授が自ら描いた新しい御苑の鳥瞰図のみでした。戦後、新宿御苑はマルチネー教授の図を大きなよりどころとして再建され、現在の新宿御苑はその設計に非常に近い姿となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

The original glass greenhouse which was built in 1875 was only about 100 m<sup>2</sup> much smaller than the present building. It was one of the very first of its kind in Japan. The garden was then called the Naito Shinjuku Experimental Station, named for the feudal lord who had owned the property, and was under the jurisdiction of the Department of the Interior. Its mission was to improve the level of agriculture in Japan and to introduce modern agriculture methods and technology from the West.

In 1879 control of the park was transferred to Ministry of the Imperial Household, and it became the Shinjuku Imperial Botanical Garden. The greenhouse was unheated, and was, under the influence of the pioneering efforts of Hayato Fukuba (1856–1921), the first place in Japan to grow grapes, gooseberries, and other fruits and vegetables indoors.

After 1893, heated greenhouses were built, and orchids, melons, pineapples and other non-native species were collected and studied here. The produce was originally destined for the imperial kitchens, but over time, in addition to training botanists and gardeners, the garden began to disseminate its knowledge to the private sector, and the facility played a leading role in advancing indoor cultivation in Japan.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

新宿御苑の最初のガラス張り温室は1875年に建設され、面積は約100 m<sup>2</sup>と現在の建物よりもはるかに小さなものでした。これは日本初のガラス張り温室の一つでした。その当時の御苑は、かつてこの土地を所有していた大名の名を取って内藤新宿試験場と呼称されており、内務省の管轄下にありました。内藤新宿試験場は、日本の農業水準を上げ、西洋の最新農法や技術を紹介することを目的としていました。

1879年、御苑の管轄が宮内省に移され、新宿植物御苑と呼ばれるようになりました。当時の温室は無加温でしたが、福羽逸人（1856～1921）の先駆的努力の影響を受け、日本で初めてブドウ、セイヨウスグリ、その他の果物や野菜の温室栽培が行われた場所となりました。

1893 年以降は加温式の温室が順次建設され、洋ラン、メロン、パイナップルなど日本に生息していない植物の収集と研究が行われました。採れた作物は当初は宮中の調理場で使用されていましたが、時を経る中で、御苑は植物学者や園芸家を教育するとともに民間にもその知識を広め始め、御苑の温室は日本の温室栽培の進歩において先駆的役割を果たしました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

The first greenhouse was completed in 1893, with a second built the following year, and a third in 1895. It is said that these were the first large-scale greenhouses built to Japanese designs.

In 1896, the design for the greenhouses was completed when a curved walkway was built to connect the greenhouses to the newly built Imperial Rest House.

The Old Imperial Rest House was used by the imperial family to host parties and luncheons, while the greenhouses were used for strolls and as places to rest. Fresh flowers and vegetables used in the imperial court were grown in these greenhouses. The greenhouses produced over eight hundred orchid hybrids, and a great number of hybrids bearing the name “Shinjuku” were created here, such as the *Cattleya Shinjuku*. A list of orchids grown in the greenhouses was published as *The Orchid List of the Imperial Park Shinjuku 1914*. Some of the hybrids from this period are still on display.

During three massive firebombing raids in 1945, the gardens suffered extensive damage. The greenhouses, buildings, and plants were mostly destroyed. Only a few rare plants, including some of the orchids, survived. Wood was collected from the gardens and burned to provide warmth for the plants to survive the winter. Many of these plants are still in the greenhouses.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

1893年に1号温室が完成したのを皮切りに、その翌年には2号温室、1895年には3号温室が建設されました。これらは日本人の設計による初の大規模温室であったと言われています。

1896年には新たに建設された旧洋館御休所と温室とを結ぶ曲がり廊下が作られ、温室全体が完成しました。

旧洋館御休所では皇族によるパーティーや昼餐会が開かれ、温室は散策や休憩の場として利用されました。宮中で

使用する新鮮な花や野菜はこの温室で育てられていました。温室では 800 種以上の洋ランの交配種が作出され、カトレヤ・シンジユクなど新宿の名を冠した独自品種が多数生み出されました。1914 年には御苑の温室で栽培していた洋ランの一覧「The Orchid List of The Imperial Park Shinjuku, 1914」が刊行されました。今でも当時交配された品種の一部を鑑賞することができます。

しかし 1945 年、3 度の大規模空襲により苑内はほぼ全焼という大きな被害を受け、温室、建物、植物の大部分を失いました。わずかに残った洋ランなどの貴重な植物は、苑内で集めた薪を燃やした熱を使って越冬させることでなんとか守ることができ、今日に伝えられています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 大温室

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

After the war, the Shinjuku Botanical Garden was transferred from the imperial household to the people of Japan, and in 1949 its management came under the jurisdiction of the Ministry of Health and Welfare. On May 21, 1949, it was opened to the public as “Shinjuku Gyoen National Garden.” The greenhouses were also opened to the public and no longer provide produce to the imperial family. Initially the pre-war greenhouses were repaired, after which in 1958 a large-scale remodeling created what was then the largest greenhouse in Asia. It featured a large dome 17 meters high to house palm trees.

This new greenhouse provided much more space for display and cultivation, bringing the greenhouses in line with other major botanical gardens around the world. The popularity of the greenhouses with the public increased, and the facilities set the standard for corporate and municipal greenhouse construction.

In 1965 the subtropical specimen greenhouse was completed, and in 1971 Shinjuku Gyoen was transferred to the jurisdiction of the Environment Agency (now the Ministry of the Environment). In 1975 a new greenhouse for cultivation was completed. Orchids and other rare plants were grown here, and many varieties of greenhouse orchids were exhibited, often to wide acclaim. In 2012, the greenhouses used for display were replaced with a new greenhouse, which provides space for growing and displaying both tropical and subtropical plants and an environment suitable for the display and preservation of plants in danger of extinction.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

終戦後、新宿植物御苑は皇室から国へと移管され、1949年に厚生省の管轄下に入り、同年5月21日に「国民公園新宿御苑」と改称して、一般に公開されるようになりました。それに伴い温室も国民に開放され、採れた作物が皇族に納められることもなくなりました。当初は戦前の温室を修理して使用していましたが、1958年に大規模な改修を行い、当時としては東洋一の規模を誇る大温室が完成しました。この大温室は、ヤシの木を育てることのできる高さ17mの大型ドームを特徴としたものでした。

この新しい温室は、以前の温室に比べて展示および栽培のためのスペースがはるかに充実しており、世界中の主な植

物園にも肩を並べうるものでした。新宿御苑の温室は大衆から高い人気を博し、企業や地方自治体による温室建設の基準となりました。

1965年には亜熱帯室が完成し、1971年に新宿御苑は環境庁（現環境省）に移管されました。1975年には新たな栽培室が完成し、洋ランやその他の希少な植物がこの栽培室で育てられ、多種多様な御苑の洋ランが展示会に出品され好評を得ました。2012年、展示用の大温室がリニューアルされ、熱帯植物や亜熱帯植物を栽培・展示するスペースと、絶滅危惧植物の展示・保存に適した環境を提供する新たな温室へと生まれ変わりました。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】 母と子の森

【整備予定媒体】 看板、デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

This charming area is designed to reproduce the lightly maintained woodland, grassland, and waterside habitats on the outskirts of a Japanese village, the sort of sustainably managed countryside environment that is now known in Japan as *satoyama*. This area was reconstructed and reopened in 2007, and is designed to serve as a biotope for conserving biodiversity, as well as an outdoor classroom for nature study. A 430-meter walking trail takes visitors along the water's edge, across grassy meadows, and through various themed woodlands. The Mother and Child Woods is ideally suited for a short stroll with children. Visitors enjoy not only trees and wildflowers, but also a wide variety of insects and birds, including dragonflies and beautiful cobalt blue kingfishers. The Mother and Child Woods features a pond in the center surrounded by various woodland and meadow areas. These habitats are home to all sorts of small animals. Violets bloom here in spring, and in the autumn birds come to eat the acorns and chestnuts that cover the ground. The rest house on one side of the pond provides a covered space where parents and children can relax.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この魅力的なエリアは、日本の農村の郊外に見られるような、軽く人の手が加わった森林、草原、水辺の動植物生息地を再現すべく設計されたものです。持続的に管理されてきたこのような田舎の環境は、現在では里山として知られています。2007年にリニューアルオープンしたこのエリアは、生物多様性を保全するためのビオトープとしての役割、および子どもたちが自然を学べる野外教室としての役割を果たせるように設計されています。430mの遊歩道では、水辺や草原、さまざまなテーマを持つ森林が楽しめます。母と子の森は子どもとの散策に最適な場所です。木や野の花だけでなく、トンボやコバルトブルーの体が美しいカワセミなど、幅広い種類の虫や鳥を楽しむこともできます。母と子の森の中央には、さまざまな木々や草原エリアに囲まれた池もあります。こうした生息地は、あらゆる種類の小動物のすみかとなっており、春にはスミレが咲き、秋には鳥たちが地面を覆うドングリや栗を食べにやって来ます。池の片側には休憩所があり、親子でくつろげる場所となっています。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 庭園

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

#### できあがった英語解説文

These two gardens complement the Japanese aesthetic found throughout Shinjuku Gyoen. In addition, they are a reflection of the importance placed on European standards of art and high culture by the imperial family in the nineteenth century and at the beginning of the twentieth century.

The Formal Garden is a beautiful symmetrical garden flanked by rows of sycamore trees. When it was designed in the nineteenth century, the feature for which it is best known today — the beautiful rose beds surrounding the center of the garden — was not included. Today the carefully designed Formal Garden leads to a graveled open area that separates it from the contrasting broad expanse of the more naturally designed Landscape Garden. Originally there were plans for a palace where the graveled area is.

The Landscape Garden features a wide, open lawn with tulip trees, Himalayan cedars, and other large trees planted mostly around the periphery. There are many cherry trees (*sakura*) that are quite beautiful in this setting in the spring. The straight line of sight that extends from the Formal Garden across the open field of the Landscape Garden and beyond is known as the Vista Line.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この2つの庭園は、新宿御苑の至るところで見られる日本の美を引き立たせる場所です。また、19世紀と20世紀初頭の日本の皇室が、欧州基準の芸術や上位文化に重きに置いていたことがわかる場所でもあります。

整形式庭園は、プラタナスの木が両側に並べられた左右対称の美しい庭園です。19世紀に設計された時には、現在最も有名な造作となっている、庭の中心部を取り囲むバラ花壇は含まれていませんでした。今日、綿密に設計された整形式庭園は、それとは対照的により自然風の造りになっている風景式庭園の広場との間にある砂利広場へと続いています。砂利広場にはもともと、宮殿が立てられる計画がありました。

風景式庭園は、ユリノキやヒマラヤスギ、その他の大木が周縁に点在する広大で開けた芝生を特徴としています。ここにはたくさんの桜があり、春にはこの庭園にとっても美しく映えます。整形式庭園から風景式庭園の広場を通り、その先へと一直線に抜けていく見通し線はビスタラインと呼ばれています。

本事業以前の英語解説文

なし。

【施設名】 庭園

【整備予定媒体】 デジタルサイネージ

できあがった英語解説文

Although there are traditional Japanese garden and gardening features to be found throughout the gardens, they are most easily enjoyed in the Japanese strolling garden. The large expanse of trees and shrubs is designed to provide something in flower throughout the year, and there is a beautiful view of the pond from the lawns on the hill.

The garden includes the Chinese-style Taiwan Pavilion, the Kyu-Goryo Tei, and two teahouses, the Rakuu Tei and the Shouten-Tei. A popular exhibition of chrysanthemums is held here every year in November, continuing an imperial tradition.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

新宿御苑では、日本の伝統的な庭園と園芸様式を多くの場所で見ることができますが、この回遊式の日本庭園ではそれらを特に楽しめます。広大な空間に立つ木々や低木は、四季折々の花を楽しめるように設計されており、その他にも風光明媚な池へと続く斜面緑地も眺めることができます。

日本庭園の中には中国式建築の台湾閣（旧御涼亭）および楽羽亭と翔天亭の2つの茶室があり、毎年11月には皇室の伝統を継承する菊花壇展が開かれ、多くの来園者を迎えています。

本事業以前の英語解説文

なし。

**宗教法人 明治神宮（多言語解説協議会）**

【施設名】 明治神宮の杜

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The sacred forest surrounding the main shrine buildings of Meiji Jingu may seem natural but is actually man-made, planted by 110,000 volunteers in honor of Emperor Meiji (1852–1912) and Empress Shoken (1849–1914). Covering 70 hectares, it currently has 234 different varieties of trees, which were donated from all over Japan. Every tree was chosen based on how it would look after 100 or 200 years, while still ensuring the forest looked natural when it was planted in 1920. The project was led by Dr. Honda Seiroku (1866–1952), who was also responsible for Hibiya Park.

Since the forest is considered sacred, there has been no human intervention since it was created. Nothing is added or taken away, and the plants must sustain themselves. When trees fall over they are left as they are, to return to the soil. Many new species, including some rare birds and insects, have made their home in the forest. Walking through it, there is always something new to discover whatever the season. The forest serves also to separate the sacred from the profane world. It is one of the most iconic and popular oases of greenery in Tokyo.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治神宮の本殿境内を囲んでいる神聖な杜は、自然林に見えるかもしれませんが、実際のところ、それは明治天皇と昭憲皇太后を称えて、11万人のボランティアの手作業により、植樹されたものです。70ヘクタールの敷地内には現在、日本各地から奉納された234種類の異なる品種の木があります。これらはすべて、100年後、200年後にどのように育っていくかを想定して選ばれた一方、1920年の植樹直時も自然な景色となるよう配慮がなされました。このプロジェクトは本多静六博士(1866年～1952年)が率いたもので、同博士は日比谷公園の設計案も担当した人物です。

神聖な杜とされているために、誕生以来ここは人による介入は行われておりません。加えられたものも除かれたものもなく、植物は自然のまま保たれなければなりません。倒れた木々は土に還るようにそのまま放置されています。静かな杜を歩けば、季節を問わず異なる新しい何かに出会えるでしょう。その境界は同時に、聖域と世俗の間の垣根としても機

能しています。ここは、東京で最も象徴的な緑地の一つと見なされている場所です。

本事業以前の英語解説文  
なし

# 511

No.2 Minami Sando Entrance

<明治神宮、東京>

【施設名】 南参道入口  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

Meiji Jingu is one of the largest shrines in Tokyo. It enshrines the deified spirits of Emperor Meiji (1852–1912), the 122nd Emperor of Japan, and Empress Shoken (1849–1914) as *kami*, Shinto deities. The Emperor Meiji reigned from 1867 to 1912, during one of the most dramatic periods in Japanese history. After the end of the feudal era, control of government was returned to the Emperor in 1868, and the modernization of Japan began. The shrine was dedicated in 1920, after the passing of the Emperor in 1912 and the Empress in 1914. Meiji Jingu receives the most people of any shrine in Japan for *hatsumode*, the first shrine visit of the New Year.

On the way to the main shrine buildings deep within the sacred forest there is a beautiful Japanese garden, which includes an iris garden. The iris garden was a favorite spot of Empress Shoken, and the visits of the Imperial couple to the iris garden was the reason for this area being chosen as the site of Meiji Jingu.

The shrine is open daily from sunrise until sunset, and entry to the shrine precincts is free. Entry into the garden, however, requires a ¥500 donation for its maintenance. Last entry is around 30 minutes before sundown.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治神宮は東京で最も大きな神社のひとつです。122代目の天皇である明治天皇と昭憲皇后を祭神（霊、魂）として祀っています。明治天皇は、1867年から1912年までの日本の歴史の中で最も劇的な時代を治世しました。封建時代の終了後、王政は1868年に明治天皇の元に戻り、日本の近代化が始まりました。神宮は、1912年に天皇が、1914年に皇后が亡くなられた後、1920年に完成しました。明治神宮は初詣（一年の最初の神社への参拝）をする場としても最も多く人が集まります。

ここから明治神宮の神聖な森を歩いて本殿に向かう途中には、美しい菖蒲田もあります。ここにあった菖蒲の庭園を昭



憲皇后がお好きだったため、天皇皇后が亡くなられた後、明治神宮を建てる場所としてここが選ばれました。

明治神宮は毎日、日の出から日の入りまで開園しており、境内への入場は無料です。中にある御苑への入場料は御苑維持協力金として 500 円です。最終入場時刻は日の入りの 30 分ほど前となります。

本事業以前の英語解説文

なし

# 512

No.3 First Torii Gate

<明治神宮、東京>

【施設名】 第一鳥居  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

A *torii*, which is a gate that consists of two pillars topped with a double lintel and a tie beam, marks the entrance to a shrine, separating the sacred world from the secular. This *torii* is in the *myojin* style, which is differentiated by a curved upper lintel and a long tie beam.

There are three sixteen-petal chrysanthemum-shaped crests decorating the upper lintel. The chrysanthemum crest is the crest of the Imperial Family and indicates the connection between the Imperial Family and Meiji Jingu. The crest has been incorporated throughout the shrine grounds, for example in the design of the lanterns.

This is the first of three *torii* along the *Minami sando* approach to the main shrine. You will see people bowing to show respect when they pass under a *torii* as they enter and leave the shrine precincts.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

笠木と島木が上に乗る 2 つの柱から構成される門である鳥居は、神社への入り口で、つまり神聖と世俗の境界線です。明治神宮の一の鳥居は明神式で、湾曲した上方の笠木と長い島木が特徴です。

島木には 16 の花びらからなる菊の紋章が 3 つ施されています。これらは明治神宮と皇室とのつながりの印です。というのも、菊の御紋は別名皇室の御紋としても知られており、皇室の紋章だからです。灯籠などの様々なものにも、この紋章が組み込まれているのがわかります。

この鳥居は南参道から本殿へと続く途中にある三つの鳥居のうちの一つ目のものです。鳥居を潜る前後に、尊敬の印としてお辞儀をする人々を見かけることでしょう。

## 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 明治神宮ミュージアム

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The Meiji Jingu Museum was built in 2019 to mark the 100th anniversary of the founding of Meiji Jingu. It was designed by architect Kuma Kengo, who also designed Tokyo's New National Stadium. Wood is an important feature of Kuma's designs, and this museum is no exception. It is located inside the forest, adjacent to the Shinkyo bridge and just off the *Minami sando* approach to the main shrine.

The building was designed to blend in with its surroundings as much as possible. The roof, which is inspired by falling leaves, gives the impression of lightness. The vertical louvers, or wooden shutters, combined with the glass behind merge the museum into its natural surroundings.

The museum displays articles used by or associated with Emperor Meiji (1852–1912) and Empress Shoken (1849–1914) in 3,200 square meters of display space spread over two floors. The museum holds exhibitions that aim to deepen understanding of Meiji Jingu and Japanese culture.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

2019 年秋にオープンする明治神宮ミュージアムは、明治神宮の鎮座百年祭記念事業の一環として設計されました。東京の新国立競技場も設計した有名な建築家である隈研吾氏によるものです。隈氏の作品は木材の使用で知られていますが、このミュージアムも例外ではありません。境内の森の中に建てられ、神橋に隣接し、南参道の直ぐ側です。

建物は全体が可能な限り周囲の森とシームレスに融け込むように設計されました。屋根は空に散る木の葉にインスパイアされ軽やかな印象を与えます。また垂直ルーバー（木製のシャッター）は裏側のガラスと相まって、このミュージアムを自然の一部のように感じさせています。

2つの階と3,200平方メートルに広がるこのミュージアムは、明治天皇と昭憲皇太后の遺品を展示します。また、訪問

者が明治神宮や日本文化をより深く理解するための展示会も開催します。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】葡萄酒樽

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

During his reign, Emperor Meiji (1852–1912) was keen to adopt Western culture and constructs, while maintaining Japan's age-old traditions. Japanese society followed the Emperor's lead in his adoption of Western technologies and traditions.

The Emperor loved Western cuisine and wine. In memory of Emperor Meiji and his love of French wine, a number of famous wineries in the Bourgogne region of France each donated a barrel of wine to Meiji Jingu in 2006. Wine donated from Burgundy is now offered to the shrine every year.

These barrels are a symbol of the strong intercultural ties enjoyed by France and Japan. They are donated in the expectation of the continued enjoyment of a long and fruitful relationship between the two countries, and with profound gratitude for the spirit of friendship and for world peace.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治天皇は治世中、日本の古来の伝統を保ちながらも、日本の西洋文化や建築を取り入れようとしていました。彼による西洋の技術と伝統の採用は、模範とみなされ、社会の人々が彼の例に倣いました。

彼は西洋料理やワインが大好きでした。この事実を記念して、2006年にはフランスのブルゴーニュ地方の有名な複数のワイナリーが、明治神宮にワインを1樽寄付しています。ブルゴーニュ家からは毎年ワインの奉納がなされます。

これらの樽はフランスと日本の強い文化的つながりの象徴とも考えられています。フランスと日本が今後も長年の有益な交友関係を楽しむことを心から期待し、世界の平和と友好の精神への深い感謝を込めて寄付されているのです。

#### 本事業以前の英語解説文

Provenance of the Bourgogne Wine for Consecration at Meiji Jingu

By gaining the good and rejecting what is wrong. It is our desire that we'll compare favourably With other lands  
abroad.

- Poem by Emperor Meiji

The Meiji period was an enlightened period during which a policy of "Japanese Spirit and Western Knowledge" was adopted, to learn from the best of Western culture and civilization while keeping Japan's age-old spirit and revered traditions. Emperor Meiji led the way in promoting modernization by embracing many features of western culture in his personal life, such as shearing his topknot and donning western attire, and in many other aspects of daily living. Among these departures, His Majesty set an example by taking western food and in particular by enjoying wine with it.

The barrels of wine to be consecrated at Meiji Jingu have been offered by the celebrated wineries of Bourgogne in France on the initiative of Mr. Sata Yasuhiko, Representative, House of Burgundy in Tokyo, Honorary Citizen of Bourgogne and owner of the Chateau de Chailly Hotel-Golf. Profound gratitude is due to the winemakers who have so generously contributed to this precious gift to be consecrated here to the spirit of world peace and amity, with the earnest prayer that France and Japan will enjoy many more fruitful years of friendship.

Meiji Jingu

【施設名】 清酒菰樽  
 【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Emperor Meiji (1852–1912) encouraged the technological development of many domestic industries, including the sake production industry, as part of the modernization of Japan. These straw-covered sake barrels are offered to Meiji Jingu annually by the members of the Meiji Jingu Nationwide Sake Brewers Association. The brewers make this donation to show their deep respect for the enshrined souls of Emperor Meiji and Empress Shoken (1849–1914). The barrels, which are decorative and empty, are offered to the *kami* deities along with the sake in bottles.

Sake plays an important role in Shinto. It is considered to be one way to connect people and the *kami*. While sake is normally called *nibonshu* in Japanese, the sake used at shrines is referred to as *miki* or *omiki*, written with the Chinese characters for ‘*kami*’ and ‘alcohol’. *Omiki* is offered daily to the *kami*, and distributed to followers after rituals and festivals held at the shrine.

The juxtaposition of wine and sake at Meiji Jingu is symbolic of the culture of the Meiji period. Led by the efforts of Emperor Meiji, the combining of overseas influences with Japanese traditions was a key aspect of this period.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

日本の近代化を促進するために、明治天皇は様々な国家産業を奨励されました。特に、それらの産業の技術振興に力を入れられました。酒の醸造産業もその1つです。この藁で巻かれた飾り樽は、明治神宮全国酒造敬神会に所属する全ての醸造所から、明治神宮に祀られている明治天皇と昭憲皇太后の御霊に深く敬意を表するものとして、毎年献納されています。中身が入っていない樽はボトルに入った酒とともに神に奉納されます。

酒は神道で重要な役割を持っています。酒は人と神との懸隔の橋渡しをする、一つの方法として考えられているからです。酒は日本語では通常「日本酒」として知られていますが、神社で使われる米酒の名前は「神酒（みき）」や「御

神酒（おみき）」で、「神」と「酒」の文字を使って書かれます。御神酒は神に捧げるものとして一般的に使われており、さまざまな神社の儀式や大きなお祭りの際に信者に配られるのにも使われます。

明治神宮で見られる清酒とワインの対は明治時代の文化を象徴しています。明治天皇の努力により、外国からの影響を日本の伝統と組み合わせることはこの時代の重要な側面でした。

#### 本事業以前の英語解説文

##### Barrels of Sake Wrapped in Straw

During the Meiji Era, Emperor Meiji, whose divine soul is enshrined here at Meiji Jingu, led the industrial growth and modernization of Japan by encouraging various industries and supporting technological development.

Due to their grace and virtue, Emperor Meiji and his consort, Empress Shoken, the beloved mother of our nation whose soul is also enshrined here, are held in the highest esteem by the Japanese people.

These sake barrels are offered every year to the enshrined deities by members of the Meiji Jingu Zenkoku Shuzo Keishinkai (Meiji Jingu Nationwide Sake Brewers Association) including the Kotokai, which has made offerings of sake for generations, as well as other sake brewers around Japan wishing to show their deep respect for the souls of Emperor Meiji and Empress Shoken.

In addition to stating our humble gratitude to all of the brewers who have so graciously donated their sake, we also pray for the continuous prosperity of the sake brewing industry and all the other industries maintaining Japan's traditional culture.



【施設名】大鳥居（第二鳥居）

【整備予定媒体】看板

#### できあがった英語解説文

This *torii* is the largest wooden *myojin* style *torii* of its kind in Japan, standing 12 meters tall and 17.1 meters wide. Each pillar is 1.2 meters in diameter, and together the two pillars weigh 13 metric tons. The *torii* is built in the same style as the first *torii* at the southern entrance, with curved upper lintels. It is located at the intersection of the northern and southern approaches to the main shrine, and is also known as the *ootorii* or 'large torii'. This *torii* has come to symbolize Meiji Jingu for many because of its impressive size.

The original *ootorii* was built in 1920 from a 1,200-year-old Japanese cypress from the Alishan Mountain Range in Taiwan. Unfortunately, it was destroyed by lightning in 1966. The current *ootorii* was made from a 1,500-year-old Japanese cypress.

The tree that provided the wood for this *torii* was found on a hillside on the Danda Mountain in Taiwan by a Tokyo-based timber merchant. The merchant had vowed to help rebuild the *torii* after the original was destroyed by lightning in 1966, in order to thank the *kami* for protecting his business. Since no tree of the right size could be found in Japan, he visited Taiwan many times in search of just the right tree. With considerable help from many people, the tree was finally cut down and transported to Meiji Jingu. The new *torii* was completed on December 23, 1975.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この鳥居は木造の「明神鳥居」で、高さ 12 メートル、幅 17.1 メートルあり、この種の鳥居としては日本最大のもので、1本の柱の直径は 1.2 メートルで、構造全体の重量は 13 トンあります。南神門の第一鳥居と同じく明神様式で建てられており、最上部に反りのある笠木が付いています。北参道と南参道が合流地点、本殿へと続く正参道の入口となっており、「大鳥居」と呼ばれています。大きさが目立つことから、この鳥居が明治神宮を象徴する建物の一つとされ

ることもよくあります。

元の大鳥居は、1920年に台湾の阿里山山脈の樹齢1,200年の檜（ヒノキ）を使って建立されました。残念ながら、元の鳥居は1966年に落雷によって破壊されてしまいました。現在の大鳥居は、樹齢1500年の檜から作られました。

現在の鳥居の檜そのものが、台湾の丹大山の山腹で、東京で材木商を営む篤史家によって発見されたものです。彼は、元の鳥居が1966年に落雷で破損した後、鳥居再建のお手伝いをするを誓いました。商売をご加護してくれていた神に感謝するためです。同じ仕様の木を日本国内で見つけるのが難しいとわかったと、氏は正しい木を探して何度も台湾を訪れました。多くの人々の助けを借りてやっと元の場所から切り出され、明治神宮に運ばれ、1975年12月23日に遂に完成の日を迎えました。

#### 本事業以前の英語解説文

OTORII (THE GRAND SHRINE-GATE)

THIS IS THE BIGGEST WOODEN “TORII” OF THE MYOJIN STYLE IN JAPAN, REBU-ILT AND DEDICATED BY A PIOUS BENEFACTOR ON DECEMBER 23, 1975, AND MODELED BOTH IN FORM AND SIZE EXACTLY AFTER THE ORIGINAL BUILT IN 1920, THE MATERIAL WOOD USED IS “HINOKI” (=JAPAN CYPRESS), 1,500 YEARS OLD FROM MT. TANDAI-SAN TAIWAN.

HEIGHT: 12m

LENGTH OF CROSSPIECE: 17m

DIAMETER OF EACH PILLER: 1.2m

LENGTH OF UNDERCROSSPIECE: 15.5m

DISTANCE BETWEEN THE TWO PILLARS : 9.1m

# 517

No.8 Meiji Jingu Inner Garden

<明治神宮、東京>

【施設名】明治神宮御苑

【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

The Meiji Jingu Gyoen, or Inner Garden, is the only part of Meiji Jingu to predate the shrine. It is a peaceful and beautiful garden with a wide variety of flowers. It has a teahouse, a pond, and a picturesque thatched square gazebo. Kiyomasa's Well, which is a popular attraction, is at the far end of the garden.

The garden belonged to the feudal lords of the Kumamoto domain in Kyushu in the Edo period (1603–1867). It became the Yoyogi Gyoen Imperial Garden in the Meiji period (1868–1912) after the feudal system was abolished. The iris garden within Meiji Jingu Gyoen, with its large selection of Japanese irises, was a favorite place of Empress Shoken (1849–1914), which is why it was decided to build Meiji Jingu here to enshrine the Emperor and Empress.

The wide variety of plant and animal life means that there is something to see in the garden throughout the year. The garden is most famous for its irises which are in full bloom in June, but there are golden Japanese roses which flower from mid-March, azaleas in April, lotus flowers from June to September, and the autumn foliage which is beautiful in late November. There is also a variety of birdlife year round.

The garden is open daily.

Hours:

Mar–Oct 9 a.m. – 4.30 p.m.

June 8 a.m. – 5 p.m. (Sat & Sun until 6 p.m.)

Nov–Feb 9 a.m. – 4 p.m.

Donation for maintenance: ¥500

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治神宮御苑は、明治神宮の境内で唯一神社建立以前から存在する場所です。様々な種類の花が見られる美しく平穏な庭園です。茶屋、池、四阿（あずまや）もあります。庭園の一番奥には、清正井（きよまさのいど）があり、人気のある場所です。

御苑は江戸時代には熊本藩主加藤家の私庭として利用されており、明治時代は代々木御苑と称されておりました。また、ここには菖蒲田もあり、昭憲皇太后が最も愛された場所のひとつあり、この場所が、天皇皇后両陛下をお祀りする神社建立の場所として選ばれたのです。

多種多様な植物や動物が生息しており、年中何か見どころがある御苑です。6月には菖蒲が満開になる時期で最も有名ですが、3月中旬からはヤマブキ、4月はツツジ、6月から9月は蓮の花、そして11月下旬は紅葉の季節、と、見どころたっぷりです。また、鳥類も一年を通して様々な種類が見られます。

庭園は年中無休です：

#### 開苑情報

3月～10月 9時～16時半

6月 8時～17時（土曜と日曜は18時まで開苑）

11月～2月 9時～16時

御苑維持協力金：500円

#### 本事業以前の英語解説文

#### MEIJI JINGU GARDEN

This Garden was originally part of compounds of a dainyo yashiki (a feudal lord's mansion" owned by the hs. Since the beginning of the Meiji Era (1868~) it became the Imperial estate and was put improvements into by the order of His Majesty the Emperor Meiji. Her Majesty the Empress Shoken as well as His Majesty frequented this historic place. It spreads 83,000 square meters with the reminiscences of Musashino fields. In it there are spots of interest, such as Kakuuntei (a tea house). Otsuridai ( a fishing platform). Azumaya (a resting house), Minamiike (a pond), Shobuda (an iris field) and Kiyomasaiso (a well), each of which never fail to attract you through the year whenever you visit, especially at the changes of the four seasons. Among the glamorous groups of flower, irises in June is the best to observe , which the late Her Majesty cherished a deep affection for.

# 518

No.9 Kakuun-tei

<明治神宮、東京>

【施設名】隔雲亭

【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

This rest house was constructed for Empress Shoken (1849–1914) as a gift from Emperor Meiji (1852–1912). It is built in the *sukiya zukuri* architectural style and incorporates refined touches inspired by teahouses. The original building was erected in 1900 but lost to firebombing during World War II. It was reconstructed in 1958.

The Kakuun-tei overlooks a lawn planted with azaleas and has a view of the *Nanchi* south pond, which was a favorite spot of the Empress. The Empress always rested here in the Kakuun-tei after spending time on the lawn or after fishing.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この御休息所は、明治天皇から昭憲皇太后への贈り物として建てられました。様式は数寄屋造りで、これは茶室にヒントを得た洗練された建築手法を取り入れていることを意味します。元の建物は1900年に建てられましたが、第二次世界大戦時に焼失しました。現在の建物は1958年に再建されたものです。

隔雲亭からは多くのツツジが植えられた芝地が一望でき、昭憲皇太后のお気に入りの場所・南池もよく見えます。皇太后は芝地や御釣台で時間を過ごした後、ここでいつも休憩をしていました。

## 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】南池と御釣台

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The serene south pond was a favorite place of Empress Shoken (1849–1914). It is around 8,000 square meters, and its source is the nearby Kiyomasa's Well. In early summer, the pond is full of water lilies, in autumn, it is covered with colorful leaves, and in winter, waterfowl swim in it. Kingfishers and several species of herons may be seen here throughout the year.

One of the best views is from the top of the lawn, just in front of the teahouse, which affords the most comprehensive view of the garden. Toward the pond and iris garden, there are benches for visitors wishing to contemplate the scenery.

Japanese rice fish, various types of carp, and turtles live in the pond. The *otsuri dai*, or fishing platform, was constructed by order of the Emperor for Empress Shoken, who enjoyed fishing at this spot.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この静かな池は昭憲皇太后のお気に入りの場所でした。面積は約 8000 平方メートルで、水源は近くの清正井（きよまさのいど）です。初夏には睡蓮が咲き乱れ、秋には色とりどりの葉で覆われ、冬の間はカモなどが水面を泳ぎます。この池ではサギやカワセミも一年を通して見られます。

芝地の一番上、茶室の前からの眺めはトップクラスに美しく、その場所からは全てがよく見えます。池端や菖蒲田の方には、来苑者が風景をじっくり眺められるベンチがあります。

池の中では、メダカ、様々なコイ、カメなどが泳ぎ回っています。そのほわりには御釣台があります。御釣台は明治天皇の命で昭憲皇太后のために設けられたもので、皇太后はこの場所で釣りを楽しみました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】菖蒲田

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

The iris garden located to the northwest of the south pond is arguably the most famous part of Meiji Jingu Gyoen. It was originally rice fields in the Edo period (1603–1867). The garden was planted on the request of Emperor Meiji (1852–1912) for Empress Shoken (1849–1914) in 1893. Approximately 80 varieties of irises were planted in the paddy fields which are irrigated by water from Kiyomasa's Well nearby. The garden now has more than 1,500 Japanese iris plants of 150 different types, which reach full bloom in June.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

南池のちょうど北西に位置するこの菖蒲田は、間違いなく明治神宮御苑で最も有名な場所です。もともと、江戸時代（1603～1867）には水田として使用されていました。庭園となったのは1893年、昭憲皇太后のためという明治天皇の意向によってのことでした。この時、近くの清正井（きよまさのいど）から水を引き、約80種類の様々な菖蒲が植えられました。今では、毎年6月になると花菖蒲150種超・計1500株超が満開となります。

本事業以前の英語解説文

なし



# 521

No.12 Kiyomasa's Well

<明治神宮、東京>

【施設名】清正井  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

This well is said to have been dug by Kato Kiyomasa (1562–1611), a great feudal lord whose lands were in Kumamoto in Kyushu. During the Edo period (1603–1867), the clan had a residence near here. The steady flow of water is a constant 15 °C year round. Water from the well irrigates the iris field, then passes through the *Nanchi* south pond, exiting through a sluice gate and passing the *Minami sando* below the bridge, before emptying into the Shibuya River. The crystal-clear waters of this well are considered a sacred spot with great positive spiritual powers.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この井戸を掘ったのは九州の熊本県に土地を持った領主、加藤清正だと言われています。彼の藩は、江戸時代（1603～1867）にこの地域周辺に居を構えていました。この井戸からは一年中絶え間なく水が湧き出ていますが、水温は15度と一定しています。この井戸の水は菖蒲田に引かれ、南池を通り、さらに水門を抜けて南参道の橋の下をくぐり、最後は渋谷川へと注ぎます。澄み切った水を湛えるこの井戸は、強いプラスのスピリチュアルパワーがある神聖な場所だと考えられています。

## 本事業以前の英語解説文

なし

# 522

No.13 Masugata, Special 88-degree Corner

<明治神宮、東京>

【施設名】枅形

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

This corner, which is the last right turn before the main shrine, may appear to be a 90 degree right angle but is actually an 88-degree angle. In Japan, the number 8 is a lucky number, because the Chinese character for it “八” spreads out at the base, suggesting prosperity. A degree of 88 is thus particularly auspicious. During the Warring States period (1467–1568), castle gates, and roads in castle towns would often feature this *masugata* right angle, which was a defensive feature used to slow down an attacker.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本殿直前の右へ曲がるこの角は 90 度に見えるかもしれませんが、実は 88 度です。日本では 8 は、漢字で書くとすそ広がりなので、繁盛を諭旨するとされます。なので 88 度は特に特に縁起が良いとされています。戦国時代（15 世紀後半～16 世紀後半）に、城の門や城下町の道ではよくこの枅形が起用されていましたが、敵への防衛力を高めるためでした。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】手水舎  
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

When entering a shrine, visitors purify themselves ritually before proceeding toward the main sanctuary. This is done at a *temizuya*, ritual purification building. There are ladles provided so that you can wash your hands and cleanse your mouth. Everyone, regardless of faith, is welcome to participate.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神社に入る際には、拝観者は本殿へ進む前に、ある儀式を行って自らを清めることが求められています。これは手水舎というこの儀式を行う施設で行われます。ここには柄杓が置いてあるので、それを使って手を洗い、口とそそぎます。信仰にかかわらず、誰もが行うことが歓迎されています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】手水舎  
 【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Ritual purification

Before performing the ritual following the instructions below, first calm your mind.

- Fill a ladle with water from the basin.
- Pour a little of the water over your left hand.
- Switch the ladle to your left hand and pour a little water over your right hand.
- Switch hands again, cup your left hand and pour some water into it to cleanse your mouth.
- Rinse your mouth with the water in your left hand, and spit it out into the drainage—not into the basin.
- Rinse your left hand again.
- Raise the ladle vertically so that the remaining water pours down the handle to clean it for the next person, and return it to the basin.

Please do not drink directly from the ladle, and do not throw coins into the water.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

手水舎での手水を以下の通り行う前に、穏やかな心で臨むようにしましょう。

柄杓で水を汲む

少量の水で左手を洗う

柄杓をもちかえ右手を洗う

また柄杓をもちかえ、口をゆすぐために左手に少々の水を注ぎます。

左手から水を少し啜り、口を漱いでから床へと吐き出す（手水鉢には吐かないこと）

再び左手を洗う

柄杓を縦にして残りの水で柄杓を次使う人のために綺麗にし、元の位置へと戻す。

柄杓に口を直接つけることや、硬貨を水に投げ入れることは慎んでください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】古神符納礼所

【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

*Omamori*, the lucky charms available at shrines, are usually returned once they have served their purpose, or if they are more than a year old. This is usually done over the New Year and before receiving a new one. As *omamori* are considered sacred items, disposing of them in the trash is discouraged. Instead, shrines set up boxes such as this one for believers to return their *omamori*, household *ofuda* (amulets), and decorative arrows. Returned items are then burned in a sacred fire.

Please note that this box may only be used for returning used amulets and talismans, and is not for rubbish.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

神社で買った幸運のお守りは、目的が達成された場合や、1年以上が経過した場合には、普通は神社へと返されます。これは普通、年始頃に新しいお守りを購入する前に行われます。お守りは「聖なる品」と考えられているため、お守りをゴミ箱へと捨てる行為はやめましょう。そのかわり、神社は信者がお守りや家の御札や破魔矢などを返却するための箱を用意しており、後にそれらはお炊き上げの火で焼かれることになります。

この箱は古くなったお守り類を返却するためにのみ用意されているもので、ゴミや神社に関係のない品物を入れてはいけないことにご注意ください。

本事業以前の英語解説文

なし

# 526

No.17 Minami Shinmon, Main Gate

<明治神宮、東京>

【施設名】南神門  
【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

This gate is the most important of the three gates that open onto the main shrine complex, and is the main entrance. The importance of this entrance is reflected in the gate's being a two-story building, whereas the other two gates are single story. The gate was built in 1920 when Meiji Jingu was dedicated, and is one of the few structures to have survived the air raids of World War II. The gate is made from Japanese *hinoki* cypress, roofed with copper.

If you look closely, you will see small heart-shaped patterns carved into the ornamental metal fittings and woodwork. This is a design feature with ancient roots known as *inome* in Japanese. Today, the Chinese characters for the word might be read as 'eye of the wild boar', but it also has the nuance of warding off fire. This was of particular importance when most structures in Tokyo were still made of wood.

When passing through the gate, be sure to step over the wooden beam, not on it. It is considered respectful to bow your head while passing through.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

南神門は本殿の建物に通じる門の中で最も重要な門であり、主要入口でと見なされています。南神門は他の2つの門のように1階建てではなく2階建てであることで識別できます。南神門は明治神宮の鎮座祭があった1920年に建立され、第二次大戦の空襲によって失われなかった建物です。日本のヒノキと銅板で作られています。

近づいて見ると、飾り金具と木造部の中に小さなハート型の文様があることに気づくでしょう。これは古い日本語で「猪の目」と呼ばれる古来の文様です。今日の漢字表記ではこの単語は「獣の目」と読むことができますが、実際にはこの言葉には火除けという意味合いがあります。この建物は東京のほとんどの建物が木造であった頃、とても重要なものでした。

門を通る時には、木の横材を踏まずに通るように気をつけましょう。また、通過する際に頭を下げるのが礼儀正しいとされています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】夫婦楠

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

This pair of camphor trees is known as *Meoto Kusu*, or 'husband and wife camphor trees'. They are joined by a rope called a *shimenawa*, which signifies their sacred connection. The *shimenawa* in Shinto is used to indicate sacredness, and also wards off evil spirits.

These two trees were planted as saplings when Meiji Jingu was established in 1920, and have been growing here side by side ever since. Hence they are seen as a symbol of a happy, solid marriage like that of Emperor Meiji and Empress Shoken, and of a healthy family. The trees are a popular spot for people searching for a partner, and for those looking for success in marriage.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この一對のクスノキは、夫婦楠と呼ばれています。2本の樹は注連縄と呼ばれる縄で結ばれており、神聖な繋がりを意味しています。神道では注連縄は神聖さを表すものであると同時に悪霊を祓う役割も果たしています。

夫婦楠は明治神宮が建立された1920年に植えられ、それから現在の大きさにまで成長してきました。両御祭神は大変仲睦まじかったこともあり、夫婦楠は幸福や揺るぎない結婚生活、家族の健康などの象徴と見なされています。それに加え、この夫婦の樹は恋愛運や結婚の成功を求める人々に人気のスポットともなっています。

#### 本事業以前の英語解説文

These camphor trees, planted in 1920 at the time of the enshrinement of Meiji Jingu, have grown under the protection of the deities to become huge and vivid, and are considered to be sacred.

Well known as “Meoto Kusu” or Husband and “wife”, the coupled trees have become a symbol of happy marriage and harmonious life within the family.

May happiness be brought to you through the divine power of these trees.

【施設名】 本殿

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The *honden* main shrine is the most sacred building in the Meiji Jingu shrine. The inner sanctum is at the heart of the main shrine, and is where the *kami* deities are enshrined. Many rituals are carried out daily inside the inner sanctum, including the offering of sacred food and prayers known as *onikekusai*, which is held at 8 a.m. and 2 p.m. every day.

The *honden* and the buildings around it are of Japanese cypress wood, while the roofs are clad with copper. The timber used is mainly from Kiso in Nagano Prefecture, a district famous for the cultivation of large Japanese cypress trees.

The main shrine is built in the *nagare zukuri* style, which is a popular style of shrine architecture found throughout Japan. In this style of architecture, the roof at the front of the shrine is much longer than at the back, as the front roof is extended to cover the steps up to the shrine building.

The structures of the *honden* include the *noritoden* or Shinto prayer recital hall, the *naibaiden*, inner shrine hall, and the *gebaiden*, or outer shrine hall. The *gebaiden* is at the front of the shrine, and is where visitors pray.

The main shrine building was originally completed in 1920, but was burnt down during the air raids at the end of World War II. The present building was completed in 1958. For reasons of fire proofing, copper was used for the roofs of the new buildings rather than the tree bark which had been used for the original buildings.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

本殿は明治神宮の中で最も神聖な建物です。本殿には明治神宮の最深奥の聖所が収められており、神霊が祀られています。内部では神宮によって様々な祭儀が執り行われています。中には、日々の御神饌を奉納し祈禱を捧げる御日供祭もあり、毎日午前 8 時と午後 2 時に執り行われています。

本殿とその周囲の建物は日本のヒノキで作られており、屋根は銅でできています。使用されているヒノキの多くは、日本でも多くヒノキを産出している長野県の木曽のものであります。

本殿は流造様式で造られており、このスタイルは日本で作られた人気のある神社の建築様式です。このスタイルの建物では、正面の屋根は神社の建物までの階段を覆うように屋根が伸びており裏側の屋根よりはるかに長いです。

本殿の周囲には前に向かって、祝詞殿、内拝殿、外拝殿があります。外拝殿は神宮の正面にあり、拝観者がお参りする場所です。

本殿は元 1920 年に建立されましたが、第二次大戦の戦火によって焼失しました。現在の建物は 1958 年に完成したものです。

防火の理由から、新しい建物には元の建物に使用されていた木の樹皮ではなく、銅が使用されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 本殿  
【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

Worshippers at the shrine place monetary offerings into the large box with wooden slats. This is a relatively new introduction at shrines. In the past, the bounty of the sea and land, such as rice, would be offered to the *kami*. This was also a way of expressing gratitude for harvests. As the use of currency spread, money also started to be offered at shrines instead of rice.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

参拝者は賽銭を木のスラットが付いた大きな箱の中に入れます。これは神社で比較的新しく導入されたものです。以前は、米などの海と土地の恵みが神に納められていました。また、週確認感謝する気持ちも込められておりました。通貨としてのお金の使用が広まるにつれて、お金は米の代わりに神社でも納められるようになりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 本殿  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

Everyone is welcome to pray at Meiji Jingu. Please follow these steps:

1. Place a coin offering into the offertory box
2. Bow deeply twice
3. Stretch your hands out to chest level and slowly clap twice
4. On the second clap, put your hands together in prayer and pray silently
5. Bow deeply once again

There is no recommended offering amount. It is the act of reverence which is important.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

誰でも参拝することができます。次の順序に従ってください。

お賽銭箱にお賽銭を入れます

2回深いお辞儀をします

胸の高さに手を持ってき、ゆっくりと2回手を叩きます。

最後の拍手の際には両手を合わせ静かに祈ります。

もう一度深くお辞儀をします。

礼拝の行為自体が重要であるため、投入する金額は関係ありません。

## 本事業以前の英語解説文

なし

# 531

No.22 Vehicle Purification

<明治神宮、東京>

【施設名】車のお祓い  
【整備予定媒体】看板

できあがった英語解説文

This covered parking spot is used for vehicle purification rituals. When a car or other vehicle is brought here, a shrine priest will perform a ritual to ward off bad luck, and pray for safe driving free of accidents. People normally do this when they buy a new car.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

この屋根の付いた駐車スペースは車のお祓いに使用されます。神社に自動車その他エンジン付きの車両を持っていくと、神主が厄を除け、事故のないよう安全を祈願するための特別な儀式を行います。新車を購入した際にお祓いを受けることが多いです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】 授与所

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Amulets known as *omamori* and protective talismans known as *ofuda* are available here. There are *omamori* for traffic safety, health, or success in education. Meiji Jingu also offers the *sowa mamori*, a special *omamori* for luck in love, infused with the aroma of camphor trees and inspired by the *Meoto Kusu* husband and wife camphor trees. *Omamori* are usually attached to or put into a bag, purse or pocket, and kept until they have fulfilled their purpose. The amulets should not be opened.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

授与所ではお守りやお札を受けることができます。お守りは安全や健康、学業等、の願いに対応しています。明治神宮では相和守という、夫婦楠にあやかり境内の楠の芳香をしみこませた夫婦のお守りを授与しています。お守りは通常、願いが成就するまでカバンやポーチ、ポケット等に取り付けたり入れたりして使われます。お守りは開封しないようにしましょう。

#### 本事業以前の英語解説文

なし



# 533

No.24 Omikuji and Omigokoro

<明治神宮、東京>

【施設名】 授与所  
【整備予定媒体】 看板

## できあがった英語解説文

Most shrines in Japan offer *omikuji*, or fortune-telling strips. Detailed fortunes which range from very good luck to very bad luck are written on them. The *omikuji* at Meiji Jingu, however, are known as *omigokoro*. Rather than regular fortunes, they contain one of 30 different poems. These poems were composed by Emperor Meiji (1852–1912) and Empress Shoken (1849–1914) in the *tanka* poetry style of 5-7-5-7-7 syllables.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

ほとんどの神社ではおみくじを引くことができます。運勢は大吉から大凶まで詳細に分かれています。しかし明治神宮のものは「大御心」として知られています。通常のおみくじと異なり、30首の和歌が書かれています。これらは明治天皇・皇后により詠まれた五・七・五・七・七の短歌形式のもので、解説文が入っています。

## 本事業以前の英語解説文

OHMIGOKORO

A WAKA POEM CARD COMPOSED BY EMPEROR MEIJI OR EMPRESS SHOKEN

Emperor Meiji wrote about 100,000 Waka and the Empress about 30,000 Waka, which are not only excellent literary works but also constitute as significant teachings to enhance the national moral character. Meiji Jingu has chosen fifteen Waka each from among their compositions in order to provide visitors and worshippers with the divine grace of the Imperial couple in the form of *Omikuji* oracles. 100 Yen.

# 534

No.25 Ema honosho/kinyusho, Votive Tablet Rack and Writing Desk

<明治神宮、東京>

【施設名】絵馬奉納所 記入所

【整備予定媒体】看板

## できあがった英語解説文

*Ema*, or votive tablets, are wooden plaques with a picture specific to the shrine on one side, and a blank space for writing a message of gratitude or prayer on the other. They are available at the *juyosho* amulet office for ¥500 and decorated with either a Meiji Jingu crest or, over the New Year period, the zodiac animal for that year.

The word *ema* literally means ‘picture of a horse’, and dates back to ancient times when devotees would donate horses to shrines. Over time pictures of horses came to replace actual horses, and further developed into the *ema* of today.

Messages written on *ema* can be anything from pledges to the *kami* to expressions of gratitude, aspirations for the year, or other heartfelt messages. Messages can be written in any language and by anyone, regardless of faith. Once you have written yours, please hang your *ema* on the votive tablet rack, which surrounds a camphor tree. The *ema* are offered by the shrine priests to the *kami* at the *mikesai*, held every morning. The tablets are eventually burned in a ritual fire.

## 上記解説文の仮訳（日本語訳）

絵馬は片面には神社により異なる絵が入り、もう片面にはお礼や願い事を書くための空欄が設けられた木製の板片です。絵馬は授与所で¥500で授与されており、明治神宮の皇室ゆかりの菊紋かその年の干支の絵が入っています。

絵馬という言葉は「馬の絵」を意味し、古代には実際の馬を神社に奉納していたことに由来します。これは徐々に木片に馬の絵が描かれたものに置きかわり、現在目にする形になりました。

絵馬に書くメッセージは神様への誓いから新年の抱負、その他心に思うことまで、何でもよいのです。メッセージは何語でもよく、信仰も問わず誰でも書けます。書き終えたら楠の木の周りに設けられた絵馬掛けに掛けましょう。絵馬は毎朝行われる御饌祭で神主が祈祷します。やがてお炊き上げされます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】神楽殿  
【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

This building is the Kaguraden, where devotees can receive blessings or participate in Shinto rituals. *Kigansai* are held here regularly at 9.30 a.m. A *kagura*, or sacred music and dance performance called the *yamato mai*, which is unique to Meiji Jingu, is performed as an offering to the *kami*. *Kigansai* would include a baby's first shrine visit and a child's *shichi-go-san*, a celebratory occasion held in November for girls turning three or seven and boys turning five. *Kigansai* are also held to ward off evil, usually at a specific age (25 or 42 for men, 19 or 33 for women).

The building was completed in 1993 and has three floors, two of them underground. The main ceremony hall on the ground level can accommodate up to 800 people. Please note that entry to the Kaguraden is reserved for those taking part in a ceremony. Vermillion shrine seals or *goshuin* are available in the Kaguraden as a token of your visit to the shrine. These are usually entered into a *goshuincho*, a book dedicated to *goshuin*.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

この建物は神楽殿といい、信徒はここで祈祷を受けたり、神道の儀式を受けたりすることができます。午前9:30から祈願祭という儀式が定期的開催されます。祈願祭では神様への奉納として神楽という神聖な音楽の演奏と倭舞と呼ばれる明治神宮独特の踊りが繰り広げられます。祈願祭には、赤ちゃんのお宮参りや七五三（毎年11月に行われる、子どもが3歳・7歳（女の子）または5歳（男の子）になった時の行事）、または、通常は予め決められた年齢（男性の場合25歳または42歳、女性の場合19歳または33歳）で行われる厄祓いがあります。

神楽殿自体は1993年に完成し3階建てで、うち2階は地下にあります。儀式を行う願主席は1階にあり、最大800人の収容が可能です。神楽殿への入場は儀式に参加する人や、儀式への申し込みをする人に限られますのでご注意ください。御朱印は神楽殿で明治神宮へきた記念としていただけます。御朱印は通常御朱印帳に受け書いてもらうことができます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】北池と芝地  
【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The expansive *Shibachi* lawn is a quiet place to relax and enjoy nature, against the backdrop of the impressive contrast of the skyscrapers of Shinjuku in the distance.

Various species of ducks, including mandarin ducks, can be seen swimming on the Kita Ike, or North Pond, near the *Shibachi* lawn. For the annual *hina matsuri*, the doll festival or girls' festival celebrated on March 3 (the exact date of festivities may differ), the pond is used for the *nagashi hina* ritual. Dolls made from soluble paper are set afloat on the water. In this ancient tradition, impurity is ritually transferred to the paper doll and washed away.

Next to the pond is the *kame ishi*, literally 'turtle stone', after its likeness to the animal. Along with Kiyomasa's Well inside Meiji Jingu Gyoen, this is popularly considered to have strong positive spiritual connotations.

The lawn is part of the shrine grounds, so please relax and enjoy the view but remember that you are still within the shrine. Please dress and behave appropriately. The drinking of alcoholic beverages is not permitted here.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

芝地はリラックスして自然を楽しめる静かな場所です。遠くに見える新宿の高層ビルが素晴らしいコントラストを生んでいます。

芝地の近くにある北池ではオシドリを含む様々な種類のカモが一年を通して泳いでいます。毎年ひなまつりでは（3月3日の女児の祭り。行事の正確な日程は異なる場合があります）、流しびなという儀式のために北池が使用されます。人々は水に溶ける紙で作られた人形を水に浮かべます。この古代から続く伝統では、儀式での不純物は紙の人形に移され、洗い流されます。

北池のすぐ隣には亀石があります。これは、文字通り「亀の形の石」であり、亀に似ていることからそう名付けられました。明治神宮御苑内部にある清正井（きよまさのいど）と同じく、スピリチュアルな意味合いがあるとされています。

芝地は神社の境内の一部と見なされています。なので、リラックスしたり景色を楽しむことは自由ですが、神社内にいるということをお忘れなく。きちんとした身なりと行動を心がけましょう。飲酒は控えてください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】至誠館

【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

The Shiseikan is a *dojo* training facility for the martial arts (*budo*) such as *kendo*, *judo*, and *kyudo* (Japanese archery). Entry to the Shiseikan is limited to members only, but membership is open to anyone regardless of nationality.

Created to help those who want to learn *budo*, the facility was completed in 1973. It promotes moral education, since the martial arts cultivate both the body and the mind. In order to join classes and lectures at the Shiseikan, there are a number of Shinto rules to be followed, since the *dojo* is within the grounds of Meiji Jingu.

Traditionally martial arts training is not considered a spectator event, as it involves a strong mental component. In order not to break the concentration of those in training, please do not take photographs, either inside or from outside the building.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

至誠館という道場があり、剣道、柔道、弓道（日本式のアーチェリー）等の武道の練習が可能です。至誠館への入場は会員である人々に限られますが、年齢や国籍にかかわらず誰でも会員になることができます

至誠館は1973年に、武道を学びたい人を助けるため設立されました。武道を通じて倫理教育を促進することを目的に設立されました。武道の教えには、身体と精神の育成に関する具体的な考えが含まれるためです。至誠館は今も明治神宮の神聖な敷地内にあるため、同館の授業や講義に参加するには神道の教えに習ったマナーを守ることが求められます。

通常武道の練習は、精神的なものも含んでおり、「むやみに人に見せるものではない」と考えられています。しかし近年では、練習中に外から写真撮影する人が出てきました。参加者の集中を妨げないよう、窓から覗き見したり写真



撮影は控えるようにしましょう。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】フォレストテラス

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

This café, named Mori no Terrace, or “terrace of the forest”, is part of the larger Forest Terrace complex. The rest of the Forest Terrace is located further along the *Minami sandō* main approach to the shrine. There are restaurants and a souvenir shop with many traditional, natural architectural features.

The Meiji Jingu forest is considered sacred, and therefore no plants can be brought in or taken out. In keeping with this, fallen trees from the forest were used in the construction of the Mori no Terrace café building. Zelkova, oak, camphor, and cherry tree wood are to be found in the building. The name of the type of wood used is engraved into the back of the chairs.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

「杜のテラス」というこのカフェは、大規模複合施設フォレストテラスの一部です。フォレストテラスの他の施設は南参道まで延びております。各種レストラン、土産物店などがあり、また、伝統的で自然なタッチが各所に見られる建築の結婚式場もあります。

周囲の明治神宮の森は神聖なものとみなされており、新たに植物を持ち込むことも、植物を持ち出すこともできません。この状態を維持するため、杜のテラス・カフェの建物の木部には、森で見つかった倒木が一部使用されています。ケヤキ、ナラ、クス、そしてもちろんサクラなどが建物で見られます。使用されている木材の種類が背もたれに刻まれています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】明治神宮宝物殿（閉館中）

【整備予定媒体】 看板

できあがった英語解説文

The Treasure Museum or Homotsuden is listed as an Important Cultural Property. It was home to a vast collection of the personal effects of Emperor Meiji (1852–1912) and Empress Shoken (1849–1914). The building is currently closed to make it earthquake-proof, and the artifacts have been moved to the new Meiji Jingu Museum. The Treasure Museum was established in 1921. It is built in the ancient *azekura zukuri* style of storehouse architecture. The most famous example of this is the *Shosoin* Imperial Storehouse in Nara, which is thought to have been finished before 759. The treasure house at Meiji Jingu was one of the first buildings in Japan to be made entirely of concrete, and combines Japanese and Western styles of architecture. In front of the museum is a well-kept lawn, which leads on to the *Shibachi* lawn and the Kita Ike north pond.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

宝物殿は重要文化財指定を受けております。明治天皇と昭憲皇太后の身の回りの品々を多数収蔵しています。現在は耐震工事施工のために一次閉館されており、所蔵品は新しい明治神宮ミュージアムに移されています。宝物殿は1921年に竣工しました。建物は校倉造りという構造を模したものです。校倉造で有名な建物は奈良の正倉院（日本の国宝庫）を模したもので、759年以前よりあるものとされてます。宝物殿は全体がコンクリートの建築物として日本の最初期のもののひとつで、西洋と日本の建築スタイルが融合されています。宝物殿の前には良く整備された芝生が敷き詰められており、それが芝地や北池まで続いています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】神前結婚式  
【整備予定媒体】 WEB  
[www.meijijingu.or.jp/english](http://www.meijijingu.or.jp/english)

#### できあがった英語解説文

Shinto wedding ceremonies are frequently held at Meiji Jingu, and wedding processions to the main shrine are often to be seen. A typical procession will be led by two Shinto priests and two shrine maidens, followed by the happy couple under a red umbrella, followed by family and friends. The bride usually wears a white kimono with a red lining, and a head covering known as *mataboshi* or *tsunokakushi* ('horn-hiding').

During the wedding ceremony, a priest recites the Shinto liturgy, after which the couple shares three cups of sacred sake, taking turns drinking. This is considered an important part of the ritual, in which the sips of sake are seen as equivalent to a vow. Full vows are exchanged after this, and a shrine maiden may perform a sacred dance. The ceremony closes with another procession.

A Shinto wedding is a solemn, intimate affair and is a precious event in which two families come together. When a procession passes, please clear the way and help maintain the dignity of the occasion. Please do not step into the way of the procession.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治神宮では、神前式がよく執り行われており、本殿への厳かな行列を目にするかもしれません。典型的な行列では、2人の神職と2人の巫女の後に、赤い傘を差した幸せな夫婦、そして家族と友人が続きます。花嫁はたいてい、赤ふきの白無垢と、その形状により「綿帽子」もしくは「角隠し」と呼ばれる布の「帽子」を着用します。

式では神職が祝詞をあげ夫婦が3杯の御神酒を交互に飲みます。これは式の中でも重要な部分の一つとされており、ここでは酒の一口は誓いと同等であると見られています。その後、全誓いが交わされ、巫女が神聖な舞を舞うこともあります。儀式は再び厳かな行列をもって終了します。

神前式は神の前での結婚式を意味し、厳かなものであり、2つの家族をつなぐ貴重な行事です。行列が通るときは道を空け、その場の威厳を保つようご協力ください。行列の邪魔にならないようにしてください。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】御日供祭  
【整備予定媒体】 看板

#### できあがった英語解説文

Shinto rituals are conducted on a daily basis at Meiji Jingu. Known as *onikkusai*, their start is announced with *taiko* drumming. *Asamike*, or morning offering, is held at 8 a.m., and *yumike*, the afternoon offering, at 2 p.m. at the main shrine hall. The rituals last around ten minutes each. Food offerings are made to the *kami* during these rituals, and the priests pray for world peace and the prosperity and happiness of all.

The drum has a long history of use within Shinto. It is thought that the *taiko* has been used in religious ceremonies since ancient times, when the reverberation of the drums would feel like the presence of the *kami*. The sound of the drumming was also thought to purify and sanctify the ritual. The *taiko* drums are still used to indicate the beginning and end of rituals, and to call upon the *kami*.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

明治神宮では、神道儀式が毎日執り行われます。御日供祭として知られる儀式は太鼓の演奏とともに始まります。¥朝御饌(朝の奉納)は午前8時から、(夕御饌: 夕の奉納)は午後2時から本殿で始まります。それぞれ約10分間続きます。その間、これらの儀式では神へ供物が捧げられ、世界平和とすべての人々の幸福のための祈りが捧げられます。

神道における太鼓の使用の歴史は長いです。古代より太鼓は宗教儀式に使用され、その反響音が入々に神の存在を感じさせます。また、太鼓の音は儀式を神聖化する役割を果たしたと考えられています。今でも儀式の始まりと終わりに鳴り、神に呼びかけるための手段として利用されています。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

# 都留市農泊推進協議会

【施設名】ミュージアム都留

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Museum Tsuru

The Museum Tsuru was built in 1999 to introduce visitors to the history and culture of Tsuru. The permanent exhibition features local artifacts ranging from relics of the prehistoric Jomon people—who first settled here more than 10,000 years ago—to sixteenth-century folk crafts from the age when Yamura (now part of the city of Tsuru) rose to prominence as a castle town. Visitors can also learn about a wide variety of important topics, including Katsuyama Castle's role in defending the major thoroughfare that passed through the town, the prosperous silk trade that developed in the centuries of peace following the unification of Japan in 1603, and the extended visit of the renowned haiku poet Matsuo Basho (1644–1694), who stayed in the city for five months in 1683, during which he wrote several poems about Tsuru.

The museum provides a series of multimedia exhibits, including audio and video recordings, written explanations, and dioramas. The central display is one of Tsuru's beautiful *yatai* festival floats. These massive wooden carts are hand-pulled through the streets of the city during the annual Hassaku Festival, held every year on September 1<sup>st</sup>. The festival floats are the pride of the city and feature exquisite curtains with pictures drafted by famous nineteenth-century painters such as Katsushika Hokusai (c. 1760–1849). The museum also features a permanent rotating exhibition of the paintings of Makoto Masuda, a contemporary local painter whose works evoke the reality of everyday life.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### ミュージアム都留

ミュージアム都留は、訪れる人に都留市の歴史や文化を紹介する目的で、1999年に設立されました。常設展の見どころは、1万年以上前に最初にここに定住した、先史時代の縄文人の遺跡や、16世紀に城下町として栄えた矢村の繁栄を物語る地元の工芸品です。また、様々な事柄についても知ることができます。例えば、町を通る主な交通路を警護する上で、勝山城が果たした役割、1603年の全国統一後の平和な時代に盛んになった絹取引、1683年に5か月間この町に滞在した、有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694)など。滞在中、芭蕉が詠んだ、たくさんの都留の句は、市の誇りです。

この博物館には、音声、映像、文字による説明、ジオラマのような、マルチメディアを駆使した展示があります。メインとな



る展示品は、都留の祭りを使う美しい屋台の 1 台です。これは、毎年 9 月に開かれる八朔祭の間、市の通りを手で引いていく、木製の巨大な屋台で、都留市の誇りです。葛飾北斎(1760～1849)のような、19 世紀の著名な画家が下絵を描いた、見事な幕が特徴です。また、この博物館の見どころには、地元出身の現代画家、増田誠の絵の常設企画展もあります。飾らない日常生活を思い起こさせる作品です。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】大名行列

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Daimyo Parade

A major event during the Hassaku Festival, held every year on September 1<sup>st</sup>, is the Daimyo Parade. This is a reenactment of the feudal parades one might have witnessed in Tsuru centuries ago, when the local lord would depart to or return from Edo Castle.

During the event, a procession of people dressed as feudal lords and ladies, warriors, and various other retainers and servants, passes through the city streets. It evokes the days when Tsuru was a castle town under the rule of the Akimoto clan (1633–1705). The Akimotos were well-loved by the townspeople for their benevolent rule and development of the local economy. They would pass through the city on their way to or from Edo in a magnificent display said to rouse the hearts of the people. However, in 1705 the clan was moved to Kawagoe at the command of the shogun. They left behind a great empty space not only in the middle of the town where they and their retainers once lived, but also in the hearts of the townspeople, who missed the festivities associated with their lord. Not long afterward, the townspeople began to imitate those parades themselves. The practice was interrupted for about fifty years during the twentieth century but was revived in 1989 and continues on to this day as the Daimyo Parade.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 大名行列

毎年9月に開催される八朔祭の主なイベントの一つは、大名行列です。これは、数世紀前、藩主が江戸城を往復する際に都留で見られた、封建時代の行列を再現したものです。

このイベントでは、大名、お姫様、侍、その他様々な家臣や従者に扮した人々の行列が、町を練り歩き、秋元氏（1633～1705）統治の下、城下町だった時代を呼び覚まします。当時、秋元氏は、仁政や地元経済の発展などのため、町人から非常に慕われていました。都留と江戸を往復する際、盛大な行列をし、人々の心を鼓舞しました。しかし、1705年、秋元氏は将軍の命で川越へ転封となり、氏や家臣が住んでいた町の中心地だけでなく、町民の心にも大きな空白を残しました。町民は、大名がもたらしたにぎわいを懐かしく思い、その後まもなく、その行列を模倣し始めました。20世紀に50年程中断されましたが、1989年に再開され、大名行列として、今日まで受け継がれています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】早馬町屋台（八朔屋台）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Hayaumamachi's Yatai (Hassaku Festival Float)

This large wooden cart is one of Tsuru's *yatai*, which are traditional parade floats. It is used during the annual Hassaku Festival held on September 1<sup>st</sup>. During the festival, the people of Tsuru pull these floats through the town by hand while those riding inside perform music and dance. Each of the city's districts has their own *yatai*, and they all compete to have the most beautiful decorations and the best performances. These *yatai* are noteworthy for their spectacular decorative curtains made roughly two centuries ago from expensive felt and velvet. The curtains feature images produced by the most famous artists of their time, such as the *ukiyo-e* artist Katsushika Hokusai (c. 1760–1849).

This float belongs to the Hayaumamachi district and dates back to the early nineteenth century, though the exact date of construction is unknown. It was used until the late 1920s, when it was disassembled and put into storage. Half a century later the people of Hayaumamachi lovingly restored it by hand. It came back into use for the Hassaku Festival in 1989. This curtain, hung across the sides and the back of the float, is entitled “Herdsman Playing Flute Astride a Cow” and is attributed to Hokusai. When the cart is in motion, the design of willow branches moves and creates the illusion of wind blowing through the leaves, carrying with it the sound of the flute.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 早馬町屋台（八朔屋台）

この巨大な木製の屋台は、毎年9月に開催される八朔祭で使用される、都留の伝統的な曳山（屋台）の1台です。祭りの間、市民は屋台を手で引いて町中を練り歩き、みこしに乗った人々が音楽や踊りを披露します。市の各地区にそれぞれ屋台があり、最も美しい装飾や素晴らしい芸を競います。これらの屋台は、約2世紀前の高価な羅紗やビロードで作られた、見事な幕がひときわ目を引きまします。浮世絵画家の葛飾北斎(1760～1849)のような、当時最も有名な芸術家による絵が特徴です。

この屋台は、早馬町が所有しています。作られた正確な時期は不明ですが、19世紀初頭にさかのぼります。1920年代後半まで使われていましたが、解体し、保存されました。半世紀後、早馬町の人々は、手で丁寧に再現し、1989年の八朔祭で再び使い始めました。屋台の後方に張られた後幕は、「牧童牛の背に笛を吹く」と題し、北斎の筆によるとされています。みこしが動いているときは、柳の枝の絵も動き、まるで葉に風が吹いているかのように見せながら、笛の

音を運んでいきます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】下町屋台（八朔屋台）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

#### Shimomachi's Yatai (Hassaku Festival Float)

This festival float belongs to the Shimomachi district. It is thought to have been constructed between 1804 and 1817, though the exact date is unknown. The decorative curtain covering the back of the float shows an image titled “Tigers in a Bamboo Grove.” The base image is a confirmed work of *ukiyo-e* artist Katsushika Hokusai (c. 1760–1849). With sparkling eyes made out of precious glasswork and brass-plated claws, the two tigers facing each other represent vigor and strength. The embroidered bamboo leaves move in the wind when the float is in motion, adding to the dynamism of the image.

Used every year at Oide Shrine's Hassaku Festival, this float was disassembled and put into storage in the late 1920s. Restoration began in 1992 at the request of the city of Tsuru and with the help of the Takayama Festival Float Preservation Arts Association. The restoration was complete in 1995. Shimomachi's Yatai is an Important Tangible Cultural Property of Tsuru, along with the other three Hassaku Festival floats.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

下町屋台（八朔屋台）

この屋台は、下町が所有しています。正確な時期は不明ですが、元々は、1804年から1817年の間に作られたと考えられています。屋台の後方を覆う飾幕には、「虎」（英語では「竹林の虎」と表現）と題する絵が描かれています。下絵は、浮世絵画家、葛飾北斎(1760～1849)の作品と確認されています。貴重なガラス製の輝く目や、真鍮めっきの爪を持つ2匹の虎が向かい合う姿は、生命力や強さを表しています。みこしが動いているときには、刺しゅうされた笹の葉が風で揺れ、絵に迫力が増します。

この屋台は、1920年代後半まで、生出神社の八朔祭で毎年使用されていましたが、解体し、保存されました。都留市の主導により、高山祭屋台保存技術協会の協力で、1992年に復元が始まり、1995年に完成しました。他の3台の八朔屋台と同様、下町屋台は、都留市重要有形文化財です。

本事業以前の英語解説文

なし

# 546

No.5 Shinmachi's Yatai (Hassaku Festival Float), Tsuru

<都留市、山梨>

【施設名】新町屋台（八朔屋台）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

## Shinmachi's Yatai (Hassaku Festival Float)

Oide Shrine's annual Hassaku Festival, held on September 1<sup>st</sup>, includes a magnificent festival parade featuring floats called *yatai*. During the parade, the town's citizens pull these gorgeously decorated *yatai* through the town while musical and dance performances are carried out by the people riding in them.

This *yatai* belongs to the Shinmachi district and was originally constructed in 1812. It features a bow-shaped hip gable across the front with a dragon ornament, and the figurehead atop the roof depicts a flying dragon. The float's curtain design is titled "Kashima Odori" and depicts three elders—who are considered to be messengers of the deity Kashima Myojin—performing an auspicious dance. The base image for this curtain's design is attributed to *ukiyo-e* artist Katsushika Hokusai (c. 1760–1849).

Used every year at the Hassaku Festival, the Shinmachi Yatai was disassembled and put into storage in the late 1920s. In 1996 it was reconstructed and restored by the Takayama Festival Float Preservation Arts Association at the request of the citizens of Tsuru. The float has been featured in the annual Hassaku Festival ever since.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## 新町屋台（八朔屋台）

毎年開催される、生出神社の八朔祭（9月1日）では「屋台」が見どころの、壮大な祭礼行列が行われます。行進中、町の住民は、これらの豪華に装飾された屋台を担いで町中を練り歩き、みこしに乗った人々は音楽を演奏したり、踊ったりします。

この屋台は新町が所有しています。元々は、1812年に作られました。正面の竜の装飾が付いた、弓型の入母屋造りの切妻が特徴で、屋根の上のお飾りは飛ぶ竜を表しています。主な幕は「鹿島踊り」という題で、鹿島明神の使者と言われる3人の古老が、縁起の良い舞を踊る姿が描かれています。この幕の下絵は、浮世絵画家、葛飾北斎（1760～1849）の筆によるとされています。

新町屋台は、1920 年代後半まで八朔祭で毎年使用されていましたが、解体し、保存されました。1996 年、都留市民の要請により、高山祭屋台保存技術協会が再建、復元しました。それ以降、このみこしは毎年恒例の八朔祭の見どころとなっています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】仲町屋台（八朔屋台）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

#### Nakamachi's Yatai (Hassaku Festival Float)

The festival float belonging to the Nakamachi district was originally constructed in 1816, but its decorative curtain dates back to the mid-1700s. The float's roof features a bow-shaped hip gable with a dragon ornament. Atop the roof there is a phoenix figurehead.

The decorative curtain of the Nakamachi Yatai features an image created by Chobunsai Fujiwara Eishi (1756–1829), a samurai painter of the Kano school. The image, titled “Horse in Spring,” depicts a horse tied to a cherry tree in full bloom. The horse's struggle to break free results in the cherry blossoms scattering all around—a beautiful scene that lasts only an instant, the epitome of transience. The image features more than 600 cherry blossom petals, each embroidered with golden thread.

The restoration of the Nakamachi Yatai began in 2001 at the request of the city of Tsuru. It was undertaken by the Takayama Festival Float Preservation Arts Association together with local craftsmen and was completed in 2003.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

#### 仲町屋台（八朔屋台）

仲町が所有する屋台は、最初は 1816 年に作られましたが、その主な飾幕は 18 世紀半ばにさかのぼります。屋根は、弓型の入母屋造りの切妻が特徴で、屋根の上には、竜と不死鳥の装飾が施されています。

仲町屋台の飾幕は、狩野派の侍画家、鳥文斎藤原栄之(1756～1829)による絵が特徴です。「桜に駒」（英語では「春の馬」と表現）という題の絵は、満開の桜の木につながれた馬を表しています。自由になろうと、馬がもがくことで、桜の花が辺り一面に散るといふ、一瞬の美しい光景、はかなさの縮図です。この絵の 600 枚以上の桜の花びらは、金糸で刺しゅうされています。

2001 年、都留市の要請で仲町屋台の復元が始まり、高山祭屋台保存技術協会や地元の職人によって実施されました。この屋台の復元は、2003 年に完了しました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】尾県郷土資料館  
【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Ogata Local History Museum

This museum occupies the old Ogata Elementary School, where several generations of local children were educated between 1878 and its closure in 1941. The school building was also used as a meeting hall for local gatherings and played an important role as the center of the community.

The building's construction imitates Western architecture in its exterior while maintaining traditional Japanese construction techniques. This style, called Fujimura, came into vogue in the late nineteenth century, a time when Western styles were gaining popularity across the country. Today only five Fujimura buildings remain in this area; in 1975 this building was designated as an Important Tangible Cultural Property of Yamanashi Prefecture.

Restoration of the building began in 1973, and in 1974 it was reopened as this museum. Its collection includes a variety of objects related to daily life in Tsuru from the late nineteenth century through to the first half of the twentieth century, offering a tangible experience of the lifestyle from that time. Since the building was originally constructed as an elementary school, the bulk of the materials focus on children's education and daily life. The first floor contains exhibits related to the building's construction as well as educational materials, magazines, and even a model of a Meiji Period (1868–1912) classroom. The second floor includes a collection of textbooks and other writing materials as well as a set of toys grouped according to the season in which they were used.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 尾県郷土資料館

この資料館は、1878年の完成から1941年の廃校まで、数世代に渡る地元の子供たちが学んでいた、旧尾県学校を利用しています。校舎は、地域の集会所としても使用され、地域の中心地として重要な役割を果たしていました。

この建物の外観は、日本の伝統的な工法を保ちつつ、西洋建築を模した様式で建てられています。この様式は、藤村式と呼ばれ、西洋式が全国で大人気だった19世紀後半に流行しました。現在、山梨県には藤村式の建物が5つ残っています。1975年、この建物は山梨県有形文化財に指定されました。

1973年、建物の復元が始まり、1974年に現在のような資料館として再開しました。19世紀後半から20世紀前半の、都留の日常生活に関する様々な展示品があり、当時の生活様式を触って体験できます。元々、この建物は小学校であったため、ほとんどは子供の教育や日常生活に焦点を当てた資料です。1階には、この建物の建築、教材、雑誌に関する展示、それに明治時代（1868～1912）の教室の再現などがあります。2階には、教科書、その他の文具、使う季節ごとに分類された玩具などがあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】駒橋発電所落合水路橋

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Ochiai Aqueduct

From below this aged brick structure looks like a normal bridge, but it is actually an aqueduct carrying roughly 25 cubic meters of water per second to the Komabashi Hydroelectric Power Plant in the nearby city of Otsuki. Dating back to 1907, the Komabashi Power Plant—and many similar hydroelectric stations—were built in this area to help reduce the country's dependency on foreign fossil fuels for industrial production. This had become a problem during the Russo-Japanese War (1904–05).

The reasons so many power stations were constructed here are because of the area's proximity to Tokyo, and because the environment was especially suitable for hydroelectric production. In addition to the rich underground water resources that exist near Mt. Fuji and the plentiful rainfall, the area's ground descends at an ideal gradient to maintain a constantly high rate of water flow.

Today the bridge still stands as it did when it was constructed more than a century ago and is one of few such structures still in use in Japan.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 駒橋発電所落合水路橋

下から見ると、この古いレンガの建築物は普通の橋のように見えますが、実は、1秒当たり約25立方メートルの水を、近くの大月市にある駒橋発電所へ送っている水道橋です。1907年、駒橋発電所やその他多くの同様の水力発電所がこの地域に建てられました。日露戦争（1904～05）中、工業生産のために、国が海外の化石燃料へ依存しているという問題が明らかになり、この依存を減らすことが目的でした。

ここにこんなに多くの発電所が建てられた理由は、この地域が東京に近いこと、また環境が水力発電に特に適していることです。富士山の近くにある、地下の豊かな水源と豊富な雨量に加えて、水の流れが常に高速を保てるよう、地面が理想的な傾斜に傾いています。現在、この橋は1世紀以上前の建設当時と同じように存在しています。現在の日本で今なお使われている数少ない建築物の1つです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】家中川水力発電

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Hydroelectric Power Stations on the Kachu River

Flowing along Tsuru's market street is a small waterway called the Kachu River, which has helped sustain the city since it was constructed in 1639. Though it originally provided water for drinking and irrigation, the river has recently come to support the people of the city as a source of hydroelectric power.

Today the river hosts three small power stations, affectionately called Genki 1, Genki 2, and Genki 3. Genki 1 is located in front of Tsuru City Hall and was built to resemble a traditional wooden wheel turned by water flowing from below, such as one might have seen in Tsuru in the past. Here, though, the old design has been improved by using backward-curving blades to more efficiently capture the water's energy. Genki 2 is located further downriver near the place where the old Sannomaru Power Station once stood. It features a newer design where water drops onto the wheel from above, and has the largest electric power output among the three stations. Genki 3, located next to Yamura Elementary School No. 1 and between Genkis 1 and 2, uses a state-of-the-art spiral blade turbine that is both compact and able to operate with very little water.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 家中川水力発電

都留の商店街沿いを流れる、小さな河川は家中川と呼ばれ、1639年の建設以来、この街の生活を支えてきました。最初は、飲料水や灌漑用の水を供給するために設計されましたが、近年は、水力発電として、市民を支えるようになりました。

現在、この川には3つの小発電所があり、親しみを込めて、元気くん1号、元気くん2号、元気くん3号と呼ばれています。元気くん1号は、都留市役所の前にあります。昔、都留にあったような、下から流れる水で回転する、伝統的な木製の水車に似せて作られましたが、古い設計を改良し、水のエネルギーをもっと効率よくとらえるために、後ろに曲がったブレードを使っています。元気くん2号は、さらに下流の、かつて、旧三の丸発電所があった場所の近くにあり、水が上から水車に落ちるといふ、新しい設計が特徴です。発電量は3台のうち最大です。元気くん3号は、谷村第一小学校の隣、元気くん1号と2号の間にあります。コンパクトで、非常に少量の水でも作動可能な、最新のらせん状ブレード翼を使っています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】十日市場・夏狩湧水群

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Springs of Tokaichiba and Natsugari

The water that feeds these springs originates on the slopes of Mt. Fuji 30 km away, arriving as snow or rain. Filtering through the layers of volcanic ash and pebbles, the water eventually reaches the impenetrable layer of volcanic rock formed from ancient eruptions. It travels along this layer for approximately 60 years before finally resurfacing here. This process produces supremely pure water which has been designated as one of Japan's best spring waters.

The farmers of Tsuru use these springs for agricultural purposes. The wasabi farm located at the base of the springs, for example, uses the constant flow to yield nearly three tons of produce each year. This water is also used to grow a unique local product called *mizukakena*, a mustard plant harvested in the middle of winter. This off-season harvest is possible because these plants are irrigated with the spring water, which maintains a constant 12°C even at the coldest times of the year, meaning the plants don't freeze.

Along the waterways fed by these springs grows *baikamo*, a species of ranunculus whose flowers resemble tiny plum blossoms. These beautiful plants prefer constantly flowing cool water, and therefore can only bloom in spring water like that found in the Tokaichiba and Natsugari areas of Tsuru.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

十日市場・夏狩湧水群

これらの泉に流れ込んでいる水は、30キロ離れた富士山の斜面に雪や雨が降り注ぎ、湧き出たものです。水は、火山灰や小石の層をフィルターにして、大昔の噴火でできた頑強な火山岩の層にたどり着き、最終的にここで再び湧き出るまで、約60年かかります。この過程が極めて純粋な水を作り、日本の名水の1つに指定されています。

都留の農民は、この泉を農業に利用しています。例えば、泉のほとりにあるワサビ農園では、この絶え間ない流れを利用して、毎年3トンの収穫を上げています。また、真冬に収穫されるカラシ菜の1種である、水掛菜という特産物の栽培にもこの水が利用されています。これらの野菜が冬でも栽培が可能なのは、湧き水をかけ流し、1年で最も寒い時期でさえ常に12度を保って、凍らないためです。

泉が流れ込む河川沿いには、いたる所にバイカモ（梅花藻）という、梅の花に似たラナンキュラスの 1 種が生えています。この美しい植物は流れ続ける冷たい水を好むため、都留の十日市場や夏狩地域にあるような泉でのみ生育できます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】茶壺道中  
【整備予定媒体】W E B

できあがった英語解説文

### Chatsubo Dochu

Chatsubo Dochu refers to the Edo period (1603–1867) custom of transporting Japan's highest quality tea from Uji (in the Kyoto area) to Edo (present-day Tokyo) for the shogun's personal use. Edo's hot and humid summers made it impossible to preserve the quality of the tea until the following year's harvest. To combat this, from 1652 a portion of the shogun's tea was stored in Katsuyama Castle in present-day Tsuru until the fall, taking advantage of the milder summers of this mountainous area. It was believed that not just the cool air but also the mysterious power of Mt. Fuji preserved the tea and improved its flavor.

The grand procession that visited Tsuru at this time was a major event for the locals. They not only enjoyed a great deal of festivities, but also benefited financially by providing services to the travelers. Though Chatsubo Dochu ceased centuries ago, a reenactment was recently included in the annual Tsuru Industry Festival held on the last Sunday of October. During the event, a procession of people dressed as samurai accompany a group of couriers bearing a large tea urn.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 茶壺道中

茶壺道中とは、宇治（京都）から江戸（現在の東京）へ日本最高品質のお茶を将軍家へ運ぶという、江戸時代（1603～1867）の習慣のことです。しかし、江戸の夏は暑く湿気が多いため、翌年の収穫まで茶の品質を保つのは不可能でした。そのため、1652年より、茶の一部を現在の都留にあった勝山城に持込み、山間地域の穏やかな夏の気候を活かして、秋まで保管するようになりました。涼しい空気だけでなく、富士山の神秘的な力が茶を保ち、その風味を増すと信じられていました。

この時期に都留を訪れた壮麗な行列は、町人にとって大きな行事でした。町人は、そのにぎわいを大いに楽しただけでなく、旅人をもてなすことで経済的な恩恵も受けました。茶壺道中は、何世紀も前に終わりましたが、歴史上のこの行事を記念して、近年、毎年開催されるつる産業まつり（10月最終日曜日）で再現されるようになりました。イベントでは、侍の衣装を着た人々の行列が、大きな茶壺を運ぶ採茶使の一団のお供をします。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】商家資料館（旧仁科家住宅）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文 Merchant's Museum (Former Nishina Family Residence)

This building is the former home and business of Nishina Gentaro. He was a prominent Tsuru merchant who became wealthy in the early twentieth century by trading in locally-produced silks. These were extremely popular for being both of good quality yet affordable.

After being designated as an Important Tangible Cultural Asset of Tsuru City in 1993, the building was reopened as the Merchant's Museum. Visitors here can view more than 100 objects related to the silk trade and to early twentieth-century daily life. The main entry features a dirt floor and a raised tatami (traditional Japanese mat) floor area, and was once Nishina's silk shop. In this room, visitors can see many samples of the types of silk cloth that were once sold in the shop. Beyond the entryway lies the living quarters, covering both the first and second floors. A variety of items ranging from antique furniture and appliances, intricate hand-carved woodwork and paper shoji window shades, the family's personal shrine, and much more are displayed here. The house also features a Western-style parlor complete in every detail, a testament to the popularity of foreign culture at the time.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

商家資料館（旧仁科家住宅）

この建物は、20世紀初頭に、地元産の絹の取引で富を成した、仁科源太郎という都留の有名な商人の住居兼、店だったものです。この地域の絹は、高品質で値段も手頃とあって、大変人気がありました。

1993年、都留市重要有形文化財に指定された後、「商家資料館」として公開されました。ここでは、絹の取引や、20世紀初頭の日常生活に関する展示品を100点以上見ることができます。正面玄関は、土間と、高床の畳の間が特徴で、かつては仁科の絹商店でした。この部屋には、昔この店で売られていた絹織物の見本がたくさんあります。玄関の奥は、1階と2階がある住居になっています。骨董品の家具や電化製品、凝った手彫りの木工品、障子、仏壇、その他、いろいろなものが展示されています。また、この家は、細部まで完璧な西洋風の応接間が特徴で、当時の外国文化の人気うかがえます。

本事業以前の英語解説文

なし

# 554

No.13 Taro and Jiro Falls, Tsuru

<都留市、山梨>

【施設名】太郎次郎滝

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

## Taro and Jiro Falls

Fed by the large cluster of springs in the Tokaichiba and Natsugari areas, these two scenic waterfalls drop 10 m into the Shakunagare River. According to legend, these two falls were named after a pair of brothers, Taro and Jiro, who died here long ago. As the story goes, the two took to thievery to support themselves, but they fled when the angry townsfolk discovered their hideout. They fell from the cliff in the confusion of the chase. The spot where Taro landed became known as Taro Falls, while the spot where Jiro landed became known as Jiro Falls.

The Shakunagare River, whose name literally means “Ladle Flow,” also has an old legend attached to it. Supposedly a deity once dropped a ladle into Kawaguchi Lake at the foot of Mt. Fuji. The handle of the ladle pierced a hole through the bottom of the lake, creating a passageway that allowed water to flow from there to nearby Mt. Mitsutoge, where the Shakunagare River originates. From there the river then flows past Taro and Jiro Falls to eventually merge with the Katsura River.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

## 太郎・次郎滝

この2つの風光明媚な滝には、十日市場と夏狩の大湧水群の水が流れ、10メートルの高さから柄杓流川へと流れ込んでいます。言い伝えによると、この2つの滝は、昔、ここで亡くなった、太郎と次郎という、2人の兄弟にちなんで名付けられました。2人は生きていくために、ものを盗み、怒った村人が隠れ家を見つけると、逃げ出しました。追いかけて慌てたため、兄弟は崖から落ちてしまいました。太郎が落ちた場所は太郎滝、次郎が落ちた場所は次郎滝として知られるようになりました。

柄杓流川は、文字通りだと「柄杓の流れ」を意味し、これにも古い言い伝えがあります。ある時、神が、富士山の麓にある河口湖に柄杓を落としました。柄杓の柄は、湖の底に穴を開け、そこから、この川の源流がある、近くの三つ峠へと水が流れる水路を作りました。そこから、この川は太郎・次郎滝を通過して、最終的には桂川と合流しています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】松尾芭蕉（田原の滝公園）

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Matsuo Basho Monument (Tawara Falls Park)

In the winter of 1682 a great fire broke out in Edo. Among the thousands of people who lost their homes and property was the famed haiku poet Matsuo Basho (1644–1694). Following the fire, the now homeless Basho traveled to the village of Yamura (present-day Tsuru), invited by his pupil Takayama Den'emon, a minister to the feudal lord who ruled this area. During the five months Basho spent here, he and Takayama held numerous poetry gatherings during which a number of now famous verses were composed. While visiting Tawara Falls in early spring, he wrote the following poem evoking vitality returning to the land:

There are signs of life:	<i>Ikioi ari</i>
The icicles thawing and	<i>Koori kietewa</i>
The fish in the falls	<i>Takitsu uo</i>

There is a stone monument bearing this poem in Tawara Falls Park. Similar stones can be found all across the city, each inscribed with the verse that Basho wrote in those places.

Basho was known as a traveler who spent most of his days wandering the country and composing poetry. Some say the five months he spent in Yamura was the longest period he stayed in one place besides the Fukagawa area of Edo where he resided during most of his adult life. This is seen as a testament to the deep emotion he felt for the natural beauty of this area.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

松尾芭蕉（田原の滝公園）

1682年の冬、江戸で大火があり、家や財産を失った数千名の中に、有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694)がいました。火事後、家を失った芭蕉は、この地を統治していた大名の家老である、弟子の高山伝右衛門に招待されて、谷村（現在の都留）へ旅に出ました。ここで過ごした5か月の間、芭蕉と高山は何度も句会を開き、その間、数多くの今なお有名な句が詠まれました。早春に田原滝を訪れた際には、大地に戻る生命力を想起させる、次の句を書きました。

There are signs of life:	勢いあり
The icicles thawing and	氷消えては
The fish in the falls	瀧津魚

田原の滝公園には、この句が刻まれた石碑があります。同じような句碑は市内のいたる所にあり、それぞれに芭蕉がその地で詠んだ歌が刻まれています。

芭蕉は、生涯のほとんどをかけて、国を旅し、句を詠んだ旅人として知られています。谷村で過ごした 5 か月が、成人後に江戸深川に次ぎ 1 箇所ですごした最も長い滞在であり、この地の自然の美しさへの芭蕉の深い感動の証であるという人もいます。

本事業以前の英語解説文  
なし



【施設名】おなん淵

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Onan's Pool

This deep pool located at the base of a waterfall bears the name of a young servant girl, Onan, who once worked for a rich man living in this area. Onan was a very hardworking and serious servant. One day she accidentally dropped and broke some tableware that was very dear to her master. Her master scolded her severely, and in her shame, she threw herself from the cliff to her death. According to legend, the locals found that if they wrote a message on a piece of paper requesting to borrow a certain amount of tableware and sent it over the fall, the next day the exact number of requested items would come floating down the stream for their use. However, one day someone failed to return half of the pieces, and thereafter such requests went unanswered. A dish said to be one of Onan's is preserved at Hokyoji Temple in Higashi Katsura.

Onan's Pool is located on Shishidome River, which flows approximately 6 km from its headwaters near Mishotai Mountain before finally joining with the Katsura River. Not far downstream from the pool is Soryu Gorge, a section of river whose blue waters wind through a narrow volcanic gorge, resembling the image of a blue dragon.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### おなん淵

滝つぼにある、この深い淵には、おなんという若い下女の名前が付いています。おなんは、昔、この地域に住んでいた裕福な男のもとで奉公をしていました。おなんはとても働き者で、まじめな下女でしたが、ある日、主人がとても大事にしているお膳を誤って落とし、割ってしまいました。主人はひどく叱り、その後、おなんは恥じて崖から身投げをしました。言い伝えによると、地元の人々は、ある一定の数のお膳を貸してくださいと書いた紙を滝に送ると、翌日には頼んだものと同じ数のお膳が下流に浮かび、使わせてくれることが分かりました。しかし、ある日、半分返さなかったことがあり、それ以来、頼みを聞いてもらえなくなりました。おなんのものと言われるお膳の1つが、東桂の宝鏡寺に保管されています。

おなん淵は鹿留川流域にあります。御正体山付近の水源から約6キロに渡って流れ、最後は桂川に合流しています。この淵からそれほど遠くない下流には、蒼竜峡があります。川の一部では、青い水が狭い火山の渓谷を曲がりくねって流れ、まるで青い竜のように見えます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】鹿留溪谷  
【整備予定媒体】W E B

#### できあがった英語解説文

##### Shishidome Valley

Just 10 minutes by car from Higashi Katsura Station, this scenic valley is Tsuru's top destination for nature enthusiasts. It offers beautiful scenery in all seasons, from the greens of summer and spring, to the gorgeous reds and yellows of maples, zelkova, and beech in the fall. The valley makes for a serene nature walk. The chorus of rushing water from the Shishidome River constantly echoes in the background, adding to the valley's beauty.

At the bottom of the valley, visitors will find facilities for camping and fishing. Those who venture all the way to the crest of Nijumagari Pass can get a stunning view of Mt. Fuji on clear days. The trailhead to Mishotai Mountain (1682 m), a holy site connected with both Shinto and Buddhism and considered one of Japan's top 200 famous mountains, can be found at the base of the valley. It takes approximately 5 hours to reach the summit from there.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 鹿留溪谷

この風光明媚な溪谷は、自然が好きな人にとっては、都留の観光地の中で最高の場所で、四季を通して、美しい景観が見られます。東桂駅から車で 10 分です。春や夏の緑から秋のカエデ、ケヤキ、ブナの見事な紅葉まで、この溪谷では、のどかな自然散策ができます。絶え間なく辺りにこだます鹿留川の奔流の音が、谷の風景の美しさに加わります。

谷底には、キャンプや釣りの施設があり、はるばる二十曲峠の山頂まで行くと、晴れた日には息をのむような富士山の絶景が見られます。御正体山(1682 メートル)は、神道と仏教の両方に関連する聖地で、日本の名山 200 の 1 つとみなされています。登山口は、谷底にあり、そこから山頂までの所要時間は約 5 時間です。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】蒼竜峡

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Soryu Gorge

This gorge on the Katsura River winds through a deep trench cut into the remains of a lava flow that erupted from Mt. Fuji hundreds of thousands of years ago. When the influential early twentieth-century journalist Tokutomi Soho (1863–1957) visited Tsuru, he was enchanted by the gorge’s beauty. Noting its winding snakelike form, the striking blue color of its waters, and the rocks on either shore that had eroded into a shape resembling scales, he named it Soryu, or “Blue Dragon.” The gorge extends approximately 1.25 km.

The rock from which this gorge is cut dates back millions of years to the days when Mt. Fuji first formed. Great eruptions spilled lava over much older formations to yield the current landscape. Given how hard the resulting rock was, the fact the Katsura River was able to delve such a deep groove is testament to the extremely long period that the river has flowed over it. For this reason, the site is considered an important place to observe the effects of erosion.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 蒼竜峡

桂川流域にあるこの渓谷は、深い溝の間を曲がりくねって通っています。数万年前、富士山から噴出した古い溶岩流の残りが浸食されてきました。影響力のあった、20世紀初頭のジャーナリスト徳富蘇峰(1863-1957)は、都留を訪れた際、その美しさに魅せられました。曲がりくねった、蛇のような形状、鱗のような形に浸食した両岸の岩、水の印象深い青い色に注目し、「青い竜」を意味する蒼竜と名付けました。この渓谷は、長さ約1.25キロです。

この渓谷を形成する岩石層は、富士山が最初に形成された頃の、数百万年前にさかのぼります。大噴火で溶岩が流れ出て、古い地層を覆い、現在の地形を作りました。その結果できた岩の硬さを考えると、桂川が非常に深い溝を刻むことができたという事実は、この川が極めて長い間、岩の上を流れてきたことを証明しています。こういった理由で、この場所は浸食の影響を観察する上で重要な場所とみなされています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】勝山城跡

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Katsuyama Castle Ruin

This mountain located on the north side of Tsuru bears the remains of Katsuyama Castle, the stronghold that once defended this valley and the major thoroughfare that passed through it. Explanations of the castle's origin vary. The most widely accepted idea holds it was built in 1594 by a vassal of Toyotomi Hideyoshi (1537–1598) in order to defend against Hideyoshi's rival, Tokugawa Ieyasu (1543–1616). The castle changed hands several times after its completion, but the longest holder was the Akimoto family, who ruled this area from 1633 to 1704. After the Akimoto family, the castle came under direct control of the shogun.

Today all that remains of the castle is a series of earthwork fortifications, a few stone walls, and some trenches thought to have been moats. Three large flat spaces were probably once enclosed by wooden fences to form baileys. On the mountain's north ridge visitors will find the remains of an enclosure where it is believed the shogun's tea was once stored. From the top of this 571 m-high mountain, it is easy to see why the site was chosen for a castle: not only does it command a view of the entire valley, but the mountain's steep slopes are surrounded on three sides by the Katsura River. The fourth side is comprised of rugged mountain terrain, making it a formidable fortification.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 勝山城跡

都留北部に位置するこの山には、勝山城跡、かつては、この谷を守った要塞、そこを通る主要な道などの遺跡があります。この城の起源については、様々な説明がありますが、最も広く受け入れられているのは、1594年に、豊臣秀吉の臣下が建て、秀吉のライバルである、徳川家康からの防御が目的であったという説です。完成後、城の所有者は何度か変わりました。最も長く所有していたのは、秋元氏で、この地域を1633年から1704年まで治めました。その後、幕府直轄領になりました。

現在、残っているのは、一連の土塁、2～3の石垣、堀であったと思われる溝がいくつか、外壁となる木製の柵で囲われていたと考えられる平坦地が3か所です。山の北尾根にも、囲いの遺跡があり、ここには昔、将軍家へのお茶が保管されていたと考えられています。この571メートルの山の峰から見ると、なぜ城を建てる場所としてここが選ばれたのかわかります。溪谷全体が一望できるだけでなく、山の急な斜面は3方を桂川に囲まれ、もう1方は険しい山地で、頑強な要塞となっているからです。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】御正体山

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Mishotai Mountain

A constant presence over Tsuru City, this 1678 m-high mountain is famous for its connection with both Shinto and Buddhism. Since the early ninth century it has been home to a shrine dedicated to the male progenitor deity Izanagi. The mountain itself became an object of religious worship, too. More recently, Mishotai Mountain came to be venerated as Mishotai Gongen, the guardian deity of silkworm farming.

Mishotai's connection to Buddhism began in 1813, when the monk Myoshin Shonin began practicing asceticism here. He gathered many followers during the five years he was active. Such was his devotion that he is believed to have attained Buddhahood in 1815 at the age of 38. Just two years later, Myoshin began the austere practice of mummifying himself. The mummy was originally venerated in Myoshin's own small hall of worship on the slopes of the mountain but was later moved to a temple in his hometown. Since then, Myoshin's hall has fallen into ruin.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 御正体山

この標高 1678m の高山は、都留市にとって非常に重要な山であり、神道、仏教双方でゆかりの地とされています。この山には、9 世紀初頭に建てられた、男性の先祖神であるイザナギに捧げられた神社があります。時代を通じて、この山そのものが宗教的礼拝の対象とされてきました。さらに御正体山は養蚕の守護神である御正体権現として崇拝されるようになりました。

御正体と仏教の関係は、妙心上人が 1813 年に苦行のために入山した時から始まりました。妙心上人は、入山して最初の 5 年間熱心に活動し、多くの信者を集めました。妙心上人は、1815 年、まだ生きている間に仏に達したと信じられています。この時はわずか 38 歳という若さでした。その 2 年後に入定しミイラとなりました。このミイラは当初、山の斜面にある妙心の所有していた小さな上人堂に祀られましたが、後に彼の故郷の寺院に移されました。それ以来、この上人堂は廃墟となっています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】大宰府天神社

【整備予定媒体】W E B

できあがった英語解説文

### Dazaifuten Shrine

A branch of the influential Daizaifu Tenmangu Shrine, the earliest records indicate this shrine was here as early as the fifteenth century. It has been rebuilt several times. The current structure was built in 1864, the previous one having been lost to fire in 1837. It was constructed thanks to the fundraising efforts of Amano Hanzo, a prominent local figure.

The spirit enshrined here is that of Sugawara no Michizane (845–903), a scholar and statesman who lived more than 1000 years ago. Today he is revered as a spirit of learning and is often featured in the prayers of those seeking success in school.

The shrine owes its beautiful appearance to the famous team of master craftsmen Ozawa Hanbei and his adopted son Fukuda Toshihide. Their unique style of exquisitely detailed carving can still be seen on many shrines and temples to this day. The work they produced for this building is considered among their best. The images depicted include a wide variety of animals. There are dragons amid clouds along the front, as well as cranes, chickens, rabbits, and tigers along either side. Towards the back are two large scenes from classical Chinese literature, which are so intricate that they took several years to complete.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 大宰府天神社

権威ある大宰府天満宮の分社であるこの大宰府天神社についての最も初期の記述から、この神社が 15 世紀初頭には既に存在していたことがわかります。この神社は何度か再建されました。地元の有力者であった天野伴蔵は、1837 年に失火したこの歴史ある神社のために資金を調達し、1864 年に再建を実現させました。現在の構造はその時以来のものです。

ここに祀られている霊は、今から千年以上前に活躍していた学者・政治家の菅原道真（845-903 年）の霊です。今日、道真は学問の神として崇拝され、試験で良い成績を収めることができるよう祈願する人々がこの神社を訪れます。



神社は、有名な熟練職人の小沢半兵衛とその養子の福田藤衛門の彫刻によって、美しい外観を有しています。今でも、多くの神社や寺院で彼らの絶妙な彫刻を見ることができます。特にこの大宰府天神社のための彫刻は、最高のものと言われています。神社の建物の前面には、雲の中の龍を始め様々な動物が彫られており、両側面にはツル、ニワトリ、ウサギ、トラが彫られています。さらに、建物後部には中国古典文学上の 2 つの場面が大きく彫られています。それらは非常に複雑な作品で、完成まで数年かかりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】神楽

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Kagura Dances

Kagura, literally “entertainment for the gods,” is a form of traditional dance tracing its history back to one of Japan’s oldest legends. As the story goes, long ago the sun goddess Amaterasu-no-Omikami hid herself in a cave to sulk after a dispute with her brother, thus casting the world into darkness. To coax her out from hiding, the goddess Ame no Uzume performed a dance in front of the cave, making the other gods laugh. Amaterasu was intrigued with their laughter and so came out to watch, bringing light back to the world. Kagura developed as an imitation of Ame no Uzume’s dance.

Today a vast number of kagura lineages survive, each with their own unique components. In Tsuru alone there are thirty varieties of dance. Among the best times to witness local kagura is during Oide Shrine’s Hassaku Festival on September 1st. Here, the shrine’s ornately carved kagura float is paraded through the city accompanied by performances of the shrine’s own traditional dances that date back more than 200 years.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 神楽

文字通り「神のための娯楽」という神楽（かぐら）は伝統舞踊の一つで、最古の伝説に由来しています。その昔、太陽の女神である天照大神（あまてらすおおみかみ）は、弟と争った後、洞窟に隠れ、その結果、世界は暗闇に投げ込まれてしまいました。天照を洞窟から出すために、天鈿女命（あめのうずめ）という女神は洞窟の前で踊り、他の神々を笑わせました。天照は笑い声に興味を持ち、それを見るために洞窟から出てきたので、世界に光が戻りました。神楽は天鈿女命の踊りを模倣し、発展しました。

現在、数多くの神楽系が存在していますが、それぞれ固有の構成要素を有しています。都留市だけでも 30 種類あると言われています。地元では、毎年 9 月 1 日に行われる生出神社の八朔祭で披露される神楽が最も有名です。この時、神社の華やかな彫刻を施した神楽屋台が、200 年以上の歴史を誇る伝統舞踊を伴い、市内を練り歩きます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】谷村町駅舎

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

### Yamuramachi Station Building

The Yamuramachi Station Building on the Fujikyuko Line was constructed in 1929 using a Western architectural style. It exemplifies the spirit of modernization that was sweeping Japan at the time. Constructed primarily of wood, a layer of white mortar covers the exterior walls, and the roof's surface is flat rather than curved in the style of many traditional architectural forms. Atop the roof sits a weather vane with a “y” for “Yamura” cut into it. A residence for station workers is attached on the north side of the building.

The station's boarding platforms are sheltered by an awning supported with columns. These are made from rails repurposed from an out of service line from the Meiji period (1868–1912). Their dates of fabrication can still be seen printed on their surfaces. As the station was built at the beginning of the Great Depression, these columns represent not just an aesthetic choice but also an example of the cost-cutting ingenuity of the people of Tsuru in times of economic trouble.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

谷村町駅舎

富士急行線谷村町駅舎は、1929年に西洋の建築様式を用いて建てられました。西洋の建築様式は、当時の日本における近代化の精神を表しています。ほとんど木造ですが、白いモルタルの層が外壁を覆っており、屋根は、湾曲した伝統的な建築様式とは異なり、平らになっています。屋根の上には風向計が取り付けられており、そこには「Yamura」の「y」が飾られています。建物の北側の部分は駅員の住居となっています。

駅の搭乗ホームは、明治時代（1868-1912）の使用されなくなった鉄道からの中古レールで作られた屋根によって保護されています。それらのレールが製造された日付が表面に記されており、現在も読むことができます。大恐慌の初めにこの駅は建設されていますので、これらの柱は美的選択だけでなく、都留の人々が行った、経済難の際のコスト削減のための工夫の一例でもあります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】桃林軒

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

**Torinken: Matsuo Basho's Tsuru Residence**

This small building is a reconstruction of 'Torinken, or "Peach Grove House," where the famed haiku master Matsuo Basho (1644–1694) once stayed. Born to a samurai family, Basho abandoned his status and its privileges to pursue a literary life. During his career, he introduced minimalist aesthetics to the haiku form, transforming what had been considered a simple literary pastime into a sophisticated art form.

Basho came to this area early in 1683. He was invited by his pupil Takayama Den'emon (1649–1718), the chief retainer of the lord of Yamura, after Basho lost his home in a large fire that destroyed much of Edo (present-day Tokyo). During his five-month visit, he stayed in a small house on the outskirts of Takayama's estate. Here the two held several poetry gatherings during which many famous verses were composed. Stone monuments bearing these poems can be found all around Yamura. Though the original Torinken was destroyed long ago, this reconstruction was completed in 2004 in remembrance of Basho's stay in Tsuru, and to serve as a place of learning.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

桃林軒-都留にある松尾芭蕉の住居

この小さな建物は、有名な俳人、松尾芭蕉(1644～1694)が住んだ「桃林軒」を復元したものです。芭蕉は武士の家に生まれましたが、文学を追求するために地位や特権を放棄しました。彼は俳句にミニマリズムの美学を導入し、単なる娯楽であった俳句を洗練された芸術に高めました。

芭蕉は、江戸（現在の東京）の大部分を破壊した大火事で自宅を失った後、谷村藩主の家老高山伝右衛門(1649～1718)の招請で、1683年の初めにこの地域にやってきました。芭蕉の5ヶ月の滞在の間、高山伝右衛門の敷地の隅にある小さな家屋に滞在しました。ここで芭蕉は2つの俳句集を制作しましたが、その中には多くの有名な句が含まれています。谷村には、これらの俳句を冠した石碑があちらこちらにあります。元々の桃林軒は取り壊されましたが、2004年に芭蕉が都留に滞在し、ここで学問にはげんだこと記念して再建されました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】牛石遺跡

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Ushiishi Archaeological Site and Clay Figurine

Among the many historical relics to be found in the city of Tsuru are those attributed to the Jomon people. This was a prehistoric society that existed in Japan from approximately 14,000 to 300 BC.

One of Tsuru's many relics from this period are the Ushiishi, a group of rocks arranged in a ring shape. The circle has a diameter of 50 m and is located in the Atsuhara area, near where the Katsura and Ohata rivers meet. This relic is one of the largest of its type discovered in eastern Japan. The Ushiishi date back roughly 5000 years to a time when the climate was cooling and Mt. Fuji was very active. As the circle is located at a spot where Mt. Fuji is barely visible, it has been suggested that it had some religious connection to the mountain and was possibly used to pray for protection from eruptions.

Another important relic of this time is the Dogu, a human clay figure with ear decorations, which was excavated at the Nakaya Archaeological Site in Ogotayama. It features a heart-shaped face, and its entire surface is covered in a red pigment. This figure is known specifically for its ear decorations, which provide clues to the customs of the people who made it.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 牛石遺跡と土偶

都留市内で発見される多くの遺跡の中には、紀元前 14,000～300 の日本先史時代の縄文人のものがあります。

都留にあるこの時代の多く遺跡の 1 つは、桂川と大幡川の合流する厚原（あつはら）周辺に、直径 50m のリング状の配石遺構がある牛石遺跡です。この種の遺跡は、ここが東日本で発見された中で最大級のもです。牛石は、およそ 5000 年前、気候が寒冷で、富士山が非常に活発であった時代までさかのぼります。遺跡のリングは富士山のほとんど見えない場所にあります。それで、このリング状の配石遺構には宗教的な意味があり、富士山の噴火からの保護を祈るために使われたのではないかと示唆されています。

この時代のもう一つの重要な出土品は、小形山の中谷遺跡で発掘された耳飾りの人間粘土像です。それはハート

型の顔を特徴とし、その全体の表面は赤い顔料で覆われています。この土偶は、その耳飾りをしているということで特に有名です。耳飾りは、それを制作した人々の習慣を探る手掛かりを与えてくれます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】田原の滝

【整備予定媒体】看板、WEB

できあがった英語解説文

#### Tahara Falls

This waterfall was originally formed from the remains of one of Mt. Fuji's eruptions, over which the Katsura River came to flow. Along either bank are stone columns formed when the lava cooled suddenly, creating vertical cracks that resulted in their distinct shape.

The current appearance of the waterfall has changed greatly since the nineteenth century. For as long as people could remember, it consisted of two drops, an upper and a lower. The lower fell a total of 20 m straight down and extended 7 m across. It is said that in those days the falls made such noise that one could hear it all the way from Uenohara, some 25 km away. In 1898, however, both shores collapsed due to erosion, destroying the lower drop. Further collapses occurred as a result of the 1923 Great Kanto Earthquake that leveled much of Tokyo, causing the remaining drop to move 30 m further upstream. In 1956 an artificial embankment was installed to prevent further erosion, and so the Tahara Falls came to their present shape.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

#### 田原の滝

この滝は、富士山の噴火跡に、桂川が流れ始めたときに形成されました。いずれの側の岸壁にも、溶岩が突然冷却されたときに入った垂直の亀裂によって形成された石柱が見えます。

現在の滝の外観は19世紀から大きく変化しました。人々が覚えている限りでは、それは上下2段で構成され、下の段から20メートル水が落下し、幅は7メートルだったと言われています。当時は25キロ離れた上野原からも音が聞こえたようです。しかし、1898年に、両岸が侵食によって崩壊し、下の段は破壊されてしまいました。その後、1923年の関東大震災で東京の大部分が被害を受けたときに、この滝の崩落も進み、水の落下位置が30メートルほど後退しました。最後に、1956年には浸食を防ぐため人工堤防が設置され、現在の形となりました。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】富士みちの遺産

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Relics of the Fuji Road

Scattered throughout the city of Tsuru are a large number of weathered stone statues and stelae. Many of these can be counted among the relics left behind by pilgrims on their way to worship at Mt. Fuji. Though the mountain had long been an object of nature worship, a new folk religion called Fujiko appeared in the seventeenth century, taking Mt. Fuji as its principal object of worship. Central to the Fujiko belief was the requirement that believers climb the mountain once in their lifetime, and so through this period great numbers of believers passed through Tsuru along one of the primary routes from Edo (present-day Tokyo) to Fuji.

Typically, the statues and stelae left behind by Fujiko believers feature images of a wide variety of deities. Most are associated in some way with travel, such as Jizo, the guardian of travelers. Of particular note are the two-figure Dosojin stelae, which depict the guardian spirit of travelers, Dosojin, as two embracing figures. The earliest of these dates back to 1695. Examples are found in their greatest concentration in Tsuru, though other examples have been found in the surrounding prefectures as well.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 富士みちの遺跡

都留市には、多くの風化した石像や石碑が散在しています。その多くは、巡礼者が崇拝する遺跡に数えられています。富士山は長い間自然崇拝の対象でしたが、17世紀には富士講と呼ばれる新しい民俗宗教が登場しました。富士山を主な崇拝対象としています。富士講の中心的教えは、信者が一生に一度山に登るという要請でした。この時代江戸から富士への主要ルートの一つである都留を、多くの信者が通過しました。

通常、富士講の信者によって残された石像や石碑はほとんど、旅行者を守る地蔵といった、旅に関係している様々な像です。特に注目すべきは2人組の道祖神で、これは旅行者の守護神とされています。これらのうち最も古いものは1695年にさかのぼり、都留に最も集中していますが、他の周辺の都道府県にも多く見つかっています。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】生出神社  
【整備予定媒体】W E B

#### できあがった英語解説文

##### Oide Shrine

This shrine is named after nearby Oide Mountain, where a mysterious event inspired its founding. According to legend, in the year 703 the local villagers went to the mountain's summit to investigate strange lights that appeared there every night. While they searched for the lights' source, a man appeared near a dragon-shaped rock and told them that founding a shrine at the spot would lead to tranquility in the village. They followed his advice; however, in 929 the shrine was moved to its current location at the foot of the mountain.

The present shrine building was constructed in 1768 by several master craftsmen from Edo (present-day Tokyo). Though the resulting structure was relatively small, every inch of its surface, except the columns, was carved with exquisitely detailed figures. Similar shrines had become common by the early nineteenth century, but this shrine is noteworthy as one of the first examples to appear in this region.

Oide Shrine's principal festival is Hassaku (September 1<sup>st</sup>), the biggest and most popular of Tsuru's annual festivals. On that day, the Oide Kagura Float is brought out and paraded through the city accompanied by traditional dance performances. The float is more than 150 years old and as exquisitely carved as the shrine building.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 生出（おいで）神社

この神社は、近隣にそびえる生出山にちなんで命名されました。その山で起きた不思議な出来事が、神社を建てた理由となりました。伝説によると、西暦 703 年、村人たちは毎晩そこに登場する奇妙な光を調べるために、山頂に上り、光源を探していました、すると、龍の形をした岩の近くに男が現れ、そこに神社を建てると村に静けさがもたらされると告げました。村人たちはその男の助言に従い神社をたてましたが、後の 929 年に、山麓の現在の場所に神社を移動しました。

現在の建物は、1768 年に江戸（現在の東京）の数名の職人によって建設されましたが、構造はもともとの建物よりも、柱を除き、小さくなりました。その表面のすべての部分に、非常に精密な彫刻が施されています。19 世紀初頭にはこのような神社が一般的でしたが、この地域では、生出神社が、こうしたタイプの最初の神社となりました。

生出神社の主な祭は、都留市の年次祭の中で最も人気のある八朔祭（9月1日）です。その日には、150年以上前の神社の建物に彫られた絶妙な彫刻が施された生出神楽屋台は、伝統舞踊を披露しながら市街を練り歩きます。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】宝鏡寺

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Hokyoji Temple

Founded in 1356, this quiet temple located near Higashi Katsura Station provides a calming environment in which to experience the nature and history of Tsuru. It is the largest historic structure in Tsuru as well as the oldest of those whose date of construction has been confirmed. The temple itself is composed of several beautifully constructed traditional wooden buildings. The most noteworthy is the *kuri*, or the temple kitchen.

Behind the temple lies Hokyoji Mountain, a popular destination for flower viewing. The slopes directly behind the main hall of the temple are covered in a field of *yamabuki* grass (*Kerria japonica*), whose bright yellow flowers bloom at the beginning of May. As this flower is rare in the area, it has been declared as a natural monument. The mountain is also covered with a number of cherry trees, making it a popular destination in the springtime as well. The view from the top is worth seeing, offering a panorama of the surrounding countryside.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 宝鏡寺

東桂駅の近くにある宝鏡寺は、1356年に建てられました。ここは都留の自然と歴史を体験できる静かな場所です。この寺は、いくつかの伝統的な木造構造の建物が構成されていますが、その中でも特に注目すべきものは庫裏や寺の厨房です。この建物は都留の最大の歴史的建造物であり、建設日が確定したもののの中で最古のものであります。

寺の背後には花見の人気スポット、宝鏡寺山があります。寺の本堂の真後ろにある斜面は、5月上旬に明るい黄色の花が咲くヤマブキソウで覆われます。この花はこの地域でも希で、天然記念物と指定されています。この山はまた多くの桜の木で覆われており、春には多くの人々が訪れます。この山上からこの周辺を見渡す景色も素晴らしく、一見の価値があります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】桂林寺  
【整備予定媒体】WEB

#### できあがった英語解説文

##### Keirinji Temple

This Zen temple was founded as the family temple of the Oyamada clan, who ruled Tsuru from the thirteenth to the mid-sixteenth centuries. The temple was founded in the 1390s when the Zen priest Kakuchi came here to spread the teachings of the Rinzai Zen sect. Lord Oyamada Tomiharu was so moved by Kakuchi's virtue that he converted to the sect and founded Keirinji. The Oyamada family graveyard still remains on the temple's grounds.

At the top of the stone steps leading to the Main Hall is an ancient cherry tree of the early-flowering type, said to have been planted by Kakuchi himself. Due to its age and historical importance, the tree has been designated as one of the city's natural heritage sites. On the hillside behind and to the left of the temple's Main Hall lies a small pond known as Kanogaike, whose name literally means "Wish-Granting Pond." It is so-named because it's believed that those who come here to pray for rain will have their wish miraculously granted.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 桂林寺

この禅寺は、13世紀から16世紀中頃に都留を支配した小山田氏の寺として設立されました。この寺は1390年代に、格智禅師が臨済宗の教えを広めるためにこの地に訪れました。小山田富春は、格智禅師の徳によって、臨済宗に改宗し、桂林寺を創設しました。小山田家の墓はこの寺の敷地に現在も残っています。

本堂に通じる石段の頂上には、有名な彼岸桜が生えています。格智自身がここに植えたと言われています。その樹齢と歴史的な重要性から、この都市の文化財に指定されています。本堂裏の丘には小さな池があり、「叶が池（かのうがいけ）」と呼ばれています。この名前は、雨乞いに来た人々の願いは奇跡的に叶えられたことから名付けられました。

#### 本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】石船神社  
【整備予定媒体】WEB

#### できあがった英語解説文

##### Ishibune Shrine

This shrine is best known for possessing one of Japan's most unusual objects of worship: the preserved head of the fourteenth-century Prince Morinaga. This prince ran afoul of the powerful warrior Ashikaga Tadayoshi. He was captured near present-day Tokyo and beheaded in Kamakura. A princess who was present at the execution wrapped his head in a cloth and fled, eventually arriving in Tsuru, where she passed away. In the early seventeenth century, the bare skull was covered in a layer of lacquer and sawdust in order to reconstruct Morinaga's facial structure, and polished crystals were inserted to represent eyes. Due to the superb craftsmanship and the fact it has been revered for so long, it was designated a cultural artefact of the city. The head is put on display once per year, on January 15<sup>th</sup>.

Ishibune Shrine is also well known as a place where musasabi flying squirrels live. These nocturnal animals reside in the trees around the shrine, venturing out in the evenings to search for food. There are few areas where these animals live so close to people, and visitors to the shrine have a good chance to catch a glimpse of one.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 石船神社

この神社は、14世紀の護良親王(もりながしんのう)の御首級という、非常に珍しい崇拝の対象を祀っていることでよく知られています。この護良親王は、有力な戦士である足利直義に対抗し、結果的に現在の東京近くで捕らえられ、鎌倉で斬首されてしまいました。執行時にその場にいた皇女は、頭を布に包んで逃げ出し、最終的に都留に到着しそこで亡くなりました。17世紀初頭、護良親王の顔を再構成するため、この御首級は、漆とおがくずの層で覆われ、磨かれた水晶が目として挿入されました。そのすばらしい職人技に加え、長い間崇拝されてきたことから、護良親王の御首級は市の文化財に指定されました。この御首級は毎年1月15日に展示されます。

石船神社は、ムササビが生息する場所としても知られています。この夜行性の動物は神社の周りの木々の中に住み、夕方になると食べ物を探しまわります。ムササビが人々の近くに生息している地域は稀なので、神社への訪問は、ムササビを観察する良い機会にもなります。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】高尾神社  
【整備予定媒体】WEB

#### できあがった英語解説文

##### Takao Shrine

Located in the corner of a small park along the Kachu River just a few minutes' walk from Yamura First Elementary School, this shrine sits quietly amid the whispers of flowing water. Its entrance is marked by a large stone with the shrine's name etched into its surface in bright red characters. Although the shrine hall is relatively new, the shrine itself has existed for nearly 200 years. According to the story, Takao Shrine was established to venerate a wooden statue found floating in the Kachu River by a local water-wheel maker named Yasui Yoshihiro. It was named Takao Shrine because it faces Mt. Takao, a mountain that has been the object of religious worship for centuries.

Takao Shrine's main festival is held each year on the night between November 30<sup>th</sup> and December 1<sup>st</sup>. A large bonfire is lit to help visitors escape the cold winter air. Local merchants display goods in an open-air market, hearkening back to the days when this area was Tsuru's central market street. The festival is an excellent chance to mingle with the city's residents and to purchase souvenirs.

#### 上記解説文の仮訳（日本語訳）

##### 高尾神社

高尾神社は、谷村（やむら）第一小学校から徒歩数分にある、家中（かちゅう）川沿いの小さな公園の隅にあり、流れる水のささやきの中に建てられています。入り口には大きな石に神社の名前が彫られ、明るい赤色の文字でエッチングされています。神社の建物は比較的新しいものですが、この神社自体は 200 年近く存在しています。何世紀にもわたって宗教的崇拝の対象となっている高尾山ですが、物語によると、高尾神社は、地元の水車職人であるヤスイヨシヒロが家中川に浮かんでいるという木像を崇拝するために建てられました。高尾山に面していることから高尾神社と名付けられました。

高尾神社では、毎年 11 月 30 日から 12 月 1 日の間、夜祭が行われます。この祭では、地元商人による出店にぎわい、冬の寒さを避けるために、訪問者のために大きな焚き火が灯ります。この祭は、ここが都留市の中央市場街だった時代までさかのぼります。この祭は都留市住民と交流したり、お土産を購入したりする絶好の機会です。

本事業以前の英語解説文

なし



【施設名】長安寺

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

**Choanji Temple**

Long ago, the ground upon which this temple now stands was occupied by a villa of the Oyamada clan, the warrior family that ruled this area from the thirteenth to the sixteenth century. When they left, the new ruler, Torii Mototada (1539–1600), decided to convert the old villa to a temple on the recommendation of the famed Buddhist priest Shoyo Shonin, whom he also designated as head priest. Such fame accrued around Shoyo and the temple that several decades later the shogun Tokugawa Ieyasu (1543–1616) encouraged him to found a new Buddhist sect. This was a high honor and certain to be a great success given the support of the shogun himself. Shoyo declined, however, and instead requested a simple tea urn as a gift. Ieyasu granted his wish, and the urn still remains in possession of the temple to this day.

Choanji Temple was lost to fire several times over the centuries, but the current Main Hall dates to 1725. It is the oldest hall of worship in Tsuru whose date has been confirmed and is also considered one of the best in the whole prefecture.

上記解説文の仮訳（日本語訳）

**長安寺**

昔、この寺院が現在立っている敷地は、13世紀から16世紀にかけてこの地域を統治した小山田氏の別荘がありました。小山田氏の後、新しく統治者となった鳥居元忠は、感貞大和尚としても知られている高僧の生誉上人の推薦で、古い別荘を寺院に改装することにしました。数十年後、生誉上人は、徳川家康将軍自ら、仏教宗派を新たに見出だすための支持を提供され、大成功を収めるように見えたが、それを拒否し、代わりに簡素な茶壺を贈り物として要求しました。家康は彼の願いを認め、壺は今も寺に保管されています。

寺は数世紀に渡って数回失火しましたが、現在の本堂は1725年に再建されました。都留にある、日付の確認できる最古の礼拝堂として、また県内で最高の寺として知られています。

本事業以前の英語解説文

なし

【施設名】円通院

【整備予定媒体】WEB

できあがった英語解説文

### Enzuin Temple

Enzuin Temple is thought to have been built in 1467 and was originally dedicated to Kannon Bodhisattva. A statue of this deity dating to the temple's founding is still kept within its walls. After 1633, however, the temple converted to the Soto Zen sect at the wish of the ruler Akimoto Yasutomo (1580–1642).

Among the many halls of worship in Tsuru, Enzuin Temple possesses the greatest quantity of Edo period (1603–1867) structures. This includes a bell tower built in 1751 and a bell forged in 1668, the Gakuyuden Gate built in 1748, and the Yakushi Hall dating to the early seventeenth century. Of particular interest is the 350-year-old temple bell, which was forged by the greatest craftsman of its day. Large numbers of such bells were requisitioned during the twentieth century for munitions production, but this bell was one of the few to escape such a fate. It is now a Cultural Property of the city of Tsuru.

The temple grounds also hold an old stone bridge that had spanned the Kachu River for hundreds of years before being relocated here in the early twentieth century. A poetry stele bears the haiku the poet Matsuo Basho (1644–1694) wrote when he visited the temple. In the Main Hall are several paintings attributed to the famous nineteenth-century painter Katsushika Hokusai (c. 1760–1849).

上記解説文の仮訳（日本語訳）

### 円通（えんづう）院

円通院は1467年に建てられたと考えられています。元々は観音菩薩に捧げられたものでした。寺の創設時に建てられたこの観音菩薩は、現在も寺院内に保管されています。1633年以降、秋元泰朝氏の希望で曹洞宗に改宗しました。

都留にある多くの礼拝堂の中でも、この寺では特に、1753年に建てられた鐘楼、1668年に作られた梵鐘、1748年に建てられた覚雄殿門、17世紀初めに建てられた薬師堂など、多くの江戸時代（1603-1867年）の構造物を見ることができます。特に興味深いのは、その時代の最高の職人によって鍛造された350年前の梵鐘です。20世紀に入って、武器を生産するために多数の鐘が徴収されましたが、この鐘はそのような運命を逃れた数少ない鐘の

一つです。現在、都留市の文化財に指定されています。

これに加えて、寺の敷地には、数百年前に作られた古い石橋があります。この橋は以前、家中川に架かっていましたが、20世紀初頭この寺に移動されました。また、俳人松尾芭蕉（1644-1694）が寺院を訪れた時に書いた俳句があり、本堂には有名な19世紀画家葛飾北斎（1760-1849）の絵画がいくつか飾られています。

本事業以前の英語解説文

なし